

感染症発生動向調査事業報告書

平成24年(2012年)



東京都福祉保健局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況を把握・分析し、情報提供することにより、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として行われている事業で、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく事前対応型感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、一類感染症から五類感染症、新型インフルエンザなど、全症例の届出が義務付けられている疾患、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っております。

国においては、麻しんに関する特定感染症予防指針を改正し、平成 27 年度までに麻しんを排除することを目標として掲げています。

都でも、東京都麻しん対策会議で検討を行い、多くの関係者の協力を得ながら麻しん排除に向けて様々な取組を進めております。その結果、麻しん患者数は徐々に減少してきており、平成 24 年の都内の麻しん患者の報告数は 84 人と、前年の 178 人から大幅に減少しました。

一方で、平成 24 年 6 月から風しん患者数が急増し、過去最大の流行を記録しました。今後、麻しん対策に加え、風しんについても対策を進めていく必要があるものと考えられます。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会において行われた、平成 24 年の感染症発生情報の評価や、予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向については、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いし、「一、二、三、四、五類感染症（全数届出）」、「性感染症」及び「病原体情報」につきましては当センターの担当者が執筆いたしました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力いただいた東京都医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

関係各位におかれましては、本書を広くご活用いただき、感染症対策の一助としていただくようお願い申し上げます。

平成 25 年 7 月

東京都健康安全研究センター所長 住友 眞佐美

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾病	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年(2012年)の概況	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症(全数把握対象)	5
(2) 五類感染症(定点把握対象)	7
(3) 疑似症(法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)	9
表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(一、二、三、四、五類全数)	10
表2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(全数動物)	11
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(インフルエンザ定点・小児科定点)	12
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(眼科定点)	13
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点週報告分)	13
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点月報告分)	14
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(性感染症定点)	14
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(疑似症定点)	14
3 各疾患の動向	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症(全数把握対象)	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	23
オ 五類感染症(全数把握対象)	34
表3-1 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症週別患者報告数	56
表3-2 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症保健所別患者報告数	59
表3-3 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症年齢階級別患者報告数	62
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	65
イ RSウイルス感染症	66

ウ	咽頭結膜熱	67
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68
オ	感染性胃腸炎	69
カ	水痘	70
キ	手足口病	71
ク	伝染性紅斑	72
ケ	突発性発しん	73
コ	百日咳	74
サ	ヘルパンギーナ	75
シ	流行性耳下腺炎	76
ス	不明発しん症	77
セ	川崎病	78
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	79
イ	流行性角結膜炎	80
(4) 基幹定点における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	81
イ	無菌性髄膜炎	82
ウ	マイコプラズマ肺炎	83
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	84
オ	インフルエンザ入院	85
(5) 基幹定点における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	86
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	87
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	88
エ	薬剤耐性アシネトバクター感染症	89
(6) 性感染症（STI）		
ア	性器クラミジア感染症	90
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	91
ウ	尖圭コンジローマ	92
エ	淋菌感染症	93
オ	膺トリコモナス症	94
カ	梅毒様疾患	95
表4-1	週別患者報告数	96
表4-2	週別定点当たり患者報告数	98

表 5-1	保健所別患者報告数	100
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	102
表 6-1	年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科）	104
表 6-2	年齢階級別患者報告数（小児科・眼科・基幹）	105
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	106
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	107
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	108
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	108
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	108
表 8-4	年齢階級別患者報告数（基幹）	109
表 9-1	月別患者報告数（STI）	109
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（STI）	109
表 9-3	月別・性別患者報告数（STI）	110
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（STI）	110
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI）	111
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI）	112
表 9-7	年齢階級別患者報告数（STI）	113
表 10	検査結果別報告数（基幹）	113
表 11	疑似症サーベイランス報告数	114

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	117
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	118
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	119
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	121
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	125
カ	臨床診断名別にみたりケッチア及び関連感染症の検査状況	125

(2) 内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア	2011年/2012年シーズンのウイルス検出状況(追加分)	125
イ	2012年/2013年シーズンのウイルス検出状況	126
ウ	インフルエンザウイルスの抗原解析	126

2 細菌検査結果

(1)	二類感染症の病原体検索	131
-----	-------------	-----

(2) 三類感染症の病原体検索	131
(3) 四類感染症の病原体検索	131
(4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	131
(5) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	131
3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果	
(1) クラミジア、淋菌遺伝子検査及び細菌分離・同定	134
(2) ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査	136
(3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1型及びHSV-2型）の遺伝子検査	136
(4) 膣トリコモナス検査	136

第3章 資料

1 東京都感染症発生動向調査定点名簿	139
2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿	155
3 感染症発生動向調査事業の流れ	156
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	157
別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	164
2 五類感染症（全数把握）	165
3 新型インフルエンザ等感染症	166
4 五類感染症（定点把握）	166
5 疑似症	166
別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	167
別表3 疑似症の調査単位と報告時期	167
別記様式一覧表	168
別記様式1	169
別記様式2	170
別記様式3	171
別記様式4	172
別記様式5	173
別記様式6	174
別記様式7	176
別記様式8	177
別記様式9	178
別記様式10	180

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

(2012 年)

(2012 年 1 月 2 日～2012 年 12 月 30 日)

2009 年 4 月にメキシコで新たに確認されたインフルエンザ AH1pdm09 亜型の流行状況は、2012 年には大きく変わりました。前年 2011 年に東京都健康安全研究センターで検出されたウイルスの型別では、流行初期の 2～5 週（1 月 10 日～2 月 6 日）で AH1pdm09 亜型が 69%、AH3 亜型（A 香港）24%、B 型 7%であったものが、6～9 週（2 月 7 日～3 月 6 日）には AH1pdm09 亜型 36%、AH3 亜型 52%、B 型 12%、後期の 10～13 週（3 月 7 日～4 月 3 日）では AH1pdm09 亜型 3%、AH3 亜型 51%、B 型 46% となり、AH1pdm09 亜型は流行の後期になるにつれて AH3 亜型や B 型に取って変わられる形となりました。一方、2012 年の 1 週（1 月 2 日～1 月 8 日）より 20 週（5 月 14 日～5 月 20 日）の間に検出されたウイルスは 337 件でしたが、AH3 亜型が 201 件（59.6%）、B 型が 135 件（40.1%）であったのに対し、AH1pdm09 亜型は 1 週（1 月 2 日～1 月 8 日）に検出された 1 件（0.03%）にすぎませんでした。流行の前半は AH3 型優性、後半は B 型優性という従来の流行パターンに戻っています。今後の動向を見守りたいと思います。

2012 年の小児科定点からの報告ですと、RS ウイルス感染症の定点当たり報告数がここ 10 年で最多となっています。感染性胃腸炎も報告数の変動は少ないのですが、ここ 10 年で最多となっています。

全数把握対象疾患では、風しんが 2012 年 6 月以降報告数が大きく増加しています。20 歳代、30 歳代の男性を中心に大きな流行になっており、流行の長期化が懸念されています。

また、平成 25 年 3 月 4 日より新たに重症熱性血小板減少症候群が四類感染症に、4 月 1 日より侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症及び侵襲性髄膜炎菌感染症が五類感染症に指定されました。発生動向調査事業も年々充実してきています。

本事業報告にあたり、定点医療機関の方々、ご指導いただいた東京都医師会の角田徹理事、副委員長岡部信彦、沼口俊介の両先生及び委員の各先生方、事務局の皆様に感謝申し上げます。

平成 25 年 7 月

東京都感染症予防検討委員会
委員長 長岡 常雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患を調査対象とし、これに加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症を疑似症サーベイランスの調査対象としている。また、都独自に不明発しん症と川崎病並びに性感染症として臙トリコモナス症と梅毒様疾患を調査対象に加えている。(第3章別表1参照)

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 24 が設定され、このうち 69 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点と内科定点は、インフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たしている。

表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2012年12月31日現在)

定点種別(疾患数)	患者定点数	病原体定点数
小児科定点(14)	264	26
内科定点(1)	155	15
眼科定点(2)	39	4
基幹定点(9)	25	20
性感染症定点(6)	55	4
疑似症単独定点(2)	24	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに(五類感染症は7日以内)保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症(STI)定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患(薬剤耐性菌による感染症)については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を所定の調査票に記入し、保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し、保健所に送付する。

疑似症サーベイランスについては、報告基準を満たす患者が発生した場合には、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し直ちに保健所にFAXで送付する(疑似症単独定点は、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する)。なお、発生がない場合であってもその旨週単位で報告する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報係(基幹地方感染症情報センター)は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

(4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>) で公開され、広く都民に情報還元が図られている。

また、隔月第4木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近2か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」として掲載している。

2 本年(2012年)の概況

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症(全数把握対象)

ア 一類感染症

一類感染症(エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱)の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)の届出はなかった。結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計357人の届出があった。

細菌性赤痢は75人届出があり、内訳はソルネ菌47件、フレキシネル菌26件、ディセンテリ菌1件、ボイド菌1件であった。推定感染地は国内19人、国外56人であった。

腸管出血性大腸菌感染症は258人届出があった。血清型別の内訳では、O157が174件、O26が44件、O103とO145が各7件、O111が6件、O91とO165が各3件、その他が14件であった。症状別では、患者188人(うちHUS14人、死亡1人)、無症状病原体保有者70人であった。

腸チフスは13人届出があり、推定感染地は国内1人、国外12人であった。

パラチフスは11人届出があった。推定感染地は国内1人、国外10人であった。

三類感染症のうちコレラの届出はなかった。

エ 四類感染症

四類感染症は総計227人の届出があった。

E型肝炎は21人届出があり、推定感染地は国内20人、国外1人であった。

A型肝炎は35人届出があり、推定感染地は国内22人、国外13人であった。

エキノコックス症は1人届出があった。原因寄生虫は単包条虫で、推定感染地は国外であった。

回帰熱は1人届出があり、推定感染地は国外であった。

コクシジオイデス症は1人届出があり、推定感染地は国外であった。

チクングニア熱は3人届出があり、推定感染地はすべて国外であった。

つつが虫病は19人届出があり、推定感染地は国内18人、国外1人であった。

デング熱は56人届出があり、その中でデング出血熱の届出は1人であった。推定感染地はすべて国外であった。

マラリアは 24 人届出があり、内訳は三日熱マラリア 5 件、熱帯熱マラリア 13 件、卵形マラリア 4 件、その他 1 件、型別不明 1 件であった。推定感染地はすべて国外であった。

レジオネラ症は 60 人届出があり、すべて肺炎型であった。推定感染地は国内 56 人、国外 4 人であった。

レプトスピラ症は 6 人届出があった。推定感染地は国内 4 人、国外 2 人であった。

四類感染症のうち、ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、キャサヌル森林病、Q 熱、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ポツリヌス症、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱の届出はなかった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

五類感染症は総計 1,879 人の届出があった。

アメーバ赤痢は 198 人届出があり、腸管アメーバ症 163 人、腸管外アメーバ症 23 人、腸管及び腸管外アメーバ症 12 人であった。推定感染地は国内 169 人、国外 25 人、国内又は国外 4 人であった。

ウイルス性肝炎は 60 人届出があり、B 型肝炎 44 人、C 型肝炎 13 人、サイトメガロウイルス肝炎 2 人、EB ウイルス肝炎 1 人であった。推定感染地は国内 55 人、国外 5 人であった。

急性脳炎は 33 人届出があった。病原体はヒトヘルペスウイルス 9 件、インフルエンザウイルス 4 件、ロタウイルス 2 件、ムンプスウイルス 1 件、RS ウイルス 1 件、エンテロウイルス 1 件、トキソプラズマ 1 件、水痘帯状疱疹しんウイルス疑い 1 件、不明 13 件であり、推定感染地はすべて国内であった。

クリプトスポリジウム症は 2 人届出があり、いずれも推定感染地は国外であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 18 人届出があり、すべて孤発性プリオン病・古典型 CJD であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 23 人届出があり、死亡は 9 人報告された。血清群は A 群 15 件、B 群 1 件、G 群 6 件、不明 1 件であり、推定感染地は国内 22 人、国外 1 人であった。

後天性免疫不全症候群は 461 人届出があり、AIDS 患者 92 人、HIV 感染者 309 人、その他 60 人であった。推定感染地は国内 384 人、国外 18 人、国内又は国外 2 人、不明 57 人で、推定感染経路は性的接触 412 人、その他 11 人、2 経路以上 3 人、不明 35 人であった。

ジアルジア症は 16 人届出があり、推定感染地は国内 10 人、国外 5 人、国内又は国外 1 人であった。

梅毒は 297 人届出があり、早期顕症梅毒 I 期 52 人、早期顕症梅毒 II 期 127 人、晩期顕症梅毒 6 人、先天梅毒 3 人、無症候 109 人であった。推定感染地は国内 289 人、国外 5 人、国内又は国外 3 人であった。

破傷風は 5 人届出があり、推定感染地はすべて国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 10 人届出があった。耐性遺伝子型は *vanA* 2 件、*vanB* 1 件、*vanC* 4 件、不明 3 件であった。

風しんは 672 人届出があり、検査診断例 528 人、臨床診断例 144 人であった。推定感染地は国内 661 人、国外 7 人、国内又は国外 4 人であった。

麻しんは 84 人届出があり、検査診断例 33 人、臨床診断例 29 人、修飾麻しん 22 人であった。推定感染地は国内 77 人、国外 5 人、国内又は国外 2 人であった。

五類感染症のうち髄膜炎菌性髄膜炎、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

(2) 五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2011年と比較して、定点当たり報告数が減少した疾患は、水痘、手足口病、伝染性紅斑、百日咳、流行性耳下腺炎、川崎病の6疾患であった。前年並みであった疾患は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ、不明発しん症の4疾患であった。前年に比べ増加した疾患は、インフルエンザ、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎の4疾患であった。

[前年比減少疾患]

水痘：2012年は12,995人、定点当たり49.75人の報告があり、定点当たりの当年／前年比は0.83であった。

手足口病：2012年は5,411人、定点当たり20.90人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.22で、過去10年で2番目に少ない定点当たり報告数であった。

伝染性紅斑：2012年は1,626人、定点当たり6.23人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.26で、過去10年で最も少ない定点当たり報告数であった。

百日咳：2012年は286人、定点当たり1.10人の報告があり、定点当たりの当年／前年比は0.64であった。

流行性耳下腺炎：2012年は3,089人、定点当たり11.88人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.69で、過去10年で2番目に少ない定点当たり報告数であった。

川崎病：2012年は177人、定点当たり0.68人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.82であった。

[前年比横這いであった疾患]

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2012年は25,224人、定点当たり96.60人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.99で、過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

突発性発しん：2012年は8,547人、定点当たり32.85人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は1.01で、過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

ヘルパンギーナ：2012年は13,548人、定点当たり52.28人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.94で、過去10年で3番目に多い定点当たり報告数であった。

不明発しん症：2012年は1,400人、定点当たり5.40人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は0.93で、過去10年で3番目に多い定点当たり報告数であった。

[前年比増加疾患]

インフルエンザ：2012年は135,064人、定点当たり323.29人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は1.35で、過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

RSウイルス感染症：2012年は6,349人、定点当たり24.51人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は1.76で、定点当たり報告数では過去10年で最多であった。

咽頭結膜熱：2012年は5,510人、定点当たり21.20人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は1.12で、過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

感染性胃腸炎：2012年は118,967人、定点当たり455.28人の報告があった。定点当たりの当年／前年比は1.24で、過去10年で最多の定点当たり報告数であった。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：2012年は19人、定点当たり0.50人の報告があった。2005年と並び過去10年で2番目に少ない定点当たり報告数であった。

流行性角結膜炎：2012年は1,140人、定点当たり30.01人の報告があった。最近4年間減少していたが、2007年の水準に戻った。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2012年は42人、定点当たり1.68人の報告があり、過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

無菌性髄膜炎：2012年は121人、定点当たり4.86人の報告があった。過去10年で最多の定点当たり報告数であった。

マイコプラズマ肺炎：2012年は1,067人、定点当たり42.84人の報告があった。過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

クラミジア肺炎：2012年は14人、定点当たり0.56人の報告があった。

インフルエンザ入院：2012年は610人、定点当たり24.40人の報告があった。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：2012年は1,074人、定点当たり43.25人の報告があった。過去10年で最も少ない定点当たり報告数であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2012年は440人、定点当たり17.72人の報告があった。過去10年で最も少ない定点当たり報告数であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2012年は24人、定点当たり0.97人の報告があった。過去10年で2番目に少ない定点当たり報告数であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：2012年は報告がなかった。

オ 性感染症（STI）

性器クラミジア感染症：2012年は2,315人、定点当たり42.64人の報告があり、過去10年で2番目に少ない定点当たり報告数であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：2012年は1,311人、定点当たり24.17人の報告があった。過去10年で最多の定点当たり報告数であった。

尖圭コンジローマ：2012年は877人、定点当たり16.17人の報告があった。過去10年で2番目に多い定点当たり報告数であった。

淋菌感染症：2012年は1,035人、定点当たり19.09人の報告があった。過去10年で2番目に少ない定点当たり報告数であった。

腫トリコモナス症：2012年は129人、定点当たり2.38人の報告があった。過去10年で最も少ない定点当たり報告数であった。

梅毒様疾患：2012年は120人、定点当たり2.21人の報告があった。過去10年で最多の定点当たり報告数であった。

(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は10人、発熱及び発しん又は水疱は15人の報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一、二、三、四、五類全数)

分類	疾病名	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	/	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	1	-
	結核 *2 (2013年5月1日現在の報告数)	-	3,305	3,228	3,219	3,045	3,022	4,536
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	/	-	-	-	-
三类	コレラ *5	8	3	6	3	2	3	-
	細菌性赤痢 *5	67	86	64	48	86	86	75
	腸管出血性大腸菌感染症	268	476	409	317	339	257	258
	腸チフス *5	19	11	13	11	12	6	13
	パラチフス *5	12	7	7	12	5	9	11
四類	E型肝炎 *1	4	3	7	6	9	9	21
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	28	19	31	24	45	27	35
	エキノкокクス症	1	3	-	1	1	2	1
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	4	1	-	1	-	3	-
	オムスク出血熱 *2	/	/	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	1
	キャサヌル森林病 *2	/	/	-	-	-	-	-
	Q熱	-	2	1	1	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	1	2	-	1	1	2	1
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	/	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	/	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 *7	/	/	/	/	/	-	3
	つつが虫病	1	15	18	14	14	13	19
	デング熱	18	23	32	32	70	27	56
	東部ウマ脳炎 *2	/	/	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く) *8	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	-	1	1	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	1	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽 *2	/	/	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	1	-	-	1	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎 *2	/	/	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症 *2	/	/	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
ボツリヌス症 *9	-	-	-	-	-	-	-	

分類	疾病名	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
四 類	マラリア	16	23	23	26	27	27	24
	野兔病 *1	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	2	3	-	1	1	3	-
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱 *2	/	/	-	-	-	-	-
	類鼻疽 *2	/	/	-	-	1	-	-
	レジオネラ症	62	53	80	53	55	72	60
	レプトスピラ症 *1	4	4	4	-	2	5	6
	ロッキー山紅斑熱 *2	/	/	-	-	-	-	-
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢 *10	181	166	189	140	180	178	198
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く) *10	34	40	30	35	48	40	60
	急性脳炎 *1	6	20	11	45	14	19	33
	クリプトスポリジウム症 *10	5	1	4	4	3	2	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *10	22	16	15	19	15	13	18
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *10	14	6	19	10	19	30	23
	後天性免疫不全症候群 *10	453	515	545	471	509	409	461
	ジアルジア症 *10	28	19	20	24	13	13	16
	髄膜炎菌性髄膜炎 *10	1	3	2	1	-	2	-
	先天性風しん症候群 *10	-	-	-	-	-	-	-
	梅毒 *10	132	162	205	196	173	248	297
	破傷風 *10	8	1	5	7	5	8	5
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *10	20	17	15	15	17	6	10
風しん *11	/	/	46	19	15	32	672	
麻しん *11	/	/	1,174	110	76	178	84	
新型	新型インフルエンザ *12	/	/	/	1,160	/	/	/

- *1 2003年11月5日より新たに追加指定された。
 *2 2007年4月1日より新たに追加指定された。
 *3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。
 *4 2008年5月12日より新たに追加指定された。
 *5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。
 *6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。
 *7 2011年2月1日より新たに追加指定された。
 *8 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更。
 *9 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。
 *10 2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。
 *11 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。
 *12 2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定された。全数届け出は2009年7月23日まで。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数 (全数動物)

疾病名	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-
ペストのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル	/	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	-	-	-	1*	-	-	-
細菌性赤痢のサル	1	-	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

* 2009年の報告は動物実験による感染

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
小児科定点数 *1	142	142	142	142	150	150	150	150	264	264
インフルエンザ定点数 *2	178	178	178	178	290	290	290	290	419	419
インフルエンザ	27,007 151.72	18,958 106.51	43,336 243.46	23,953 134.57	53,927 191.41	23,059 80.47	142,140 495.53	12,614 43.97	99,940 240.03	135,064 323.29
RSウイルス感染症 *3	68 0.48	432 3.04	848 5.97	818 5.76	1,403 9.57	1,722 11.71	845 5.73	2,153 14.52	3,628 13.94	6,349 24.51
咽頭結膜熱	1,353 9.53	2,123 14.95	2,468 17.38	3,929 27.67	2,793 18.96	2,927 19.86	1,339 9.07	1,979 13.37	4,936 18.95	5,510 21.20
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	4,261 30.01	5,842 41.14	7,564 53.27	11,213 78.96	11,913 81.32	13,925 93.97	10,058 68.03	11,231 75.80	25,487 97.66	25,224 96.60
感染性胃腸炎	35,718 251.54	39,464 277.92	42,578 299.85	51,945 365.81	46,783 318.41	58,681 395.92	37,599 254.50	63,372 427.41	95,910 367.56	118,967 455.28
水痘	6,439 45.35	6,845 48.20	7,565 53.27	8,345 58.77	8,874 60.77	8,682 58.68	7,079 47.94	9,472 63.93	15,679 60.11	12,995 49.75
手足口病	6,872 48.39	3,585 25.25	3,296 23.21	2,885 20.32	4,382 29.73	4,487 30.60	3,426 23.36	6,257 42.52	24,786 95.84	5,411 20.90
伝染性紅斑	1,471 10.36	2,771 19.51	2,035 14.33	3,109 21.89	2,879 19.73	1,168 7.90	1,558 10.54	2,929 19.79	6,317 24.23	1,626 6.23
突発性発しん	3,777 26.60	4,043 28.47	4,048 28.51	4,119 29.01	4,691 31.95	4,944 33.49	4,463 30.24	4,397 29.74	8,447 32.44	8,547 32.85
百日咳	34 0.24	47 0.33	28 0.20	23 0.16	151 1.02	278 1.88	225 1.53	506 3.42	450 1.73	286 1.10
風しん *4	143 1.01	234 1.65	40 0.28	21 0.15	35 0.24					
ヘルパンギーナ	5,064 35.66	5,275 37.15	6,909 48.65	5,900 41.55	6,804 46.10	6,470 44.08	2,574 17.63	8,400 57.06	14,431 55.78	13,548 52.28
麻しん *4	376 2.65	78 0.55	49 0.35	25 0.18	303 2.05					
流行性耳下腺炎	1,290 9.08	3,250 22.89	7,321 51.56	4,481 31.56	1,940 13.24	3,662 24.83	5,175 35.05	5,154 34.87	4,488 17.23	3,089 11.88
不明発しん症 *5	579 4.08	540 3.80	461 3.25	966 6.80	665 4.52	734 4.98	657 4.48	622 4.21	1,506 5.78	1,400 5.40
川崎病 *5	66 0.46	69 0.49	56 0.39	101 0.71	110 0.75	109 0.73	71 0.48	89 0.60	217 0.83	177 0.68

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 2003年45週より実施

*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

*5 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
定点数*	14	14	14	14	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	18	6	7	8	82	64	53	74	31	19
	1.29	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66	1.37	1.91	0.84	0.50
流行性角結膜炎	880	719	567	535	968	865	703	951	842	1,140
	62.86	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41	18.28	24.60	22.73	30.01

* 2007年は、12月末時点の定点数

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
定点数	25	25	25	25	25	24	24	25	25	25
細菌性髄膜炎	18	25	17	15	28	24	24	18	52	42
	0.72	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01	1.02	0.76	2.14	1.68
無菌性髄膜炎	66	27	28	40	50	34	28	38	96	121
	2.64	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42	1.17	1.61	3.91	4.86
マイコプラズマ肺炎	173	184	164	218	247	298	305	416	1,143	1,067
	6.92	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53	12.93	17.76	46.78	42.84
クラミジア肺炎	3	4	9	13	20	25	46	20	18	14
	0.12	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05	1.96	0.85	0.74	0.56
インフルエンザ入院*1									12	610
									0.48	24.40
成人麻疹*2	144	16	1	3	262					
	5.76	0.64	0.04	0.12	10.70					

*1 2011年36週より実施

*2 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
定点数	25	25	25	25	25	24	24	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,761 70.44	1,552 62.08	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	617 24.68	444 17.76	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55	440 17.72
薬剤耐性緑膿菌感染症	61 2.44	39 1.56	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52	24 0.97
薬剤耐性アシネト* バクター感染症									0 0.00	0 0.00

* 2011年2月より実施

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（性感染症定点）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
定点数 *1	41	41	41	41	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,422 59.07	2,476 60.39	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64
性器ヘルペスウイルス感染症	865 21.10	982 23.95	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17
尖圭コンジローマ	518 12.63	627 15.29	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31	877 16.17
淋菌感染症	1,298 31.66	1,171 28.56	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09
膣トリコモナス症 *2	343 8.37	298 7.27	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49	129 2.38
梅毒様疾患 *2	68 1.66	42 1.02	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14	120 2.21

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 東京都独自疾患

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（疑似症定点）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
定点数						315	315	315	443	443
発熱及び呼吸器症状 *						11	147	20	9	10
発熱及び発しん・水疱 *						8	6	9	4	15

* 2008年7月より実施

3 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症（以下の疾患）は、すべて届出がなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ 二類感染症

① 結核

結核の発生動向は、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

以下の疾患は届出がなかった。

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）

ウ 三類感染症

① 細菌性赤痢

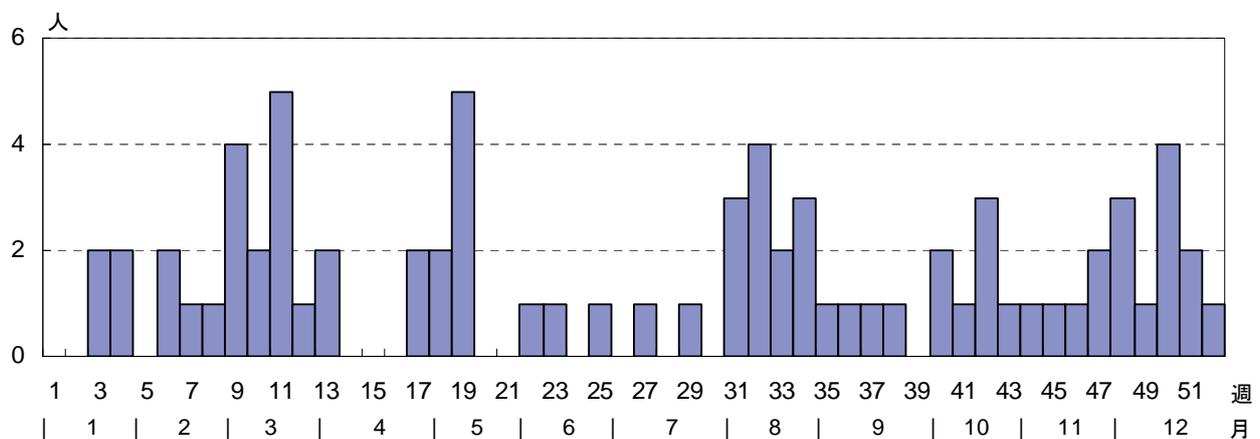
細菌性赤痢は75人届出があり、菌型はソクネ菌 47件、フレキシネル菌 26件、ディセンテリー菌 1件、ボイド菌 1件であった。

性別は男性 38人、女性 37人で、年齢は10歳未満3人（うち、5歳未満1人）、10歳代2人、20歳代23人、30歳代21人、40歳代14人、50歳代7人、60歳代2人、70歳以上3人であった。

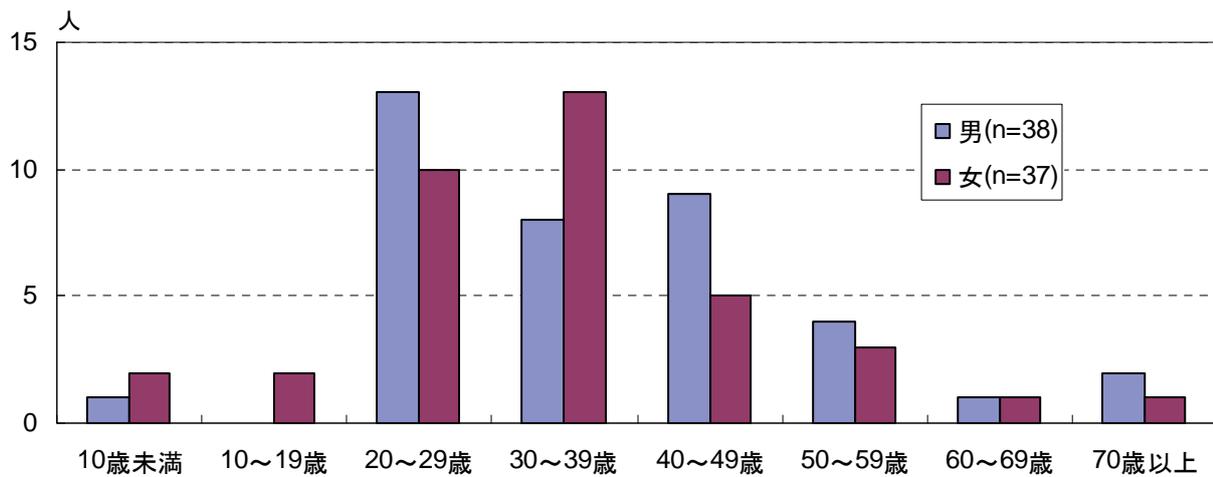
推定感染地は国内 19人、国外 56人であり、国外感染例 56人の推定感染地域は、東南アジア 32人、南アジア 12人、アフリカ 5人、アメリカ 3人、西アジア 2人、ヨーロッパ 1人、2地域以上 1人であった。推定感染国別では、インドネシア 18人、インド 9人、フィリピン 6人、カンボジア 5人、トルコ 2人、バングラデシュ 2人、メキシコ 2人、モロッコ 2人が多かった。

国内感染が疑われる 19人の年齢の内訳は10歳未満2人（うち5歳未満1人）、20歳代3人、30歳代5人、40歳代4人、50歳代2人、60歳代1人、70歳以上2人であった。

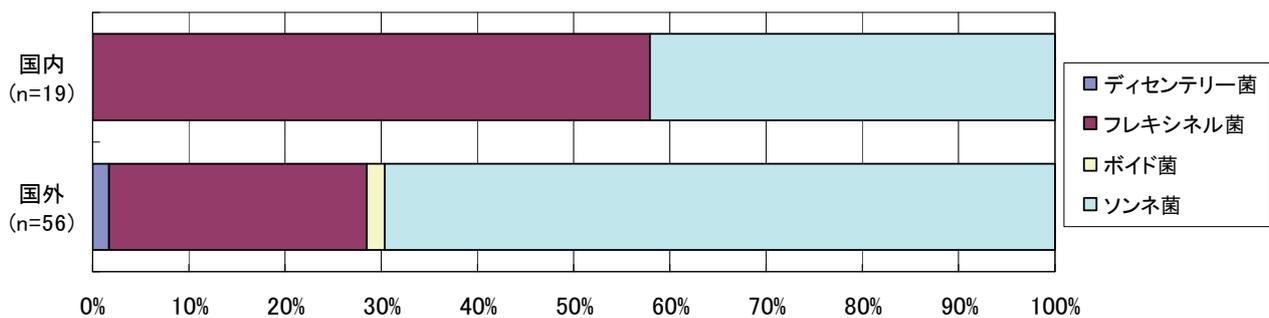
症例の集積は、3～4週に生春巻きの喫食によると推定されたものが2人（フレキシネル）、36～37週にはトルコツアーに関連した症例が2人（ソクネ）認められた。性的接触（糞口感染）によると推定される感染例は報告されなかった。



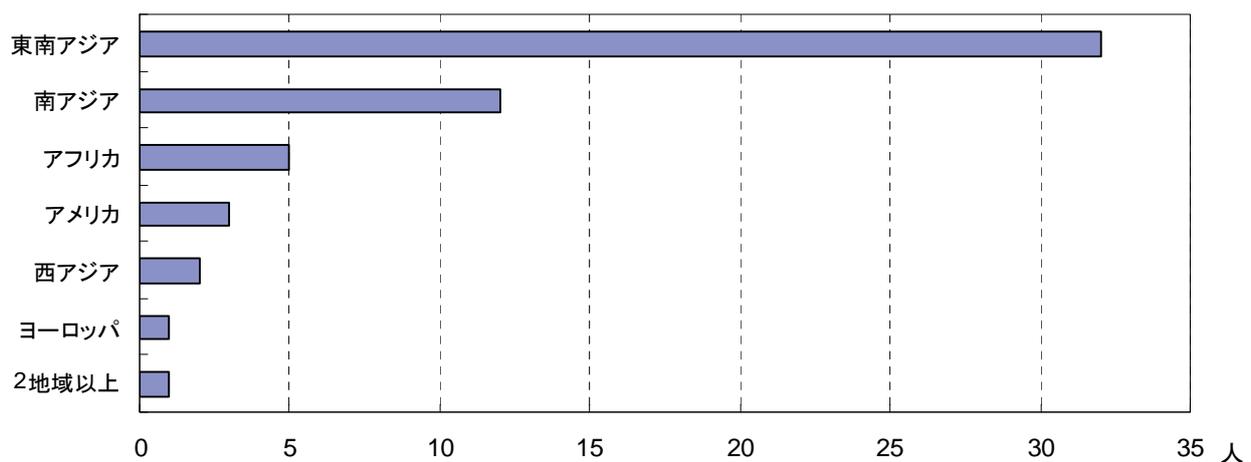
細菌性赤痢 週別届出数 (n=75)



細菌性赤痢 性別・年齢階級別届出数 (n=75)



細菌性赤痢 菌型別・推定感染地別構成割合 (n=75)



細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別届出数 (n=56)

細菌性赤痢 国外感染例 (n=56)

推定感染地域	人数	推定感染国	人数
東南アジア	32	インドネシア	18
		カンボジア	5
		タイ	1
		フィリピン	6
		ミャンマー	1
		タイ/ベトナム	1
南アジア	12	インド	9
		ネパール	1
		バングラデシュ	2
アフリカ	5	ギニアビサウ	1
		スーダン	1
		モロッコ	2
		南スーダン	1
アメリカ	3	グアテマラ	1
		メキシコ	2
西アジア	2	トルコ	2
ヨーロッパ	1	スペイン	1
2地域以上	1	ミャンマー/マレーシア/インド	1
合計	56		56

細菌性赤痢 国内感染例 (n=19)

受理日	受理週	性別	年齢	菌種	症状	推定感染地	備考
1/16	3	女	4	フレキシネル	有	東京都	
1/20	3	男	9	フレキシネル	有	東京都	
1/23	4	女	52	フレキシネル	有	東京都	生春巻きの喫食
1/24	4	女	33	フレキシネル	有	東京都	生春巻きの喫食
2/9	6	男	47	ソンネ	有	東京都	
2/17	7	女	40	フレキシネル	有	不明	
2/20	8	男	21	ソンネ	無	不明	
3/14	11	男	44	ソンネ	有	東京都	
3/27	13	男	30	ソンネ	有	東京都	
4/24	17	女	28	フレキシネル	有	不明	
5/2	18	男	83	フレキシネル	有	東京都	川釣りのハゼ自己調理
5/4	18	女	75	フレキシネル	有	静岡県	
5/31	22	男	48	フレキシネル	有	東京都	
6/21	25	男	38	ソンネ	有	不明	
8/8	32	男	21	ソンネ	有	東京都	バーベキュー、焼き肉
10/5	40	男	59	フレキシネル	有	東京都	
10/12	41	男	32	ソンネ	有	東京都	
10/19	42	男	33	ソンネ	有	東京都	
11/20	47	女	64	フレキシネル	有	東京都	生魚の喫食

② 腸管出血性大腸菌感染症

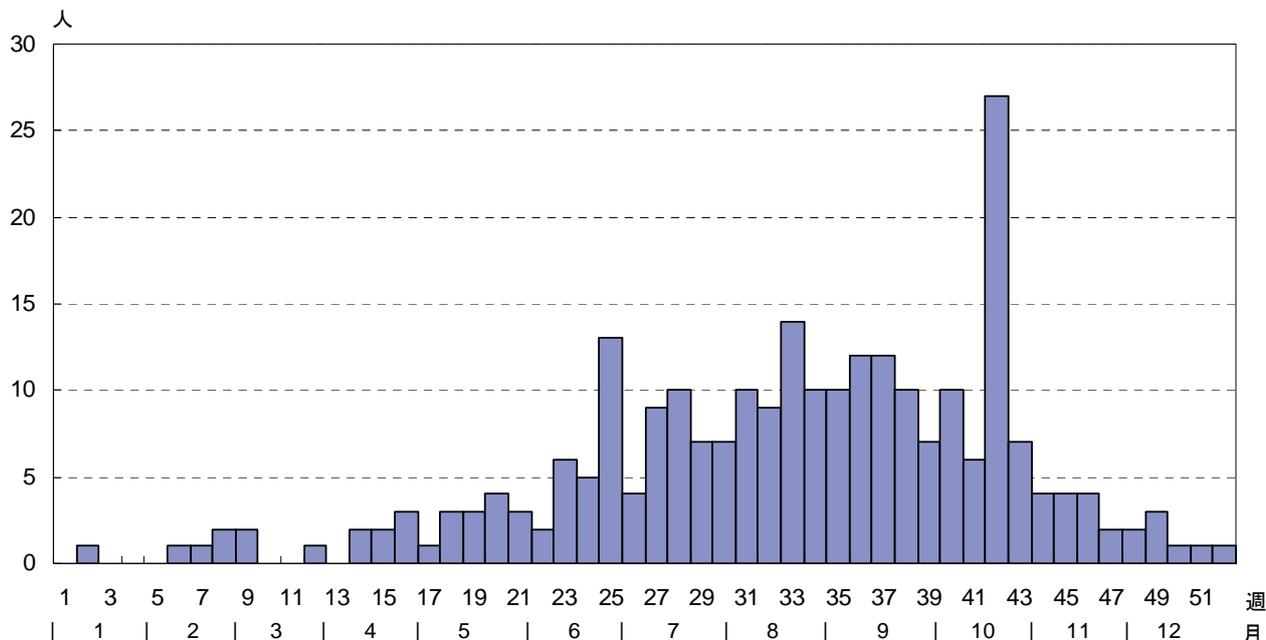
腸管出血性大腸菌感染症は 258 人届出があった。性別は男性 116 人、女性 142 人で、年齢は 10 歳未満 65 人（うち 5 歳未満 36 人）、10 歳代 44 人、20 歳代 54 人、30 歳代 26 人、40 歳代 20 人、50 歳代 9 人、60 歳代 27 人、70 歳以上 13 人であった。

菌型は O157VT1 が 6 件、O157VT2 が 63 件、O157VT1・VT2 が 103 件、O157VT 不明が 2 件、O26VT1 が 37 件、O26VT2 が 2 件、O26VT1・VT2 が 4 件、O26VT 不明が 1 件、O103VT1 が 7 件、O145VT1 が 1 件、O145VT2 が 5 件、O145VT1・VT2 が 1 件、O111VT1 が 2 件、O111VT2 が 1 件、O111VT1・VT2 が 3 件、O91VT1 が 3 件、O165VT2 が 2 件、O165VT1 が 1 件、その他が 14 件であった。

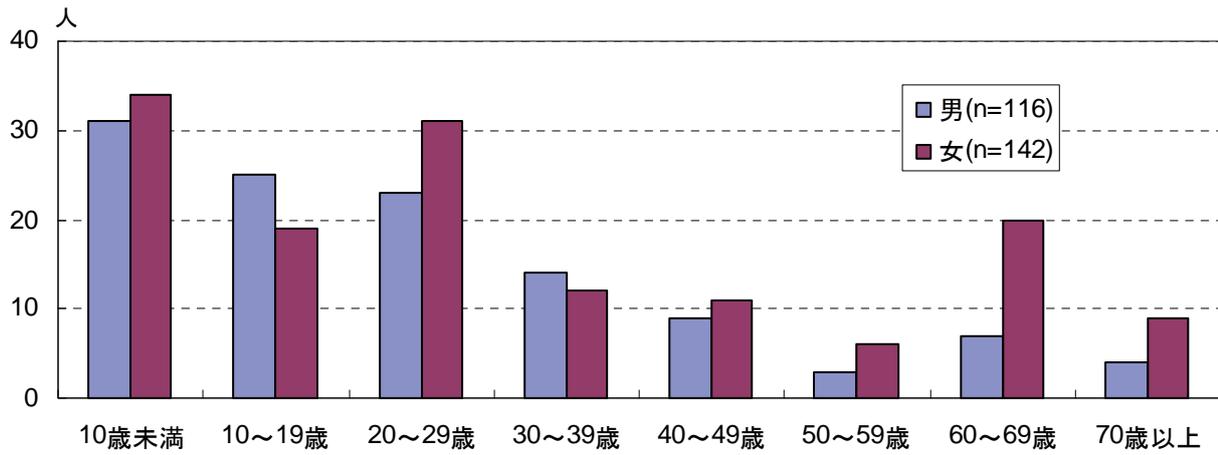
症状別では、患者 188 人、無症状病原体保有者 70 人であり、死亡は 1 人（70 歳代の男性患者）が確認された。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明しているものは 14 人おり、年齢は 10 歳未満 8 人（うち、5 歳未満 4 人）、20 歳代 1 人、60 歳代 3 人、70 歳以上 2 人で、菌型は O157VT1 が 1 件、O157VT2 が 2 件、O157VT1・VT2 が 4 件、O26VT1・VT2 が 1 件、O111VT2 が 1 件、O183VT1・VT2 が 1 件、血清での O 抗原凝集抗体の検出が 2 件、便でのペロ毒素の検出が 2 件であった。

推定感染地は国内 239 人、国外 18 人（中国 4 人、インドネシア 3 人、トルコ 2 人、ハワイ 2 人、韓国 2 人、エジプト 1 人、グアム 1 人、フランス 1 人、ベトナム 1 人、ペルー 1 人）、国内または国外 1 人であった。

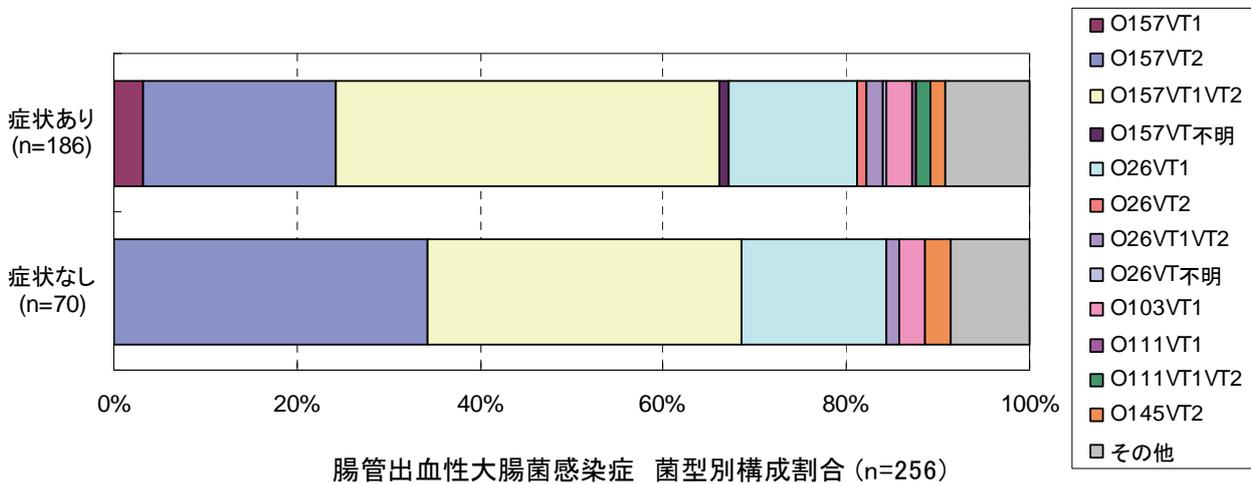
症例の集積は、17～19 週に都内焼き肉店による食中毒関連が 3 人（O157VT1・VT2）、21 週に中国ツアー関連が 2 人（O111VT1、O145VT2、O157VT1・VT2）、27～28 週にも都内焼き肉店による食中毒関連が 3 人（O157VT1・VT2）、33 週に北海道における浅漬け食中毒関連が 2 人（O157 O157VT1・VT2）、37～42 週及び 40～44 週には、都内保育園関連がそれぞれ 7 人（O157VT1・VT2）と 19 人（O26VT1）認められた。



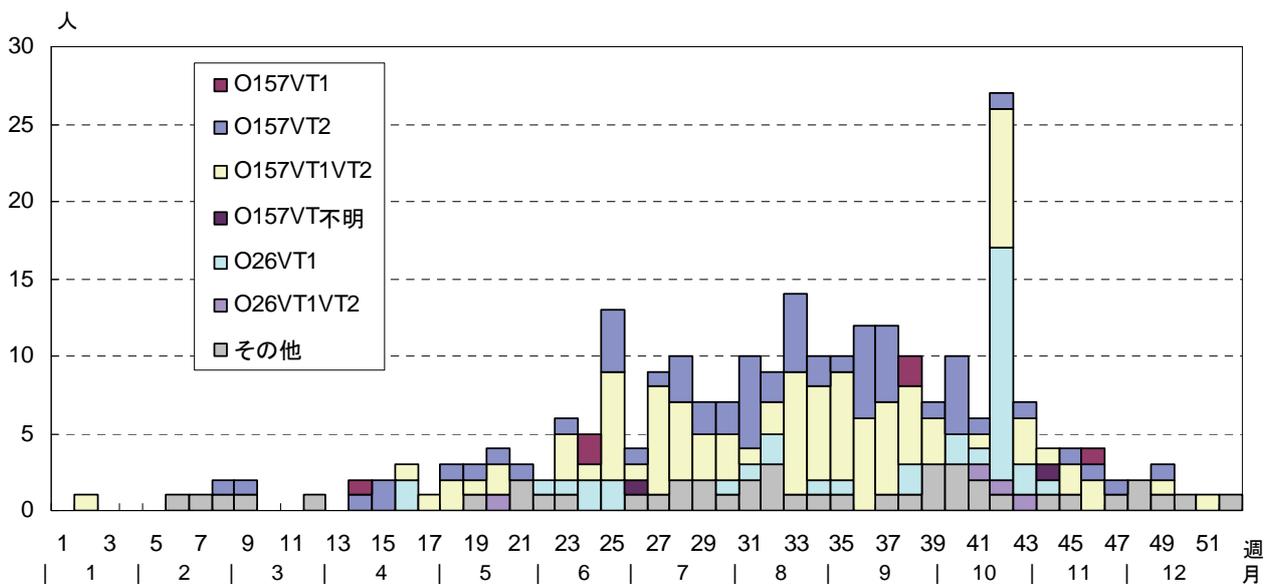
腸管出血性大腸菌感染症 週別届出数 (n=258)



腸管出血性大腸菌感染症 性別・年齢階級別届出数 (n=258)



腸管出血性大腸菌感染症 菌型別構成割合 (n=256)

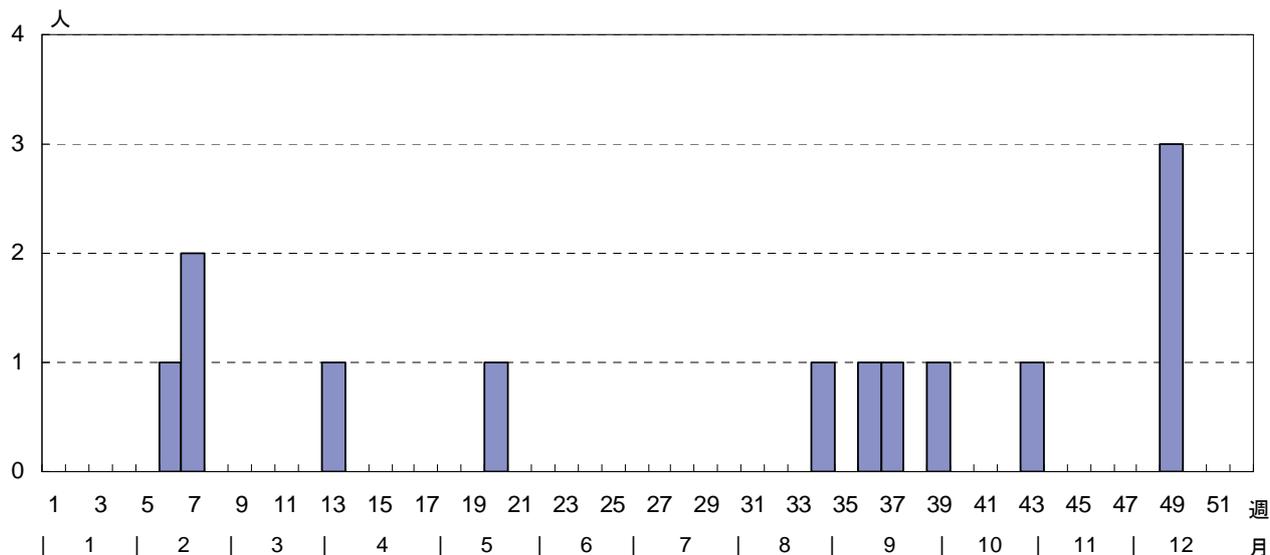


腸管出血性大腸菌感染症 菌型別・週別届出数 (n=258)

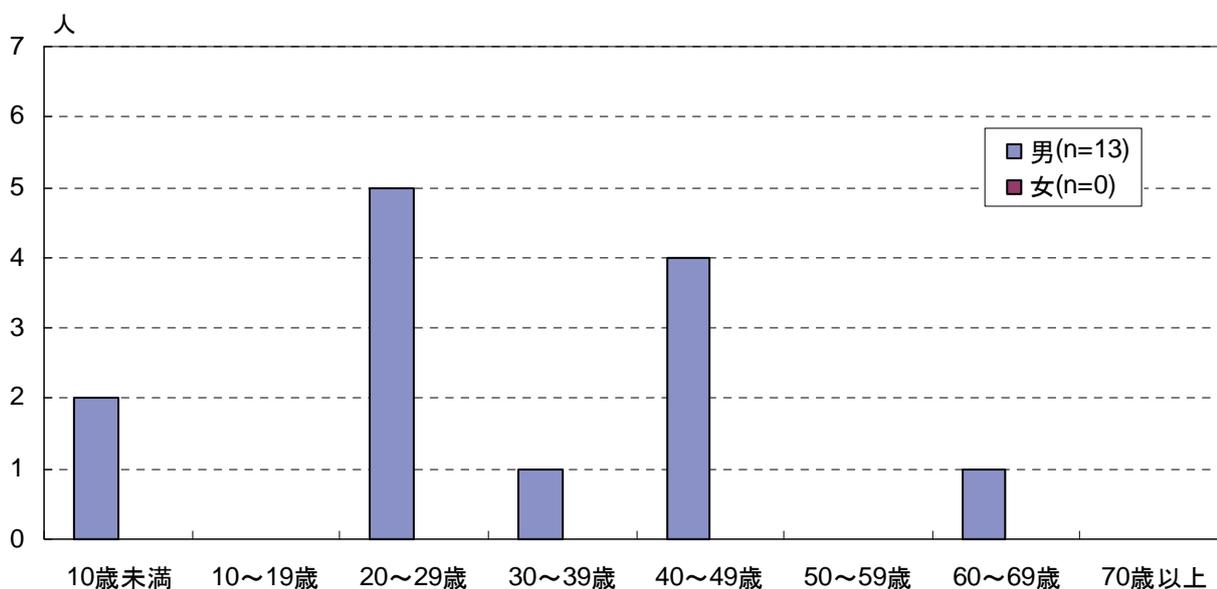
③ 腸チフス

腸チフスは13人届出があり、すべて男性患者であった。年齢は10歳未満2人、20歳代5人、30歳代1人、40歳代4人、60歳代1人であった。

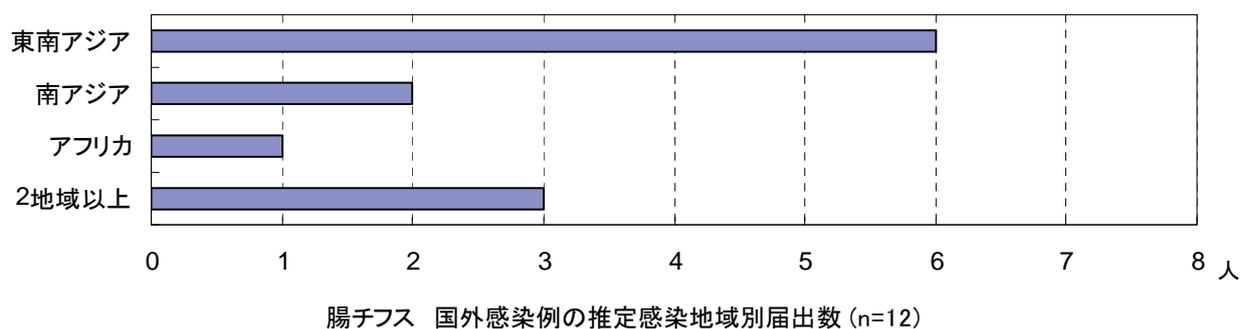
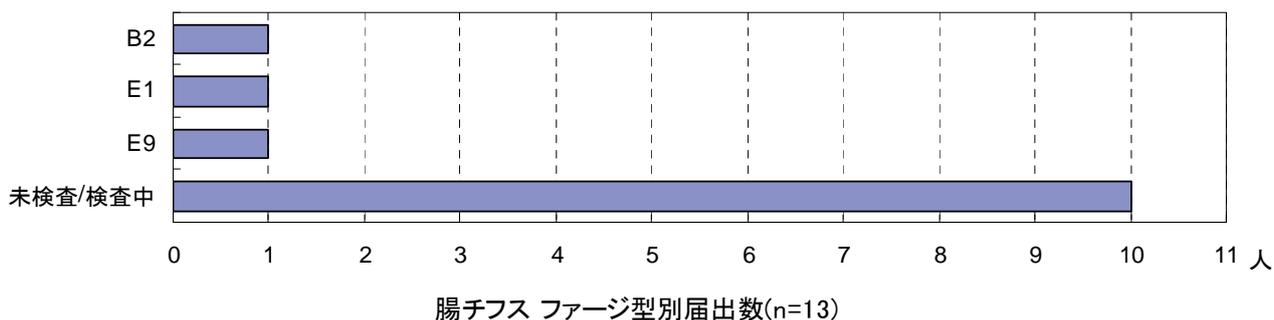
推定感染地は国内1人、国外12人であり、国外感染例12人の推定感染地域は、東南アジア6人、南アジア2人、アフリカ1人、2地域以上3人であった。推定感染国別では、インド4人、インドネシア1人、ウガンダ1人、パキスタン1人、バングラデシュ1人、マレーシア1人、インド又はタイ又はラオス1人、インドネシア又は中国1人、タイ又はラオス又はインド1人であった。



腸チフス 週別届出数 (n=13)



腸チフス 性別・年齢階級別届出数 (n=13)



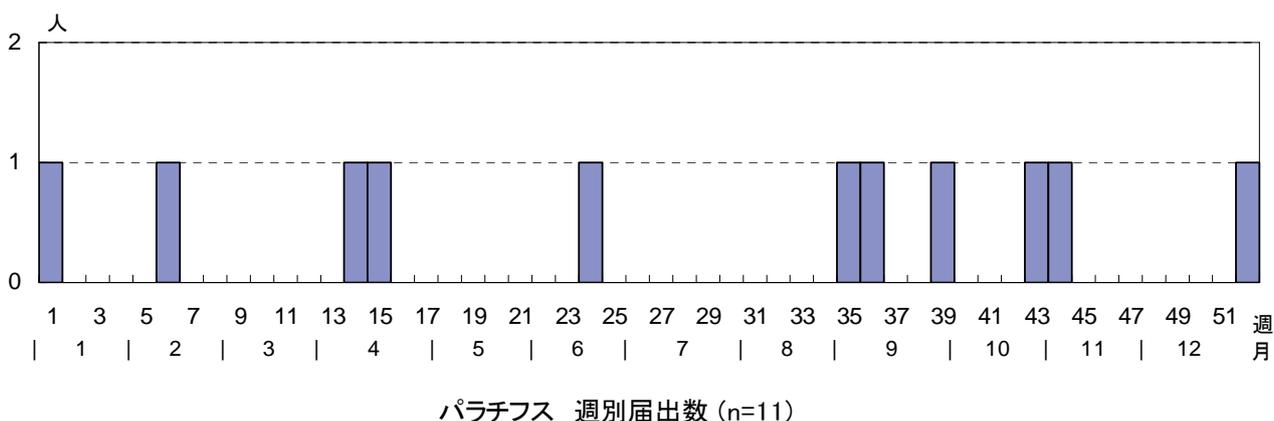
腸チフス 国内感染例 (n=1)

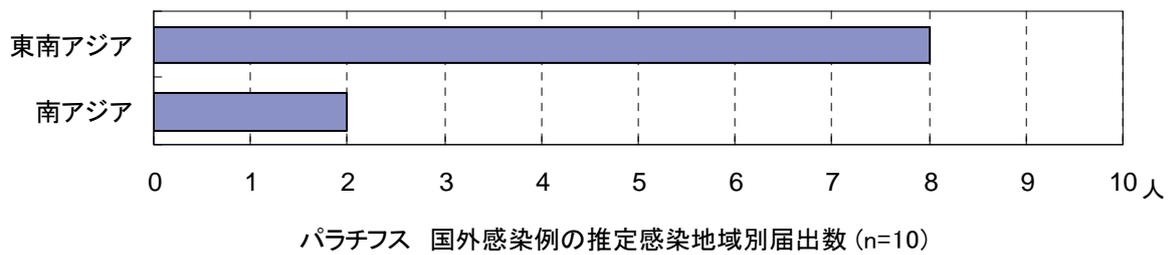
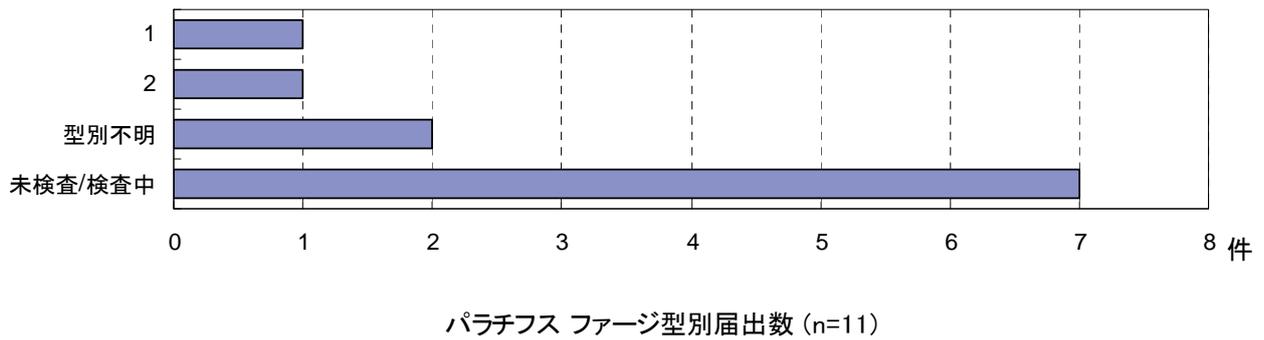
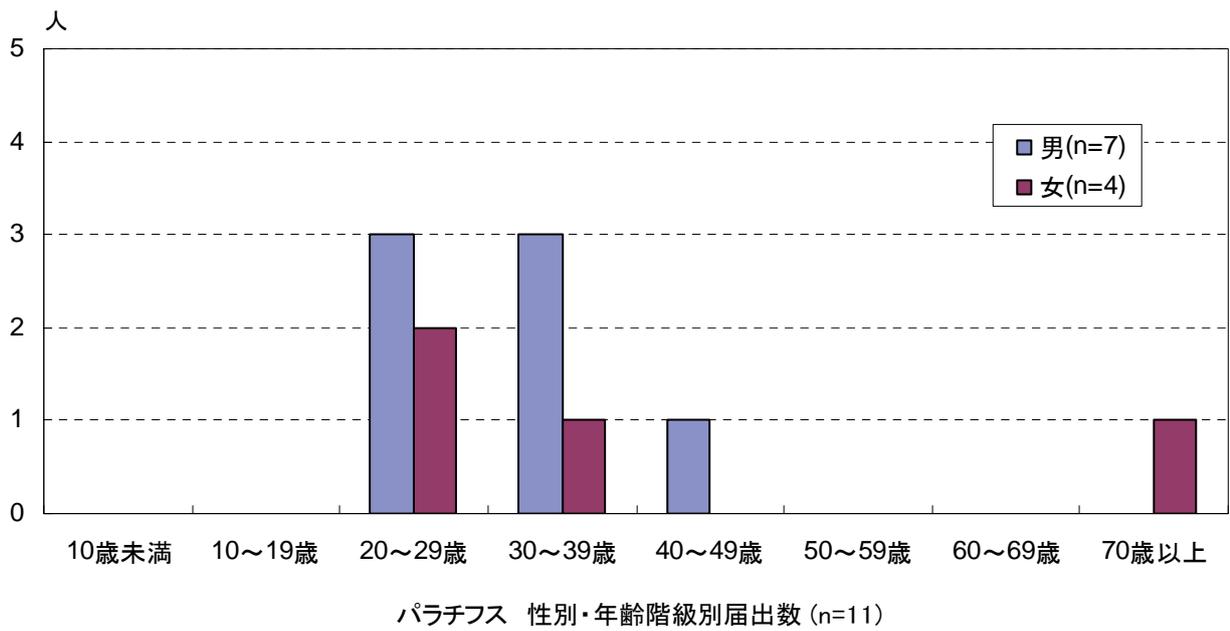
受理日	受理週	性別	年齢	フェージ型	症状	推定感染地
9/26	39	男	62	検査中	有	東京都

④ パラチフス

パラチフスは11人届出があった。性別は男性7人、女性4人で、年齢は20歳代5人、30歳代4人、40歳代1人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内1人、国外10人であった。国外感染例10人を推定感染地域別でみると、南アジア8人、東南アジア2人であり、推定感染国はインド7人、インドネシア1人、タイ1人、パキスタン1人であった。





以下の疾患は届出がなかった。

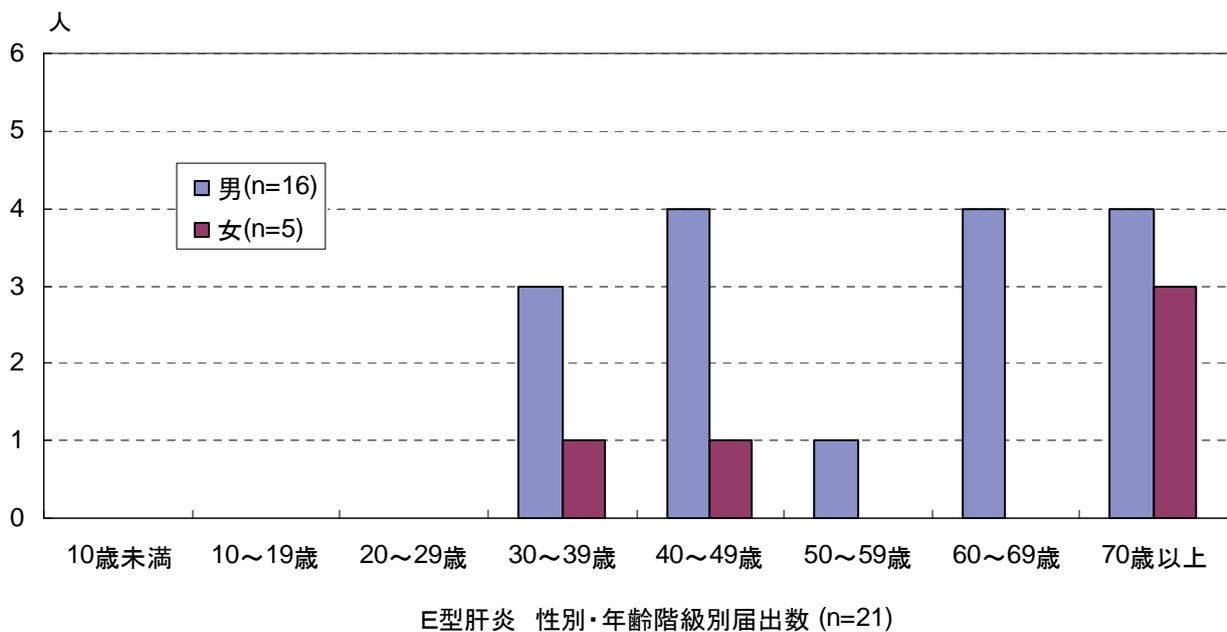
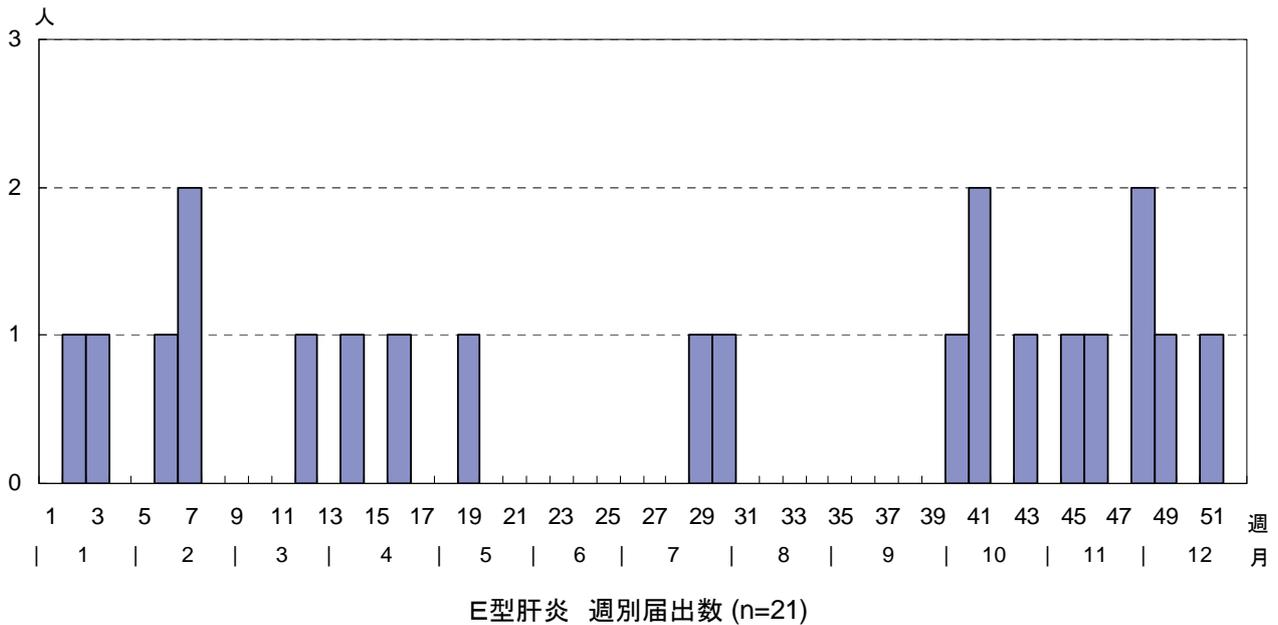
コレラ

エ 四類感染症

① E型肝炎

E型肝炎は21人届出があった。性別は男性16人、女性5人で、年齢は30歳代4人、40歳代5人、50歳代1人、60歳代4人、70歳以上7人であった。

推定感染地は国内20人、スペイン1人であった。推定感染経路では、4人に豚肉の喫食が認められた。



E型肝炎届出例 (n=21)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/12	2	男	64	その他(胃部不快感)	国内	不明
1/16	3	男	75	発熱、全身倦怠感、食欲不振、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染(馬肉)
2/8	6	女	74	肝機能異常	国内	飲食物による経口感染(豚レバー)
2/15	7	男	64	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常、肝腫大	国内	飲食物による経口感染
2/17	7	男	37	食欲不振、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染
3/19	12	男	44	全身倦怠感、黄疸、肝機能異常、肝腫大	国内	不明
4/2	14	男	48	全身倦怠感、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染(豚生肉)
4/16	16	女	71	発熱、全身倦怠感	国内	不明
5/12	19	男	70	全身倦怠感、食欲不振、黄疸	国内	飲食物による経口感染
7/18	29	男	74	全身倦怠感、肝機能異常	スペイン	飲食物による経口感染(生ハム)
7/24	30	男	46	発熱、全身倦怠感、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染
10/1	40	女	71	肝機能異常	国内	不明
10/9	41	女	38	全身倦怠感、食欲不振、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染(豚生レバー、羊肉)
10/12	41	男	35	全身倦怠感、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染
10/22	43	男	85	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	不明
11/6	45	男	67	全身倦怠感、その他(尿濃染)	国内	飲食物による経口感染(貝、焼肉)
11/15	46	男	63	全身倦怠感、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染
11/26	48	男	49	全身倦怠感、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染(馬刺し)
11/27	48	男	55	黄疸、肝機能異常、その他(ビリルビン尿、白色便、搔痒感)	国内	不明
12/5	49	男	38	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染(シカ肉)
12/19	51	女	46	全身倦怠感、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染

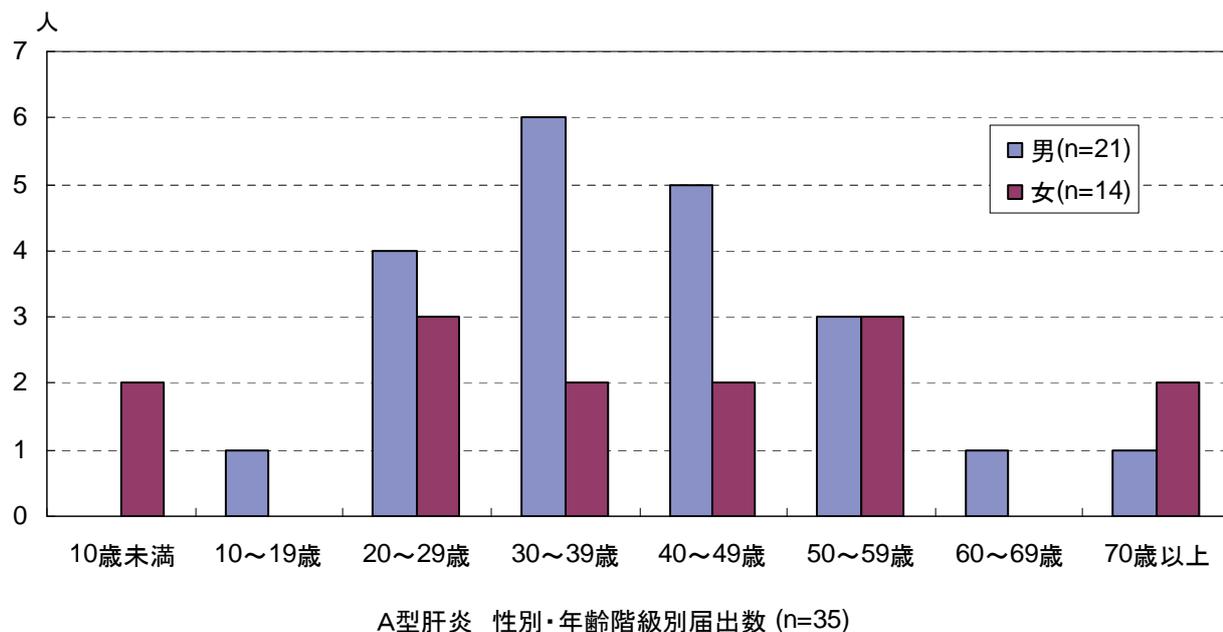
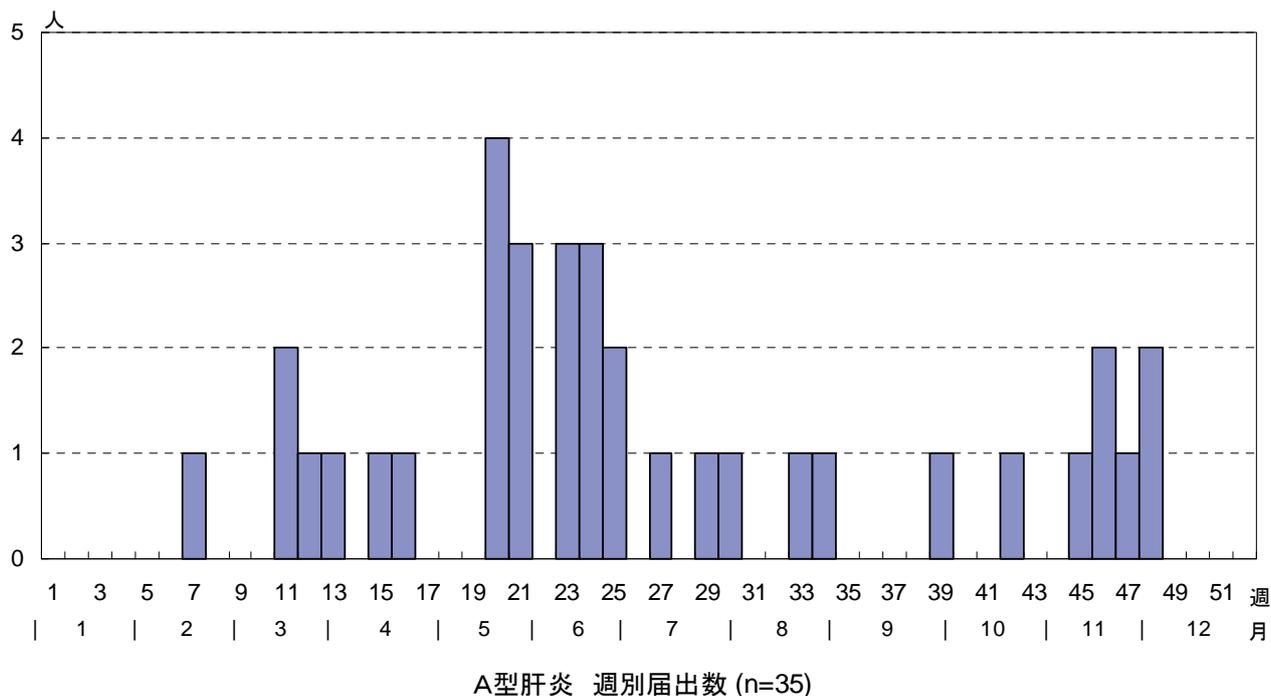
② A型肝炎

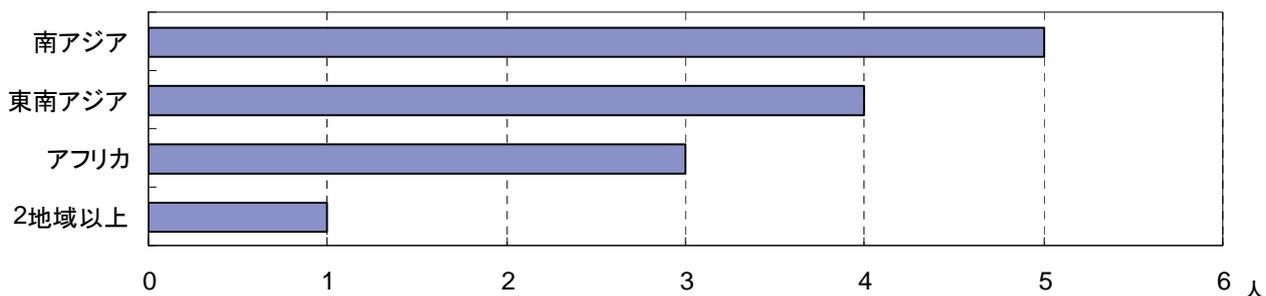
A型肝炎は35人届出があった。性別は男性21人、女性14人で、年齢は10歳未満2人(うち5歳未満1人)、10歳代1人、20歳代7人、30歳代8人、40歳代7人、50歳代6人、60歳代1人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内22人、国外13人であった。国外感染例の推定感染地域は、南アジア5人、東南アジア4人、アフリカ3人、2地域以上1人で、推定感染国別ではパキスタン3人、タイ2人、インドネシア1人、エジプト1人、ケニア1人、スリランカ1人、ネパール1人、フィリピン1人、インド又はケニア1人、ギニア又はセネガル1人であった。

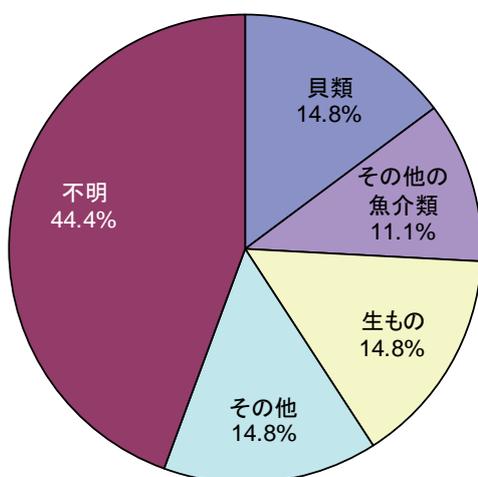
推定感染経路は、飲食物による経口感染 27 人、経口感染又は異性間性的接触 1 人、経口感染又はその他 1 人、その他 6 人であった。飲食物による経口感染 27 人のうち推定原因食材は貝類が 4 人 (14.8%)、その他の魚介類が 3 人 (11.1%)、生ものが 4 人 (14.8%)、その他 4 人 (14.8%)、不明 12 人 (44.4%) であった。

症例の集積は、45～48 週にパキスタンへの渡航が関連したと推定される症例が 3 人認められた。





A型肝炎 国外感染例の推定感染地域別届出数 (n=13)



A型肝炎 感染原因として疑われた飲食物 (n=27)

③ エキノコックス症

エキノコックス症は1人届出があり、性別は女性、年齢は50歳代であった。原因は単包条虫の寄生によるもので、推定感染地はボリビアであった。

エキノコックス症届出例 (n=1)

受理日	受理週	性別	年齢	原因寄生虫種	症状	推定感染地	推定感染経路
12/17	51	女	52	単包条虫	腹痛、肝臓の画像異常所見	ボリビア	不明

④ 回帰熱

回帰熱は1人届出があり、性別は男性、年齢は20歳代であった。推定感染地はアルジェリアで、推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。東京都での回帰熱の届出は1999年以降初めての報告となった。

回帰熱届出例 (n=1)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
12/17	51	男	28	発熱	アルジェリア	動物・蚊・昆虫等からの感染

⑤ コクシジオイデス症

コクシジオイデス症は1人届出があり、性別は女性、年齢は20歳代であった。推定感染地は米国、推定感染経路は塵埃感染であった。

コクシジオイデス症届出例 (n=1)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
9/10	37	女	22	胸部結節性病変	米国(アリゾナ州)	塵埃感染

⑥ チクングニア熱

チクングニア熱は3人届出があった。性別は男性1人、女性2人であり、年齢は10歳代2人、20歳代1人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染地域はいずれも東南アジア、推定感染国はインドネシア1人、カンボジア1人、フィリピン1人であった。推定感染経路はすべて動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

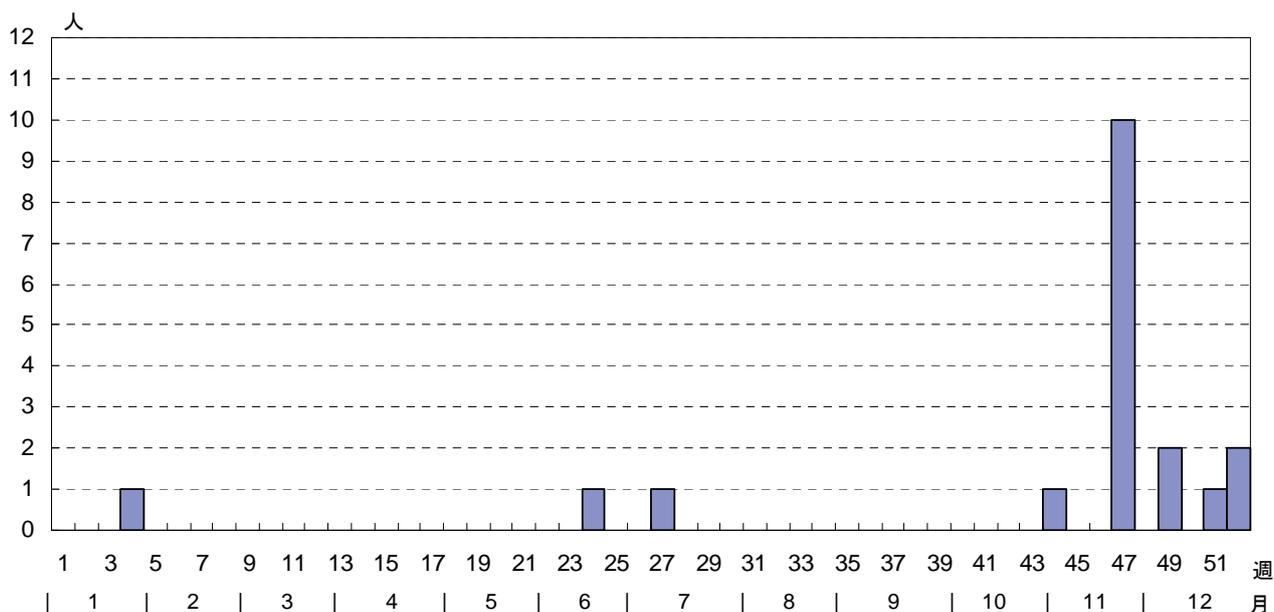
チクングニア熱届出例 (n=3)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
10/4	40	女	19	発熱、関節痛、発しん	フィリピン	動物・蚊・昆虫等からの感染
10/9	41	女	19	発熱、関節痛、発しん、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛	カンボジア	動物・蚊・昆虫等からの感染
10/18	42	男	28	発熱、関節痛、発しん、全身倦怠感、筋肉痛、血小板減少、白血球減少	インドネシア	動物・蚊・昆虫等からの感染

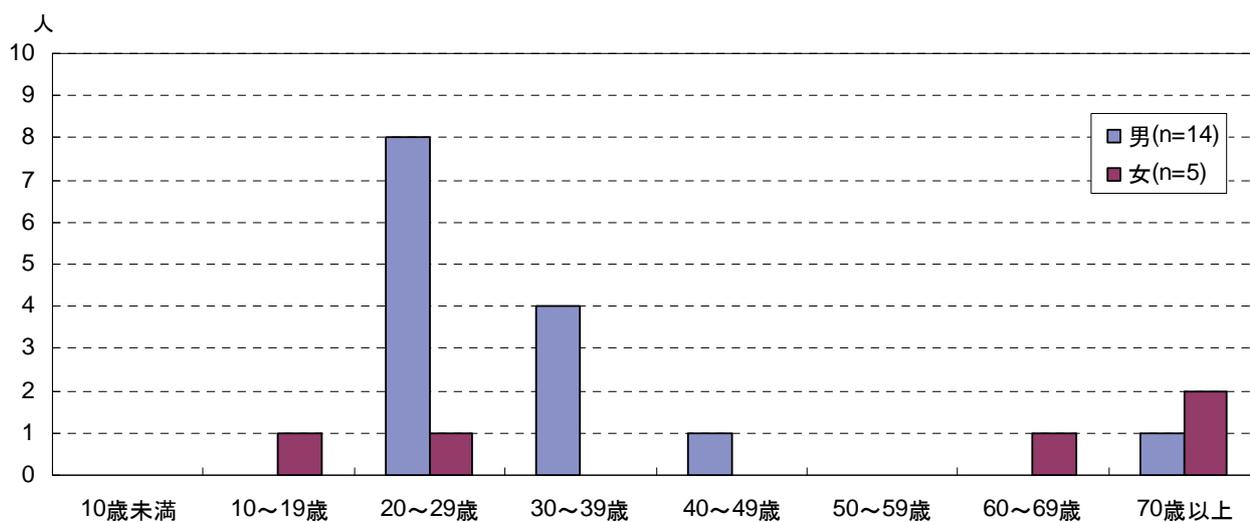
⑦ つつが虫病

つつが虫病は19人届出があり、性別は男性14人、女性5人であった。年齢は10歳代1人、20歳代9人、30歳代4人、40歳代1人、60歳代1人、70歳以上3人であった。推定感染地は静岡県10人、東京都7人（うち島しょ地区3人）、不明（国内）1人、台湾1人であった。

症例の集積は、47週に野外訓練を行った自衛官の集団感染10人が認められた。



つつが虫病 週別届出数 (n=19)



つつが虫病 性別・年齢階級別届出数 (n=19)

つつが虫病届出例 (n=19)

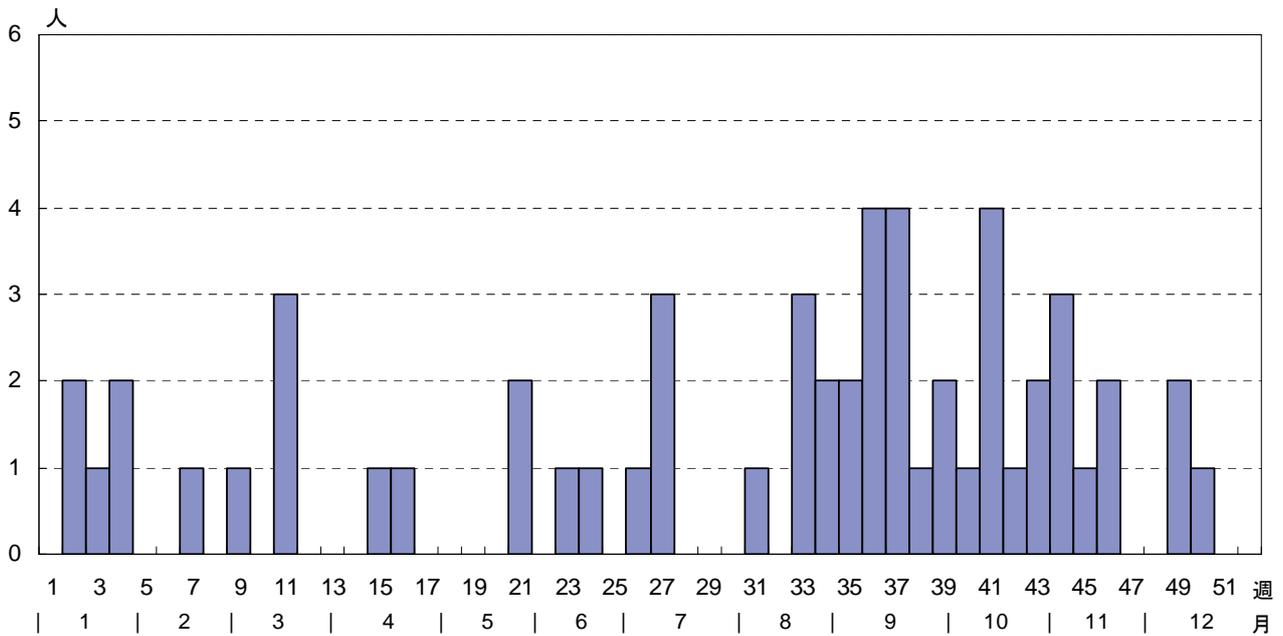
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	職業
1/27	4	男	37	発熱、刺し口、発しん	国外	会社員
6/12	24	女	71	発熱、刺し口、発しん、肺炎	東京都	無職
7/2	27	女	16	頭痛、発熱、刺し口、発しん、その他(眼球出血)	東京都	高校生
11/1	44	女	76	発熱、刺し口、発しん	東京都	無職
11/21	47	男	24	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん	静岡県	自衛官
11/21	47	男	42	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん	静岡県	自衛官
11/21	47	男	38	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん、その他(関節痛)	静岡県	自衛官
11/21	47	男	20	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん、その他(関節痛)	静岡県	自衛官
11/21	47	男	21	発熱、リンパ節腫脹、発しん	静岡県	自衛官
11/21	47	男	24	頭痛、発熱、発しん	静岡県	自衛官
11/21	47	男	20	発熱、リンパ節腫脹	静岡県	自衛官
11/21	47	男	23	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん、その他(関節痛)	静岡県	自衛官
11/21	47	男	21	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん	静岡県	自衛官
11/21	47	男	22	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん、その他(関節痛)	静岡県	自衛官
12/3	49	女	27	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発しん	東京都	不詳
12/4	49	男	38	発熱、発しん、肺炎	不明(国内)	ビルメンテナンス
12/19	51	男	79	刺し口、発しん	東京都	自営業
12/25	52	女	68	頭痛、発熱、刺し口	東京都	無職
12/27	52	男	31	発熱、刺し口、発しん	東京都	土木作業

⑧ デング熱

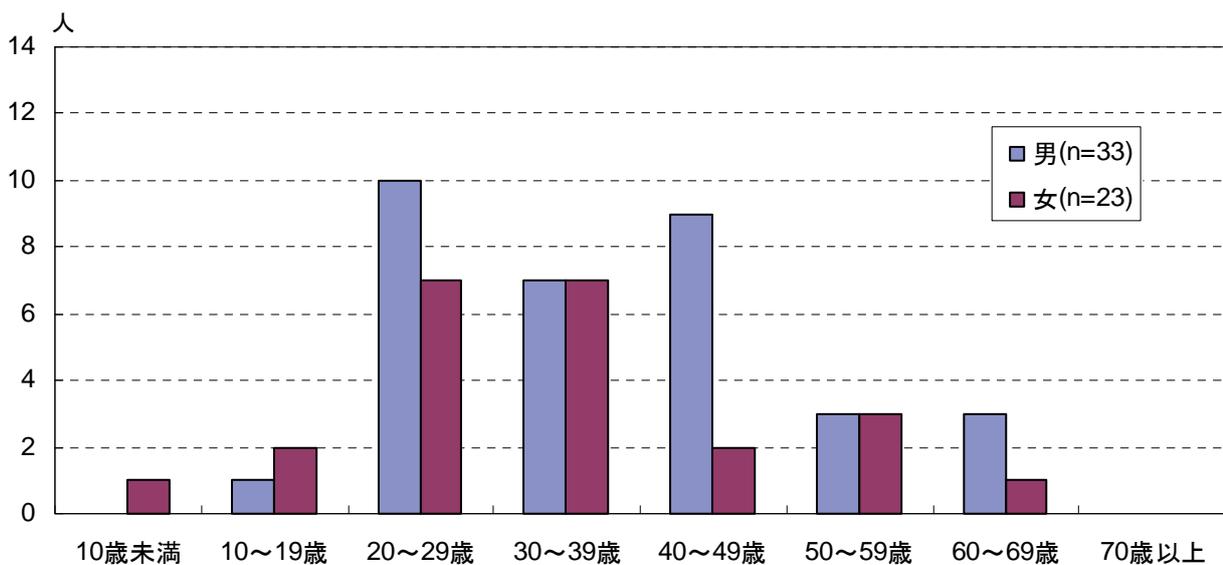
デング熱は 56 人届出があり、その中でデング出血熱は 1 人であった。性別は男性 33 人、女性 23 人であり、年齢は 10 歳未満 1 人、10 歳代 3 人、20 歳代 17 人、30 歳代 14 人、40 歳代 11 人、50 歳代 6 人、60 歳代 4 人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域は東南アジア 40 人、南アジア 13 人、中央アメリカ 1 人、2 地域以上 2 人であった。推定感染国は、インド 10 人、インドネシア 10 人、フィリピン 9 人、タイ 8 人、カンボジア 4 人、ミャンマー 3 人、バングラデシュ 2 人などであった。

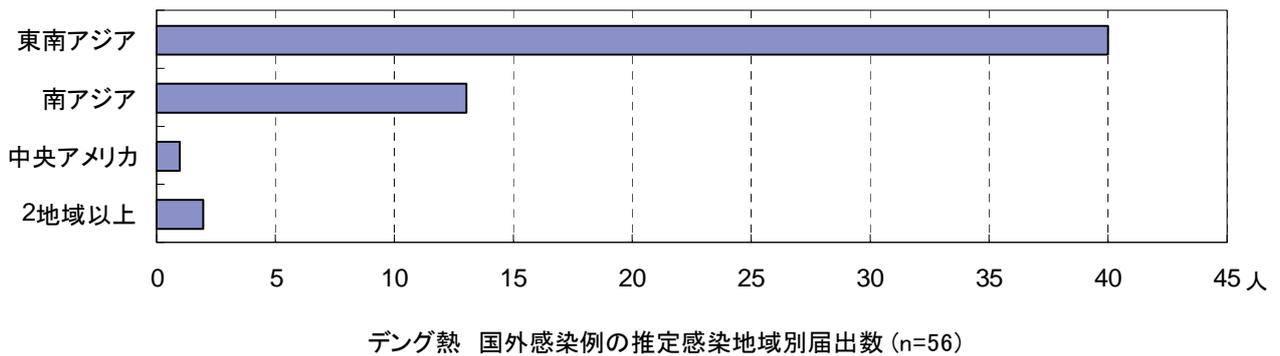
血清型は 22 件で報告されており、1 型 8 件、2 型 8 件、3 型 5 件、4 型 1 件であった。



デング熱 週別届出数 (n=56)



デング熱 性別・年齢階級別届出数 (n=56)

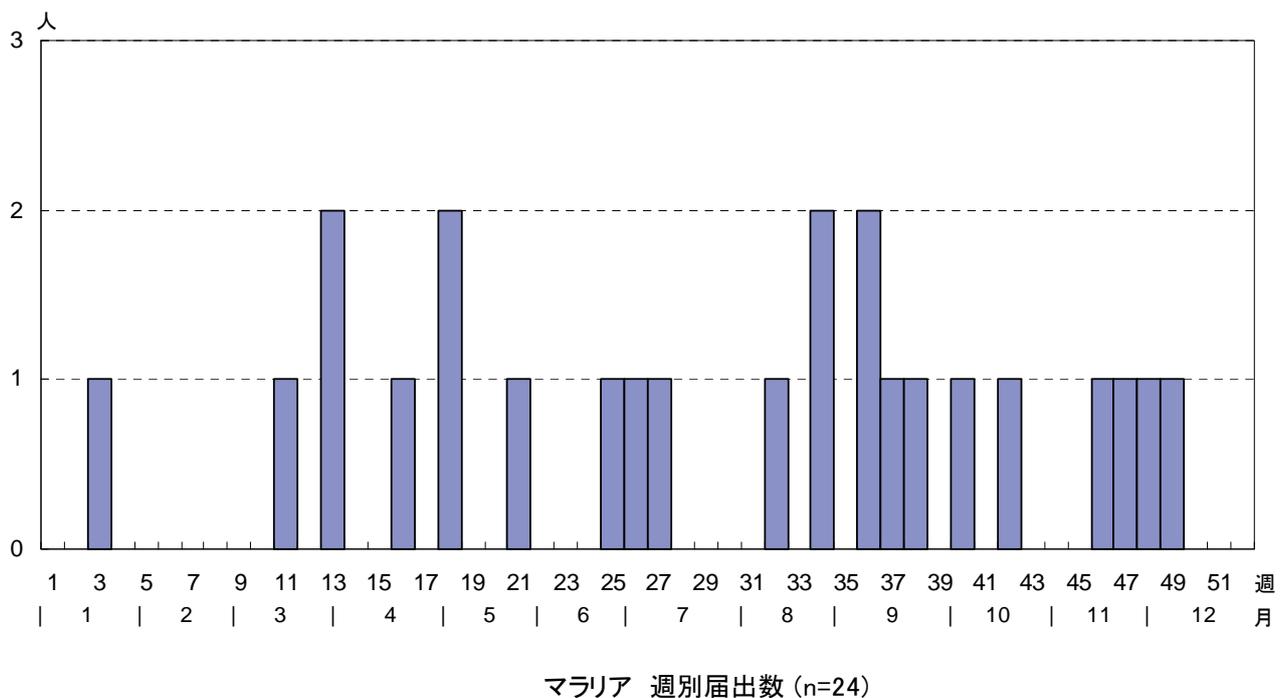


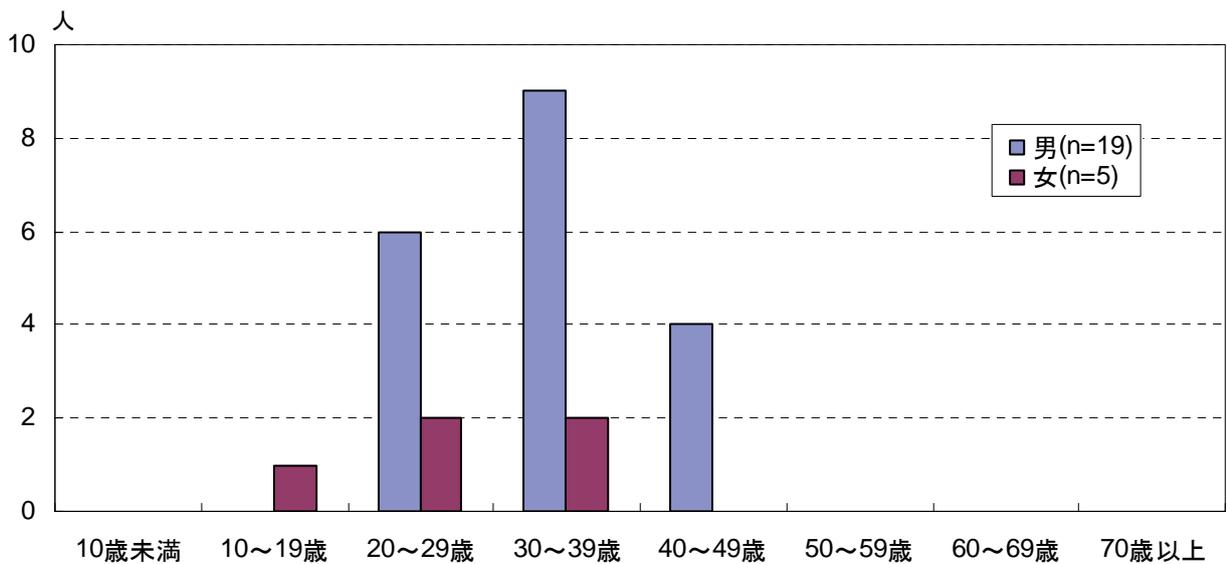
⑨ マラリア

マラリアは24人届出があった。三日熱マラリア5人、熱帯熱マラリア13人、卵形マラリア4人、その他 (*P. knowlesi*) 1人、型別不明1人であった。

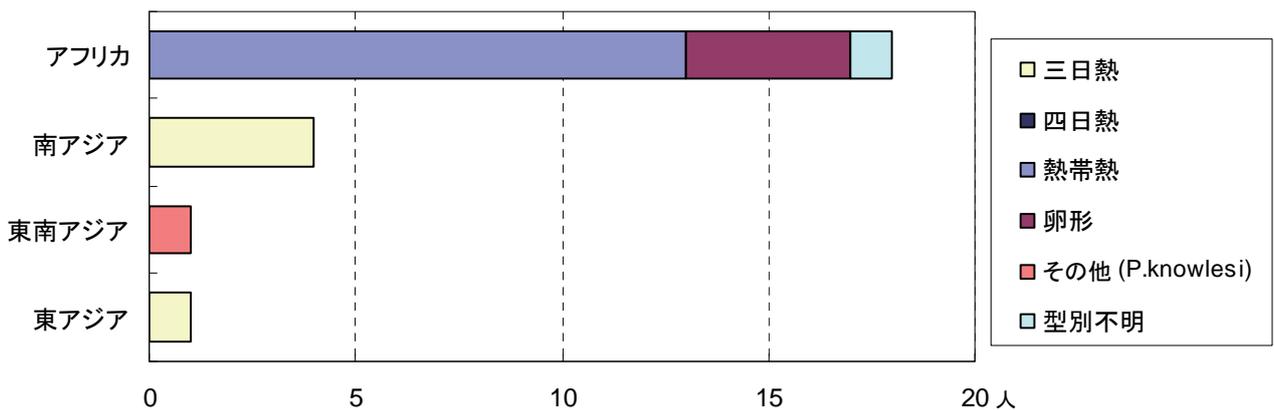
性別は男性19人、女性5人で、年齢は10歳代1人、20歳代8人、30歳代11人、40歳代4人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域はアフリカ18人、南アジア4人、東南アジア1人、東アジア1人であった。推定感染国はインド4人、ガーナ3人、ウガンダ3人、ザンビア2人、タンザニア2人、ナイジェリア2人、ブルキナファソ2人、中国1人、ウガンダ1人、南スーダン1人、ケニア1人、マレーシア1人、ルワンダ1人であった。





マラリア 性別・年齢階級別届出数 (n=24)



マラリア 推定感染地域別・原虫種別届出数 (n=24)

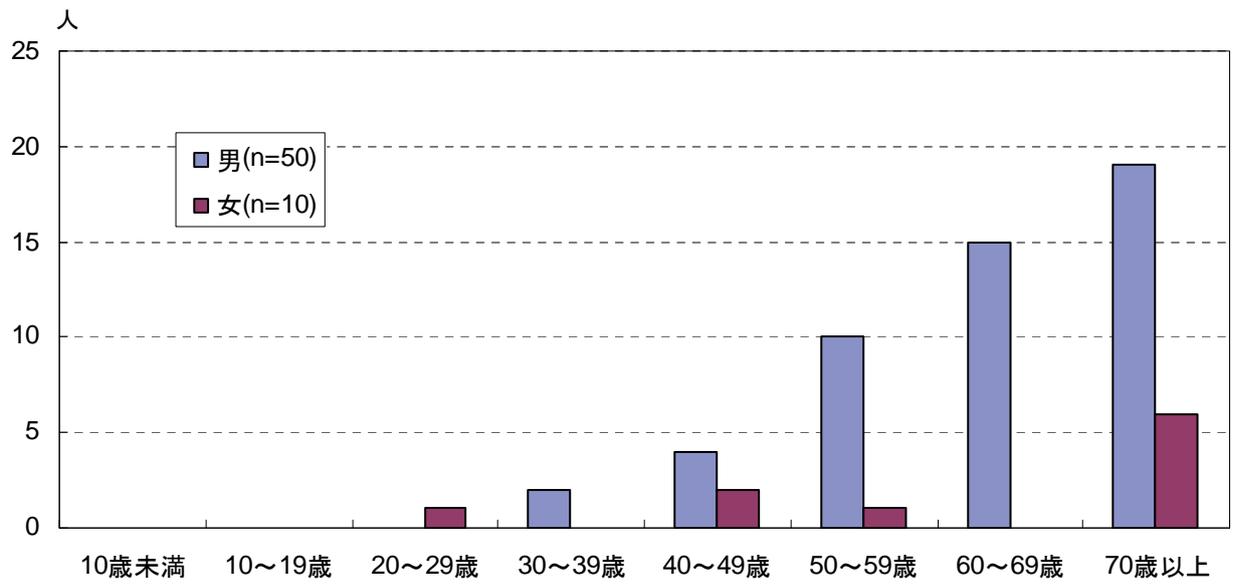
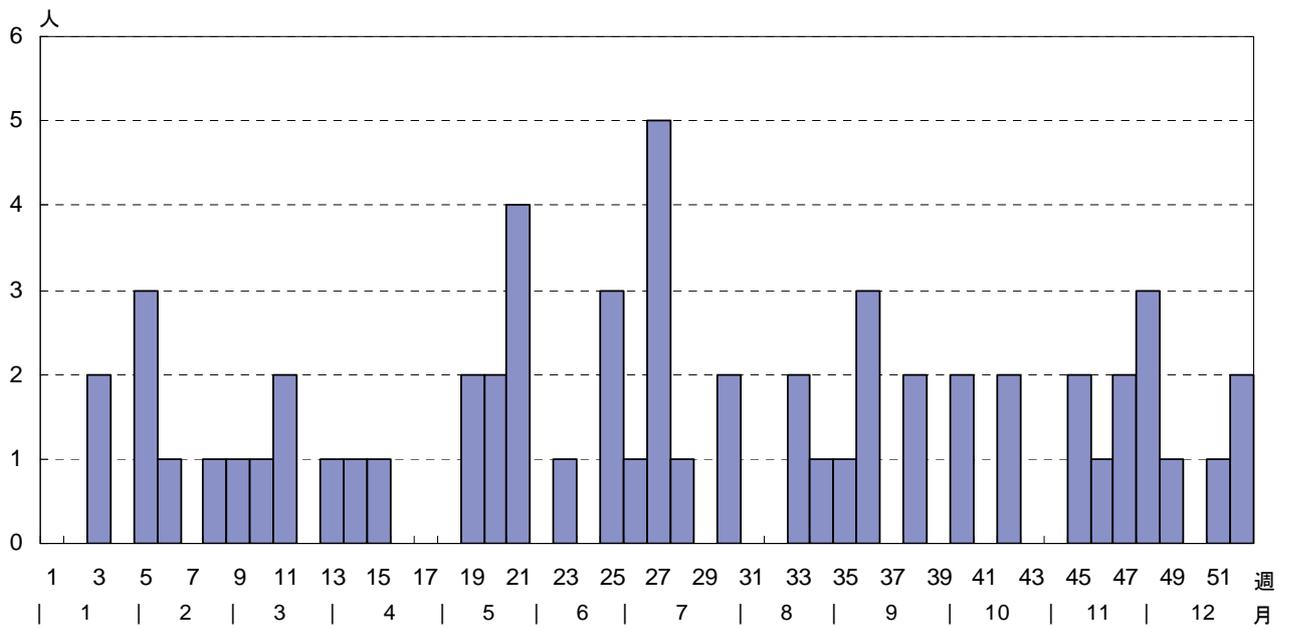
⑩ レジオネラ症

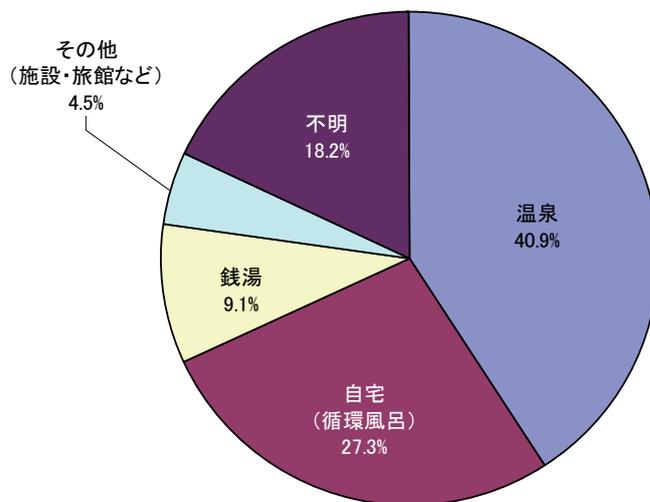
レジオネラ症は60人届出があった。病型はすべて肺炎型であり、死亡例は3例であった。

性別は男性50人、女性10人で、年齢は20歳代1人、30歳代2人、40歳代6人、50歳代11人、60歳代15人、70歳代12人、80歳代10人、90歳以上3人であった。

推定感染地は国内56人、国外4人であった。国外感染例の推定感染地域は、東アジア2人、東南アジア2人であり、推定感染国は、中国2人、シンガポール1人、タイ1人であった。

推定感染経路は水系感染22人、塵埃感染3人、水系感染または塵埃感染1人、その他34人であった。水系感染のうち、温泉入浴施設での感染が推定されているものは9人(40.9%)だった。





レジオネラ症 水系感染の内訳 (n=22)

⑪ レプトスピラ症

レプトスピラ症は6人届出があった。性別はすべて男性で、年齢は20歳代1人、30歳代1人、40歳代3人、60歳代1人であった。

推定感染地は国内4人、国外2人（ベトナム1人、マレーシア1人）であった。主な感染経路は、国内感染事例ではネズミ、国外感染事例では河川と推定されている。

レプトスピラ症届出例 (n=6)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/10	2	男	64	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、腎不全	東京都	ネズミ
4/13	15	男	43	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、出血症状、蛋白尿、腎不全、その他(下痢)	東京都	ネズミ
5/25	21	男	49	発熱、黄疸、出血症状、腎不全	東京都	その他
9/6	36	男	32	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、腎不全	ベトナム	河川・ネズミ
11/1	44	男	46	発熱、筋肉痛、黄疸、出血症状	東京都	ネズミ
11/28	48	男	20	発熱、結膜充血、蛋白尿、腎不全、その他(関節痛)	マレーシア	河川

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

オ 五類感染症（全数把握対象）

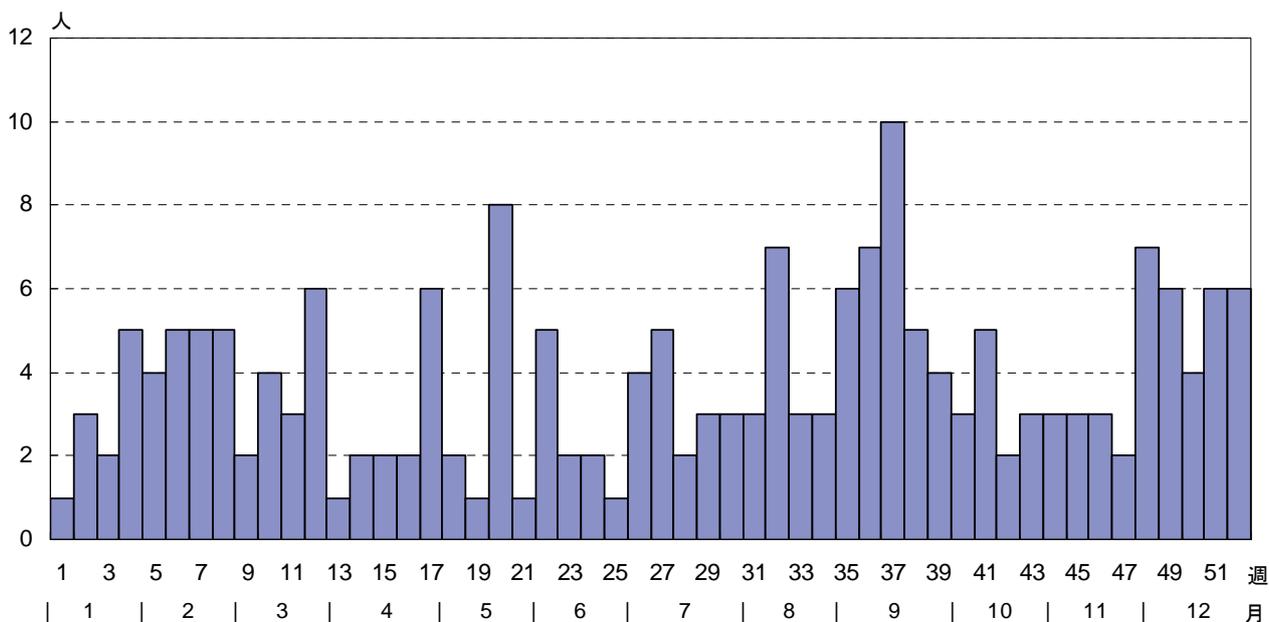
① アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は198人届出があり、腸管アメーバ症163人、腸管外アメーバ症23人、腸管及び腸管外アメーバ症12人であった。死亡例は1人報告された。

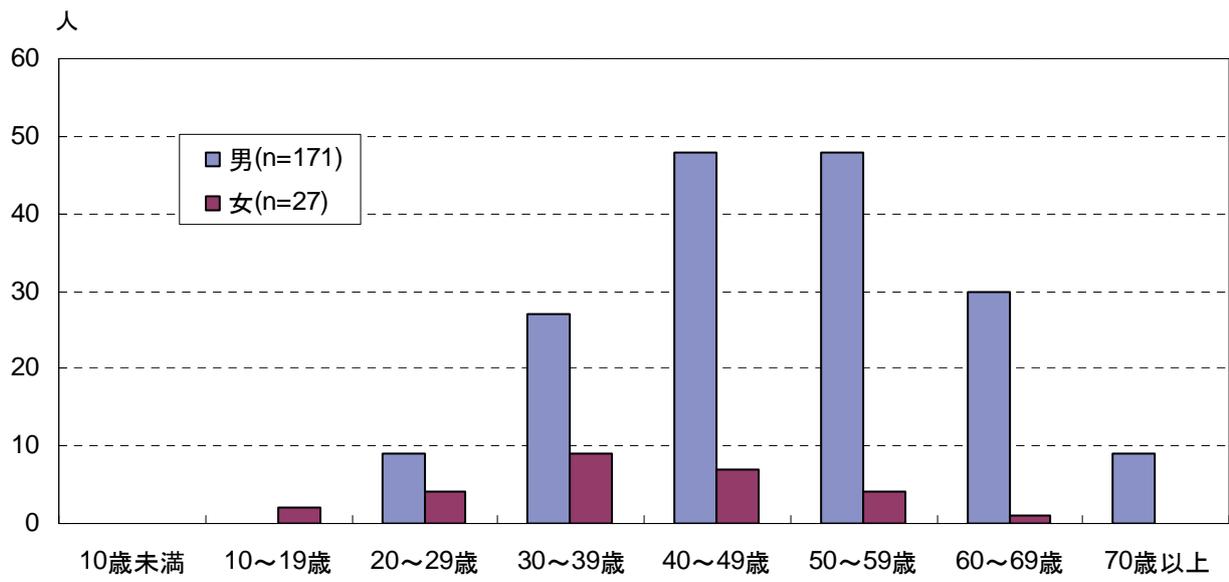
性別は男性171人、女性27人で、年齢は10歳代2人、20歳代13人、30歳代36人、40歳代55人、50歳代52人、60歳代31人、70歳以上9人であった。

推定感染地は国内169人、国外25人、国内または国外4人であった。国外感染例25人の推定感染地域は、東南アジア13人、東アジア4人、南アジア2人、ヨーロッパ1人、その他1人、渡航先不明4人であった。推定感染国はインドネシア4人、フィリピン3人、インド2人、タイ2人、韓国2人、中国2人、シンガポール1人、フランス1人、マレーシア1人、インドネシア又はマレーシア1人、カンボジア又はベトナム1人、その他1人、渡航先不明4人であった。

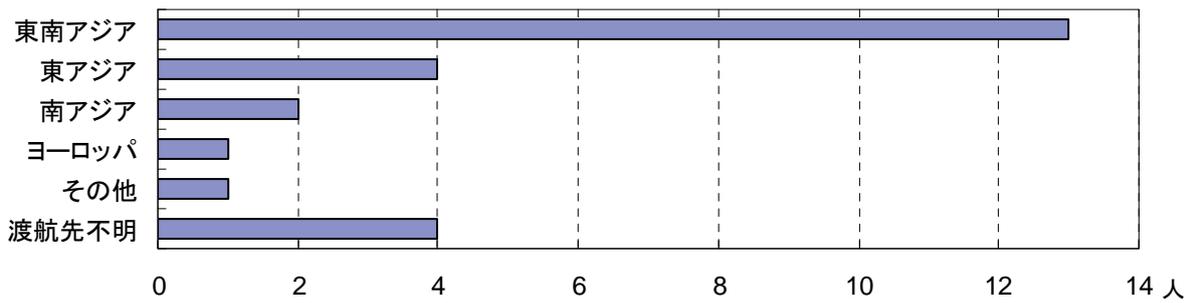
推定感染経路は、性的接触84人（異性間38人、同性間26人、両性間2人、性別不明18人）、飲食物による経口感染36人、2経路以上7人、不明71人であった。



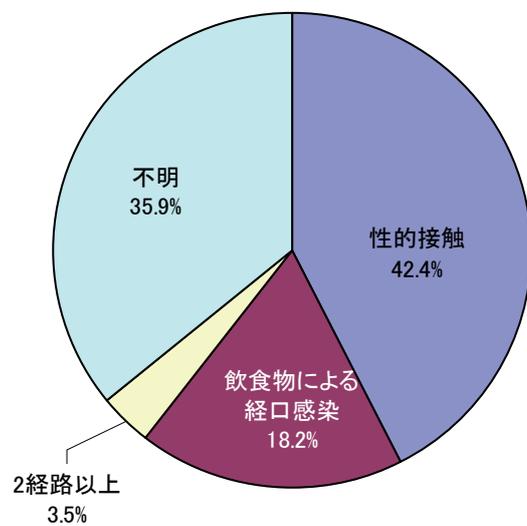
アメーバ赤痢 週別届出数 (n=198)



アメーバ赤痢 性別・年齢階級別届出数 (n=198)



アメーバ赤痢 国外感染例の推定感染地域別届出数 (n=25)



アメーバ赤痢 推定感染経路 (n=198)

② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

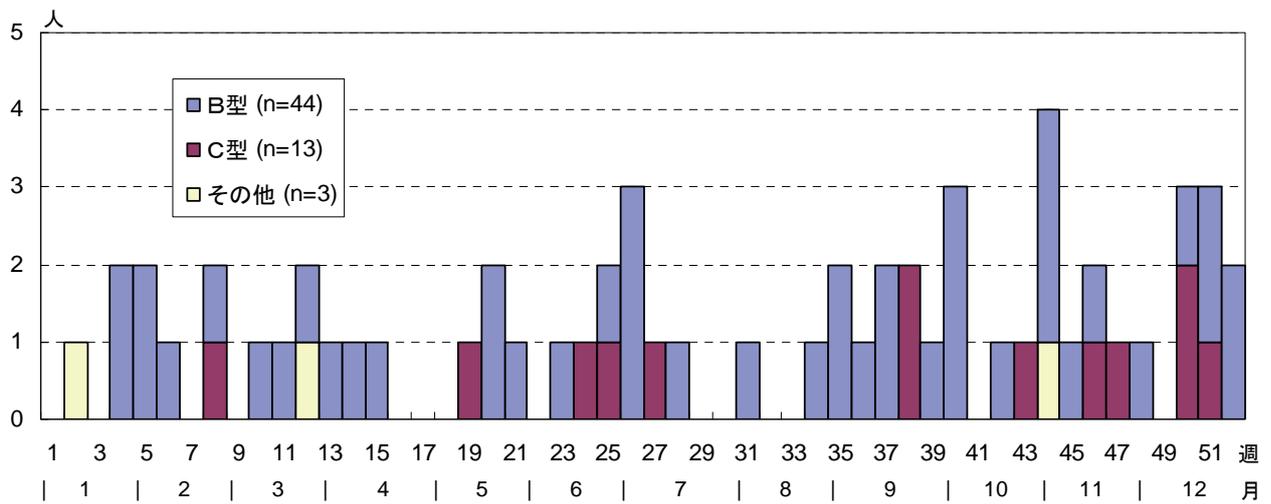
ウイルス性肝炎は60人届出があり、B型44件、C型13件、サイトメガロウイルス2件、EBウイルス1件であった。

B型肝炎44人の届出のうち、男性は37人、女性は7人で、年齢は20歳代12人、30歳代20人、40歳代8人、50歳代3人、60歳代1人であった。推定感染地は国内39人、国外5人（タイ2人、ブラジル1人、韓国1人、中国1人）で、推定感染経路は性的接触39人（同性間11人、異性間21人、両性間1人、性別不明6人）不明5人であった。

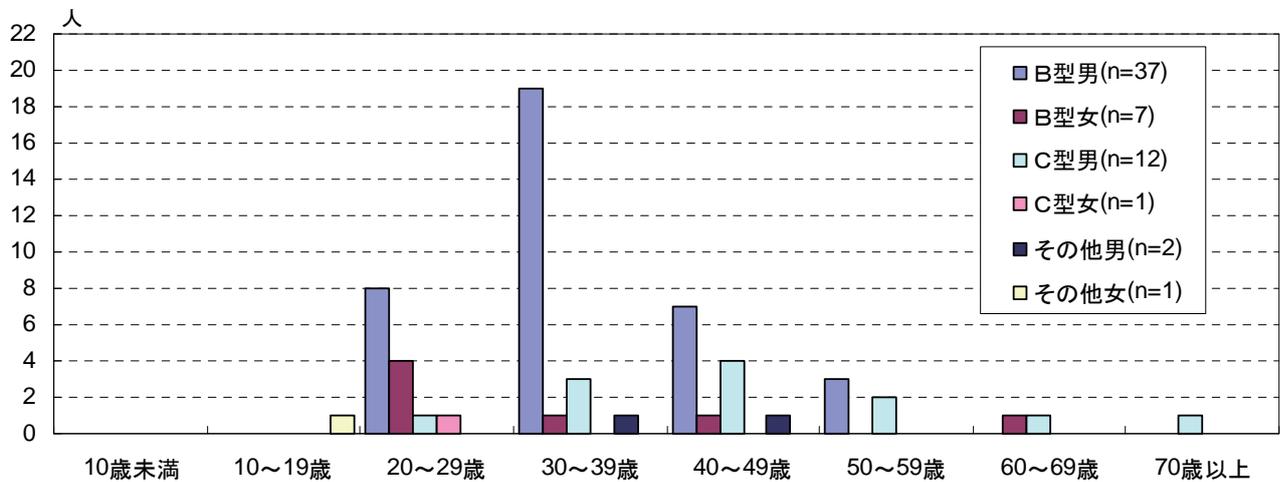
C型肝炎13人の性別は、男性12人、女性1人で、年齢は20歳代2人、30歳代3人、40歳代4人、50歳代2人、60歳代1人、70歳代1人であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は性的接触6人（すべて同性間）、静注薬物常用1人、針等の鋭利なものの刺入による感染2人、不明4人であった。

サイトメガロウイルス肝炎2人は、いずれも男性で年齢は30歳代1人、40歳代1人であり、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

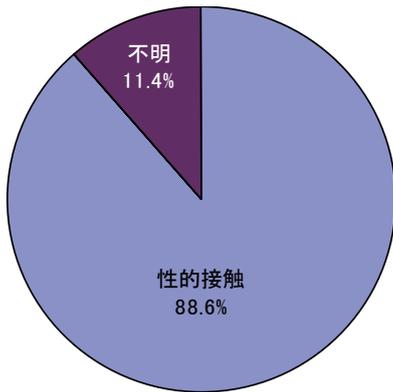
EBウイルスの1人は10歳代の女性であり、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。



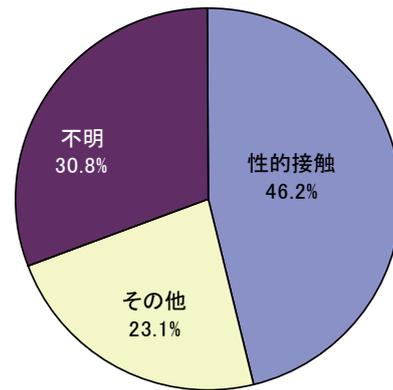
ウイルス性肝炎 週別届出数 (n=60)



ウイルス性肝炎 性別・年齢階級別届出数 (n=60)



B型肝炎 推定感染経路 (n=44)

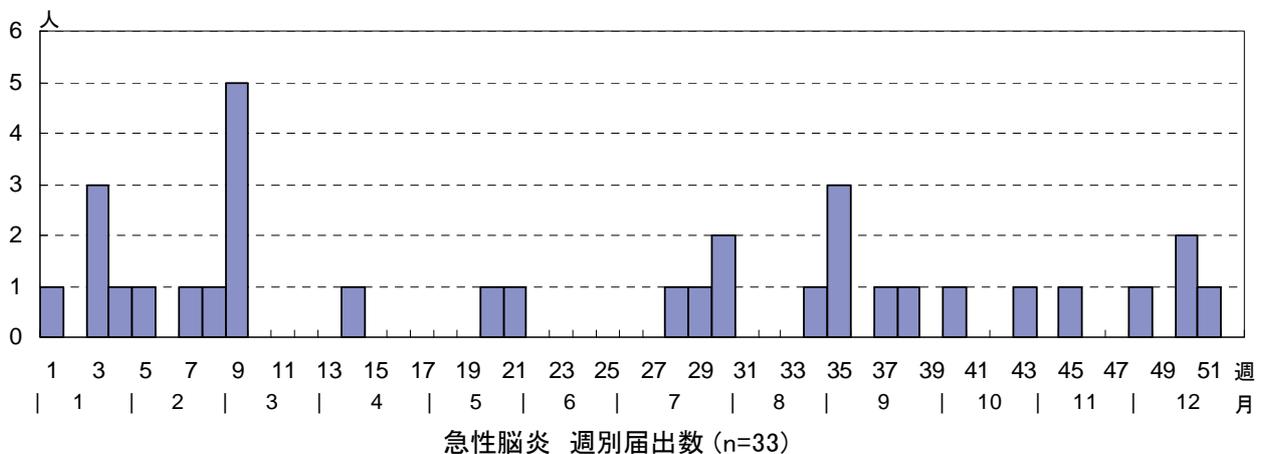


C型肝炎 推定感染経路 (n=13)

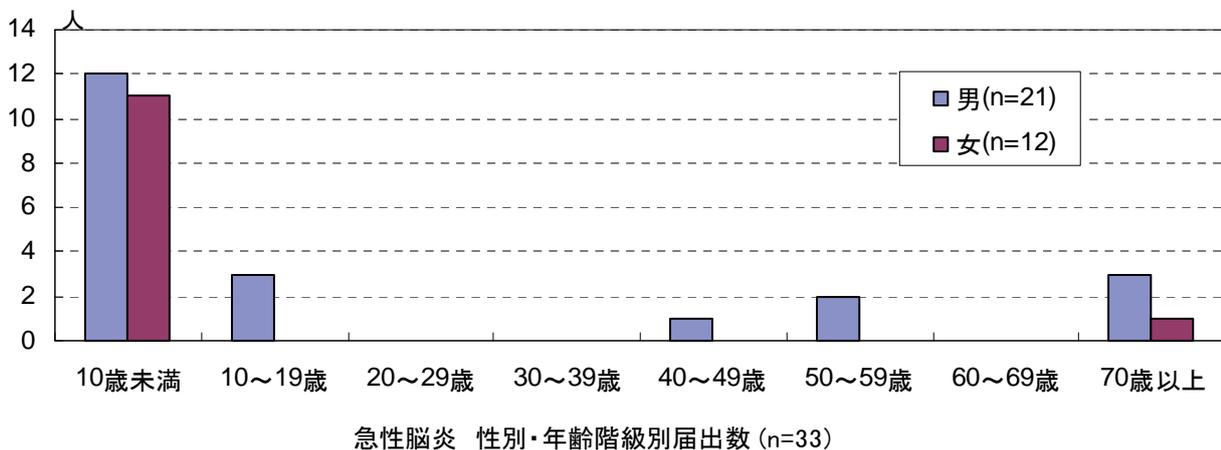
③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は33人の届出があった。病原体はヒトヘルペスウイルス9件、インフルエンザウイルス4件、ロタウイルス2件、ムンプスウイルス1件、RSウイルス1件、エンテロウイルス1件、トキソプラズマ1件、水痘帯状疱疹ウイルス疑い1件、不明13件であった。

性別は男性21人、女性12人で、年齢は10歳未満23人（うち5歳未満20人）、10歳代3人、40歳代1人、50歳代2人、70歳以上4人であった。推定感染地はすべて国内であった。



急性脳炎 週別届出数 (n=33)



急性脳炎 性別・年齢階級別届出数 (n=33)

急性脳炎届出例 (n=33)

受理日	受理週	性別	年齢	病原体	症状・所見	推定感染地
1/4	1	女	1	不明	発熱、意識障害	国内
1/16	3	男	2	RSウイルス	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
1/18	3	男	1	ヒトヘルペスウイルス7型	発熱、痙攣、意識障害	国内
1/19	3	女	84	ヒトヘルペスウイルス (単純ヘルペスウイルス)	発熱、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
1/26	4	男	3	インフルエンザウイルスA型	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/2	5	女	1	ヒトヘルペスウイルス6型	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/16	7	男	4	インフルエンザウイルスA型	発熱、意識障害	国内
2/23	8	女	5	インフルエンザウイルスB型	発熱、痙攣、意識障害	国内
2/27	9	男	76	不明	発熱、意識障害	国内
2/29	9	男	2	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
3/2	9	男	2	ムンプスウイルス疑い	発熱、痙攣、意識障害、その他(CTで脳浮腫 挿管して人工呼吸管理)	国内
3/2	9	男	8	インフルエンザウイルスB型	発熱、嘔吐、意識障害	国内
3/2	9	男	1	ヒトヘルペスウイルス6型	発熱、痙攣、意識障害、その他(人工呼吸管理中)	国内
4/6	14	女	3	ロタウイルス	痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
5/15	20	女	0	不明	発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加、その他(無呼吸)	国内
5/25	21	女	1	ロタウイルス	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
7/11	28	女	2	水痘帯状疱疹ウイルス疑い	意識障害、その他(歩行障害)	国内
7/20	29	男	45	不明	発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
7/26	30	男	0	ヒトヘルペスウイルス6型	発熱、痙攣、意識障害	国内
7/26	30	男	77	ヒトヘルペスウイルス (単純ヘルペスウイルス)	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
8/20	34	女	1	不明	発熱、痙攣、意識障害、その他(下痢)	国内
8/28	35	女	2	不明	発熱、痙攣、意識障害、その他(両頬部痛)	国内
8/29	35	男	0	ヒトヘルペスウイルス 6又は7型	発熱、痙攣、意識障害、その他(発しん)	国内
8/29	35	男	1	不明	発熱、痙攣、意識障害	国内
9/12	37	女	7	エンテロウイルス	発熱、頭痛、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
9/18	38	男	2	ヒトヘルペスウイルス7型	発熱、痙攣、意識障害	国内
10/4	40	男	53	トキソプラズマ	意識障害、髄液細胞数の増加、その他(不随意運動、右不全マヒ)	国内
10/22	43	男	12	不明	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
11/7	45	女	3	不明	発熱、痙攣、意識障害、その他(片麻痺)	国内
11/27	48	男	12	不明	発熱、頭痛、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
12/11	50	男	13	不明	発熱、嘔吐、痙攣、意識障害	国内
12/13	50	男	51	不明	発熱、頭痛、意識障害、髄液細胞数の増加	国内
12/21	51	男	77	ヒトヘルペスウイルス (単純ヘルペスウイルス1型)	発熱、意識障害	国内

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は2人届出があり、いずれも男性で、年齢は20歳代であった。
 推定感染地はケニア1人、台湾1人で、推定感染経路は、経口感染1人、不明1人であった。

クリプトスポリジウム症届出例 (n=2)

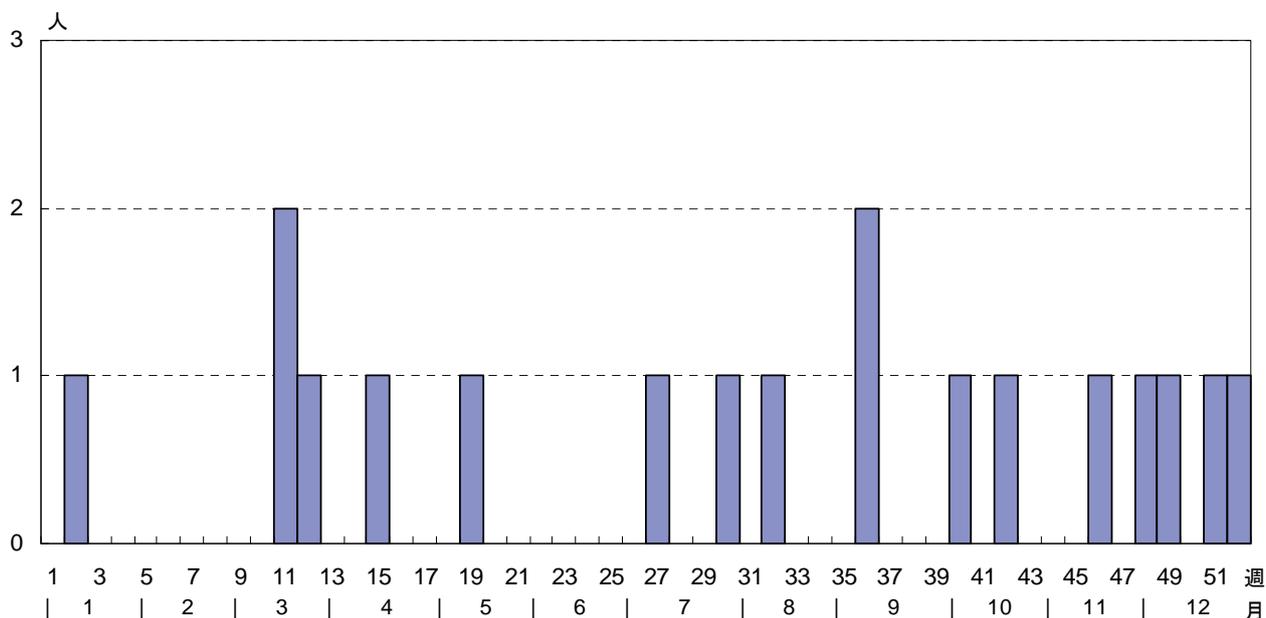
受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1/24	4	男	25	下痢	台湾	経口感染
4/17	16	男	20	下痢	ケニア	不明

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

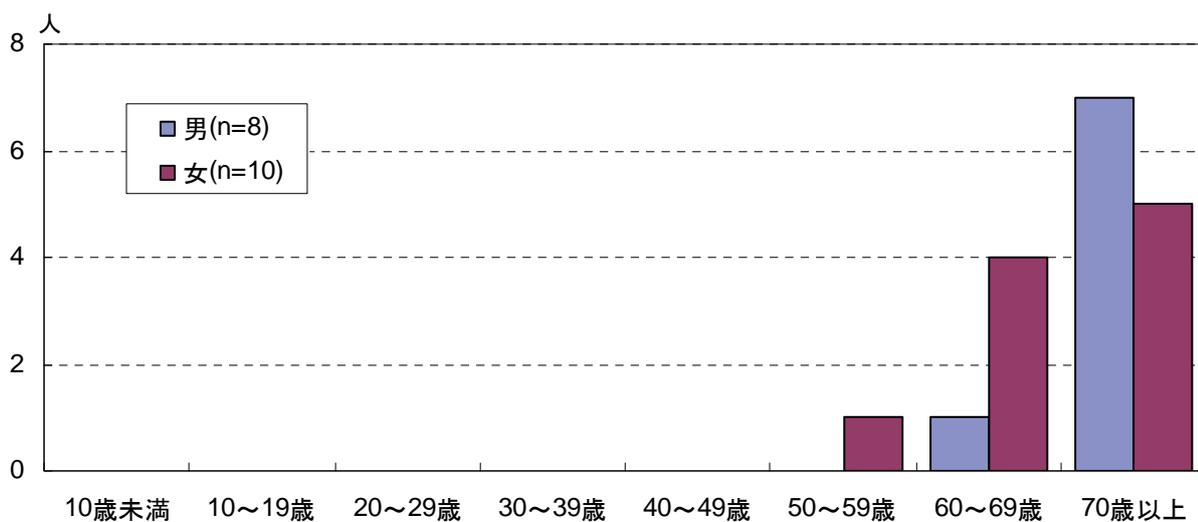
クロイツフェルト・ヤコブ病は18人届出があり、すべて孤発性プリオン病・古典型CJD（ほぼ確実10人、疑い8人）であった。

性別は男性8人、女性10人で、年齢は50歳代1人、60歳代5人、70歳以上12人であった。

症状は、進行性認知症が18人全員に認められたほか、ミオクローヌス15人（83.3%）、錐体外路症状11人（61.1%）、錐体路症状10人（55.6%）、無動性無言状態10人（55.6%）、記憶障害10人（55.66%）、筋強剛10人（55.6%）、精神・知能障害9人（50.0%）、小脳症状6人（33.3%）、視覚異常6人（33.3%）であった。



クロイツフェルト・ヤコブ病 週別届出数 (n=18)



クロイツフェルト・ヤコブ病 性別・年齢階級別届出数 (n=18)

クロイツフェルト・ヤコブ病届出例 (n=18)

受理日	受理週	性別	年齢	病型	確実度	推定感染地	
1	1/11	2	女	87	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
2	3/14	11	女	70	弧発性-古典型 CJD	疑い	
3	3/15	11	男	73	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内
4	3/23	12	男	77	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
5	4/10	15	男	77	弧発性-古典型 CJD	疑い	
6	5/10	19	女	62	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
7	7/5	27	男	81	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
8	7/27	30	女	59	弧発性-古典型 CJD	疑い	
9	8/8	32	男	68	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
10	9/3	36	女	60	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	国内
11	9/7	36	男	71	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
12	10/1	40	女	62	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
13	10/15	42	男	86	弧発性-古典型 CJD	ほぼ確実	
14	11/15	46	女	83	弧発性-古典型 CJD	疑い	
15	11/28	48	女	85	弧発性-古典型 CJD	疑い	
16	12/7	49	女	85	弧発性-古典型 CJD	疑い	
17	12/20	51	女	67	弧発性-古典型 CJD	疑い	国内
18	12/28	52	男	78	弧発性-古典型 CJD	疑い	

クロイツフェルト・ヤコブ病届出例（n=18）別表

	発病日	初診日	診断日	症 状										診断方法									
				進行性認知症	ミオクローヌス	錐体路症状	錐体外路症状	小脳症状	視覚異常	無動性無言状態	記憶障害	精神・知能障害	臨床的に頑固な不眠	異常感覚	痙性対麻痺	筋強剛	その他	脳波 PSD	脳 MRI	14-3-3 蛋白			
1	20110600	20111114	20120903	+	+			+				+							+	+			
2	20120600	20120907	20121012	+	+	+					+	+							+	+			
3	20111100	20111208	20120104	+	+	+	+					+	+	+					+	+	+		
4	20111200	20120316	20121225	+	+	+	+					+	+							+			
5	20120900	20121015	20121122	+	+	+	+					+								+			
6	20110800	20120321	20120405	+	+	+	+					+								+			
7	20120629	20120506	20120927	+	+							+	+	+						+	+		
8	20120600	20120625	20120628	+	+	+		+				+	+	+						+	+		
9	20111000	20120307	20120323	+	+	+		+												+	+		
10	20120400	20120903	20120903	+	+		+	+				+								+	+		
11	20111100	20120131	20120314	+			+					+	+	+							+		
12	20111212	20120130	20120309	+	+			+				+	+	+						+	+	+	
13	20120300	20120428	20120507	+			+					+	+	+						+	+		
14	20120507	20120705	20120726	+	+		+	+				+	+	+							+		
15	20110700	20121016	20121114	+	+	+	+														+		
16	20120800	20121124	20121206	+		+						+		+							+		
17	20120500	20120518	20120724	+	+	+	+					+									+	+	
18	20100600	20110805	20121218	+	+		+					+	+								+	+	
計				18	15	10	11	6				6	10	10	9					10	10	18	3

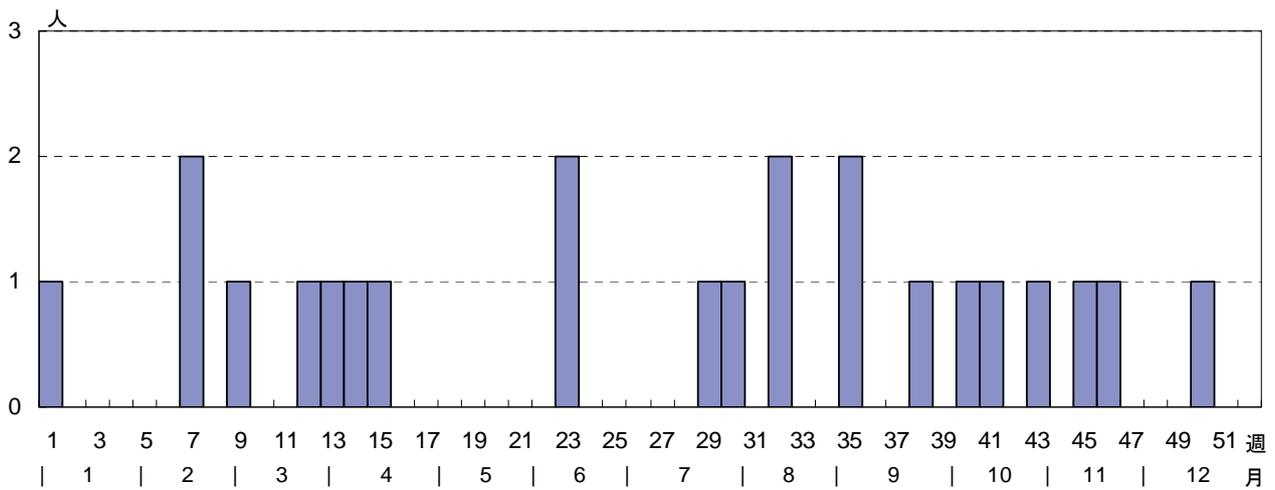
⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 23 人届出があり、血清型は A 群 15 件、B 群 1 件、G 群 6 件、不明 1 件であった。

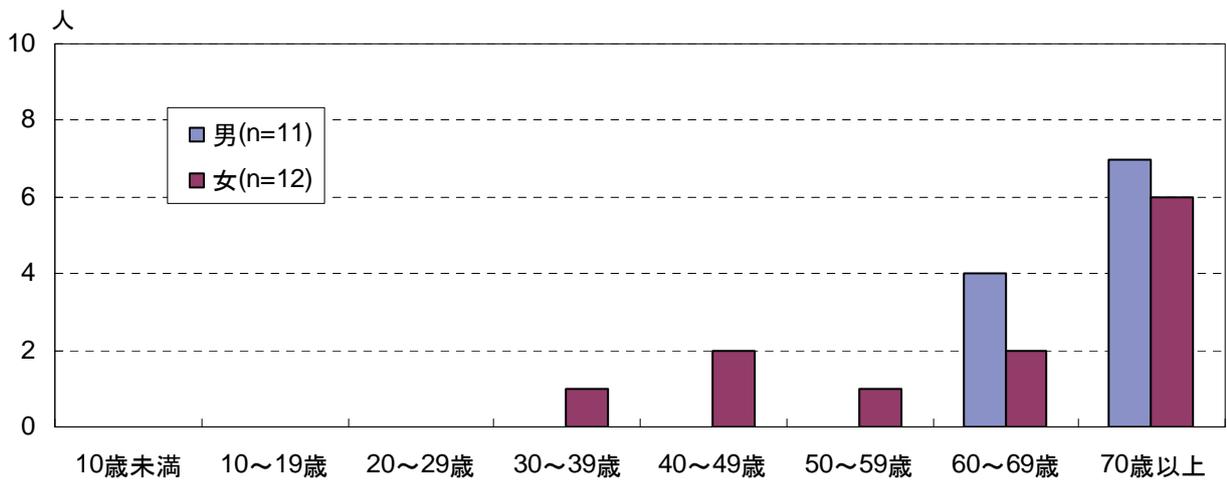
性別は男性 11 人、女性 12 人で、年齢は 30 歳代 1 人、40 歳代 2 人、50 歳代 1 人、60 歳代 6 人、70 歳以上 13 人であった。

推定感染地は国内 22 人、国外 1 人（中国）で、推定感染原因は創傷感染 11 人、接触感染 1 人、その他 11 人であった。

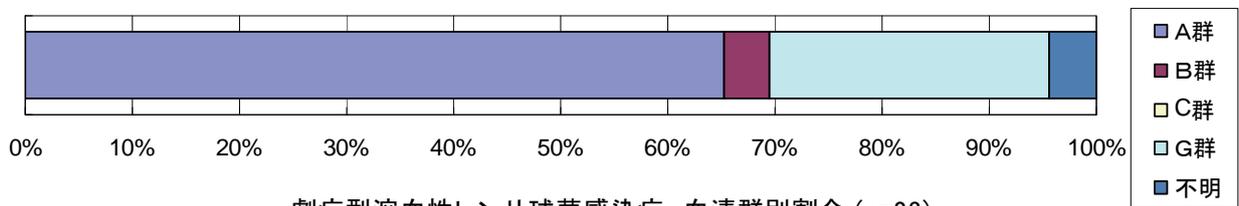
死亡は 9 人（60 歳代 3 人、70 歳代 4 人、80 歳代 2 人）報告された。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 週別届出数 (n=23)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 性別・年齢階級別届出数 (n=23)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別割合 (n=23)

⑦ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群（AIDS）は 461 人届出があり、AIDS 患者 92 人、HIV 感染者 309 人、その他 60 人であった。

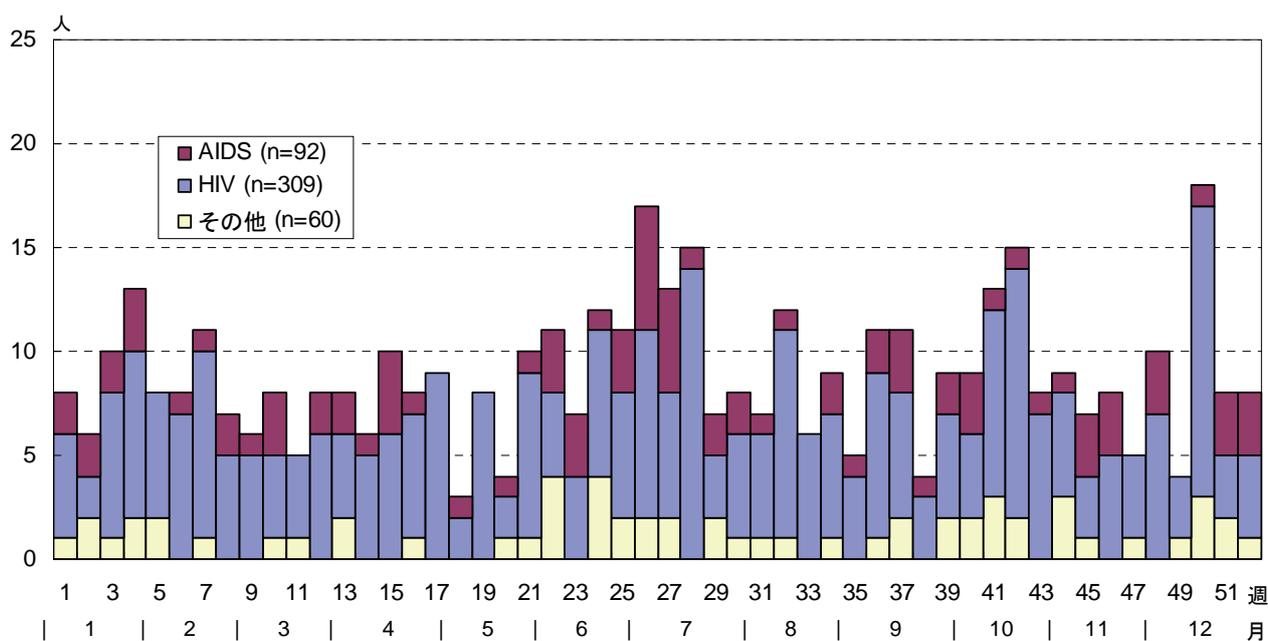
AIDS 患者 92 人の性別は男性 88 人、女性 4 人で、年齢は 10 歳代 1 人、20 歳代 5 人、30 歳代 28 人、40 歳代 34 人、50 歳代 20 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 2 人であった。

HIV 感染者・その他の 369 人では、男性 358 人、女性 11 人で、年齢は 10 歳代 5 人、20 歳代 106 人、30 歳代 133 人、40 歳代 90 人、50 歳代 21 人、60 歳代 13 人、70 歳以上 1 人であった。

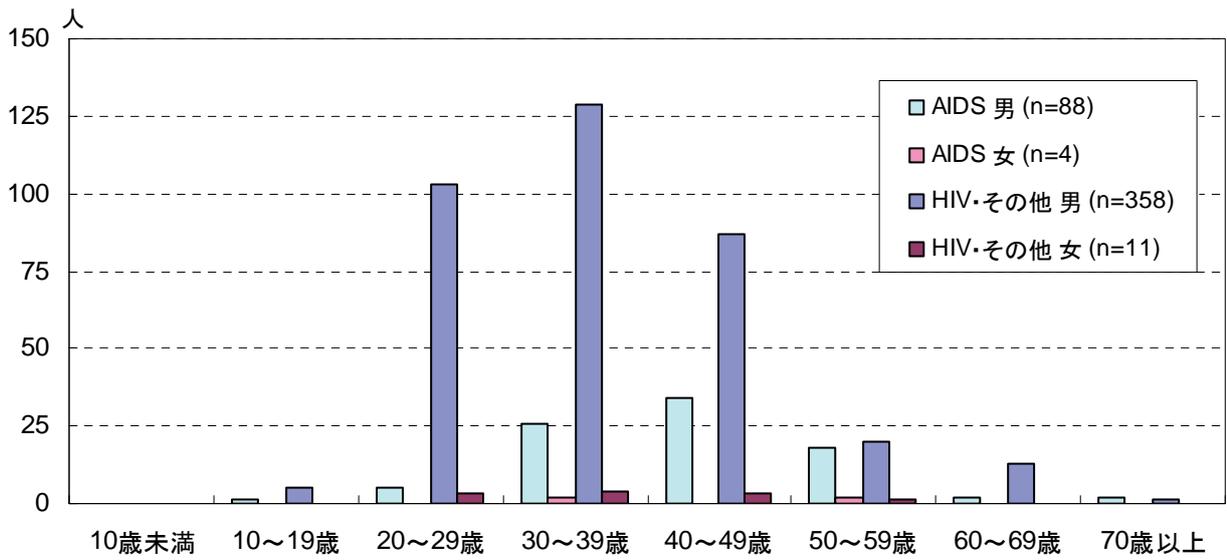
推定感染地は国内 384 人、国外 18 人、国内又は国外 2 人、不明 57 人であった。国外感染例 18 人を推定感染地域別にみると、東南アジア 5 人、東アジア 5 人、ヨーロッパ 2 人、北アメリカ 1 人、アフリカ 1 人、2 地域以上 1 人、その他 2 人、渡航先不明 1 人であった。推定感染国別では、タイ 4 人、中国 3 人、イギリス 1 人、インドネシア 1 人、ガーナ 1 人、ブルガリア 1 人、韓国 1 人、台湾 1 人、米国 1 人、タイ又は中国 1 人、その他 2 人、渡航先不明 1 人であった。

感染経路は性的接触 412 人（同性間 327 人、異性間 69 人、両性間 16 人）、2 経路以上 3 人（異性間性的接触又は静注薬物使用 2 人、同性間性的接触又は静注薬物使用 1 人）、その他 11 人、不明 35 人であった。

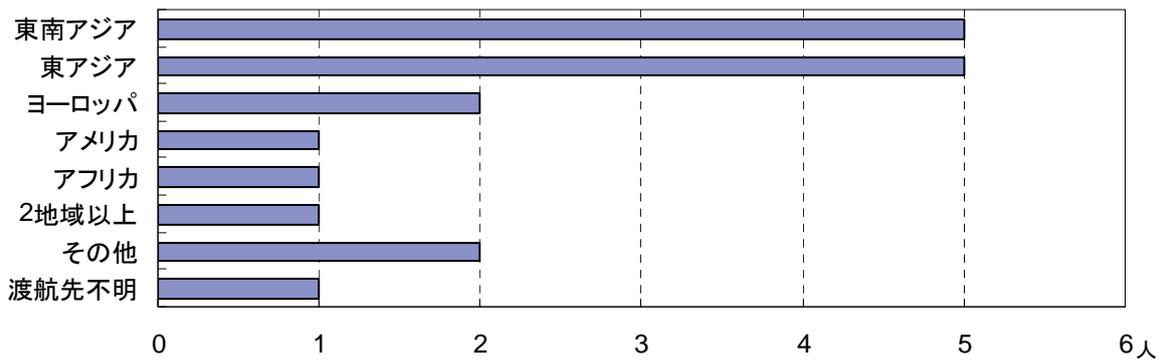
AIDS と診断した指標疾患は 92 人中、ニューモシスティス肺炎 58 人、カンジダ症 17 人、サイトメガロウイルス感染症 10 人、非ホジキンリンパ腫 5 人、カポジ肉腫 5 人、HIV 消耗性症候群 5 人、活動性結核 4 人、HIV 脳症 4 人、クリプトコッカス症 3 人、化膿性細菌感染症 2 人、トキソプラズマ脳症 2 人、原発性脳リンパ腫 1 人、進行性多巣性白質脳症 1 人、反復性肺炎 1 人、単純ヘルペスウイルス感染症 1 人であった。これらの中には複数疾患発症者の報告 14 人（2 疾患 7 人、3 疾患 4 人、4 疾患 1 人、5 疾患 1 人、6 疾患 1 人）が含まれている。



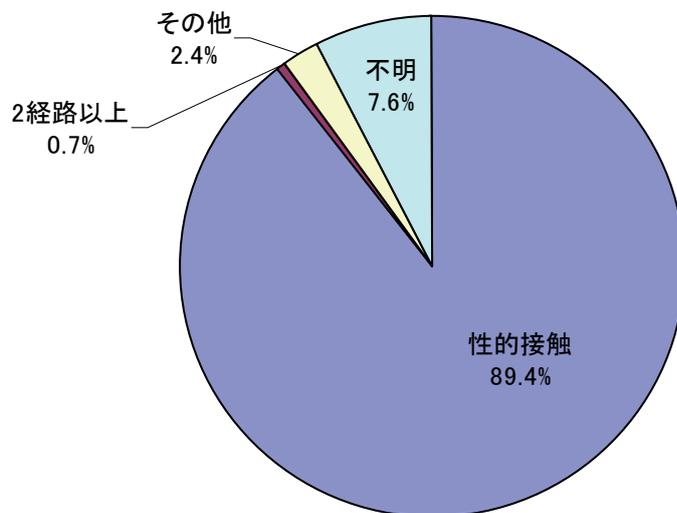
後天性免疫不全症候群 週別届出数 (n=461)



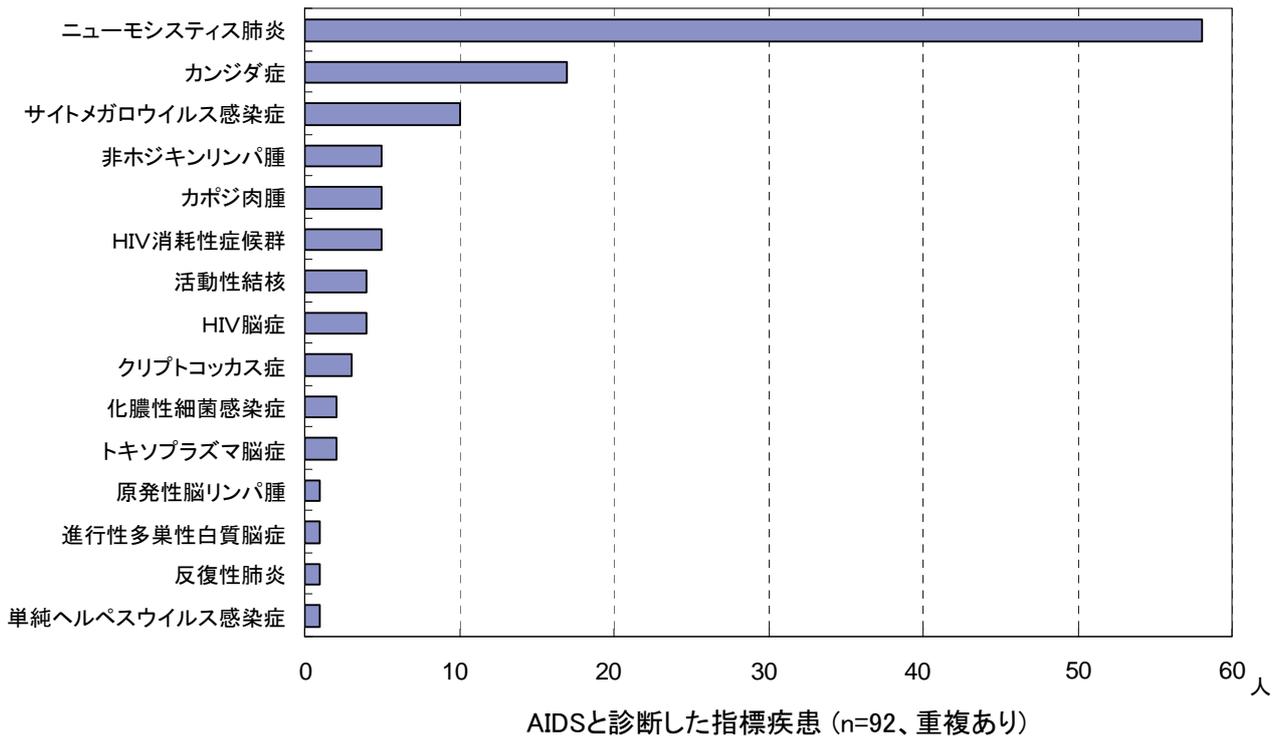
後天性免疫不全症候群 性別・年齢階級別届出数 (n=461)



後天性免疫不全症候群 国外感染例の推定感染地域別届出数 (n=18)



後天性免疫不全症候群 推定感染経路 (n=461)

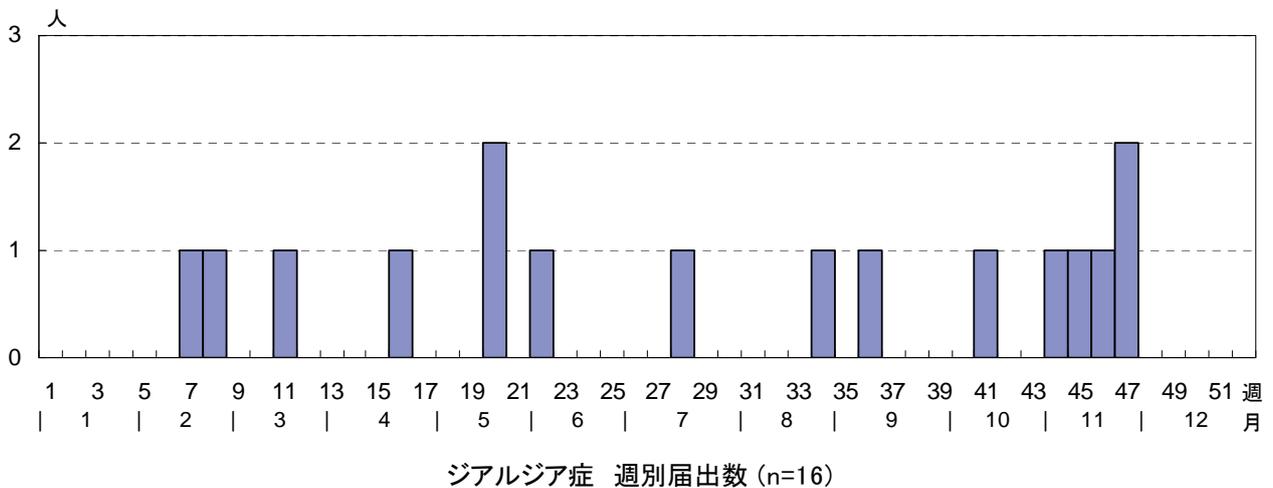


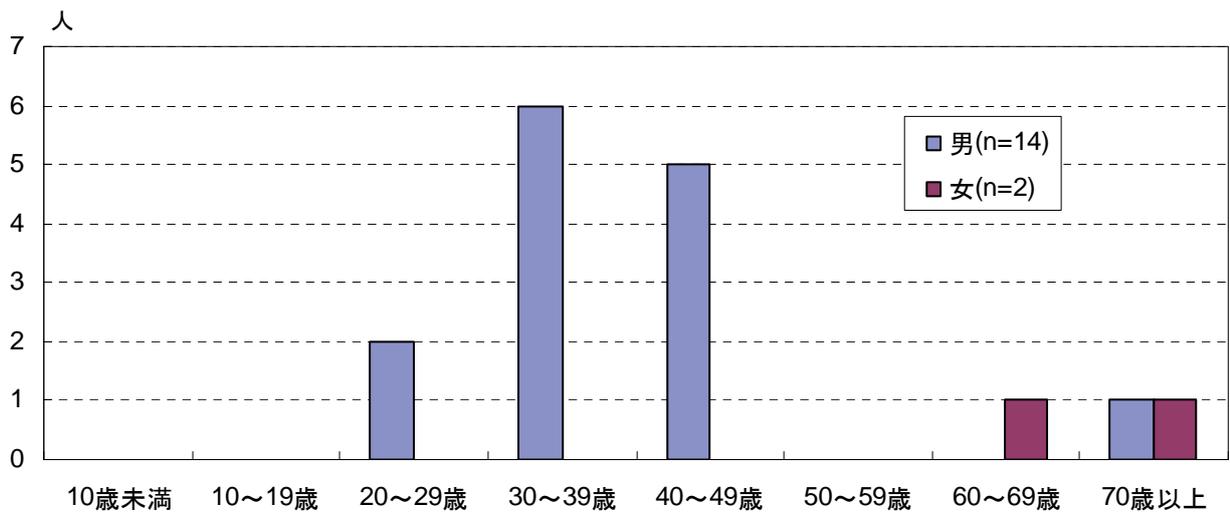
⑧ ジアルジア症

ジアルジア症は16人届出があった。性別は男性14人、女性2人で、年齢は20歳代2人、30歳代6人、40歳代5人、60歳代1人、70歳以上2人であった。

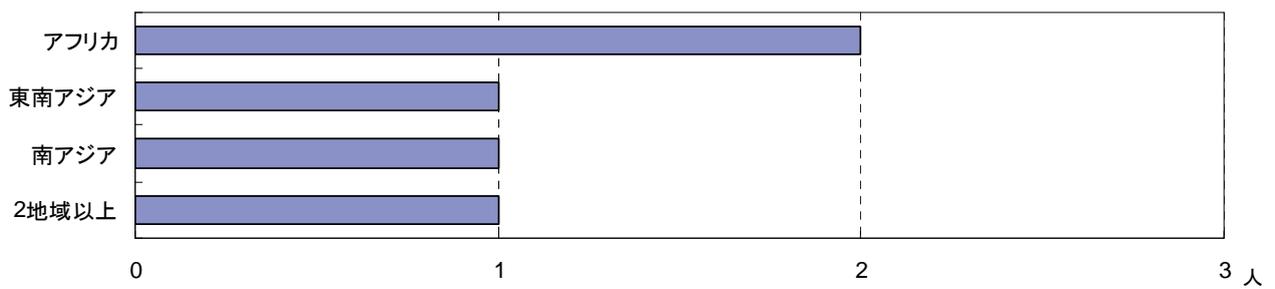
推定感染地は国内10人、国外5人、国内又は国外1人であった。国外感染例5人を推定感染地域別にみると、アフリカ2人、東南アジア1人、南アジア1人、2地域以上1人で、推定感染国はインド1人、ナイジェリア1人、ベトナム1人、マラウイ1人、タイ又は中国1人あった。

推定感染経路は、飲食物による経口感染6人、性的接触7人（同性間5人、異性間1人、性別不明1人）、2経路以上2人、その他1人であった。

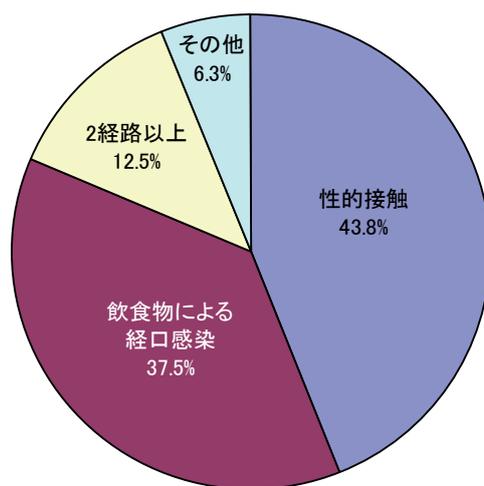




ジアルジア症 性別・年齢階級別届出数 (n=16)



ジアルジア症 国外感染例の推定感染地域別届出数 (n=5)



ジアルジア症 推定感染経路 (n=16)

ジアルジア症届出例 (n=16)

受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
2/13	7	男	40	下痢	国内又はタイ	性的接触(性別不明)
2/23	8	男	44	下痢	国内	異性間性的接触
3/16	11	男	75	腹部不快感	国内	不明
4/16	16	男	31	腹部不快感、下痢	国内	同性間性的接触
5/18	20	男	32	腹部不快感、下痢	国内	同性間性的接触
5/18	20	女	65	腹部不快感、下痢	インド	経口感染
5/28	22	男	34	その他(胸の圧迫感、倦怠感、腹痛)	マラウイ	経口感染 又は水系感染
7/12	28	男	41	腹部不快感、下痢	国内	同性間性的接触
8/21	34	男	37	下痢	ナイジェリア	経口感染
9/4	36	男	32	下痢	国内	同性間性的接触
10/12	41	男	40	下痢	ベトナム	経口感染
11/2	44	男	42	下痢	国内	経口感染
11/5	45	男	37	下痢	国内	同性間性的接触
11/16	46	男	28	下痢	タイ又は中国	経口感染
11/19	47	男	24	腹部不快感、下痢	国内	経口感染又は 同性間性的接触
11/22	47	女	79	腹部不快感、その他 (胆管狭窄)	国内	経口感染

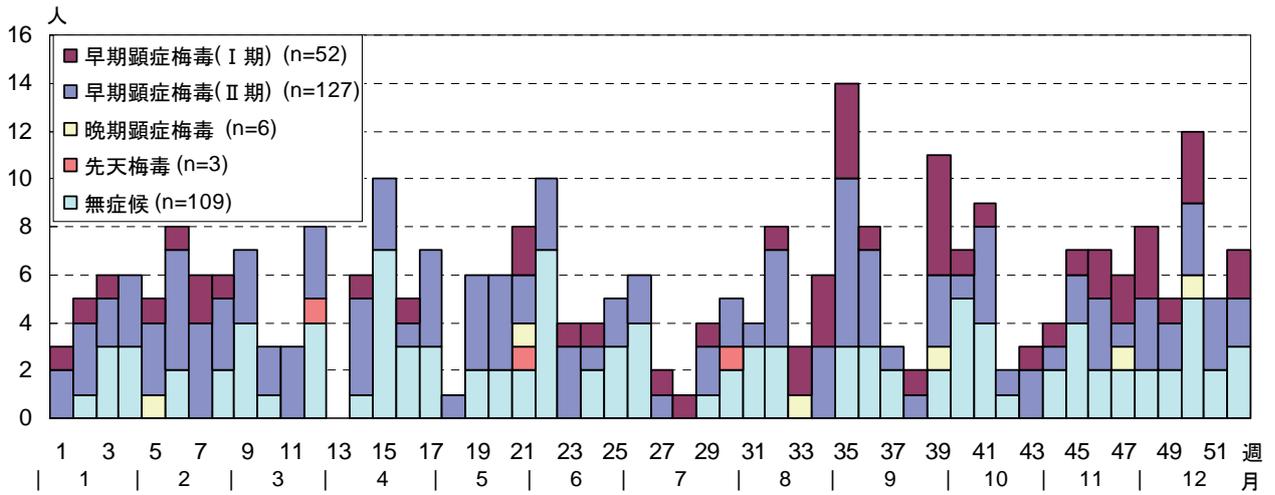
⑨ 梅毒

梅毒は 297 人届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期 52 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 127 人、晩期顕症梅毒 6 人、先天梅毒 3 人、無症候 109 人であった。

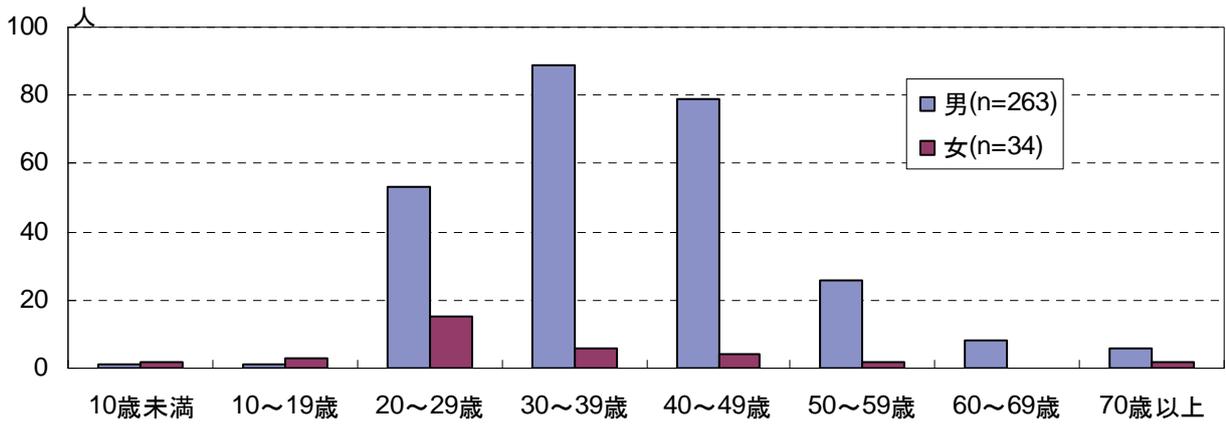
性別は男性 263 人、女性 34 人で、年齢は 5 歳未満 3 人、10 歳代 4 人、20 歳代 68 人、30 歳代 95 人、40 歳代 83 人、50 歳代 28 人、60 歳代 8 人、70 歳以上 8 人であった。

推定感染地は国内 289 人、国外 5 人、国内又は国外 3 人であった。国外感染例 5 人の推定感染国は、台湾 1 人、中国 1 人、渡航先不明 3 人であった。

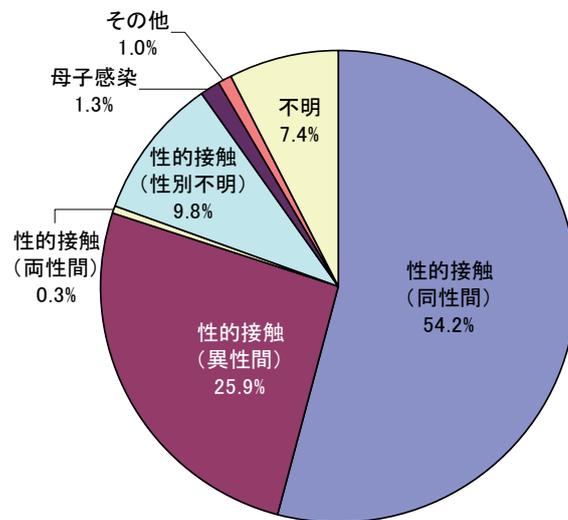
推定感染経路は性的接触 268 人(同性間 161 人、異性間 77 人、両性間 1 人、性別不明 29 人)、母子感染 4 人、静注薬物常用 1 人、2 経路以上 2 人、不明 22 人であった。



梅毒 週別届出数 (n=297)



梅毒 性別・年齢階級別届出数 (n=297)



梅毒 推定感染経路 (n=297)

⑩ 破傷風

破傷風は5人届出があった。性別は男性1人、女性4人で、年齢は70歳代2人、80歳代が3人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染2人、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、不明2人であった。

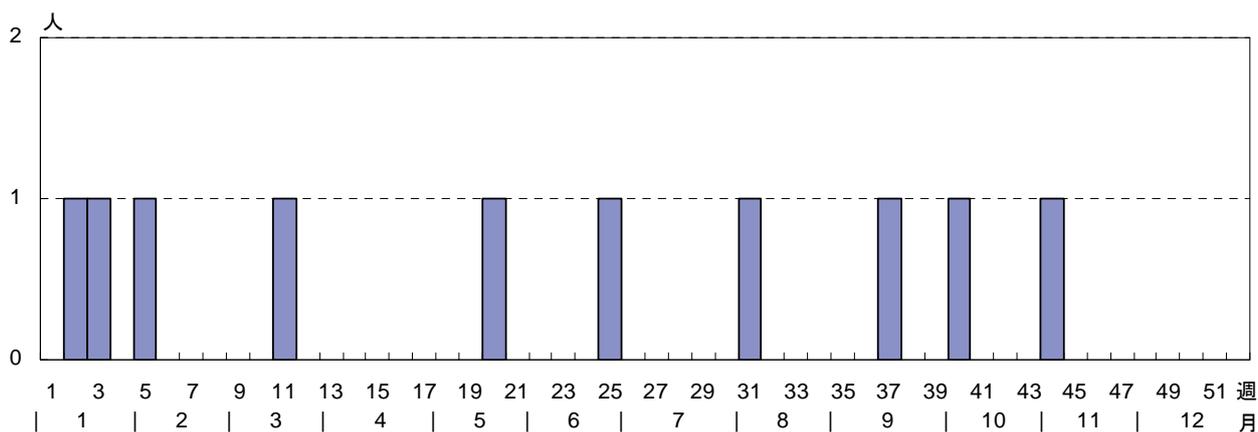
破傷風届出例 (n=5)

受理日	受理週	性別	年齢	診断方法	症 状	推定感染地	推定感染経路
3/26	13	男	82	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、呼吸困難(痙攣性)	国内	創傷感染(第一足指)
6/5	23	女	81	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、痙笑	国内	針等の鋭利なものの刺入による感染
6/8	23	女	79	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害	国内	不明
9/28	39	女	73	臨床決定	開口障害、嚥下障害、痙笑	国内	不明
11/20	47	女	87	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、発語障害、痙笑、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、反弓緊張	国内	創傷感染(転倒・後頭部)

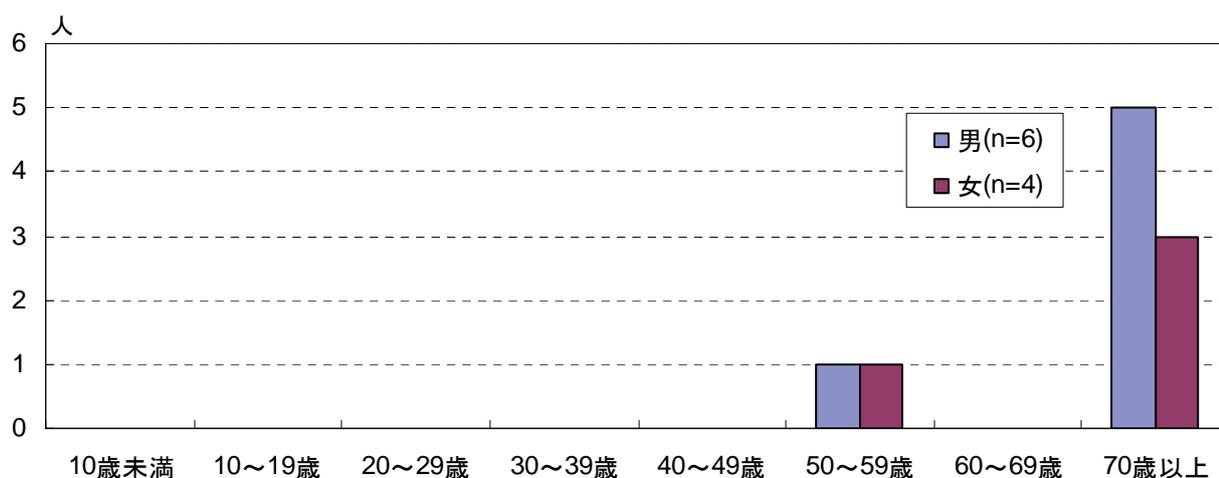
⑪ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は10人届出があった。菌種は *Enterococcus gallinarum* 2件、*E. casseliflavus* 2件、*E. faecium* 2件、*E. faecalis* 2件、*E. raffinosus* 1件、不明1件であり、耐性遺伝子型は *vanA* 2件、*vanB* 1件、*vanC* 4件、不明3件であった。

性別は男性6人、女性4人で、年齢は50歳代2人、70歳以上8人であった。推定感染地は国内8人、国外2人(ブラジル1人、ペルー又は米国1人)であった。



バンコマイシン耐性腸球菌感染症 週別届出数 (n=10)



バンコマイシン耐性腸球菌感染症 性別・年齢階級別届出数 (n=10)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 菌種と耐性遺伝子型 (n=10)

菌種	vanA	vanB	vanC	不明	計
<i>E. raffinosus</i>	1				1
<i>E. faecalis</i>	1	1			2
<i>E. casseliflavus</i>			2		2
<i>E. gallinarum</i>			2		2
<i>E. faecium</i>				2	2
不明				1	1
計	2	1	4	3	10

バンコマイシン耐性腸球菌感染症届出例 (n=10)

受理日	受理週	性別	年齢	検体	菌種	耐性遺伝子型	症状	推定感染地	推定感染経路
1/13	2	男	51	腹水	<i>E. gallinarum</i>	vanC	発熱、腹膜炎、菌血症	国内	下部消化管穿孔
1/17	3	女	82	血液	<i>E. gallinarum</i>	vanC	菌血症	国内	尿路感染
2/2	5	女	76	腹水	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、腹膜炎、その他(腹痛)	国内	不明
3/14	11	男	74	尿	<i>E. faecium</i>		尿路感染症	国内	不明
5/17	20	男	81	血液	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、その他(胆嚢炎)	国内	経口感染
6/18	25	女	90	便	<i>E. faecium</i>		発熱、腸炎	国内	不明
8/2	31	男	73	褥瘡	<i>E. faecalis</i>	vanA	発熱、腸炎、菌血症、その他(褥瘡)	ブラジル	不明
9/12	37	男	74	便胆汁	<i>E. faecalis</i>	vanB	その他(胆管炎)	国内	不明
10/2	40	女	58	血液			発熱、菌血症	国内	不明
11/2	44	男	70	便	<i>E. raffinosus</i>	vanA	腸炎	ペルー又はアメリカ	接触感染

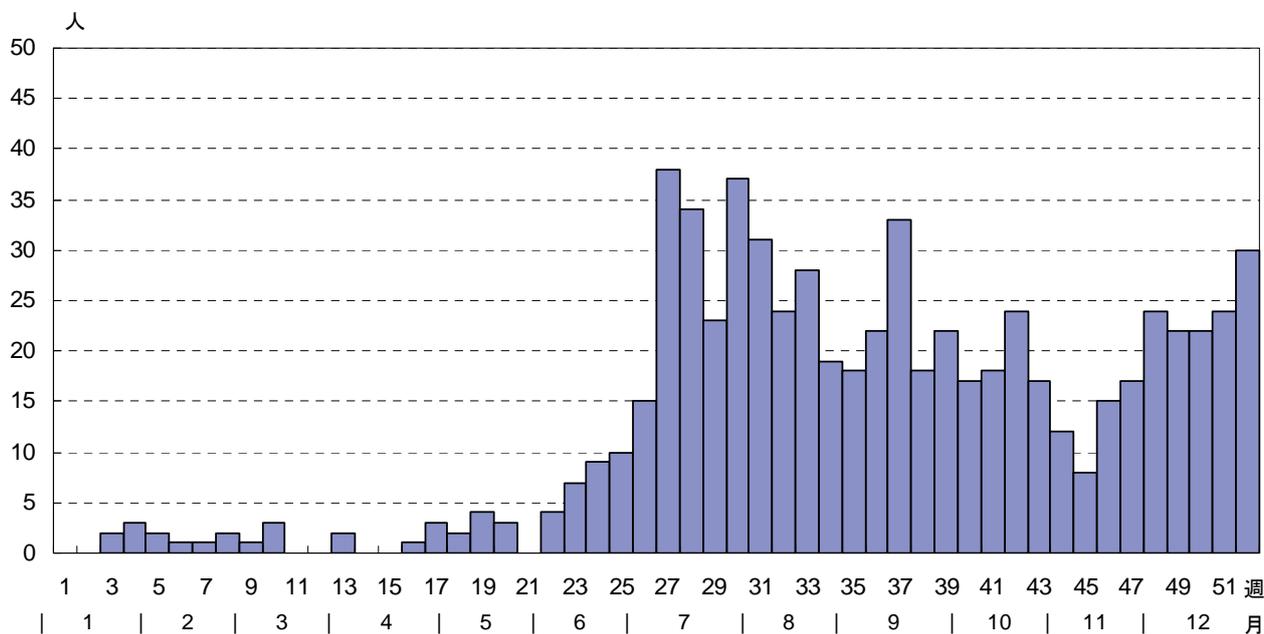
⑫ 風しん

風しんは 672 人届出があり、検査診断例 528 人、臨床診断例 144 人であった。検査診断例のうち、PCR で陽性が確認された数は 128 件であった。

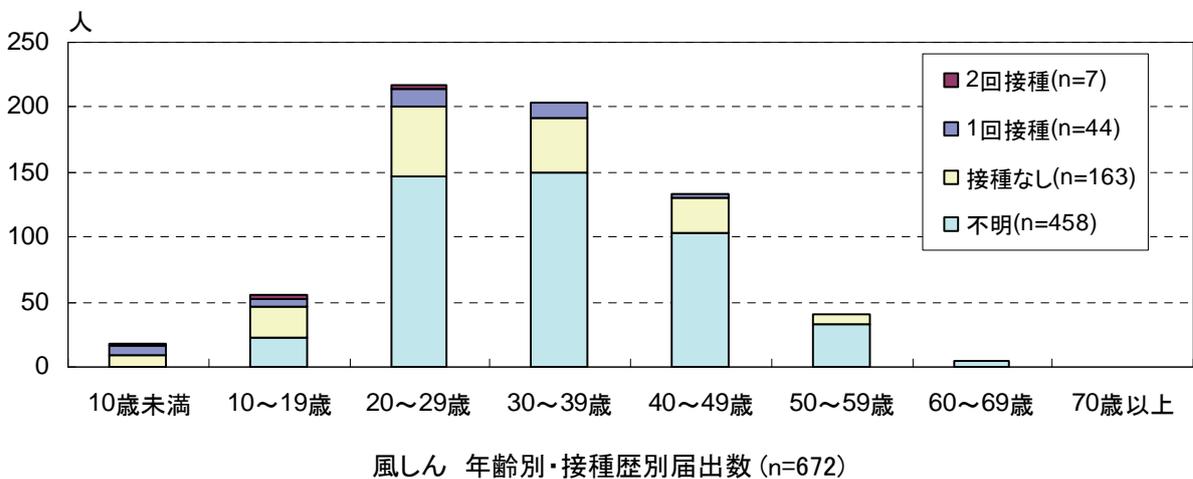
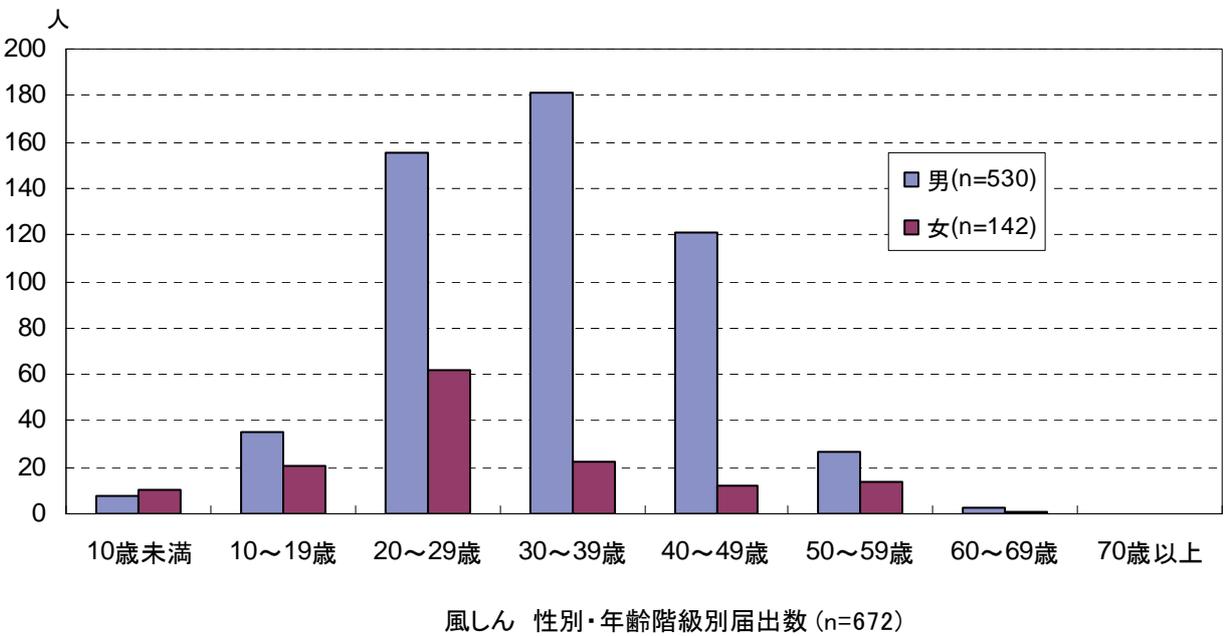
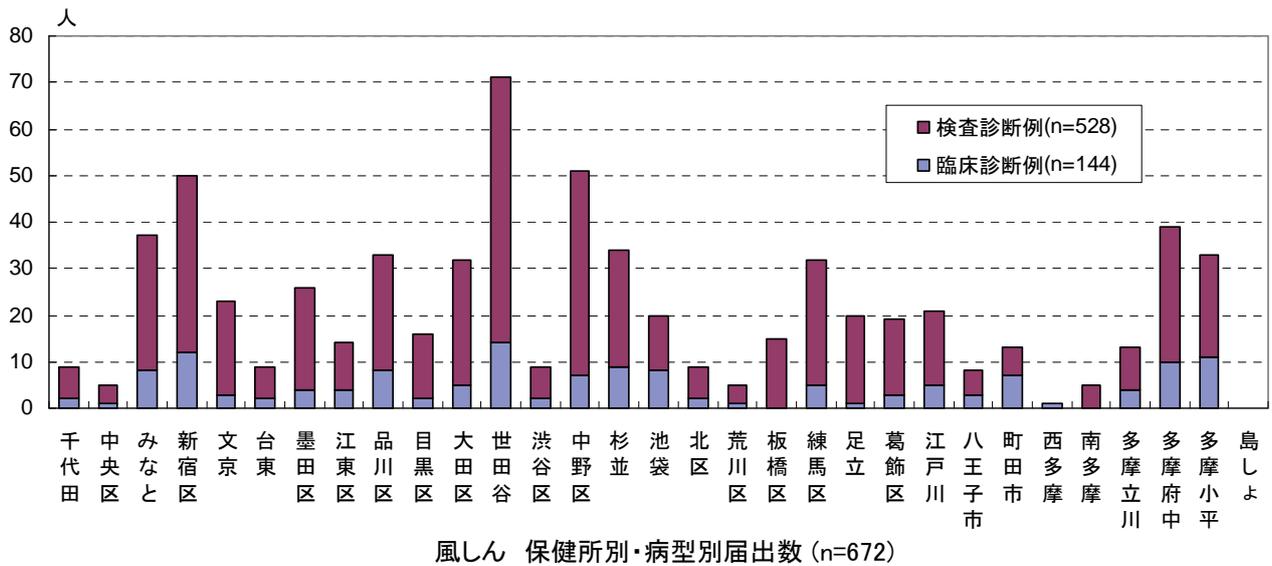
性別は男性 530 人、女性 142 人で、年齢は 10 歳未満 18 人（うち 5 歳未満 14 人）10 歳代 56 人、20 歳代 217 人、30 歳代 203 人、40 歳代 133 人、50 歳代 41 人、60 歳代 4 人であった。20 歳以上の症例の占める割合は男性で 91.9%（487/530）、女性で 78.2%（111/142）であった。推定感染地は国内 661 人、国外 7 人、国内又は国外 4 人であった。国外感染例 7 人の推定感染地域は、東南アジア 4 人、東アジア 2 人、南アジア 1 人であり、推定感染国はタイ 2 人、中国 2 人、インド 1 人、インドネシア 1 人、ベトナム 1 人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 7 人、1 回接種 44 人、接種なし 163 人、不明 458 人であった。接種なし又は不明の割合は、男性では 94.0%（498 例）、女性では 86.6%（123 例）であった。女性のうち 15～44 歳を出産年齢とすると、この年齢群に含まれる女性は 110 人であり、女性全体の 77.5% を占める。これらの例におけるワクチン接種歴は接種なし 70 例（63.6%）、1 回接種 11 例（10.0%）、2 回接種 3 例（2.7%）、不明 26 例（23.6%）であった。

風しんは 2008 年から全数報告対象疾患となったが、2008 年から 2011 年までの年間報告数は、それぞれ 46 人、19 人、15 人、32 人であった。2012 年の 22 週から風しんの報告数は増加し、27 週には 38 人となった。その後増減を繰り返しながら推移し、年間では 672 人と過去最多の報告数を記録した。成人男性、とくに定期ワクチン接種機会のなかった 30 歳以上の男性が多く報告された。



風しん 週別届出数 (n=672)



風しん PCR 検査陽性数と推定感染地

受理週	PCR 陽性数	推定感染地			推定感染国
		国内	国外	国内・国外	
3		2			
4	1	2	1		ベトナム
5	1(1)*	2			
6		1			
7		1			
8		2			
9	1	1			
10	1	3			
13		2			
16	1		1		中国
17		3			
18		2			
19		3		1	フィリピン
20	1	2		1	中国
22		4			
23	3(1)*	7			
24	1	9			
25	2	10			
26	3	15			
27	16	38			
28	8	33	1		タイ
29	6	23			
30	10	37			
31	9	31			
32	1	23	1		タイ
33	1	28			
34	3	19			
35	6	18			
36	2	22			
37	1	33			
38	2	18			
39	2	21	1		インド
40	1	17			
41	3	17	1		インドネシア
42	3	23		1	フランス
43	5	17			
44	4	12			
45	2	7	1		中国
46	6	15			
47	1	17			
48	1	24			
49	5	22			
50	5	22			
51	5	24			
52	5	30			
計	128	662	7	3	

* ()内は病原体定点からの検体数再掲

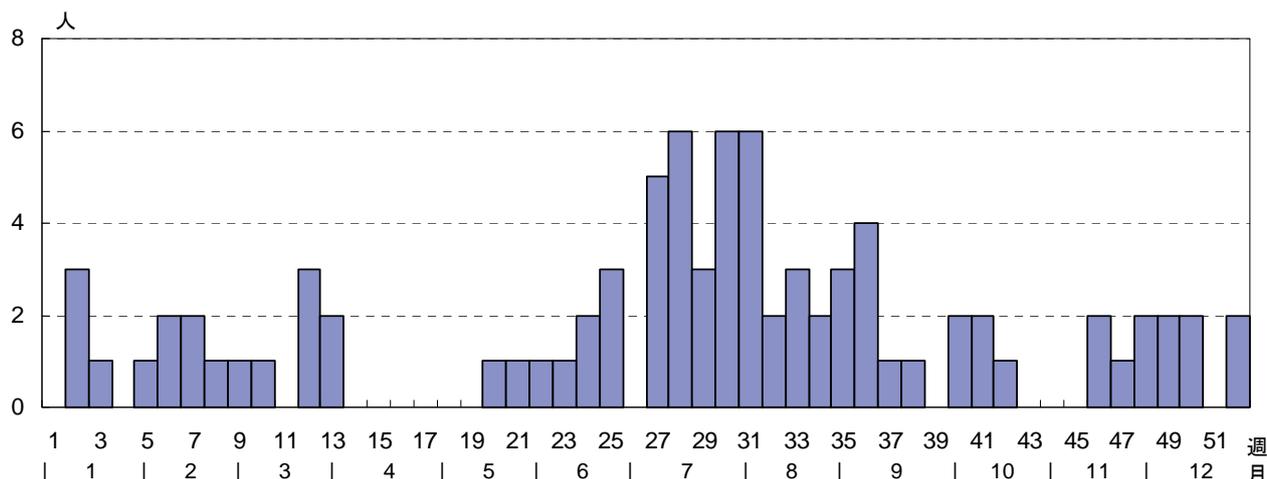
⑬ 麻しん

麻しんは 84 人届出があり、検査診断例 33 人、臨床診断例 29 人、修飾麻しん（検査診断例）22 人であった。

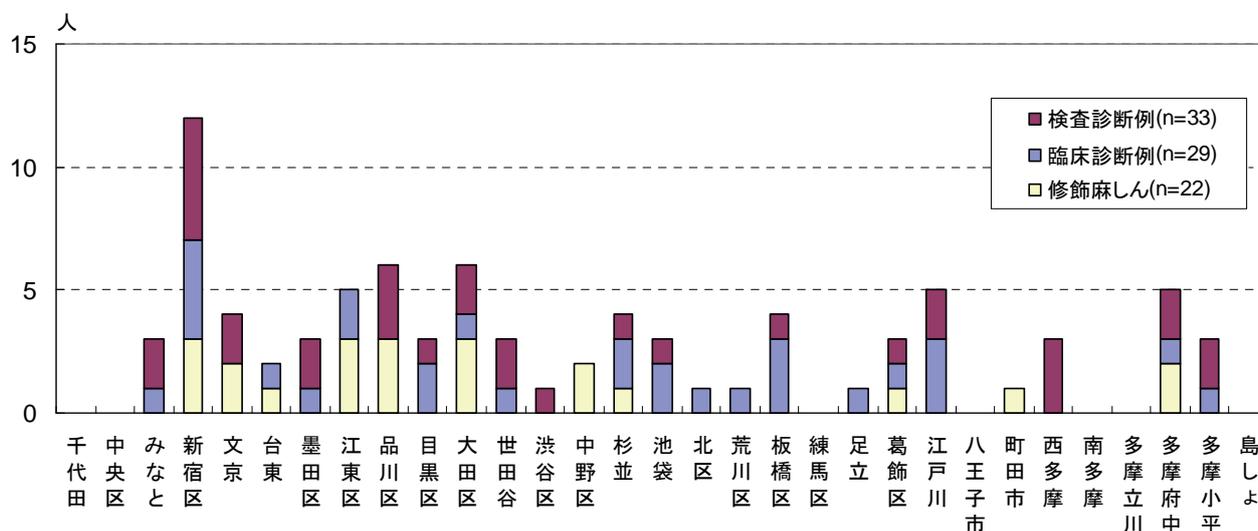
性別は男性 53 人、女性 31 人で、年齢は 10 歳未満 16 人（うち 5 歳未満 13 人）、10 歳代 6 人、20 歳代 29 人、30 歳代 24 人、40 歳代 6 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人であった。推定感染地は国内 77 人、国外 5 人（タイ 2 人、インド 1 人、中国 1 人、タイ又はカンボジア 1 人）、国内又は国外 2 人であった。麻しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 2 人（2.4%）、1 回接種 20 人（23.8%）、接種なし 16 人（19.0%）、不明 46 人（54.8%）であった。

2012 年に PCR 検査での麻しん陽性は 11 例あり、その遺伝子型別の内訳は、D4 型 3 件、D8 型 2 件、D9 型 1 件、H1 型 1 件、型別不能 2 件、A 型（ワクチン株）2 件であった。2011 年同様、以前まで国内を循環していた D5 型の麻しんウイルスに替わり、ヨーロッパで循環している D4 型や、主に東南アジアを循環している D9 型の他、D8 型、H1 型などが検出された。

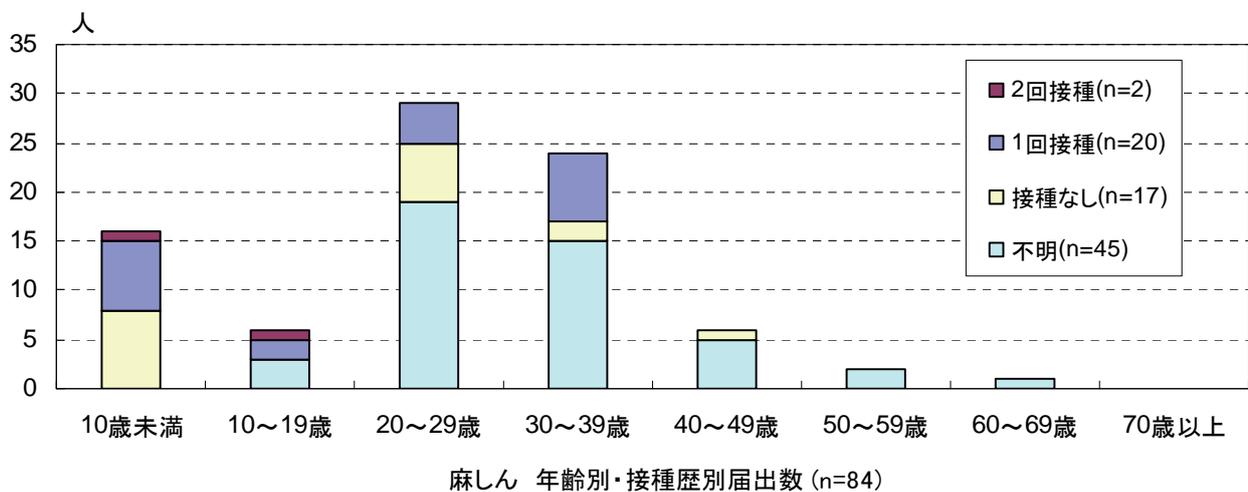
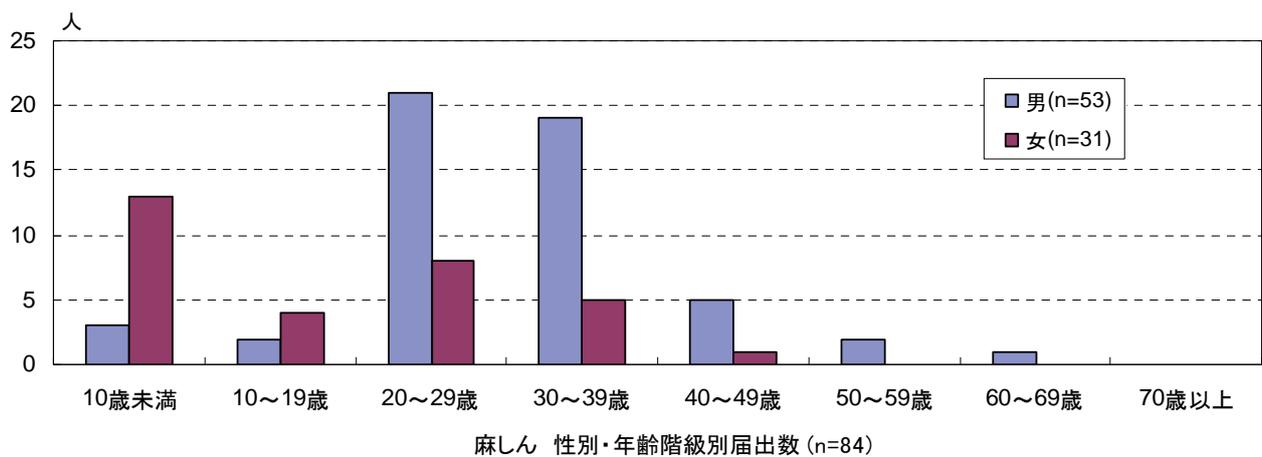
また肺炎合併の報告は 1 人で、年齢は 1 歳、麻しん含有ワクチン接種歴はなく、脳炎の併発はなかった。東京都内あるいはベトナムでの感染が推定され、遺伝子型は D4 型であった。



麻しん 週別届出数 (n=84)



麻しん 保健所別・病型別届出数 (n=84)



麻しんウイルス 遺伝子型別検出状況

受理週	D4 型	D8 型	D9 型	H1 型	型別不能	A 型	推定感染地
2 週		1					タイ
6 週	2						国内又はベトナム、国内
7 週			1				国内
20 週		1					タイ又はカンボジア
24 週					1		国内
29 週						2 (1)*	国内
31 週	1						国内
35 週					1 (1)*		国内
40 週				1			国内
計	3	2	1	1	2	2	

* ()内は病原体定点からの検体数再掲

注:A 型はワクチン株であり、麻しん患者の届出基準に当てはまらないため患者届出数には含まれない。

以下の疾患は届出がなかった。

髄膜炎菌性髄膜炎、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2012年第1週～2012年第52週

週	期 間	一 類						二 類					三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス
1	1. 2～ 1. 8								44								1
2	1. 9～ 1.15								71						1		
3	1.16～ 1.22								97				2				
4	1.23～ 1.29								104				2				
5	1.30～ 2. 5								93								
6	2. 6～ 2.12								89				2	1		1	1
7	2.13～ 2.19								82				1	1		2	
8	2.20～ 2.26								94				1	2			
9	2.27～ 3. 4								76				4	2			
10	3. 5～ 3.11								76				2				
11	3.12～ 3.18								117				5				
12	3.19～ 3.25								60				1	1			
13	3.26～ 4. 1								104				2			1	
14	4. 2～ 4. 8								82					2			1
15	4. 9～ 4.15								87					2			1
16	4.16～ 4.22								83					3			
17	4.23～ 4.29								105				2	1			
18	5.30～ 5. 6								61				2	3			
19	5. 7～ 5.13								93				5	3			
20	5.14～ 5.20								86					4		1	
21	5.21～ 5.27								75					3			
22	5.28～ 6. 3								96				1	2			
23	6. 4～ 6.10								111				1	6			
24	6.11～ 6.17								80					5			1
25	6.18～ 6.24								105				1	13			
26	6.25～ 7. 1								81					4			
27	7. 2～ 7. 8								99				1	9			
28	7. 9～ 7.15								113					10			
29	7.16～ 7.22								100				1	7			
30	7.23～ 7.29								85					7			
31	7.30～ 8. 5								98				3	10			
32	8. 6～ 8.12								96				4	9			
33	8.13～ 8.19								93				2	14			
34	8.20～ 8.26								83				3	10		1	
35	8.27～ 9. 2								75				1	10			1
36	9. 3～ 9. 9								93				1	12		1	1
37	9.10～ 9.16								104				1	12		1	
38	9.17～ 9.23								53				1	10			
39	9.24～ 9.30								87					7		1	1
40	10. 1～10. 7								85				2	10			
41	10. 8～10.14								67				1	6			
42	10.15～10.21								84				3	27			
43	10.22～10.28								90				1	7		1	1
44	10.29～11. 4								103				1	4			1
45	11. 5～11.11								78				1	4			
46	11.12～11.18								96				1	4			
47	11.19～11.25								74				2	2			
48	11.26～12. 2								66				3	2			
49	12. 3～12. 9								82				1	3		3	
50	12.10～12.16								98				4	1			
51	12.17～12.23								88				2	1			
52	12.24～12.30								94				1	1			1
合 計									4,536				75	258	13		11

* 2013年5月1日現在の報告数

表3-1(2) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2012年第1週～2012年第52週

週	期 間	四 類										
		E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	回帰熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 2～ 1. 8											
2	1. 9～ 1.15	1							2			1
3	1.16～ 1.22	1							1	1	2	
4	1.23～ 1.29							1	2			
5	1.30～ 2. 5										3	
6	2. 6～ 2.12	1									1	
7	2.13～ 2.19	2	1						1			
8	2.20～ 2.26										1	
9	2.27～ 3. 4								1		1	
10	3. 5～ 3.11										1	
11	3.12～ 3.18		2						3	1	2	
12	3.19～ 3.25	1	1									
13	3.26～ 4. 1		1							2	1	
14	4. 2～ 4. 8	1									1	
15	4. 9～ 4.15		1						1		1	1
16	4.16～ 4.22	1	1						1	1		
17	4.23～ 4.29											
18	5.30～ 5. 6									2		
19	5. 7～ 5.13	1									2	
20	5.14～ 5.20		4								2	
21	5.21～ 5.27		3						2	1	4	1
22	5.28～ 6. 3											
23	6. 4～ 6.10		3						1		1	
24	6.11～ 6.17		3						1	1		
25	6.18～ 6.24		2							1	3	
26	6.25～ 7. 1								1	1	1	
27	7. 2～ 7. 8		1						1	3	1	5
28	7. 9～ 7.15										1	
29	7.16～ 7.22	1	1									
30	7.23～ 7.29	1	1								2	
31	7.30～ 8. 5								1			
32	8. 6～ 8.12									1		
33	8.13～ 8.19		1						3		2	
34	8.20～ 8.26		1						2	2	1	
35	8.27～ 9. 2								2		1	
36	9. 3～ 9. 9								4	2	3	1
37	9.10～ 9.16					1			4	1		
38	9.17～ 9.23								1	1	2	
39	9.24～ 9.30		1						2			
40	10. 1～10. 7	1							1	1	2	
41	10. 8～10.14	2							1			
42	10.15～10.21		1						1	1	2	
43	10.22～10.28	1								2		
44	10.29～11. 4								1	3		1
45	11. 5～11.11	1	1						1		2	
46	11.12～11.18	1	2						2	1	1	
47	11.19～11.25		1							1	2	
48	11.26～12. 2	2	2							1	3	1
49	12. 3～12. 9	1							2	2	1	1
50	12.10～12.16									1		
51	12.17～12.23	1		1	1				1		1	
52	12.24～12.30								2		2	
合 計		21	35	1	1	1	3	19	56	24	60	6

表3-1(3) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2012年第1週~2012年第52週

週	期 間	五 類												
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ヤコブ病 クロイツフェルト・	劇感症 症型溶血性レンサ球菌	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	梅毒	破傷風	腸球菌感染症 バンコマイシン耐性	風しん	麻しん
1	1. 2~ 1. 8	1		1			1	8		3				
2	1. 9~ 1.15	3	1			1		6		5		1	3	
3	1.16~ 1.22	2		3				10		6		1	2	
4	1.23~ 1.29	5	2	1	1			13		6		3		
5	1.30~ 2. 5	4	2	1				8		5		1	2	
6	2. 6~ 2.12	5	1					8		8		1	2	
7	2.13~ 2.19	5		1			2	11	1	6		1	2	
8	2.20~ 2.26	5	2	1				7	1	6		2	1	
9	2.27~ 3. 4	2		5			1	6		7		1	1	
10	3. 5~ 3.11	4	1					8		3		3	1	
11	3.12~ 3.18	3	1			2		5	1	3		1		
12	3.19~ 3.25	6	2			1	1	8		8			3	
13	3.26~ 4. 1	1	1				1	8			1	2	2	
14	4. 2~ 4. 8	2	1	1			1	6		6				
15	4. 9~ 4.15	2	1			1	1	10		10				
16	4.16~ 4.22	2			1			8	1	5		1		
17	4.23~ 4.29	6						9		7		3		
18	5.30~ 5. 6	2						3		1		2		
19	5. 7~ 5.13	1	1			1		8		6		4		
20	5.14~ 5.20	8	2	1				4	2	6		1	3	
21	5.21~ 5.27	1	1	1				10		8			1	
22	5.28~ 6. 3	5						11	1	10		4	1	
23	6. 4~ 6.10	2	1				2	7		4	2	7	1	
24	6.11~ 6.17	2	1					12		4		9	2	
25	6.18~ 6.24	1	2					11		5		1	10	
26	6.25~ 7. 1	4	3					17		6		15		
27	7. 2~ 7. 8	5	1			1		13		2		38	5	
28	7. 9~ 7.15	2	1	1				15	1	1		34	6	
29	7.16~ 7.22	3		1			1	7		4		23	3	
30	7.23~ 7.29	3		2		1	1	8		5		37	6	
31	7.30~ 8. 5	3	1					7		4		1	31	
32	8. 6~ 8.12	7				1	2	12		8		24	2	
33	8.13~ 8.19	3						6		3		28	3	
34	8.20~ 8.26	3	1	1				9	1	6		19	2	
35	8.27~ 9. 2	6	2	3			2	5		14		18	3	
36	9. 3~ 9. 9	7	1			2		11	1	8		22	4	
37	9.10~ 9.16	10	2	1				11		3		1	33	
38	9.17~ 9.23	5	2	1			1	4		2		18	1	
39	9.24~ 9.30	4	1					9		11	1	22		
40	10. 1~10. 7	3	3	1		1	1	9		7		1	17	
41	10. 8~10.14	5					1	13	1	9		18	2	
42	10.15~10.21	2	1			1		15		2		24	1	
43	10.22~10.28	3	1	1			1	8		3		17		
44	10.29~11. 4	3	4					9	1	4		1	12	
45	11. 5~11.11	3	1	1			1	7	1	7		8		
46	11.12~11.18	3	2			1	1	8	1	7		15	2	
47	11.19~11.25	2	1					5	2	6	1	17	1	
48	11.26~12. 2	7	1	1		1		10		8		24	2	
49	12. 3~12. 9	6				1		4		5		22	2	
50	12.10~12.16	4	3	2			1	18		12		22	2	
51	12.17~12.23	6	3	1		1		8		5		24		
52	12.24~12.30	6	2			1		8		7		30	2	
合 計		198	60	33	2	18	23	461	16	297	5	10	672	84

表3-2(1) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2012年第1週~2012年第52週

保健所	一 類							二 類				三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ(H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス
千代田								91					1	2		
中央区								65					2	4		
みなと								100					5	7	1	
新宿区								242					11	7	1	6
文京								114					7	7	2	1
台東								168							1	
墨田区								98					6	7	2	
江東区								158					1	10		
品川区								130					2	3		
目黒区								61					1	6		
大田区								204					7	17	1	
世田谷								205					4	15		1
渋谷区								72					3	6		
中野区								90						5		
杉並								130					1	4		
池袋								104					1	2		
北区								141					3	6		
荒川区								102					1			
板橋区								237					1	12	1	
練馬区								173						7		1
足立								274					3	9		
葛飾区								167						8		2
江戸川								213						7		
八王子市								122					1	8		
町田市								90						31		
西多摩								155						1		
南多摩								80					1	7		
多摩立川								146					1	11		
多摩府中								282					9	33	2	
多摩小平								314					3	15	2	
島しょ								8						1		
合 計								4,536					75	258	13	11

* 2013年5月1日現在の報告数

表3-2(2) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2012年第1週~2012年第52週

保健所	四 類										
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	回帰熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	3	2								2	
中央区		3				1		2	1	1	
みなと	1	4						6	8	4	
新宿区		10		1		2		20	7	4	4
文京	1	4						8	3	5	
台東										2	
墨田区		3						3	1		2
江東区										1	
品川区	1		1					1			
目黒区	1	1						1		2	
大田区	5						1	9	2	4	
世田谷	1						10			2	
渋谷区	1						1			2	
中野区		2									
杉並		2						1		1	
池袋											
北区	1									2	
荒川区											
板橋区										4	
練馬区									1	1	
足立	1							1		3	
葛飾区	1									2	
江戸川										1	
八王子市		1						1		2	
町田市										1	
西多摩	1						3			5	
南多摩										1	
多摩立川	1	2					1	1		4	
多摩府中	2	1			1			2	1	4	
多摩小平											
島しょ							3				
合 計	21	35	1	1	1	3	19	56	24	60	6

表3-2(3) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2012年第1週～2012年第52週

保健所	五 類												
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ヤコブ病 クロイツフェルト・	劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	梅毒	破傷風	腸球菌感染症 バンコマイシン耐性	風しん	麻しん
千代田	14	2					7	1	2			9	
中央区	12		2			1	6	1	2			5	
みなと	19	6	1		1	1	57	2	33			37	3
新宿区	28	21	1	1	2	2	113	9	153			50	12
文京	19	2	2			2	34	1	17		3	23	4
台東	4						8		6			9	2
墨田区	3		3	1			17		3			26	3
江東区	8						3		2			14	5
品川区	3	2				2	6		5			33	6
目黒区	2	2			1	1			3		1	16	3
大田区	3	6	1			1	8		1		1	32	6
世田谷	6	1			1		5	1	4			71	3
渋谷区	7		3				93		2			9	1
中野区	5					1	14		12	1		51	2
杉並	2	8				1	5		2			34	4
池袋	4		1			1	7		7			20	3
北区	3						3		1			9	1
荒川区	1	2	2				2		7		2	5	1
板橋区	10	1			2	1	12		8	1		15	4
練馬区	4					2	3					32	
足立	3				1	1			3			20	1
葛飾区	2						5		4			19	3
江戸川	2				2		4		5			21	5
八王子市	5	2					6					8	
町田市	3		1				3		1			13	1
西多摩	4	3	2				3		1	1		1	3
南多摩	1						3		1			5	
多摩立川	5				1		5		2	1		13	
多摩府中	11	1	13		6	3	20		8	1		39	5
多摩小平	5	1	1		1	3	9	1	2		3	33	3
島しょ													
合 計	198	60	33	2	18	23	461	16	297	5	10	672	84

表3-3(1) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2012年第1週～2012年第52週

年齢階級	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	鳥インフルエンザ(H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳								38							1		
1～4歳								114					1	35			
5～9歳								56					2	29	2		
10～14歳								42						25			
15～19歳								82					2	19			
20～24歳								214					11	30	4	4	
25～29歳								288					12	24	1	1	
30～34歳								279					12	16			3
35～39歳								286					9	10	1	1	
40～44歳								297					7	15	4		
45～49歳								253					7	5			1
50～54歳								258					3	5			
55～59歳								273					4	4			
60～64歳								367					1	17	1		
65～69歳								286					1	10			
70歳以上								1,403					3	13			1
合 計								4,536					75	258	13	11	

* 2013年5月1日現在の報告数

表3-3(2) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2012年第1週～2012年第52週

年齢階級	四 類										
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	回帰熱	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳		1									
1～4歳											
5～9歳		1						1			
10～14歳		1									
15～19歳						2	1	3	1		
20～24歳		2			1		8	8	4		1
25～29歳		5		1		1	1	9	4	1	
30～34歳		1					1	12	5	2	1
35～39歳	4	7					3	2	6		
40～44歳	1	5					1	8	3	3	1
45～49歳	4	2						3	1	3	2
50～54歳		5	1					1		5	
55～59歳	1	1						5		6	
60～64歳	3							2		5	1
65～69歳	1	1					1	2		10	
70歳以上	7	3					3			25	
合 計	21	35	1	1	1	3	19	56	24	60	6

表3-3(3) 一、二、三、四、五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2012年第1週～2012年第52週

年齢階級	五 類												
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹
0歳			3						3			3	5
1～4歳			17									11	8
5～9歳			3									4	3
10～14歳	1	1	3									7	1
15～19歳	1						6		4			49	5
20～24歳	6	6		1			45	1	32			107	17
25～29歳	7	8		1			66	1	36			110	12
30～34歳	10	15					70	4	46			96	7
35～39歳	26	9				1	91	2	49			107	17
40～44歳	29	8				2	80	5	48			84	3
45～49歳	26	5	1				44		35			49	3
50～54歳	29	4	2			1	23		21		1	28	
55～59歳	23	1			1		18		7		1	13	2
60～64歳	22	2			3	4	11		7			2	1
65～69歳	9				2	2	4	1	1			2	
70歳以上	9	1	4		12	13	3	2	8	5	8		
合 計	198	60	33	2	18	23	461	16	297	5	10	672	84

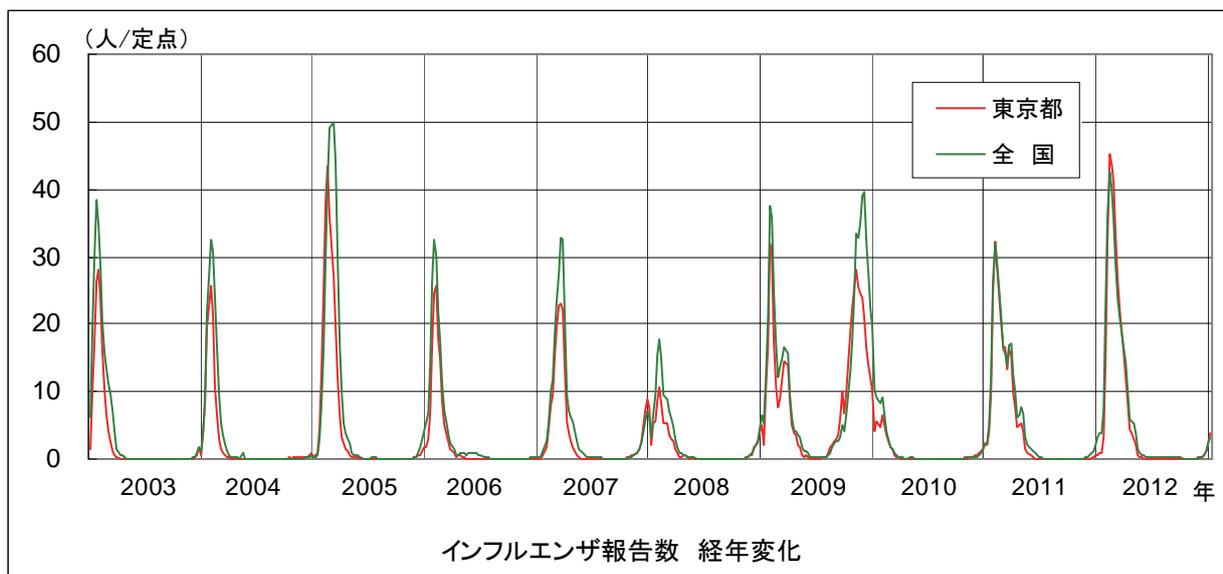
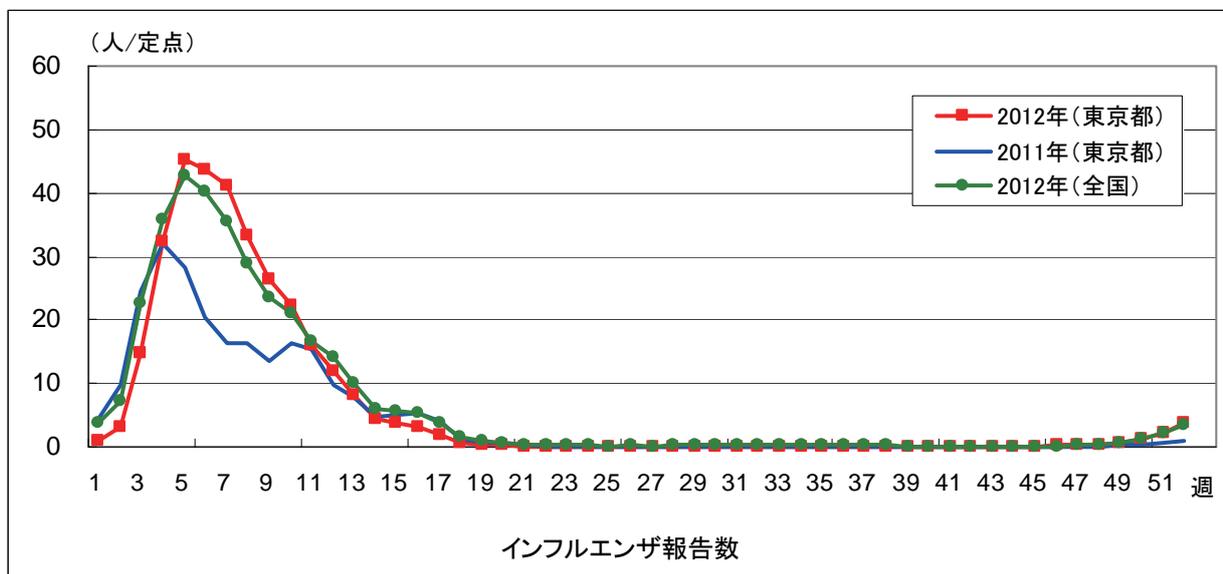
(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2012年の報告数は135,064人、定点当たり323.29人であった。ここ10年の定点当たり報告数では、2009年の495.53人に次いで2番目に多い報告数であった。

2011/12シーズンの流行は2012年2週(1月9日～1月15日)に定点当たり3.22人と流行の目安となる1.00人を超えた。その後4週(1月23日～1月29日)から8週(2月20日～2月26日)までは定点当たり30.00人を超え、ピークは5週(1月30日～2月5日)の45.20人であった。その後17週(4月23日～4月29日)の定点当たり1.99人を最後に以降は1.00人を切り流行は終息した。

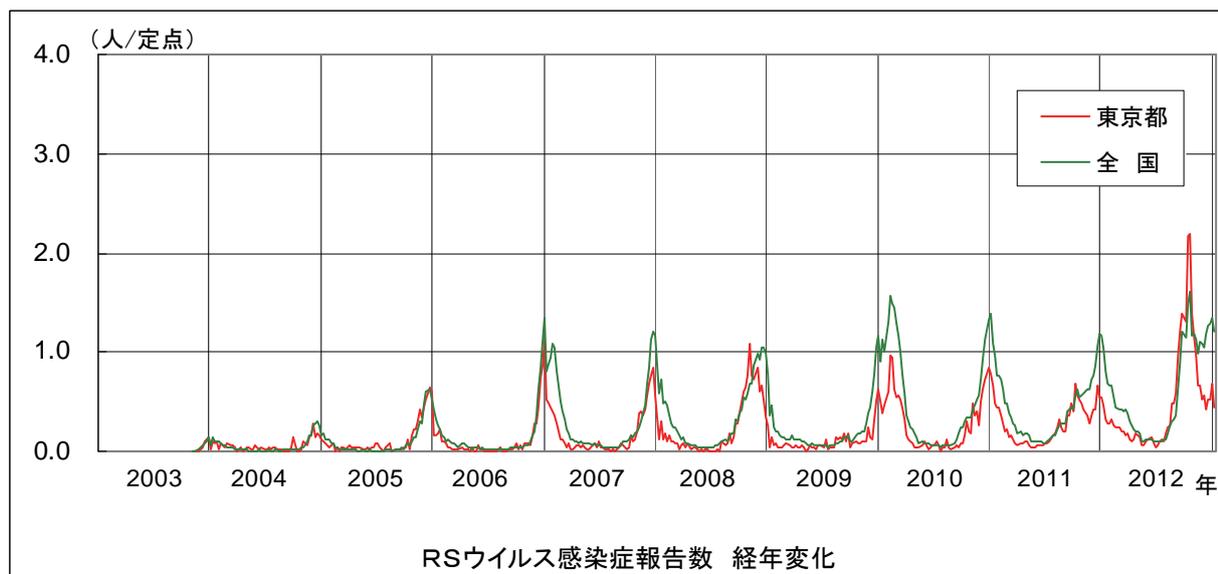
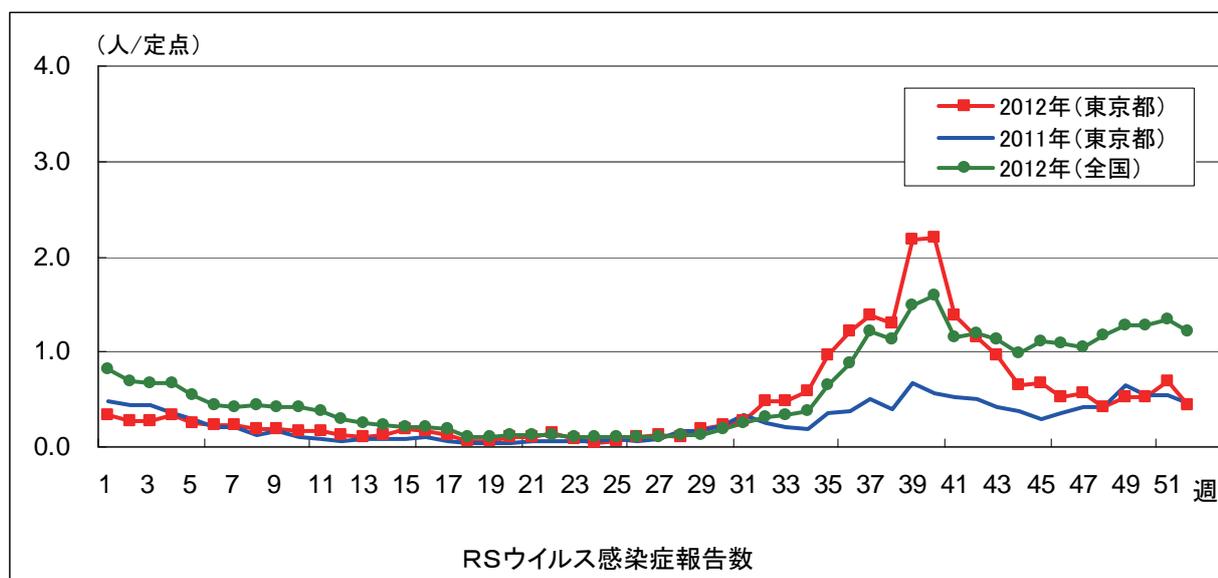
2012/13シーズンは、2012年50週(12月10日～12月16日)に定点当たり1.12人と流行期に入った。2012年1週～52週の1年間の保健所別定点当たり報告数では、最多は多摩小平の504.83人、最少は目黒区の108.61人であった。



イ RSウイルス感染症

2012年の報告数は6,349人、定点当たり24.51人であった。RSウイルス感染症は2003年11月より五類定点把握対象疾患となったが、2012年の定点当たり報告数はここ10年で最多であった。

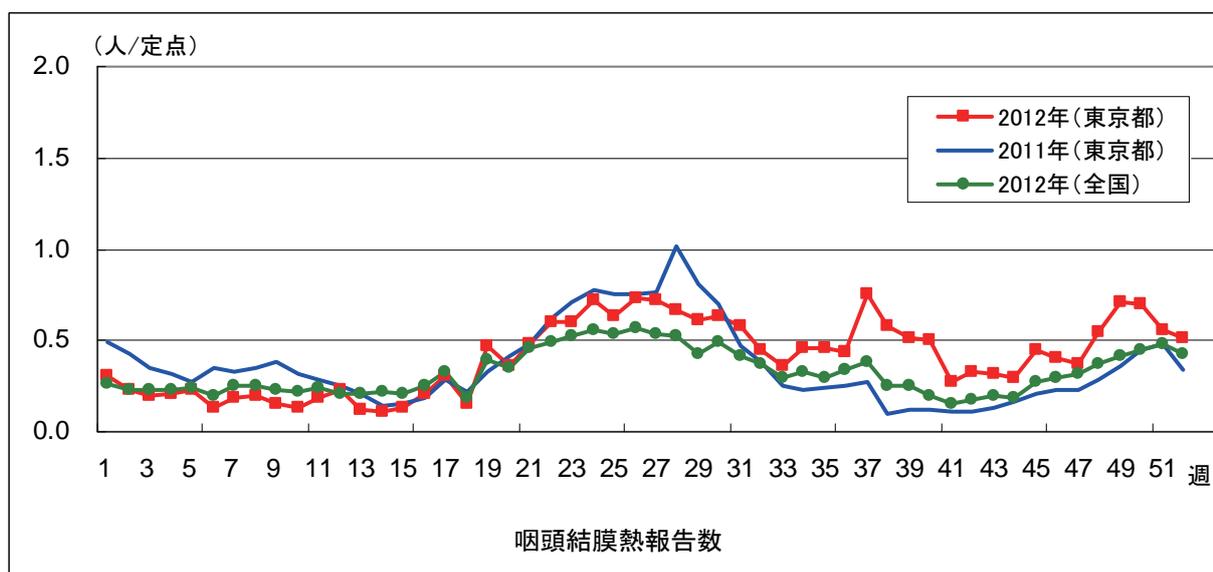
週別報告数では36週（9月3日～9月9日）から42週（10月15日～10月21日）にかけて定点当たり1.00を超える山があり、ピークは40週（10月1日～10月7日）の2.19人であった。保健所管内別の定点当たり報告数の多い地域は、荒川区が92.00人で前年と同様最多であった。年齢階級別で見ると、全報告数6,349人中、6か月未満898人（14.1%）、12か月未満1,581人（24.9%）、1歳代2,381人（37.5%）であり、1歳以下で76.5%を占めている。



ウ 咽頭結膜熱

2012年の報告数は5,510人で、定点当たり21.20人であった。ここ10年の定点当たり報告数では、2006年の27.67人に次いで2番目に多い報告数であった。

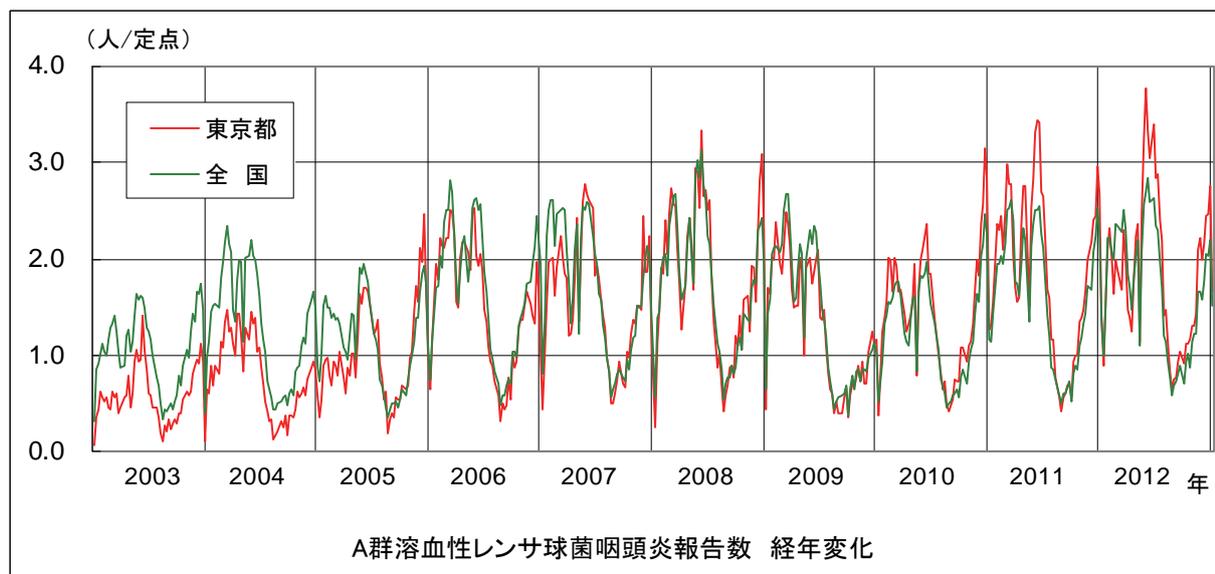
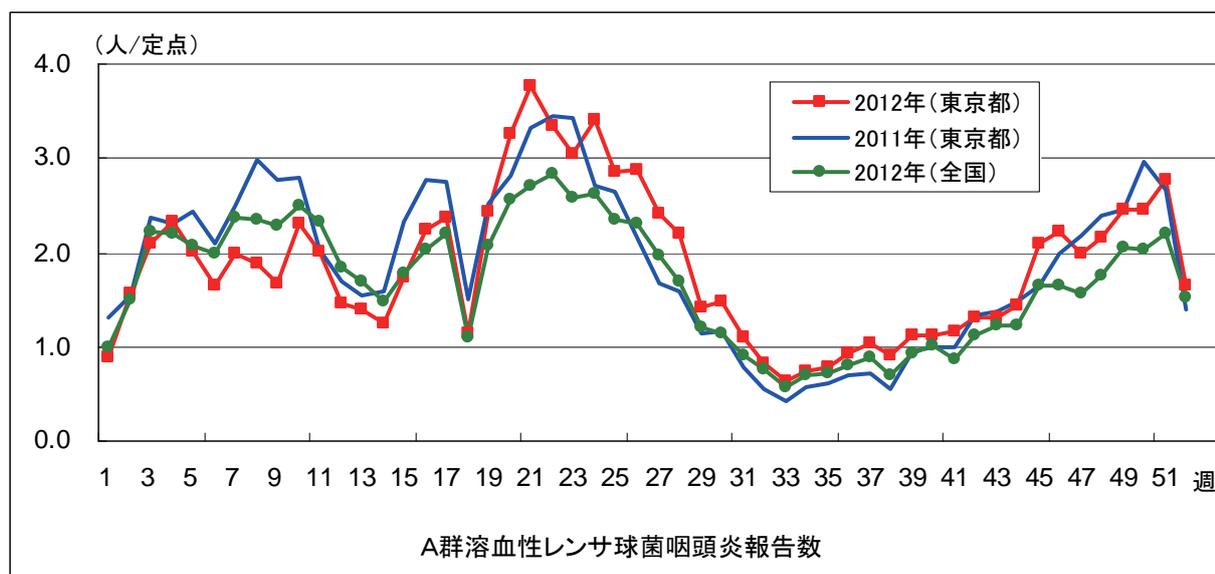
週別定点当たり報告数では、0.50人を超えたのは22週（5月28日～6月3日）から31週（7月30日～8月5日）で、ピークは26週（6月25日～7月1日）の0.73人、37週（9月10日～9月16日）から40週（10月1日～10月7日）でピークは37週（9月10日～9月16日）の0.75人、及び48週（11月26日～12月2日）から52週（12月24日～12月30日）でピークは49週（12月3日～12月9日）の0.71人であった。保健所別報告数では荒川区が106.58人と最多であった。年齢階級別報告数では、1歳代が1,026人（18.6%）と最も多く5歳代以下が4,245人（77.0%）となっている。



エ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2012年の報告数は25,224人で定点当たり96.60人であった。ここ10年では、定点当たりの報告数で2011年の97.66人に次いで2番目に多い報告数であった。(10年間の平均報告数は71.68人)

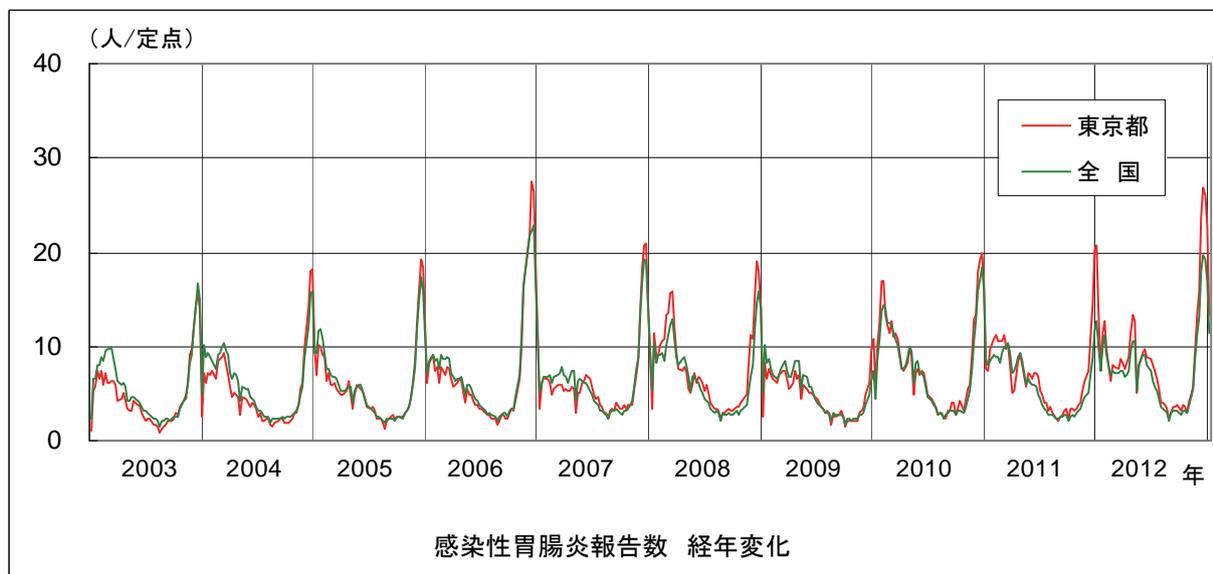
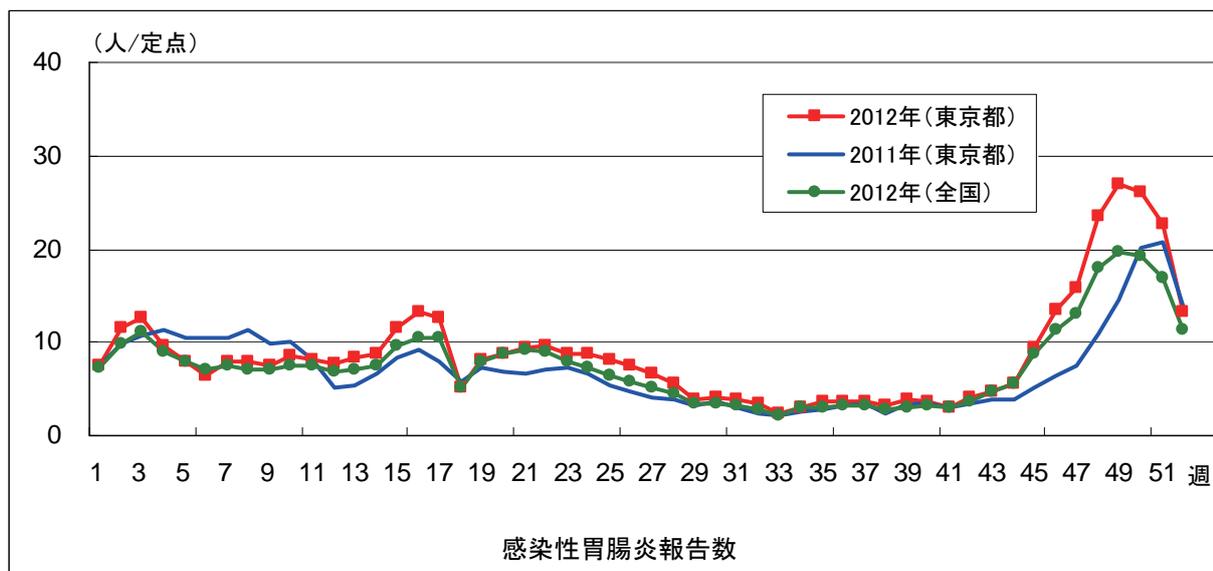
週別定点当たり報告数で2.50人を超えたのは、20週(5月14日～5月20日)から26週(6月25日～7月1日)で、ピークは21週(5月21日～5月27日)の3.76人であった。また51週(12月17日～12月23日)に2.76人の山があった。保健所別定点当たり報告数は町田市が225.52人で最多であり前年と同様であった。年齢階級別報告数では5歳代で3,782人(15.0%)と最多となり、4歳代から7歳代で全報告数の半数以上(52.4%)を占めるのは前年と同様である。



オ 感染性胃腸炎

2012年の報告数は118,967人で、定点当たり455.28人であった。ここ10年では定点当たりの報告数で最多であった。(10年間の平均は341.42人)

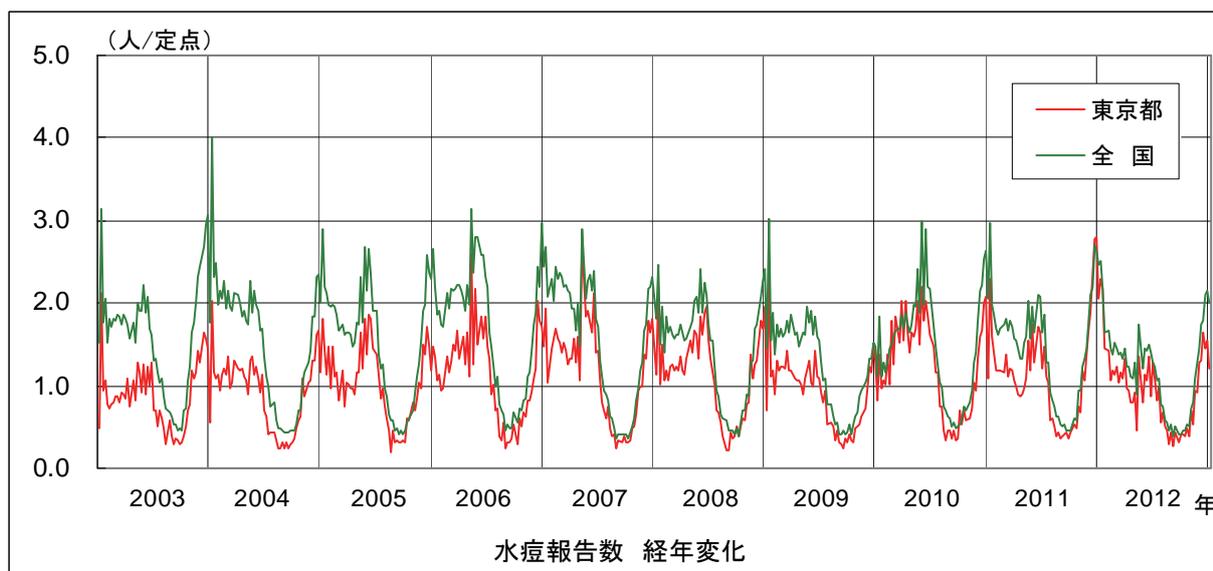
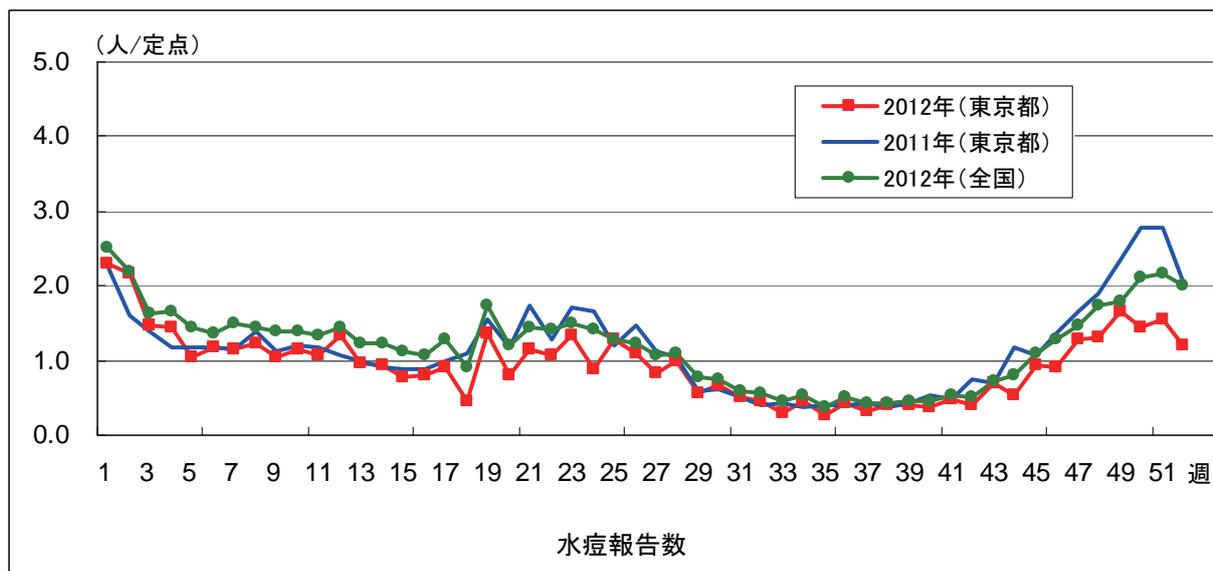
週別定点当たり報告数では、20.00人を超えたのは48週(11月26日～12月2日)から51週(12月17日～12月23日)でピークは49週(12月3日～12月9日)の26.95人であった。保健所別定点当たり報告数では、江東区が755.44人、町田市729.66人と多くなっている。年齢階級別報告数では1歳代が17,889人(15.0%)と最多であり前年と同様である。



カ 水痘

2012年の報告数は12,995人で定点当たり49.75人であった。ここ10年の平均定点当たり報告数は54.68人であったので、やや少ない報告数であった。

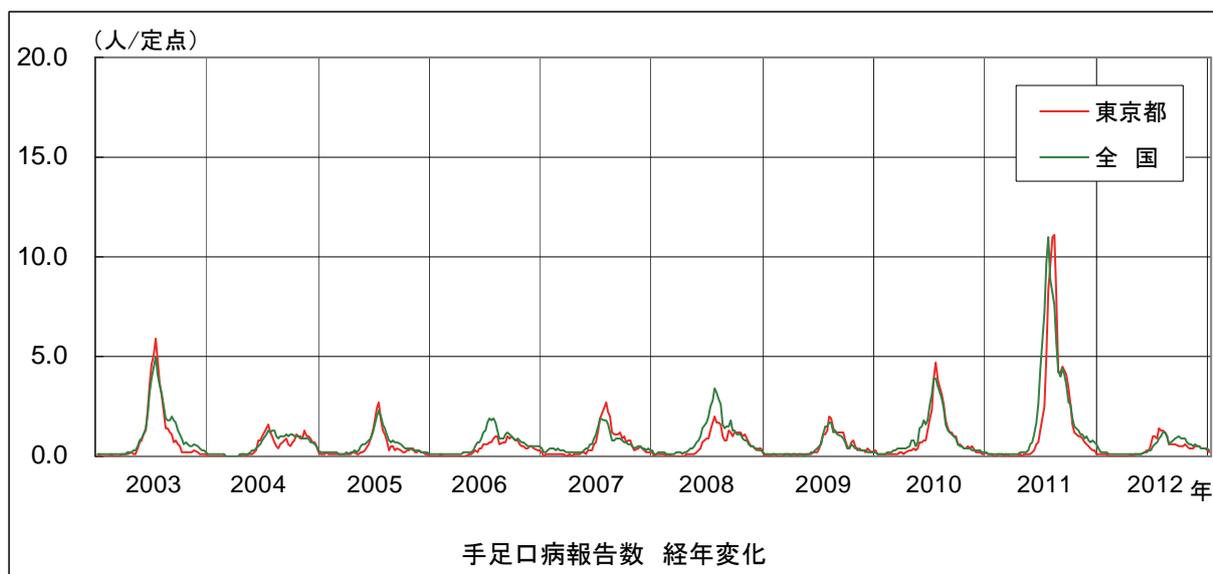
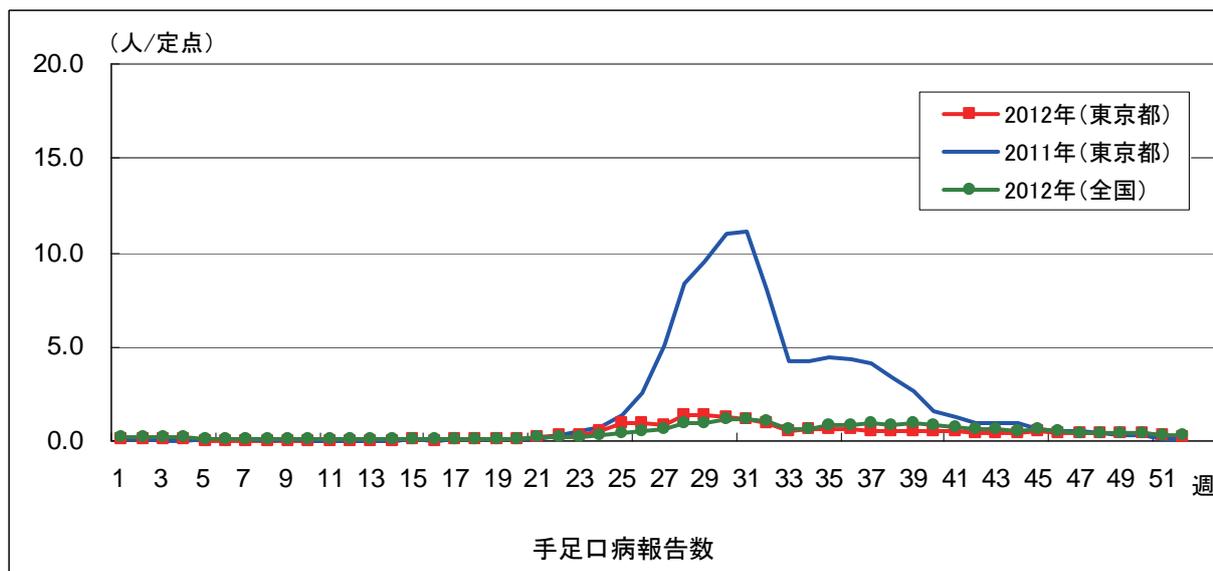
週別定点当たり報告数では、1.40人を超えたのは1週（1月2日～1月8日）から4週（1月23日～1月29日）で、ピークは1週（1月2日～1月8日）の2.30人、及び49週（12月3日～12月9日）から51週（12月17日～12月23日）で、ピークは49週（12月3日～12月9日）の1.65人であった。保健所別定点当たり報告数では、最多は八王子市の93.16人、最少は池袋の12.23人であった。年齢階級別報告数では、3歳代が2,267人（17.4%）と最も多く、1歳代から5歳代で75.8%を占めている。



キ 手足口病

2012年の報告数は5,411人で定点当たり20.90人であった。2011年は定点当たり95.84人と大きな流行があったが、2012年はここ10年では2006年の20.32人に次ぐ報告数の少ない年となった。

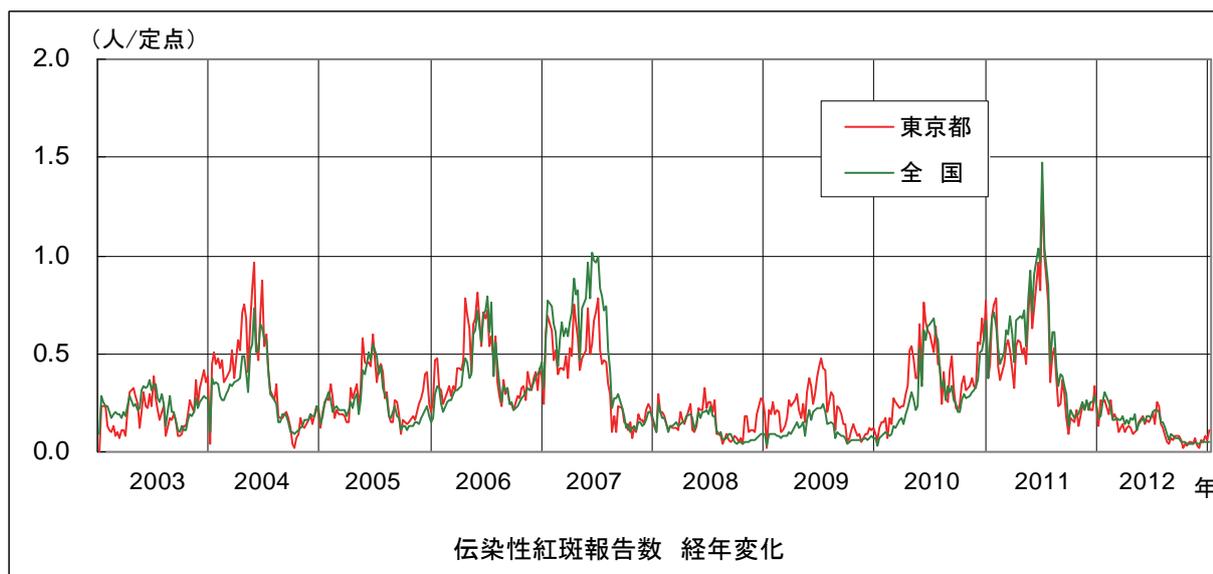
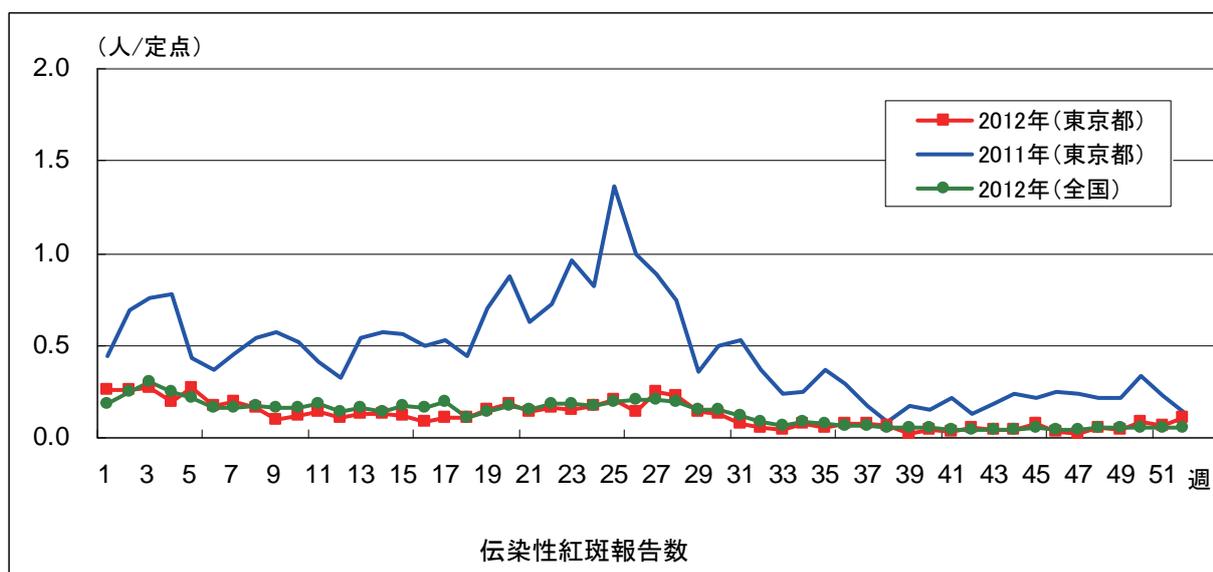
週別定点当たり報告数では、1.00人を超えたのは28週（7月9日～7月15日）から32週（8月6日～8月12日）で、ピークは28週（7月9日～7月15日）の1.38人であった。保健所別定点当たり報告数では、荒川区の65.25人、台東区の62.75人が多かった。前年多かった八王子市（190.73人）、江東区（161.78人）は、それぞれ21.42人、50.44人となっている。年齢階級別報告数では、1歳代が1,432人（26.5%）で最多であり、前年の報告数と同様であった。



ク 伝染性紅斑

2012年の報告数は1,626人、定点当たり6.23人であった。2011年はここ10年で最多の報告があったが、一転して2012年は最少の報告数となっている。

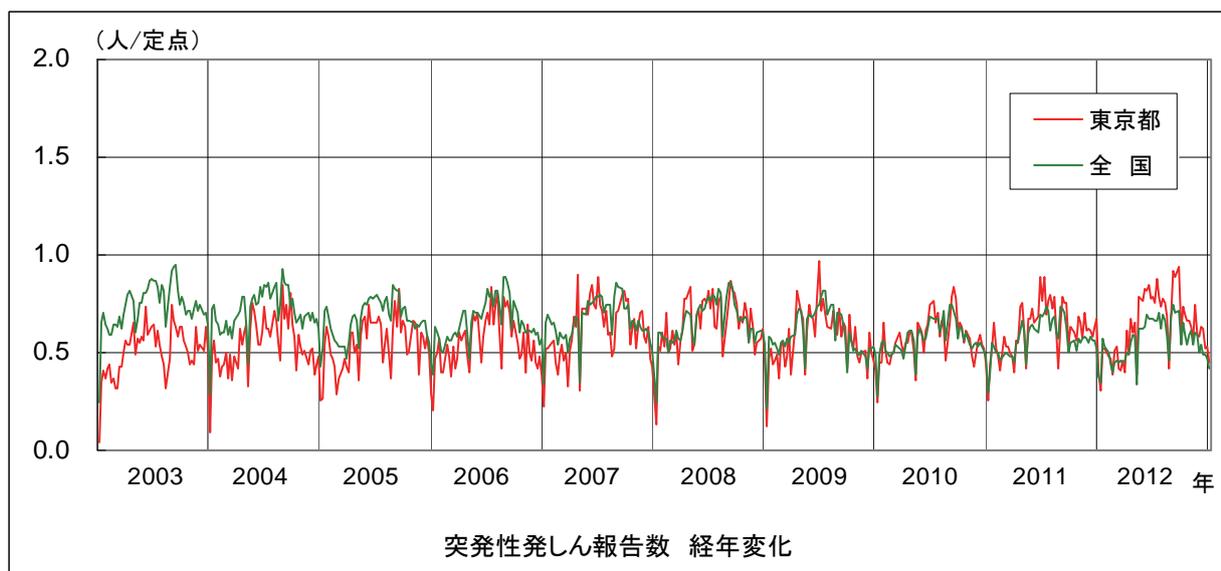
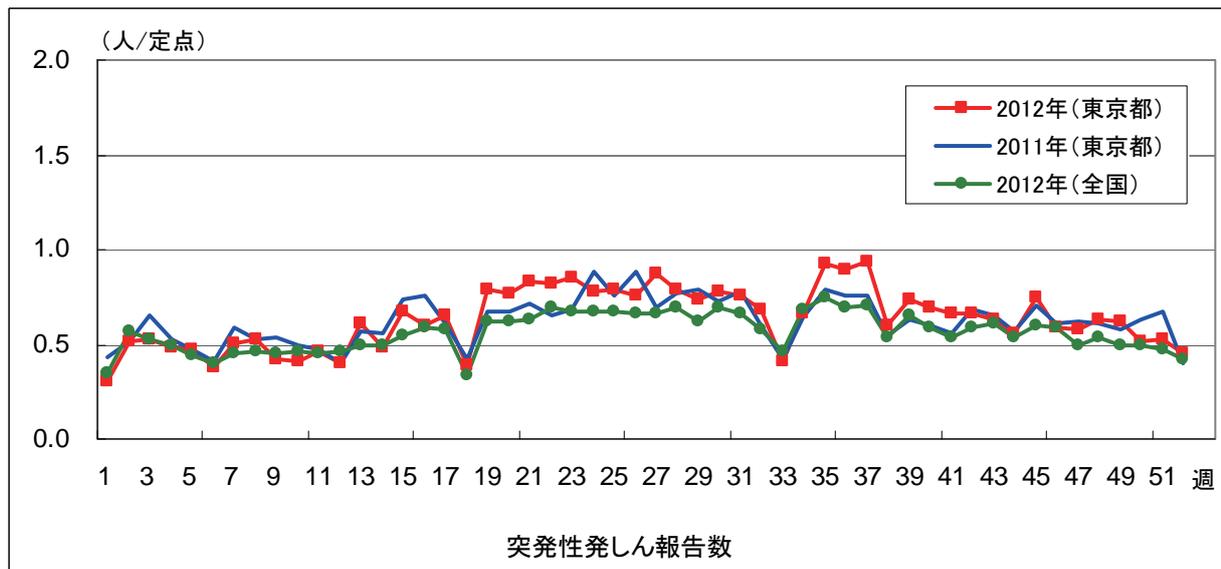
週別定点当たり報告数では、0.25人を超える週が、1週（1月2日～1月8日）から3週（1月16日～1月22日）、5週（1月30日～2月5日）、27週（7月2日～7月8日）に散見されるが明らかな季節変動は見られなかった。保健所別定点当たり報告数では、前年45.36人と最多であった八王子市は7.90人とほぼ平均的な報告数となったが、島しょが51.00人と突出した報告数となっている。年齢階級別報告数では5歳代が248人（15.3%）、4歳代が245人（15.1%）と多く4～5歳代にピークがあるのは前年と同様である。



ケ 突発性発しん

2012年の報告数は8,547人、定点当たり32.85人であった。ここ10年の定点当たり報告数では2008年の33.49人に次ぐ報告数であったが、10年の平均は30.33人であり、最少の2003年の26.60人より最多の2008年の33.49人までの変動は少ない。

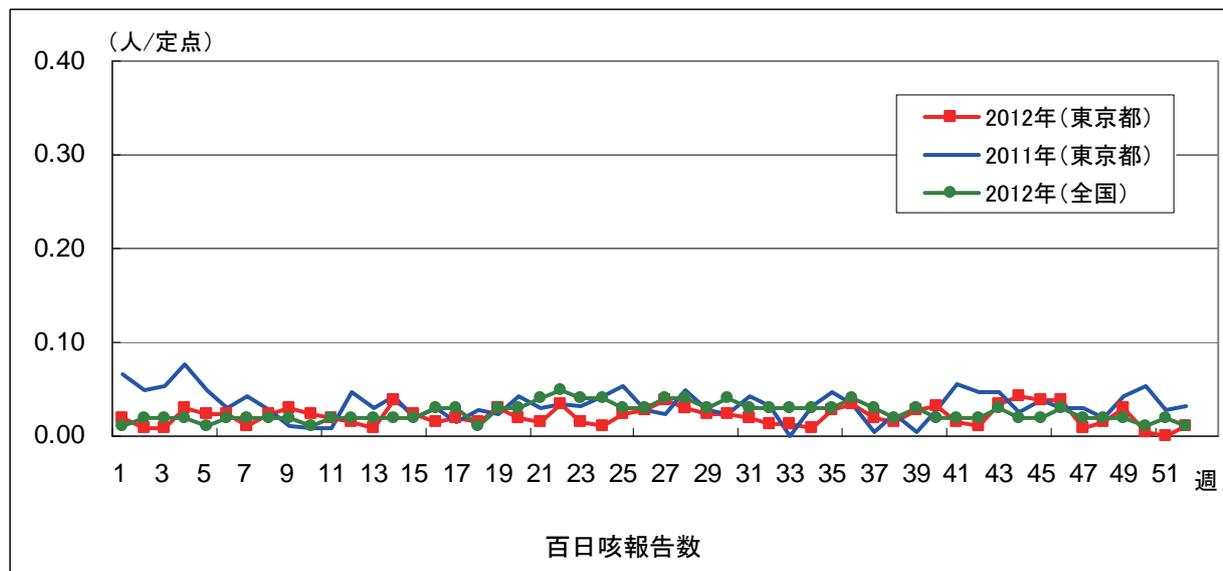
週別定点当たりの報告数では、35週（8月27日～9月2日）から37週（9月10日～9月16日）にかけて増加の山が見られるが、例年どおり季節変動は少ない。保健所別定点当たり報告数では、荒川区が62.33人で最多、池袋が7.08人で最少であった。年齢階級別報告数では、1歳代が4,123人（48.2%）、1歳未満が3,482人（40.7%）であり、両方で88.9%を占めている。



コ 百日咳

2012年の報告数は286人、定点当たり1.10人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.16人であった。

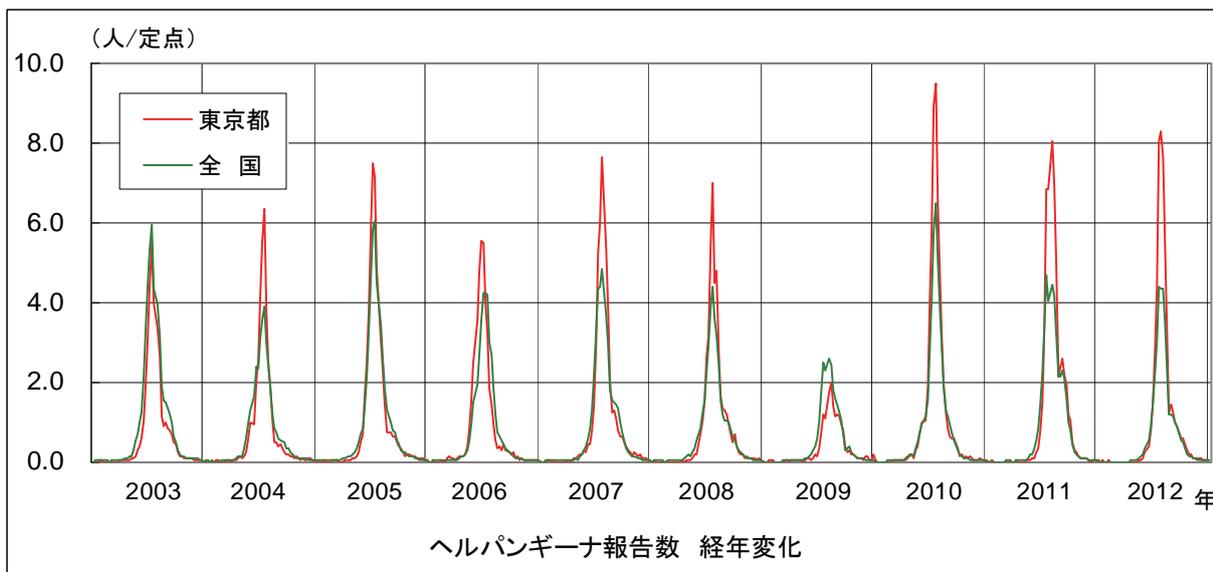
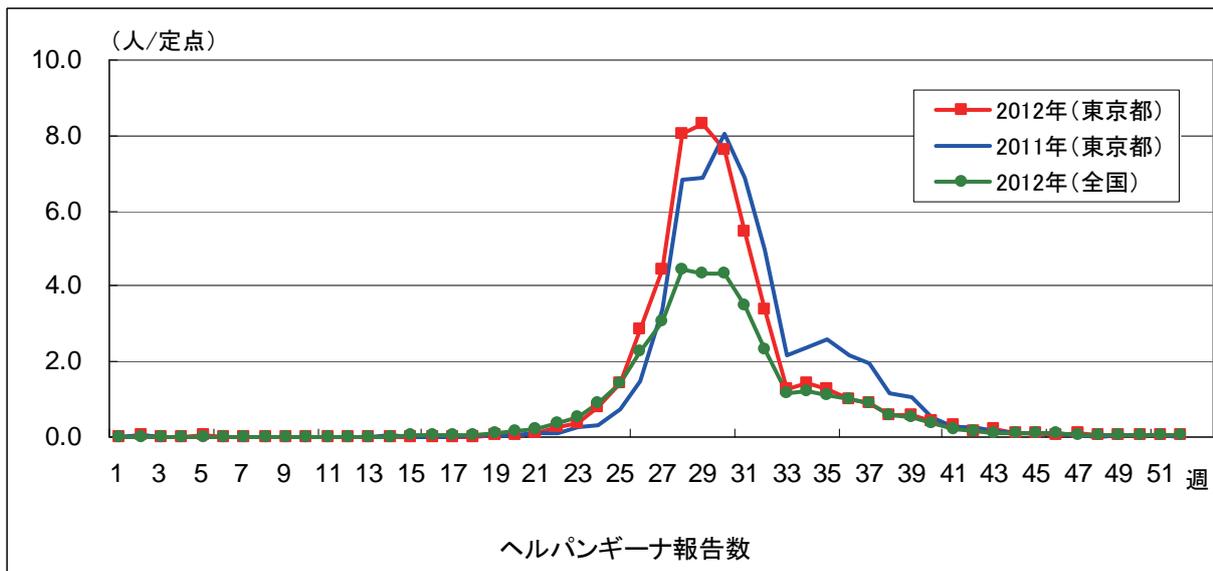
週別定点当たり報告数は0.00人～0.04人であり、季節変動ははっきりしない。保健所別定点当たり報告数では、前年に荒川区で12.50人と突出した報告数があったが、2012年では、みなと4.50人、大田区4.39人、荒川区4.25人などが多い報告数であった。年齢階級別では、0～4歳76人(26.6%)、5～9歳27人(9.4%)、10～14歳15人(5.2%)、15～19歳10人(3.5%)、20歳以上158人(55.2%)となっている。



サ ヘルパンギーナ

2012年の報告数は13,548人、定点当たり52.28人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は43.59人であり、2012年は2010年、2011年に次いで3番目に多い報告数であった。

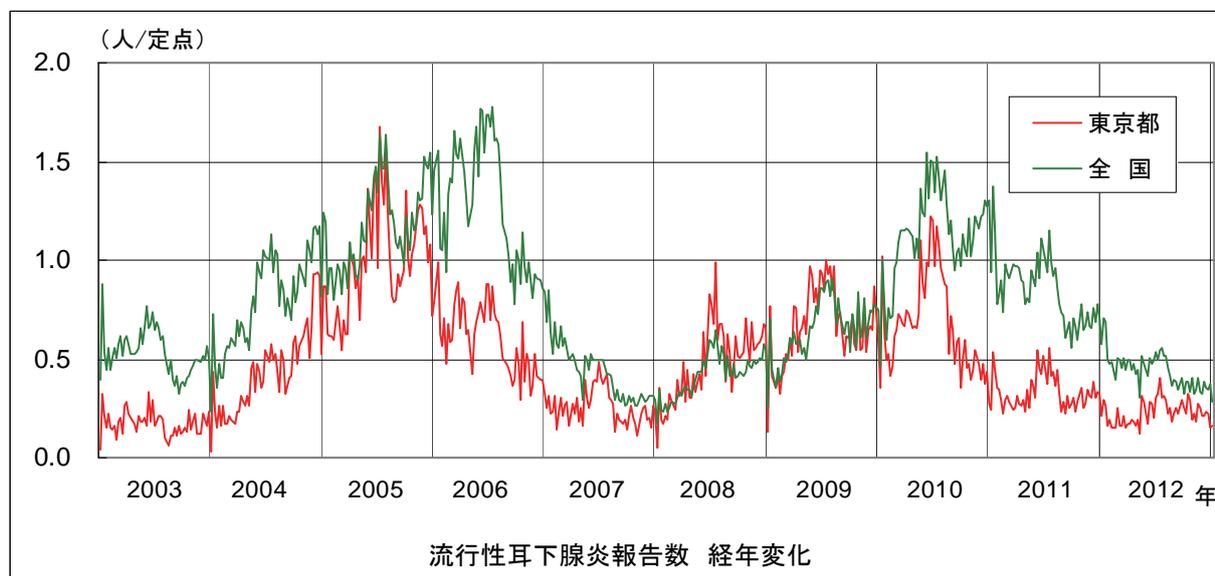
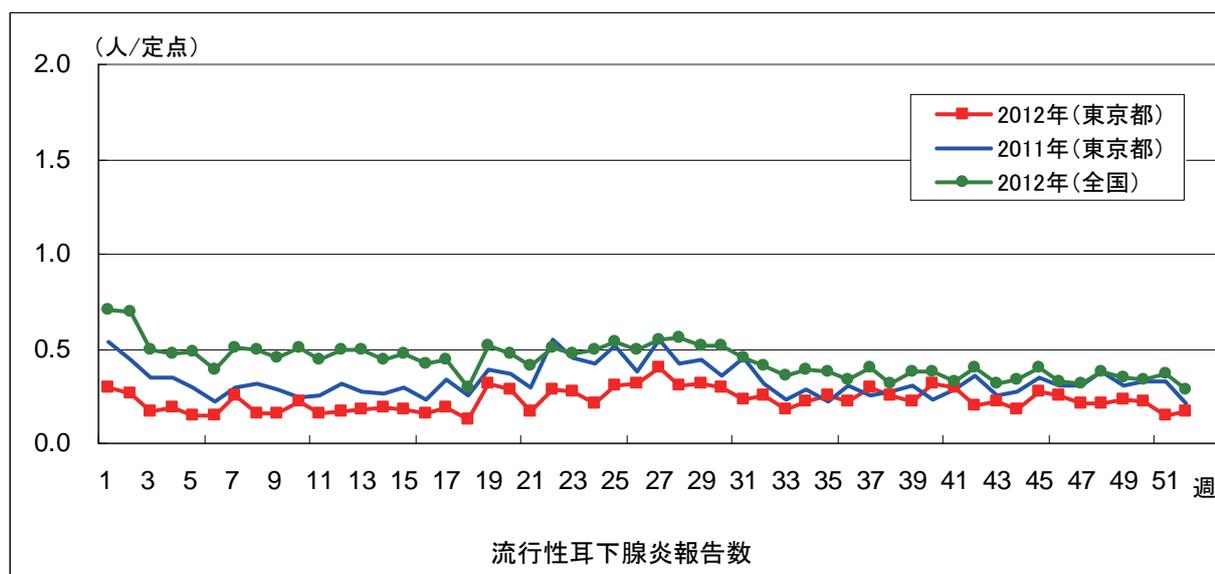
週別定点当たり報告数では、25週（6月18日～6月24日）に1.45人と1.00人を超え、36週（9月3日～9月9日）まで1.00人以上の報告数があった。ピークは29週（7月16日～7月22日）の8.30人であった。保健所別定点当たり報告数では、町田市が100.57人と最多であり、目黒区が11.60人と最少であった。年齢階級別報告数では、1歳代が3,601人（26.6%）と最も多く、5歳以下で88.6%を占めている。



シ 流行性耳下腺炎

2012年の報告数は3,089人、定点当たり11.88人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は25.22人であり、2012年は2003年の9.08人に次ぐ少ない報告数となった。

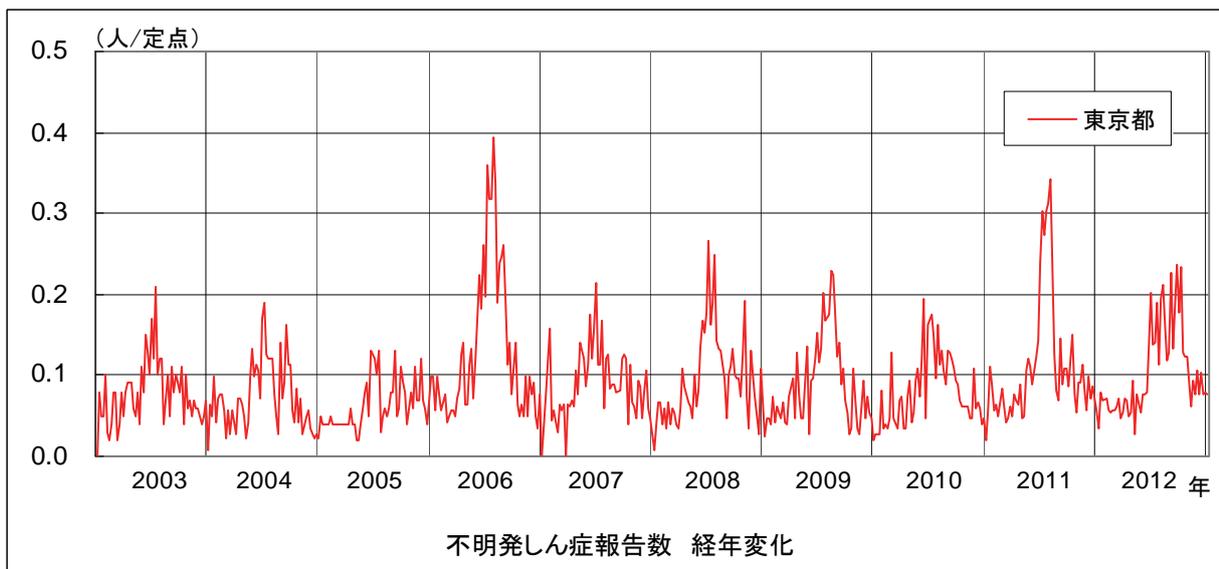
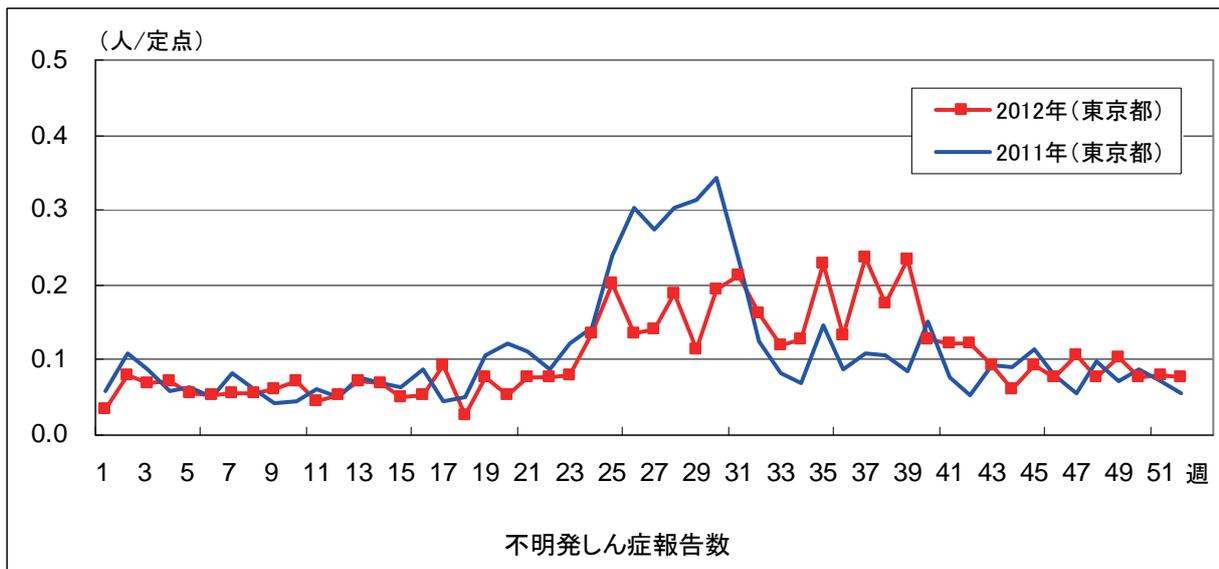
週別定点当たり報告数では、27週（7月2日～7月8日）に0.40人とやや多いほかは0.12～0.32人であり、季節変動ははっきりしない。保健所別定点当たり報告数では、前年も多かった八王子市が41.70人と最多であり、品川区が1.77人と最少であった。年齢階級別報告数では、5歳代が503人（16.3%）と最も多く、6歳以下で2,111人と全体の68.3%を占めている。



ス 不明発しん症

2012年の報告数は1,400人、定点当たり5.40人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は4.73人であり、2012年は、2006年の6.80人、2011年の5.78人に次ぐ3番目に多い報告数であった。

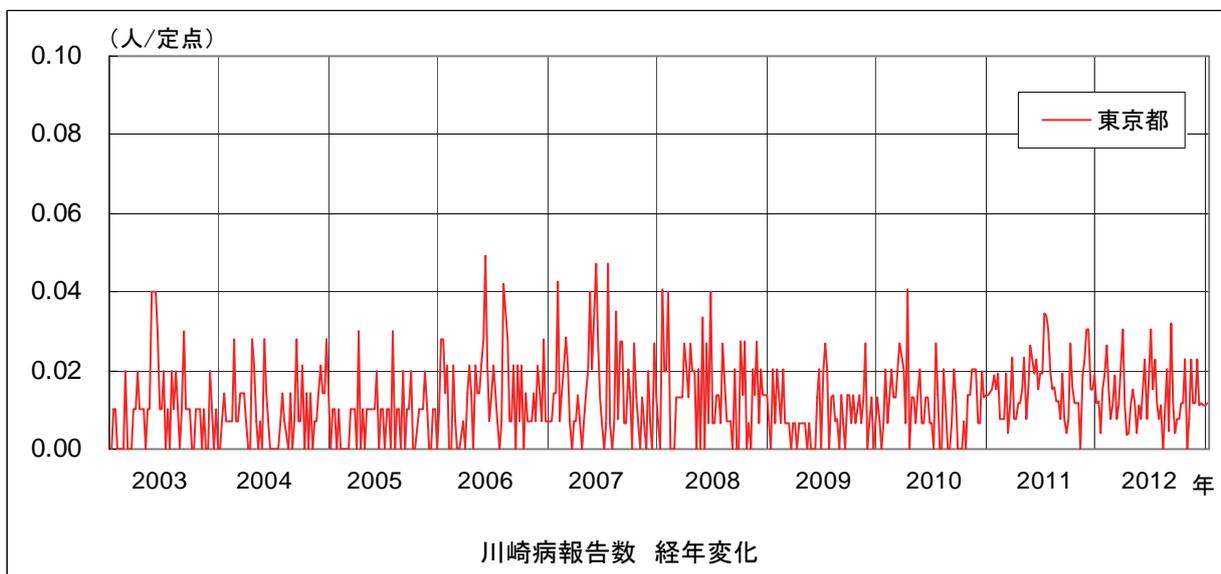
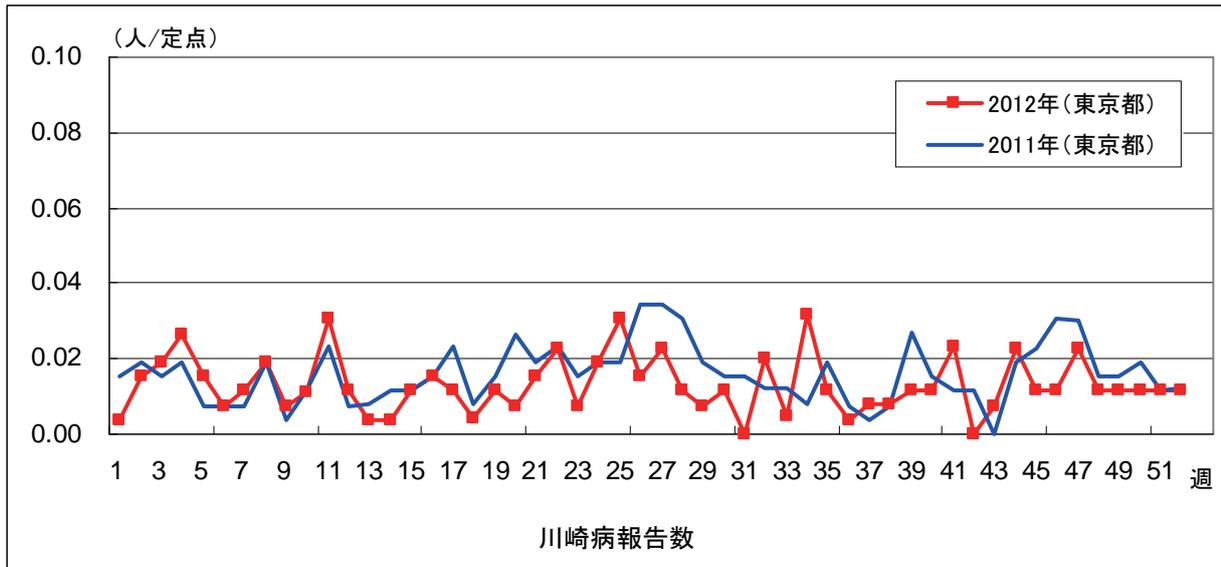
週別定点当たり報告数では、24週（6月11日～6月17日）から42週（10月15日～10月21日）にかけて0.10人を超え、ピークは37週（9月10日～9月16日）の0.24人であった。保健所別定点当たり報告数では、町田市の18.68人、江東区16.00人、荒川区15.00人が多かった。年齢階級別報告数では、1歳代が425人と最も多く、3歳以下が1,024人と全報告数の73.1%を占めており例年と同様の傾向である。



セ 川崎病

2012年の報告数は177人で、定点当たり0.68人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は0.61人であり、2012年は平均的な報告数であった。

週別定点当たり報告数は0~0.03人であり、季節変動が不明であるのは前年と同様である。保健所別定点当たり報告数では、荒川区が2.50人と最多であった。年齢階級別報告数では、1歳代が59人と最も多く、4歳以下で164人と全体の92.7%を占めている。

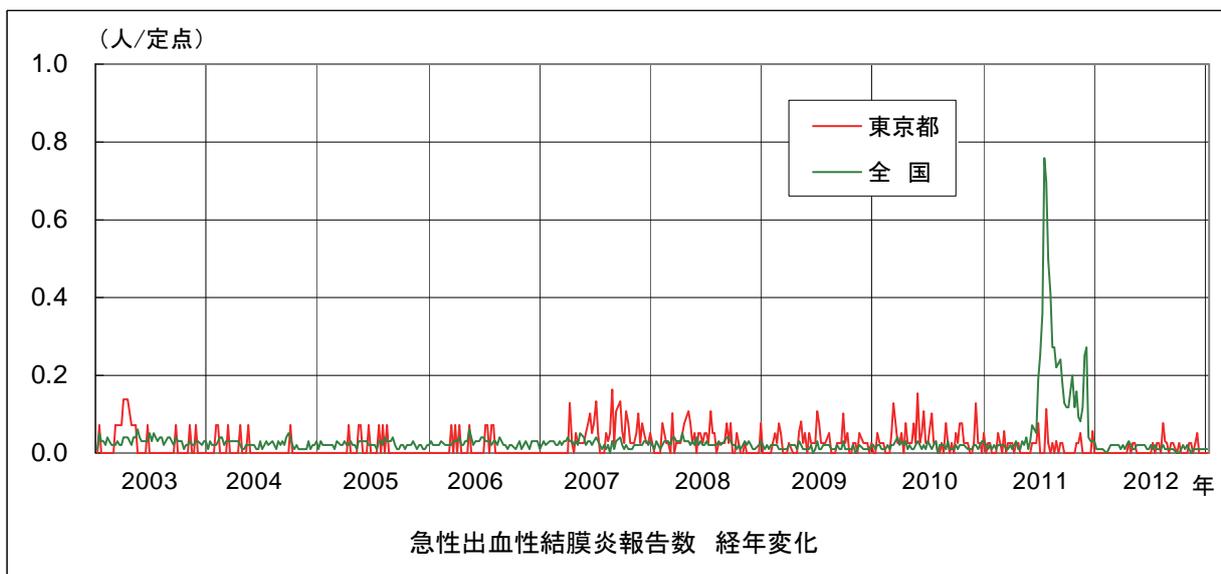
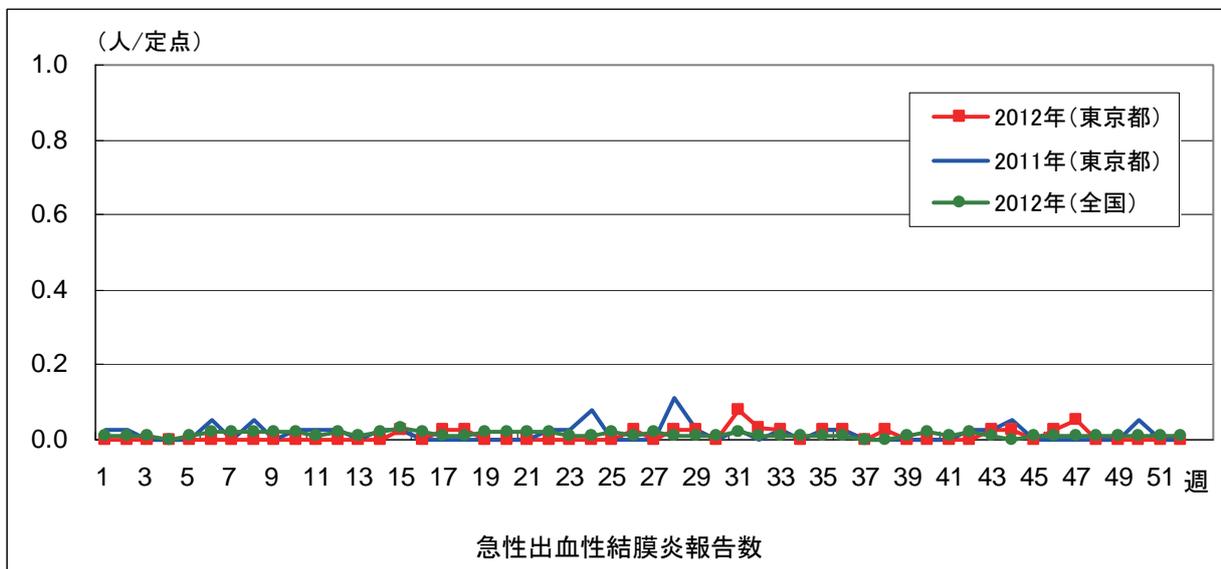


(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2012年の報告数は19人、定点当たり0.50人であった。眼科定点数が増加した2007年以降で最少だった。患者発生数の推移にはあまり特徴がなく、31週（7月30日～8月5日）に3人、47週（11月19日～25日）に2人発生した以外は各週1人以下であり、年間36週は発生がみられず、定点当たりでは平均0.01人/週であった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いており、東京も同様であった。

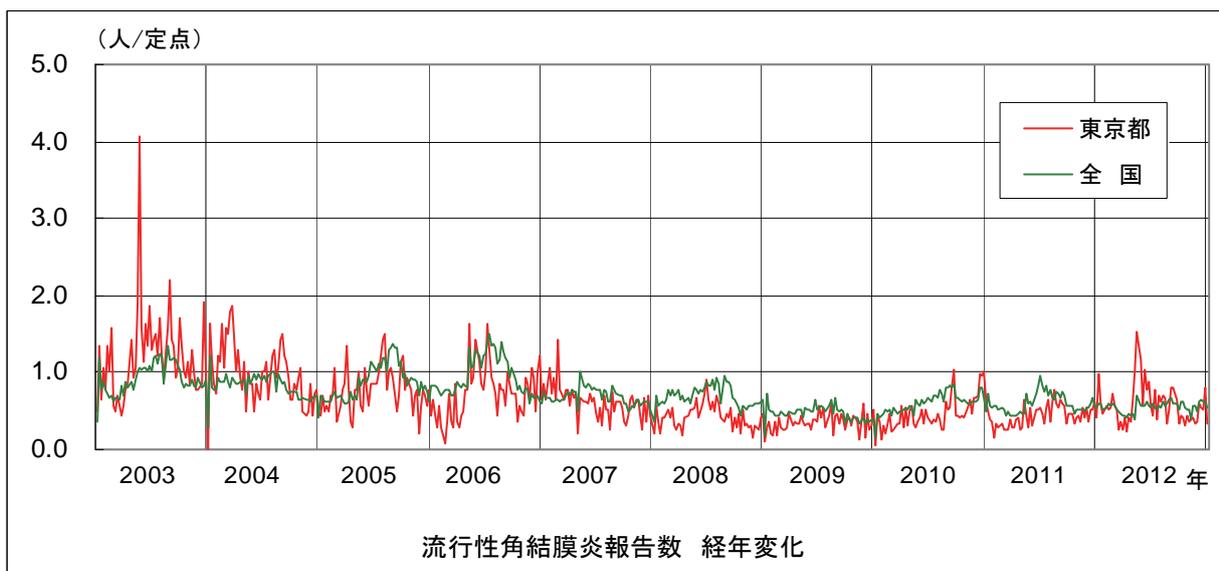
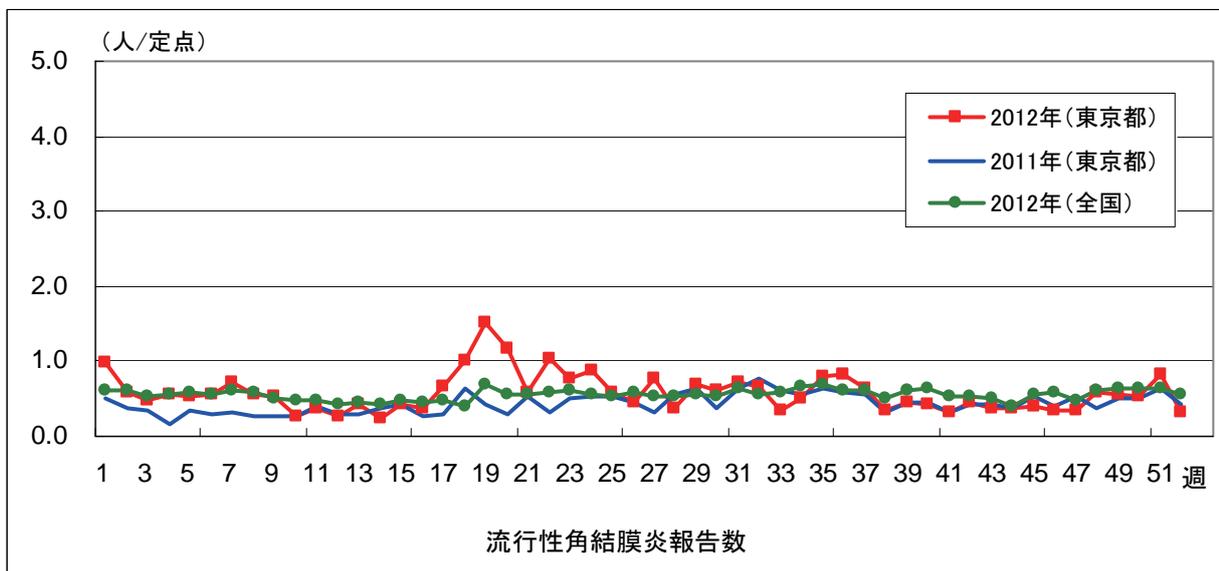
保健所別定点当たり報告数では、世田谷3.00人、品川区2.00人、中野区2.00人、葛飾区2.00人が多かった。眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは6医療圏で、区東北部圏、区西南部圏、区西部圏が多かった。報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が14人と全体の73.7%を占めた。幼少児では1歳児に3人（15.8%）、4歳児に1人（5.3%）みられた。



イ 流行性角結膜炎

2012年の報告数は1,140人、定点当たり30.01人であった。眼科定点数が増加した2007年以降で最多だった。患者発生数は4月から6月にかけて緩やかなピークを認めるものの年間を通じて週9～58人の発生であった。週別定点当たり報告数では0.24人から1.53人となり、平均0.58人と通年にわたり散發していた。全国と比較すると若干高い水準であった。

保健所別定点当たり報告数では、多摩小平118.00人、渋谷区97.00人、中央区75.00人、目黒区58.00人、文京56.00人、江東区50.00人が多く、定点当たり年間50人を超えていた。医療圏別定点当たり報告数では、北多摩北部圏118.00人、区中央部圏65.50人が多かった。報告年齢は20歳から49歳が617人と54.1%を占め、20歳以上の成人が851人(74.6%)であった。10歳未満は244人(21.4%)で、各年齢層に分散してみられた。

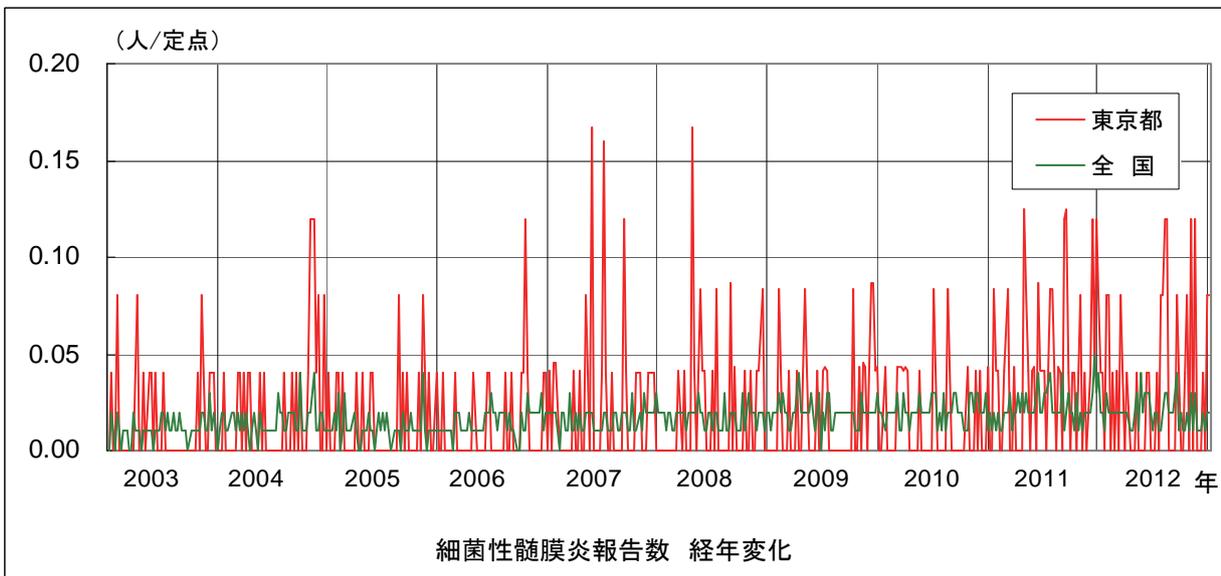
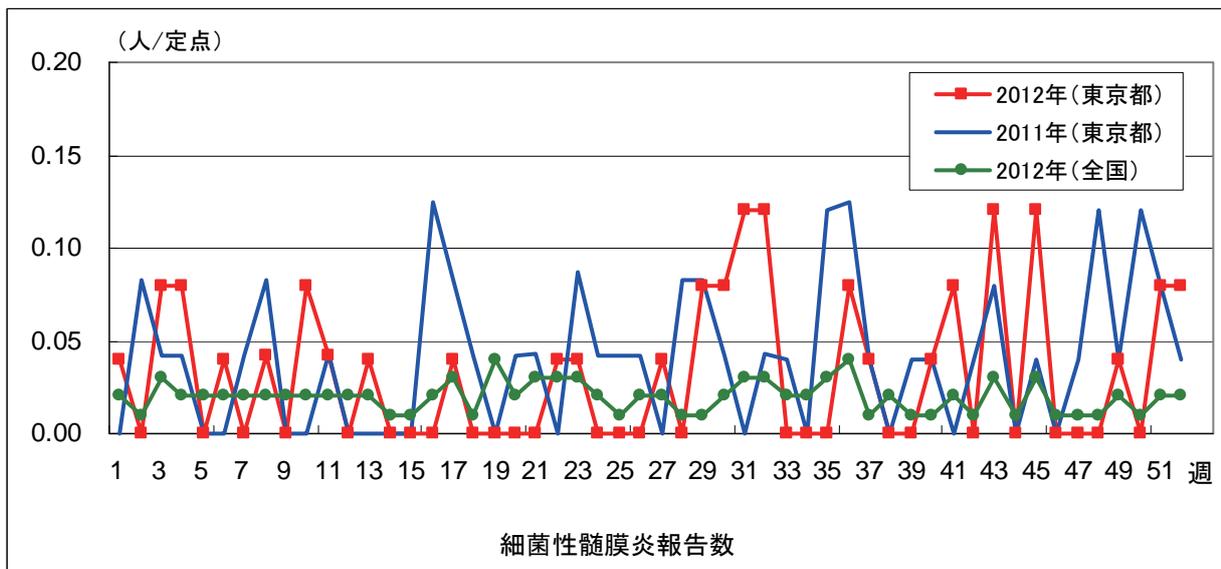


(4) 基幹定点における週報告疾病

ア 細菌性髄膜炎

2012年の報告数は42人、定点当たり1.68人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は1.08人であり、2012年は2011年の2.14人に次いで多い報告数であった。

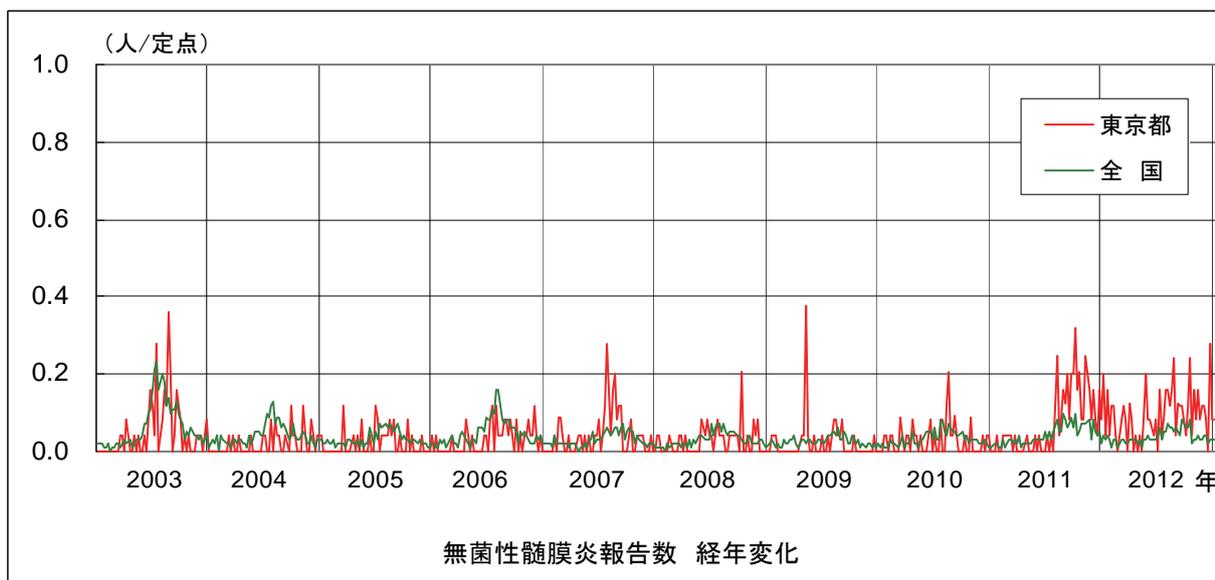
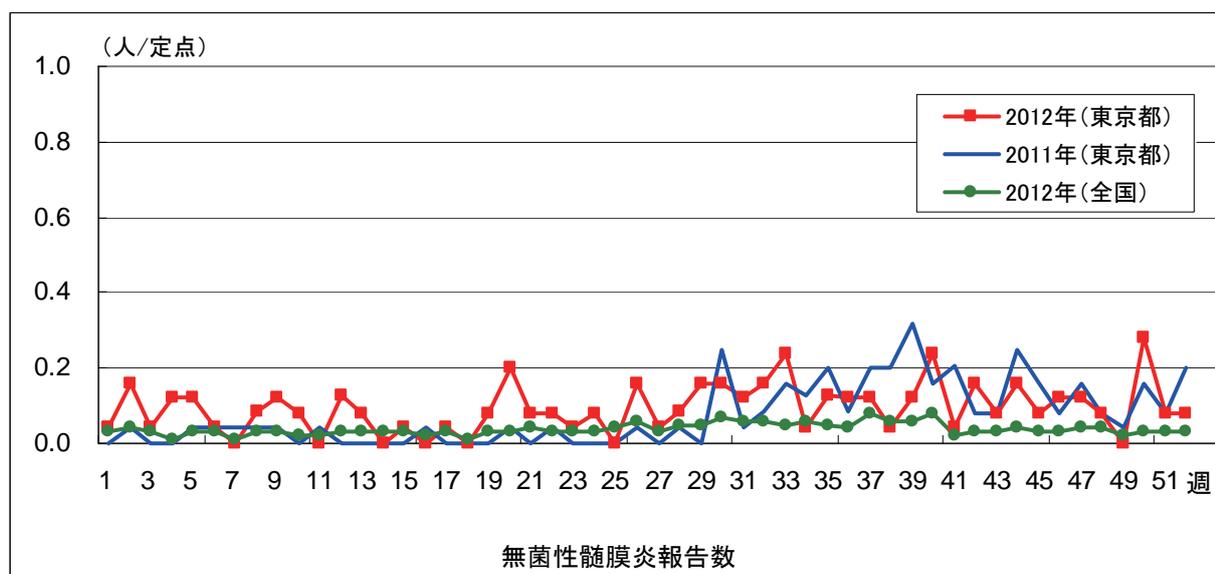
週別定点当たり報告数では、季節変動は明らかでない。保健所別定点当たり報告数では、墨田区7.00人、杉並6.00人、多摩府中5.67人が多い報告数であった。年齢階級別報告数では、1歳未満が11人(26.2%)、60歳以上が14人(33.3%)であった。



イ 無菌性髄膜炎

2012年の報告数は121人、定点当たり4.86人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は2.14人であり、2012年の報告数は10年で最多であった。

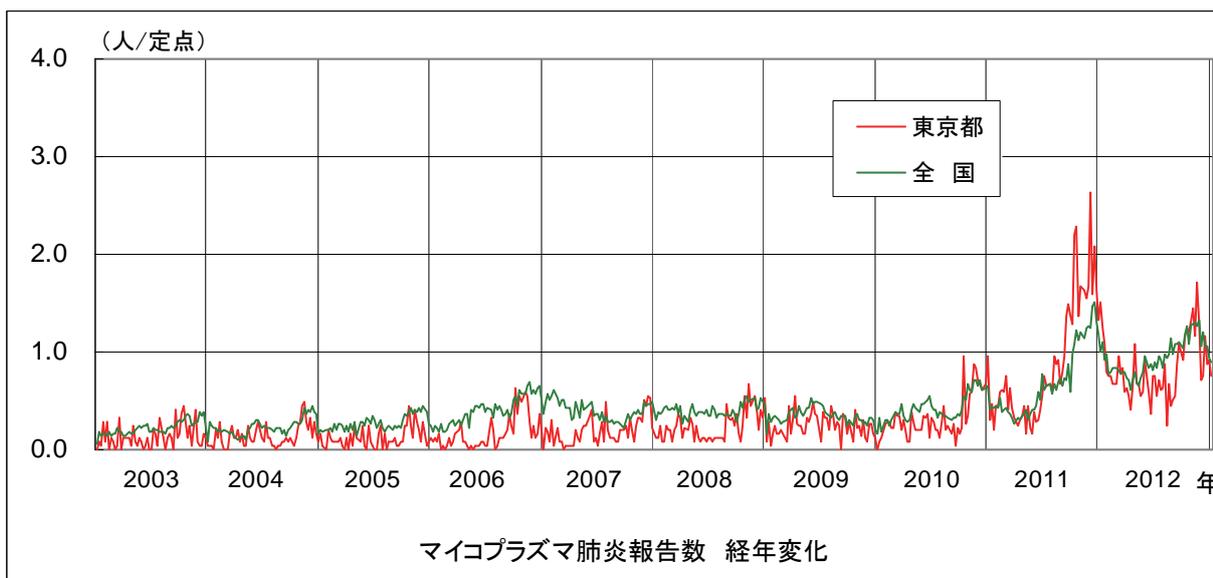
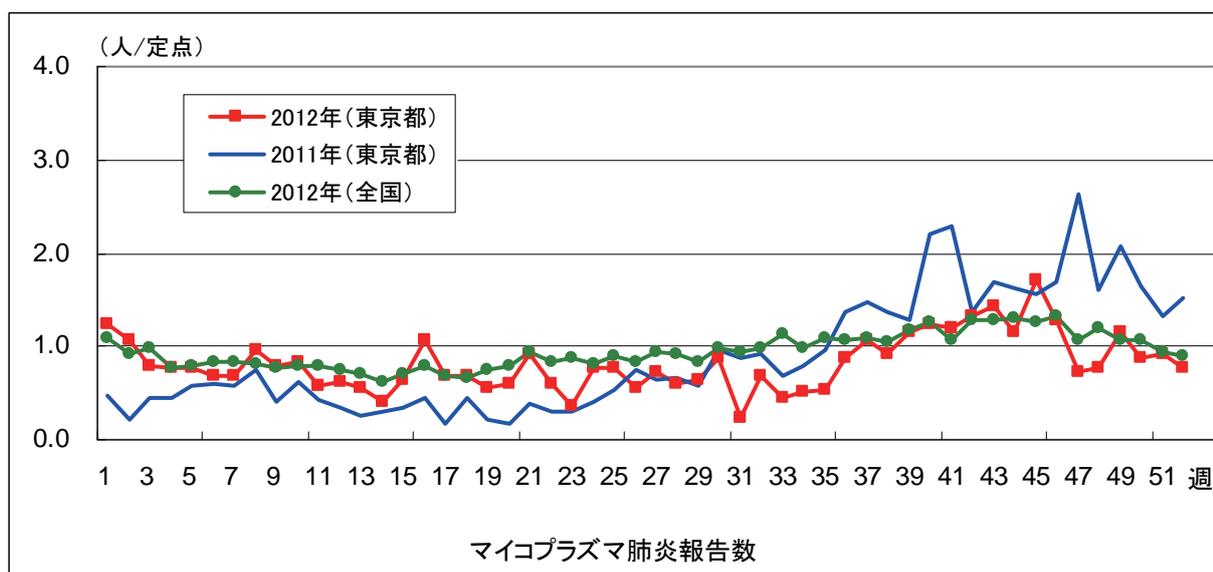
週別定点当たり報告数は50週（12月10日～12月16日）が0.28人で最多であるが、季節変動は明らかでない。保健所別定点当たり報告数では、墨田区が33.00人と前年同様最多であった。年齢階級別報告数では、9歳以下55人（45.5%）、10～19歳13人（10.7%）、20～29歳19人（15.7%）、30～39歳16人（13.2%）、40歳以上18人（14.9%）となっている。



ウ マイコプラズマ肺炎

2012年の報告数は1,067人、定点当たり42.84人であった。ここ10年の定点当たり報告数の平均は17.25人であり、2012年の報告数は2011年の46.78人に次いで2番目に多かった。

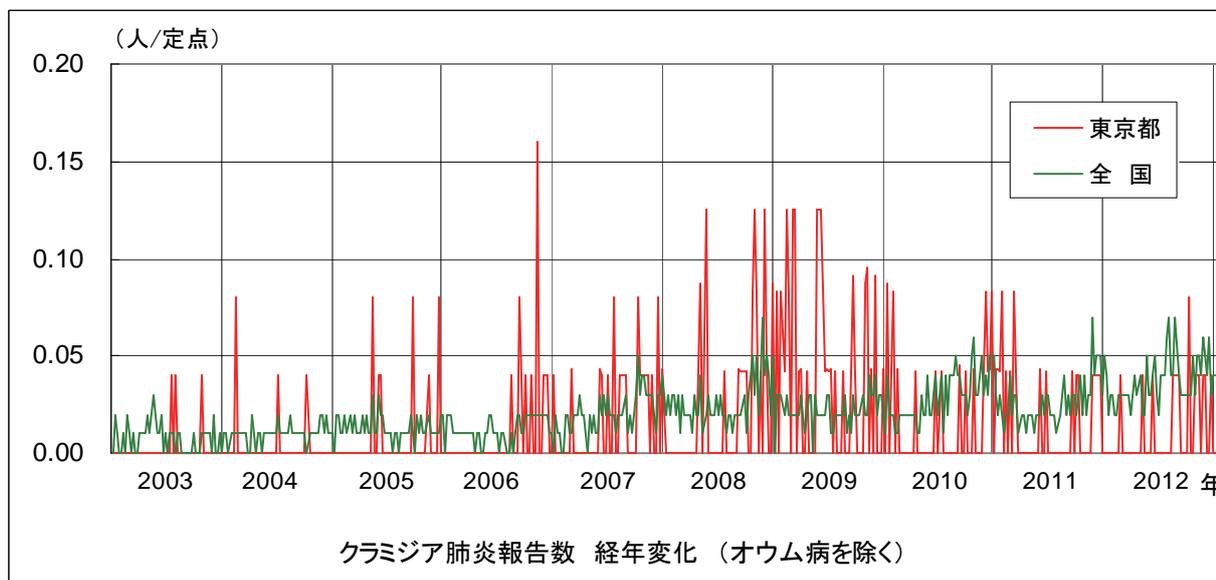
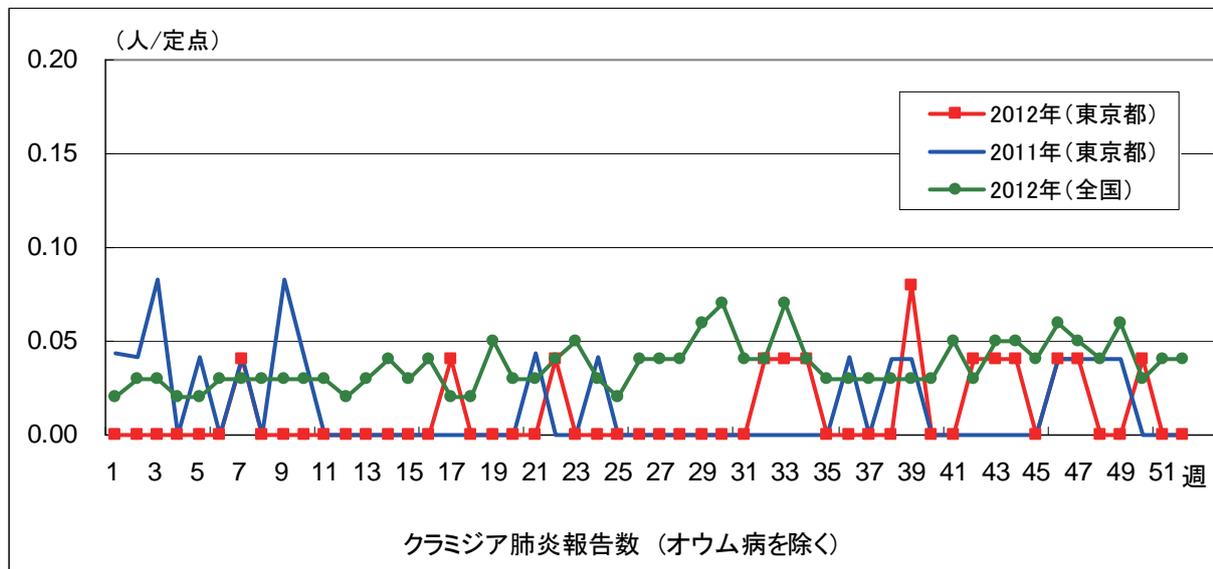
週別定点当たり報告数では、1週（1月2日～1月8日）から2週（1月9日～1月15日）にかけて前年の大きな流行の影響で1.00人を超していたが、その後報告数が減少した後39週（9月24日～9月30日）より46週（11月12日～11月18日）まで再び連続して1.00人を超えた。ピークは45週（11月5日～11月11日）の1.72人であった。保健所別定点当たり報告数では、葛飾区が349.00人と最多であった。年齢階級別報告数では、0～4歳376人（35.2%）、5～9歳302人（28.3%）、10～19歳190人（17.8%）、20歳以上199人（18.7%）であった。



エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2012年は14人報告された。定点当たり0.56人であった。(ここ10年の報告数の平均は0.71人)

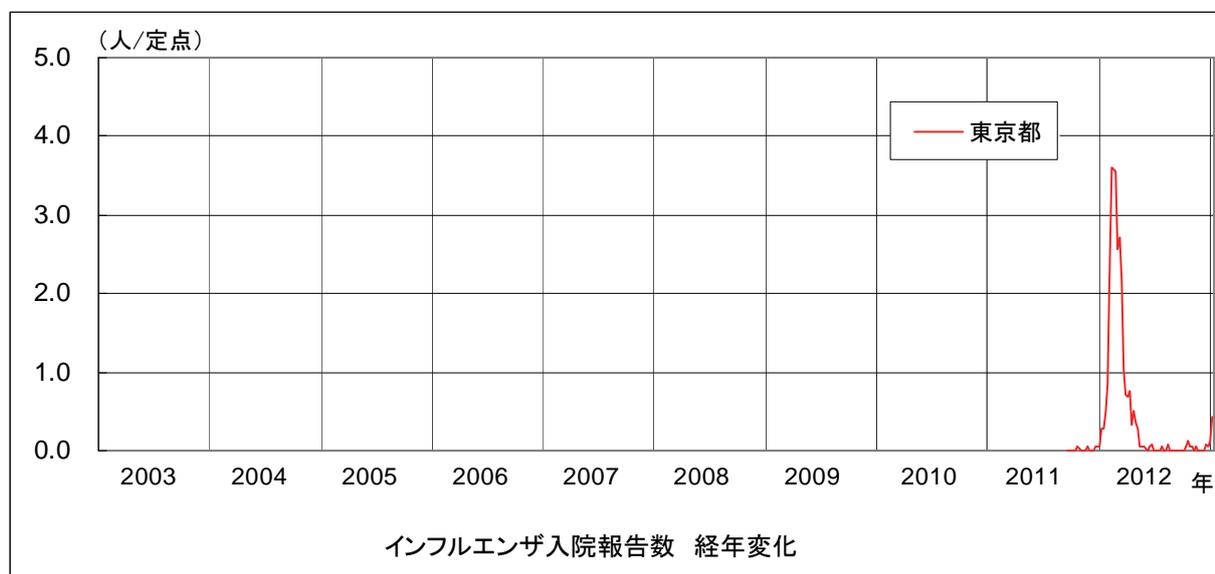
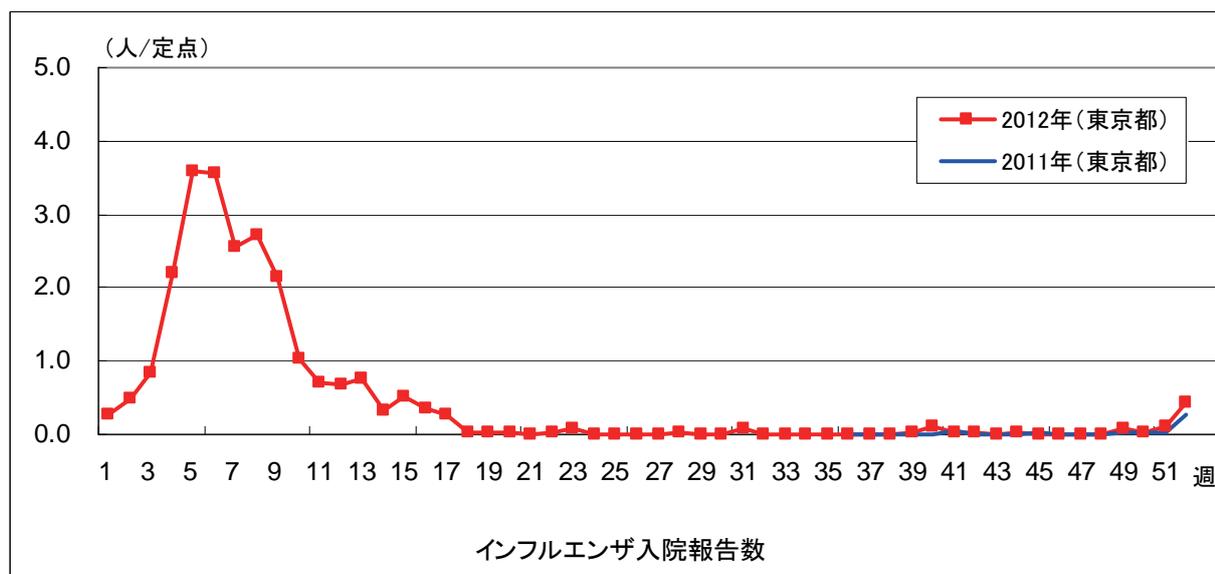
週別の報告数は例数が少なく、季節変動は不明である。保健所別報告数では、葛飾区の5人、渋谷区4人が多かった。年齢階級別では60歳以上が9人(64.3%)であった。



オ インフルエンザ入院

インフルエンザ入院は2011年36週より調査の対象となった。2012年は610人報告され、定点当たり24.40人であった。

週別定点当たり報告数は、4週（1月23日～1月29日）から10週（3月5日～3月11日）まで1.00人を超えた。ピークは5週（1月30日～2月5日）の3.60人である。年齢階級別報告数では、0～9歳309人（50.7%）、10～19歳56人（9.2%）、20～59歳49人（8.0%）、60歳以上196人（32.1%）であった。

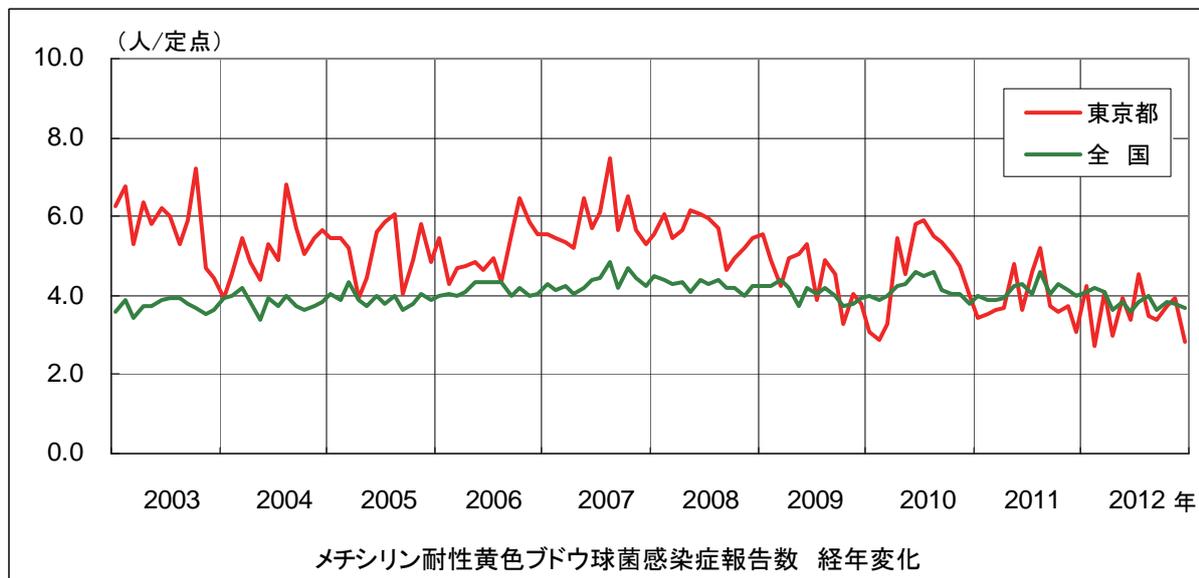
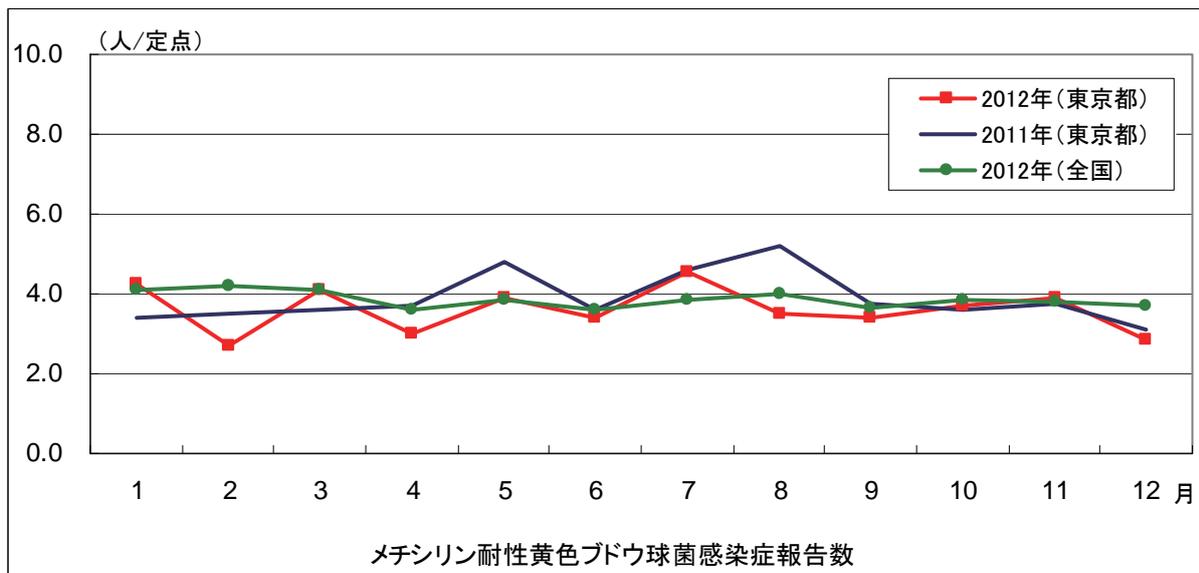


(5) 基幹定点における月報告疾病

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2012年の報告数は1,074人、定点当たり43.25人であり、ここ10年で最も少ない報告数であった。
 (ここ10年の平均は定点当たり59.27人)

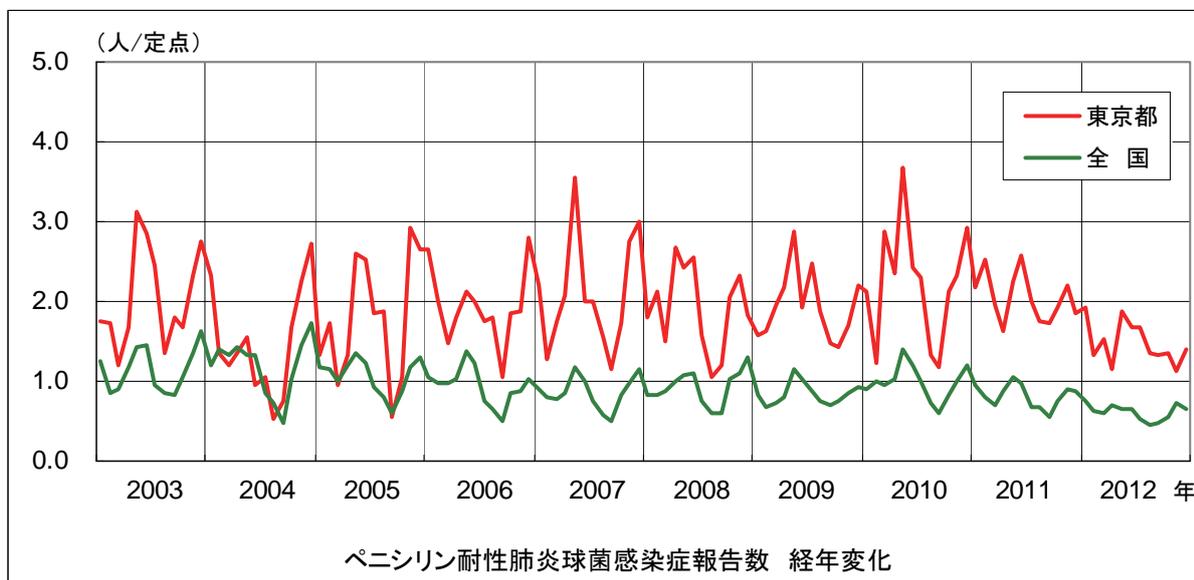
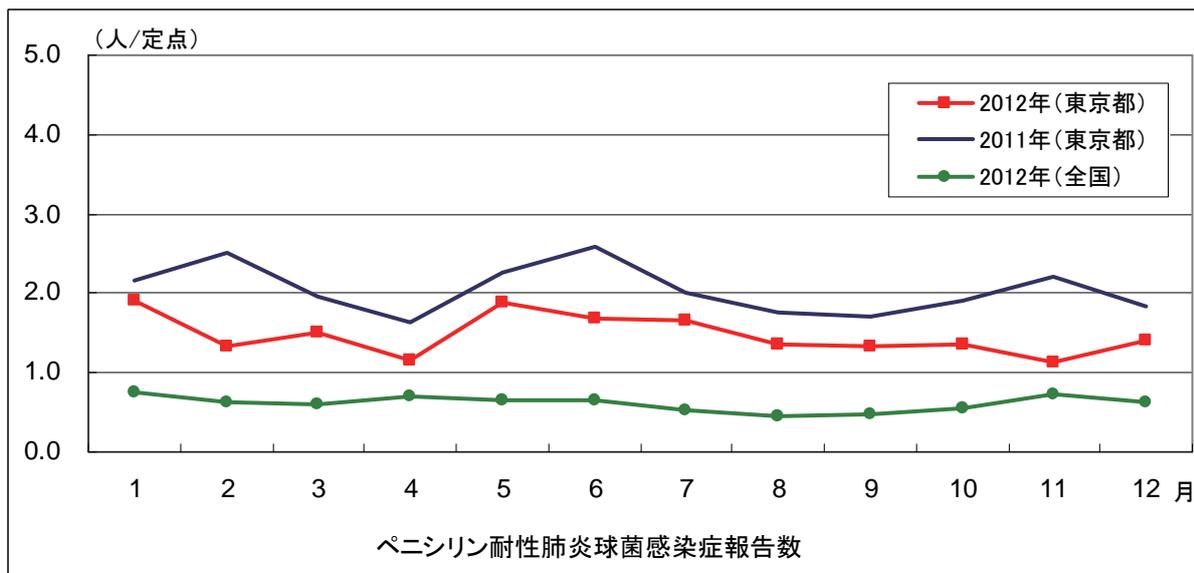
月別定点当たり報告数は7月が最多の4.54人、2月が最少の2.71人であった。季節変動は明確でない。男女別では男性660人(61.5%)、女性414人(38.5%)で、例年と同様男性が多い。年齢階級別では、0～9歳が280人(26.1%)、60歳以上が597人(55.6%)であった。



イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2012年の報告数は440人、定点当たり17.72人であった。ここ10年で最も少ない報告数であった。
 (ここ10年の平均は定点当たり22.75人)

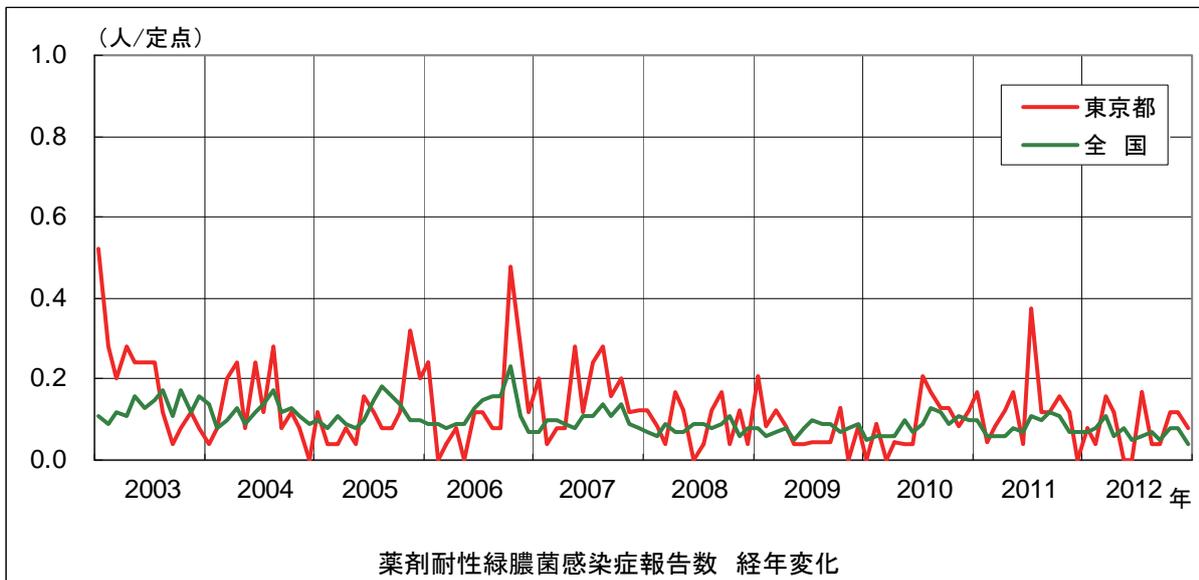
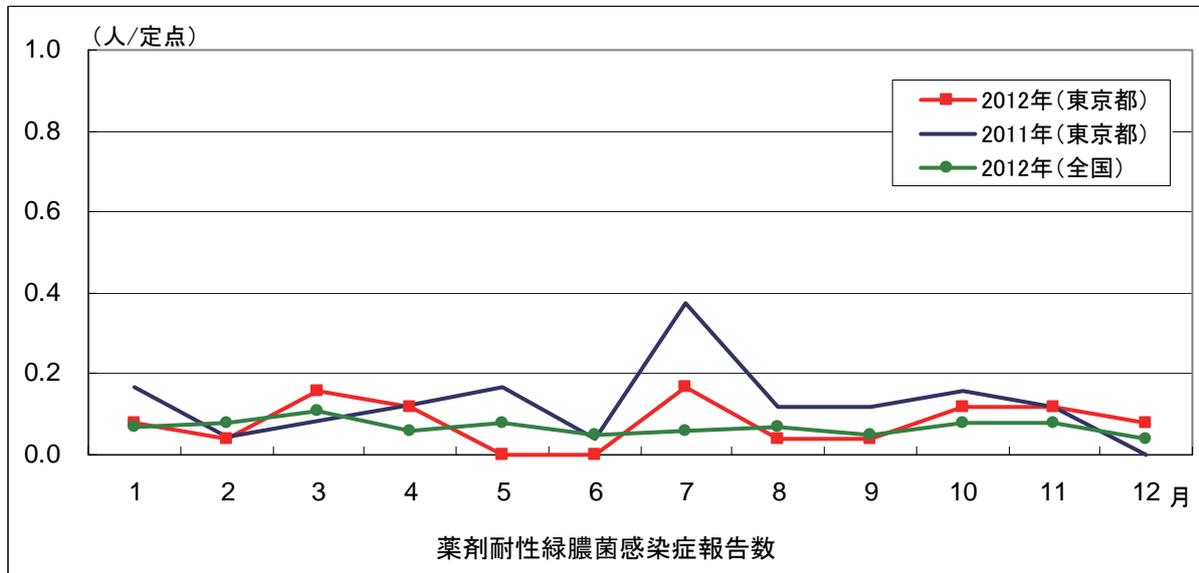
月別定点当たり報告数は1月が最多の1.92人、11月が最少の1.12人であるが、季節変動は不明である。男女別では、男性が254人(57.7%)、女性が186人(42.3%)で男性に多い。年齢階級別では、0～9歳が188人(42.7%)、60歳以上が198人(45.0%)であった。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

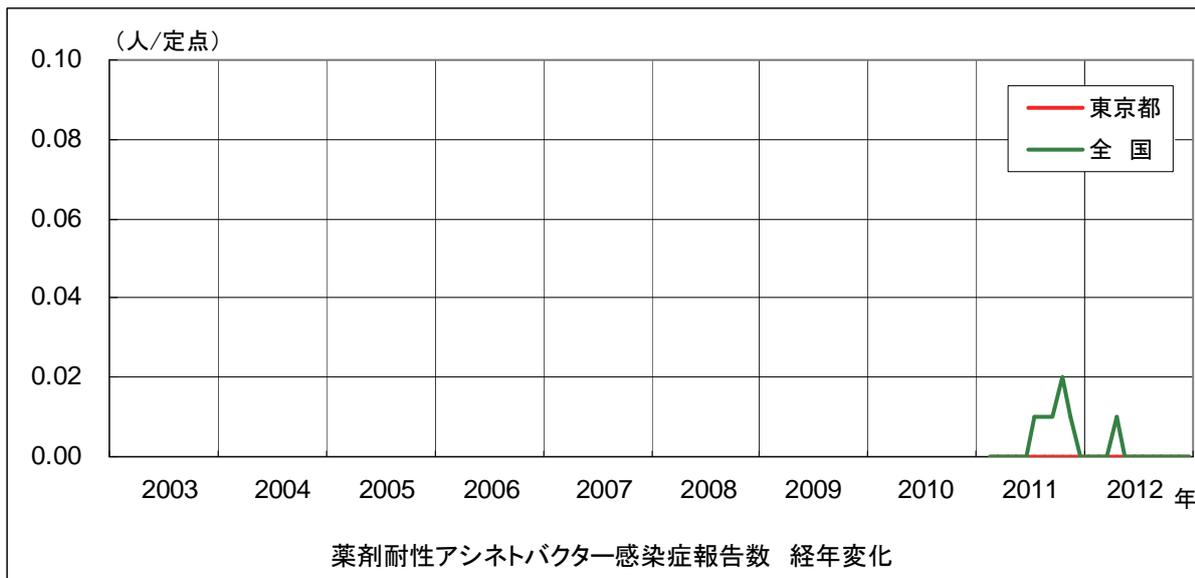
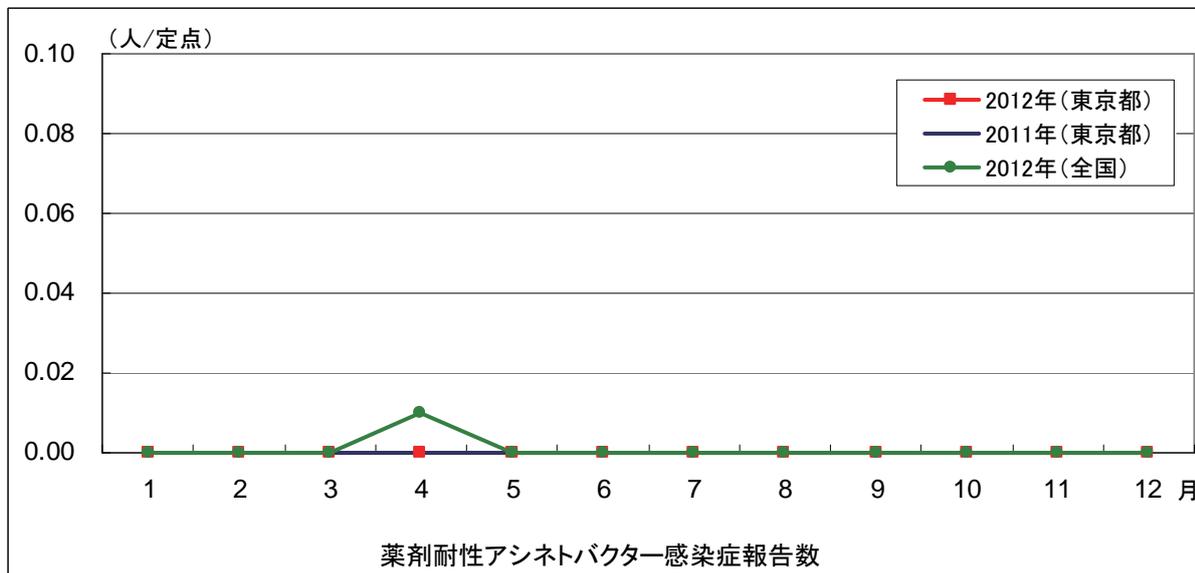
2012年は24人報告され、定点当たり0.97人であった。（ここ10年の平均は定点当たり1.46人）

月別変動は例数が少なく不明である。男女別では、男性18人（75.0%）、女性6人（25.0%）であった。年齢階級別では60歳以上が12人（50.0%）であった。



エ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2011年2月より調査の対象となったが、2011年に引き続き2012年も報告例はなかった。

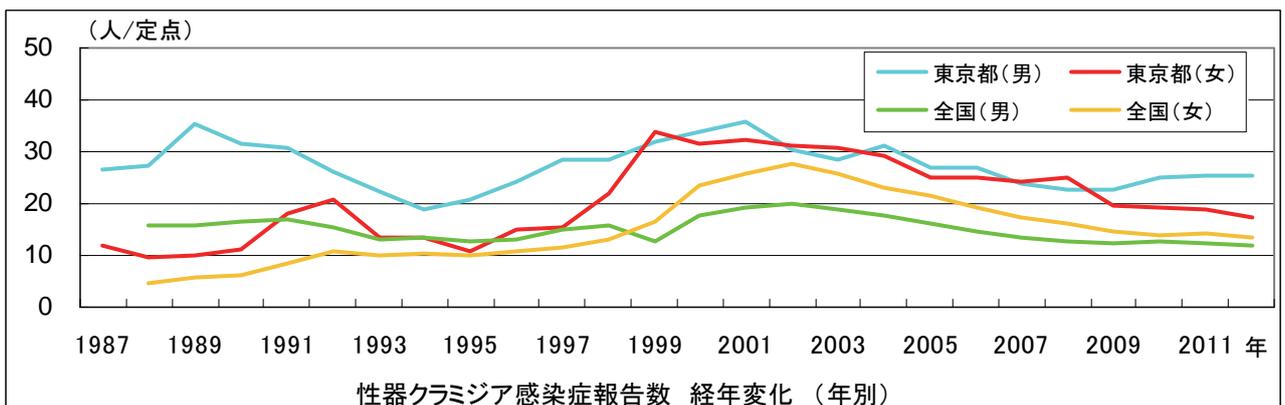
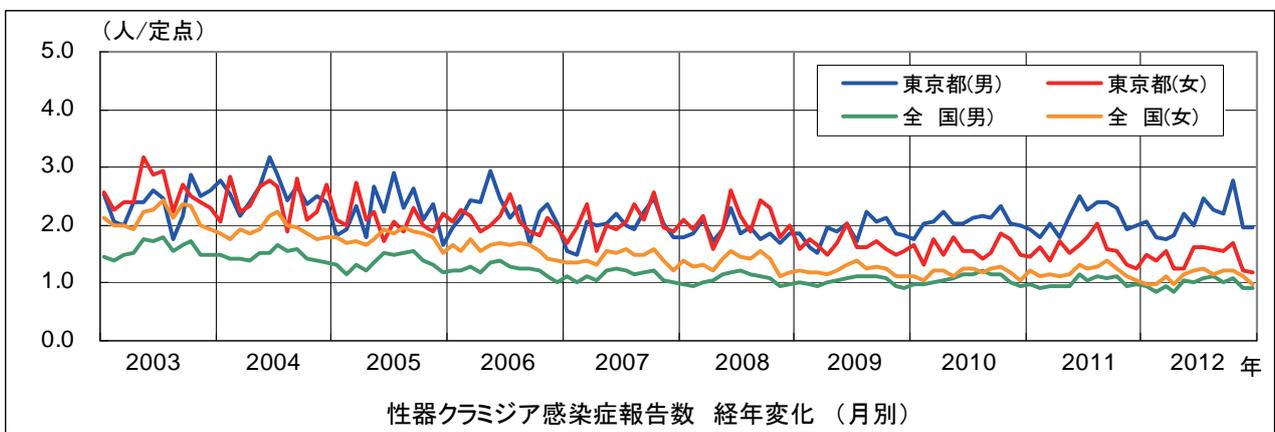
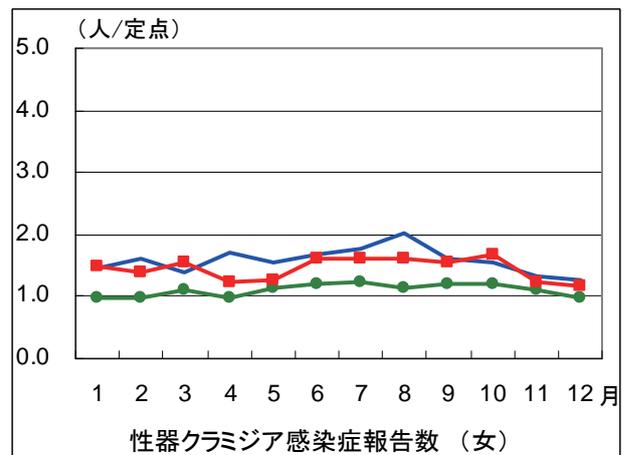
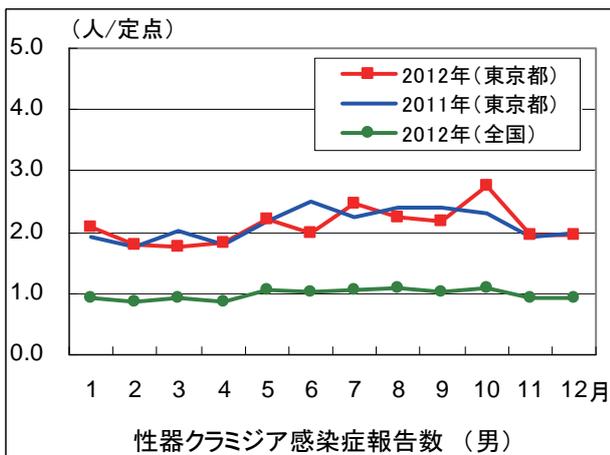


(6) 性感染症(STI)

ア 性器クラミジア感染症

2012年の報告数は2,315人、定点当たり42.64人であった。

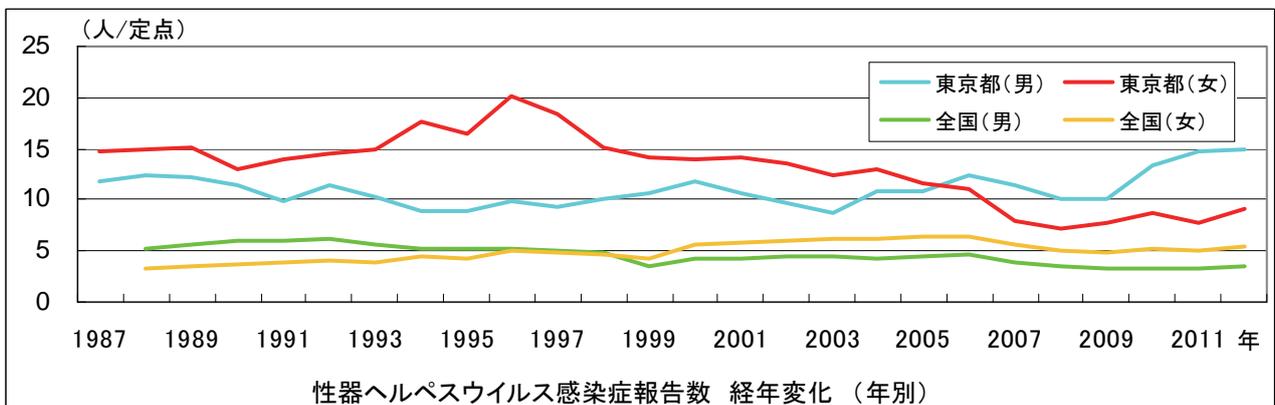
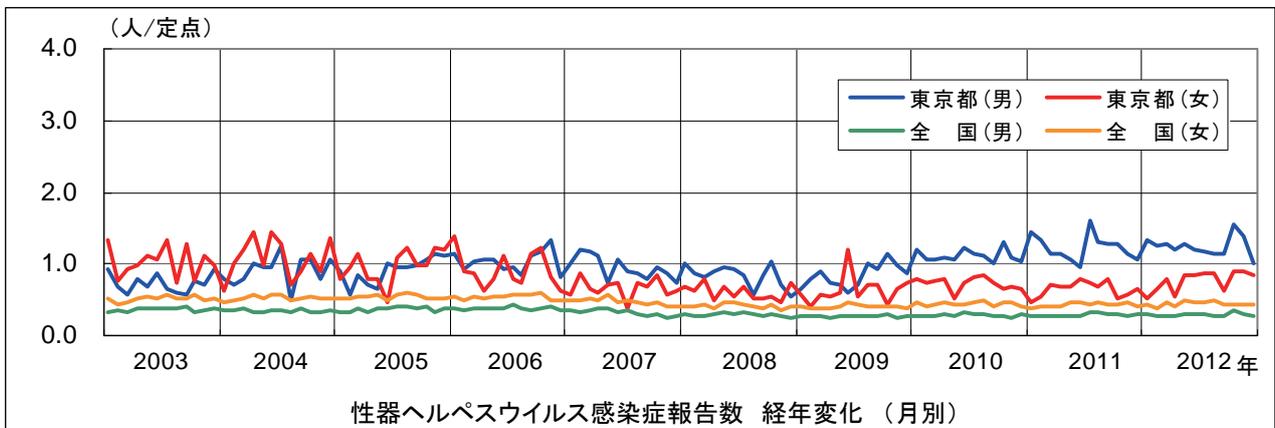
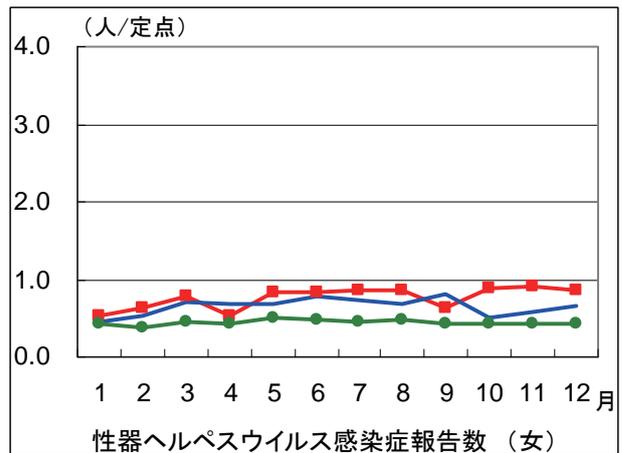
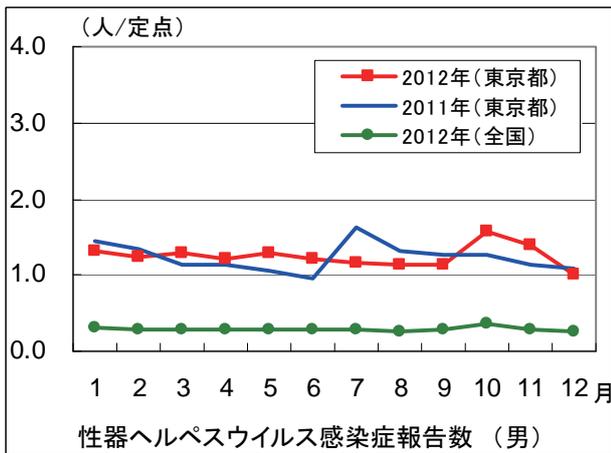
男女別では、男性の報告数は1,370人、定点当たり25.24人(前年比0.99)、女性の報告数は945人、定点当たり17.40人(前年比0.92)で男性に多い。月別定点当たり報告数は男性では10月が2.76人で最多、3月が1.76人で最小、女性では10月が1.67人で最多、12月が1.17人で最小であった。年齢階級別では、男性では20~39歳が967人で男性全体の70.6%を占め、女性では20~29歳が530人で女性全体の56.1%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は千代田84.00人、品川区80.00人、女性は多摩立川76.50人、大田区43.50人などが多くなっている。



イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2012年の報告数は1,311人、定点当たり24.17人であった。

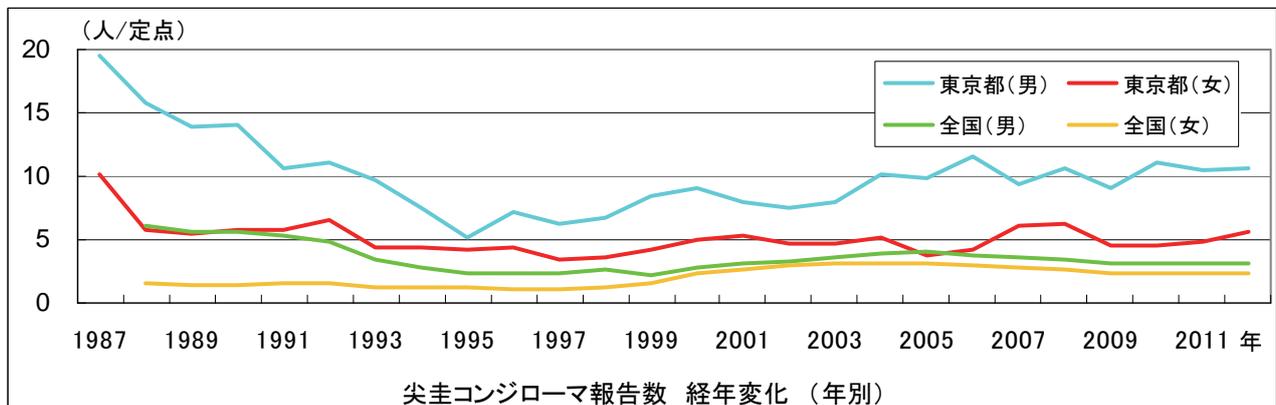
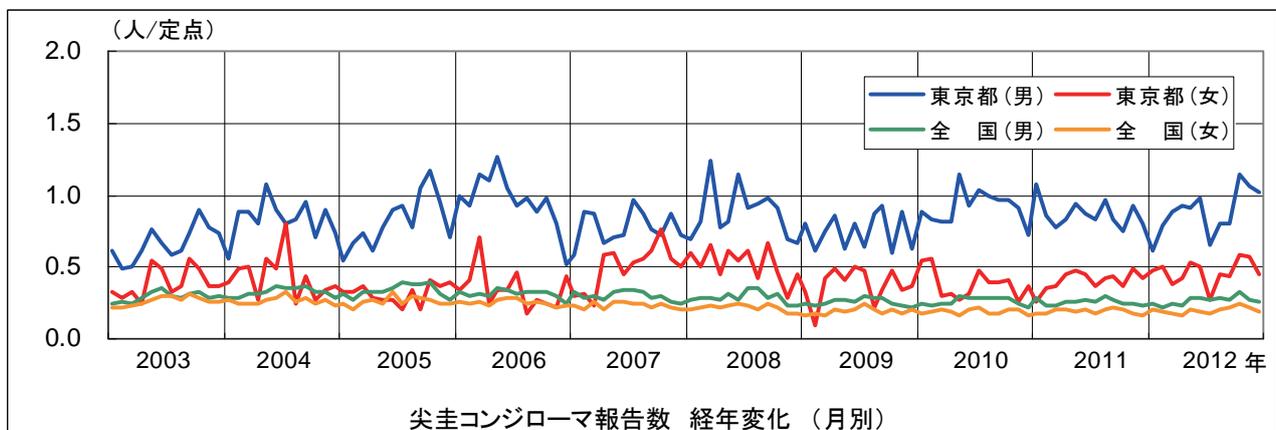
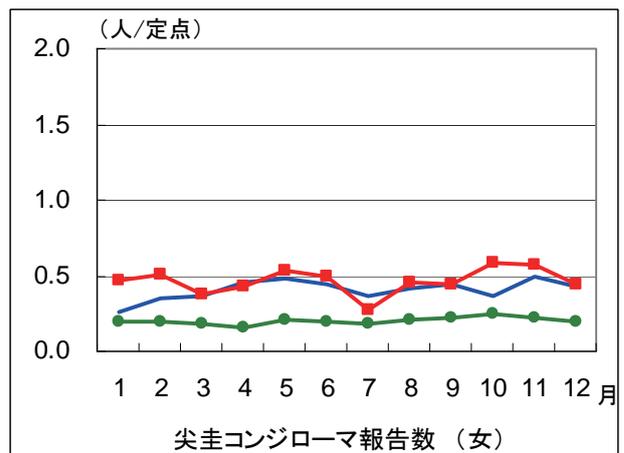
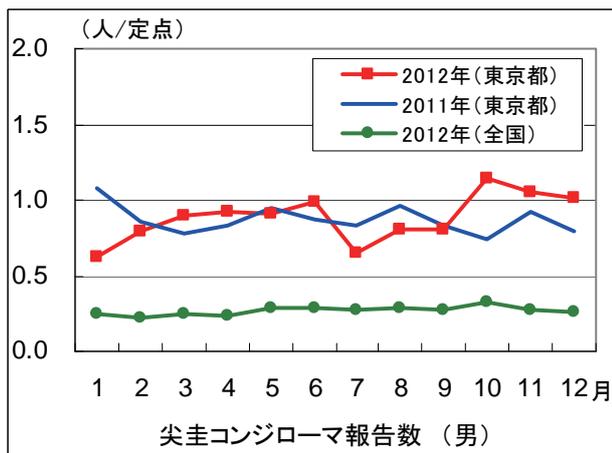
男女別では、男性の報告数は813人、定点当たり14.98人（前年比1.01）、女性の報告数は498人、定点当たり9.18人（前年比1.17）で男性に多い。月別定点当たり報告数は、男性では10月が1.56人で最多、12月が1.02人で最小となり、女性では11月が0.91人で最多、1月が0.53人で最小であった。年齢階級別では、男性では30～49歳が495人で男性全体の60.9%を占め、女性では20～39歳が332人で女性全体の66.7%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性はみなとの162.00人が突出して多く、女性はみなと40.50人、町田市21.00人、池袋20.67人などが多くなっている。



ウ 尖圭コンジローマ

2012年の報告数は877人、定点当たり16.17人であった。

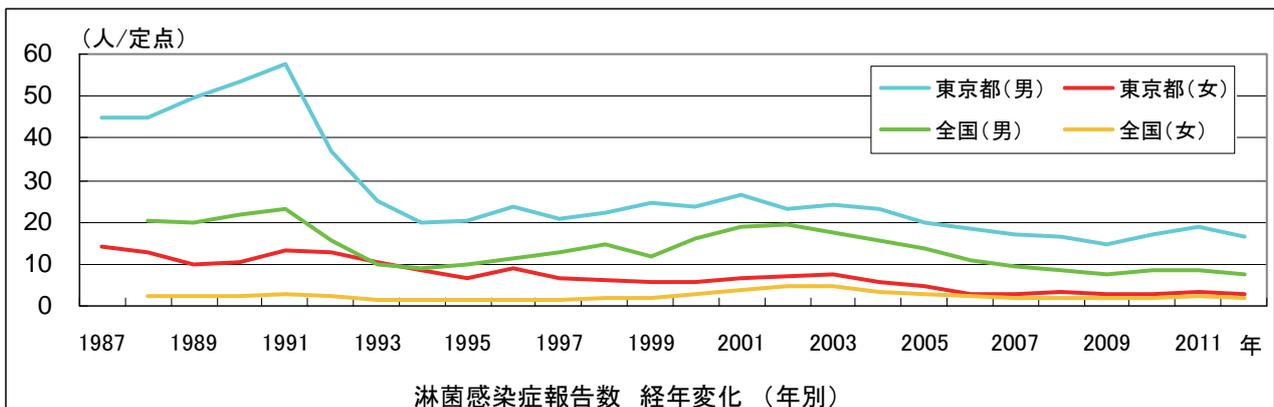
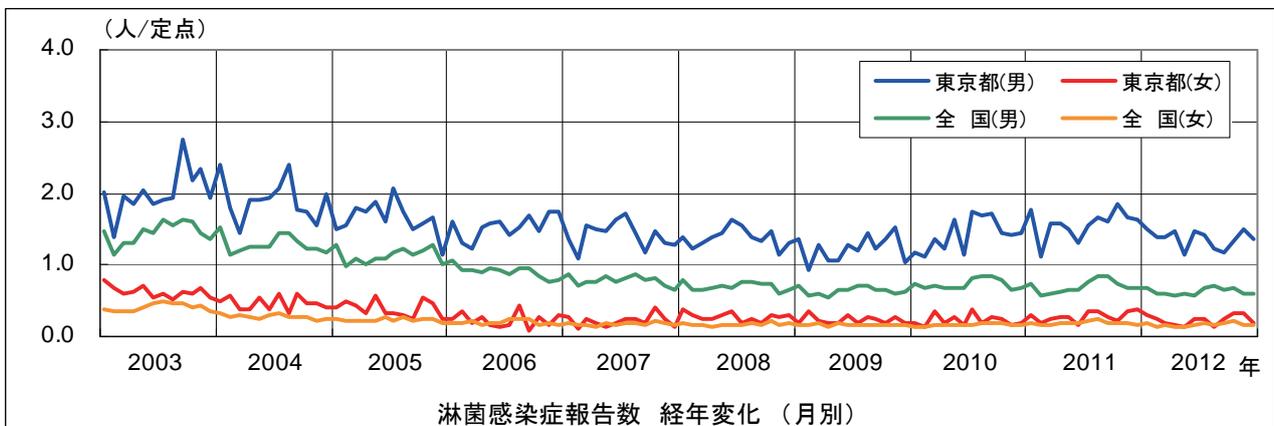
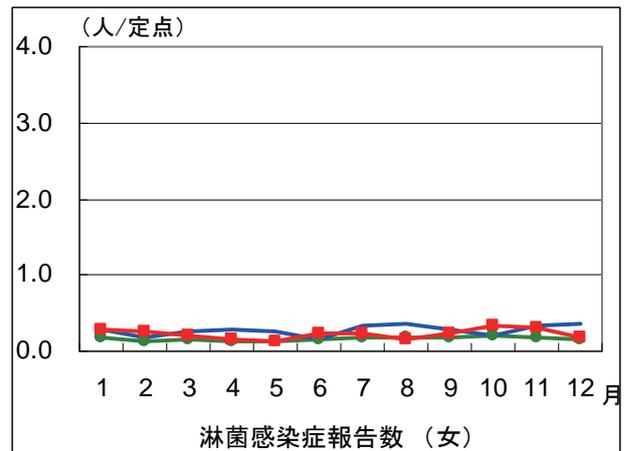
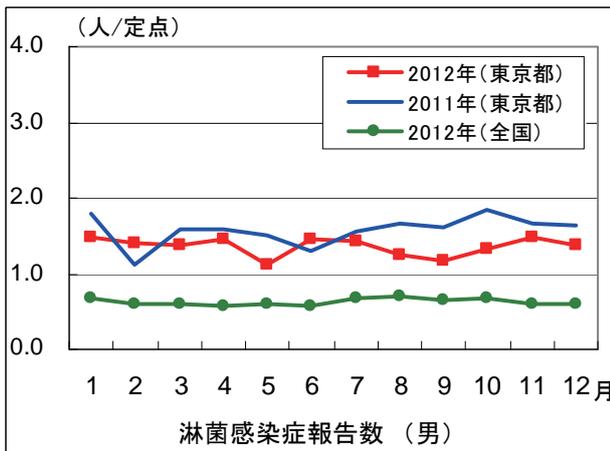
男女別では、男性の報告数は574人、定点当たり10.59人（前年比1.01）、女性の報告数は303人、定点当たり5.59人（前年比1.15）で男性に多い。月別定点当たり報告数は、男性では10月が1.15人で最多、1月が0.62人で最小、女性では10月が0.58人で最多、7月が0.28人で最小であった。年齢階級別では、男性では25～44歳が374人で男性全体の65.2%を占め、女性では20～39歳が252人で女性全体の83.2%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性はみなと48.50人、千代田32.00人、女性はみなと35.00人、新宿区14.17人などが多くなっている。



エ 淋菌感染症

2012年の報告数は1,035人、定点当たり19.09人であった。

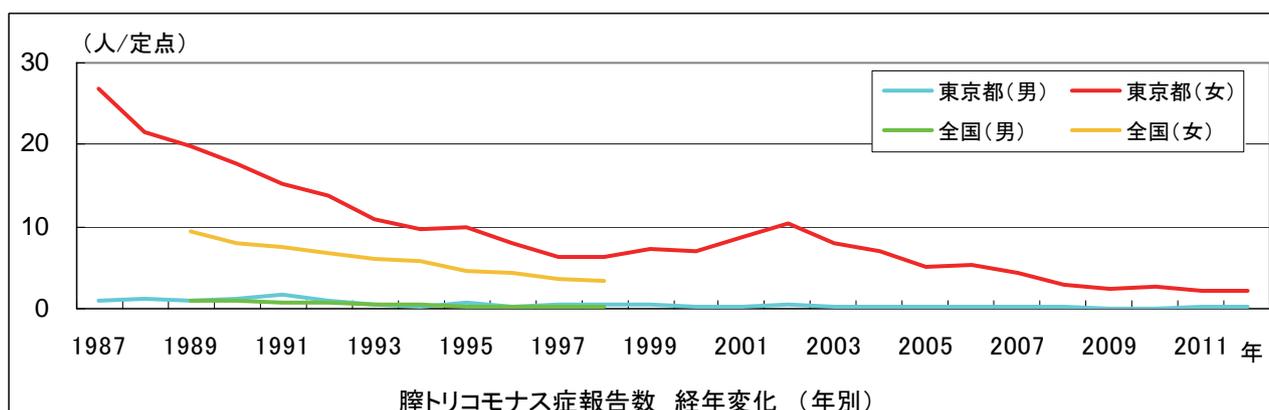
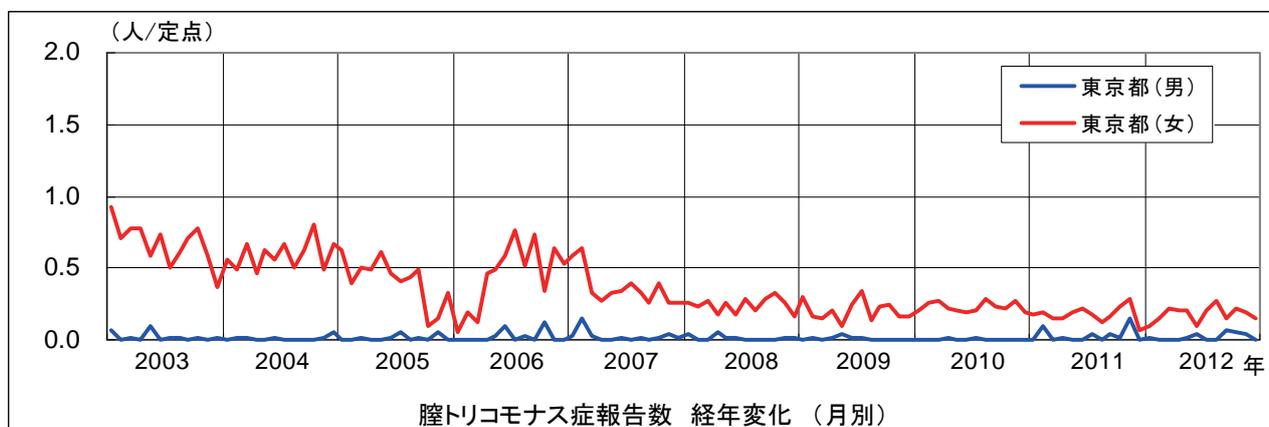
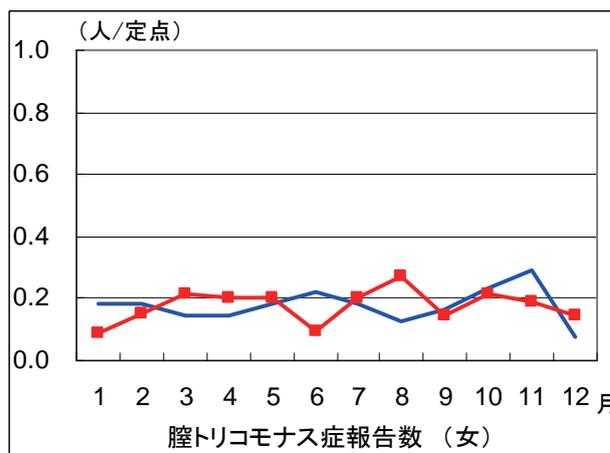
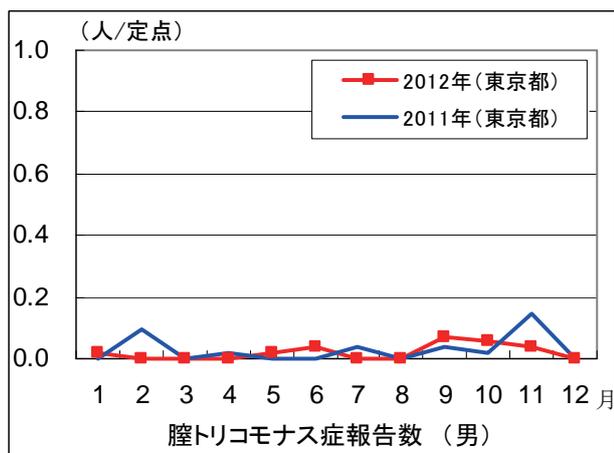
男女別では、男性の報告数は887人、定点当たり16.36人（前年比0.87）、女性の報告数は148人、定点当たり2.73人（前年比0.82）で男性に多い。月別定点当たり報告数は、男性では1月、11月が1.49人で最多、5月が1.13人で最小、女性では10月が0.33人で最多、5月が0.13人で最小であった。年齢階級別では、男性では20～39歳が650人で男性全体の73.3%を占め、女性では20～29歳が97人で女性全体の65.5%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は千代田72.50人、新宿区43.19人、女性は多摩立川12.00人、池袋9.33人などが多くなっている。



オ 臙トリコモナス症

2012年の報告数は129人、定点当たり2.38人であった。

男女別では、男性の報告数は13人、定点当たり0.24人（前年比0.69）、女性の報告数は116人、定点当たり2.14人（前年比1.00）で女性に多い。月別定点当たり報告数のうち、男性では2月、3月、4月、7月、8月、12月の報告がなく、報告があった月では9月が0.07人で最大、1月、5月が0.02人で最小であった。女性では8月の0.27人が最多、1月と6月の0.09人が最小であった。年齢階級別では、男性は報告数が少ないため集中する年齢階級が見られなかったが、女性では20～39歳が65人で女性全体の56.0%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は池袋と足立の1.00人、女性は江戸川9.00人、中野区8.00人などが多くなっている。



カ 梅毒様疾患

2012年の報告数は120人、定点当たり2.21人であった。

男女別では、男性の報告数は103人、定点当たり1.89人（前年比0.98）、女性の報告数は17人、定点当たり0.32人（前年比1.57）で男性に多い。月別定点当たり報告数では、男性は11月、女性は8月、9月に報告がなかった。報告があった月のうち、男性は10月が0.27人で最多、6月が0.07人で最小、女性は2月、11月が0.06人と最多、1月、4月、5月、6月、7月が0.02人と最小であった。年齢階級別では、男性は25～39歳が46人で男性全体の44.7%を占め、女性は20～34歳が10人で女性全体の58.8%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は新宿区の8.14人が多く、女性のみなど、墨田区、足立、江戸川などが1.00人となっている。

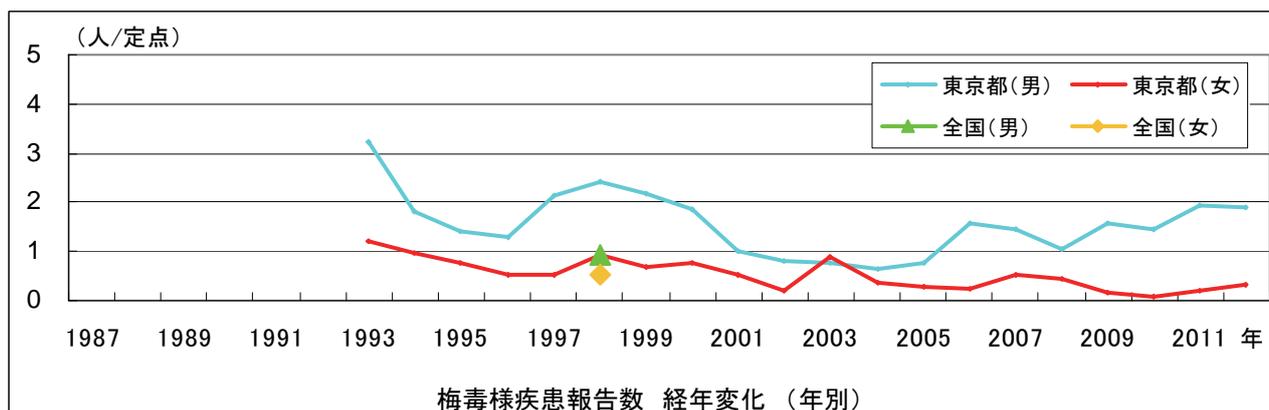
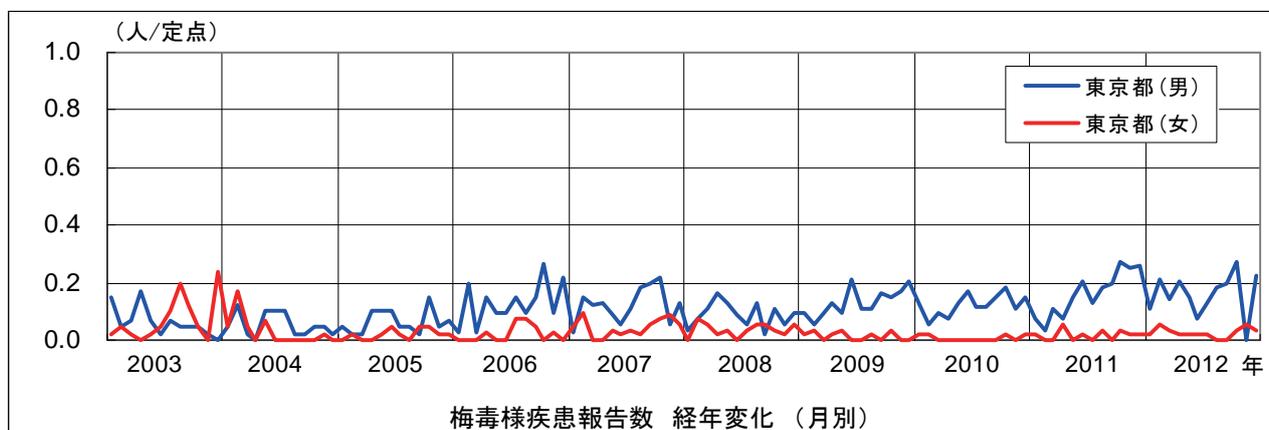
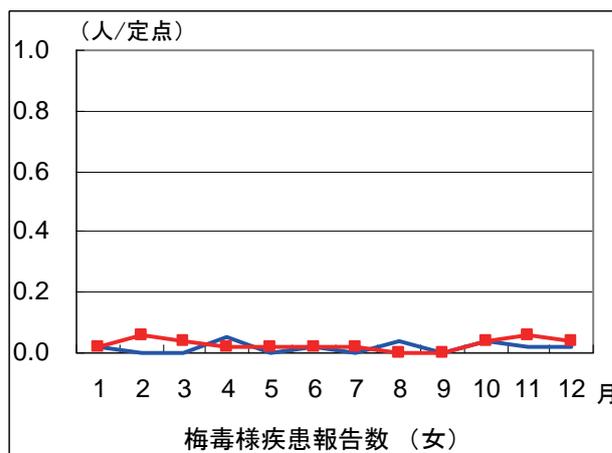
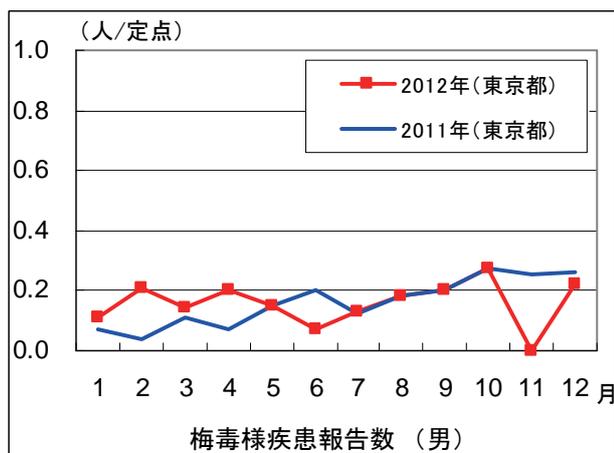


表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2012年第1週~2012年第52週

週	期間	報告定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	球菌咽頭炎 A群溶血性レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	1. 2~ 1. 8	410	387	257	85	79	227	1,921	590	25	67	78	5	4	76
2	1. 9~ 1.15	418	1,348	264	73	62	412	3,027	571	34	68	137	2	7	69
3	1.16~ 1.22	418	6,146	263	74	52	551	3,328	384	21	70	138	2	4	43
4	1.23~ 1.29	418	13,473	263	87	54	612	2,543	377	14	51	126	8	6	50
5	1.30~ 2. 5	419	18,939	264	68	60	529	2,062	278	12	71	124	6	7	39
6	2. 6~ 2.12	418	18,224	263	62	34	432	1,679	309	13	46	101	6	5	39
7	2.13~ 2.19	418	17,200	263	63	50	522	2,089	301	9	50	133	3	1	66
8	2.20~ 2.26	419	13,963	264	51	52	498	2,066	324	5	44	140	6	5	43
9	2.27~ 3. 4	418	11,006	263	52	40	441	1,978	274	2	27	110	8	6	42
10	3. 5~ 3.11	419	9,327	264	45	36	609	2,287	303	2	31	109	6	3	57
11	3.12~ 3.18	415	6,641	261	45	49	525	2,148	281	2	36	121	5	2	40
12	3.19~ 3.25	417	4,952	263	31	59	386	2,020	351	9	28	105	4	3	44
13	3.26~ 4. 1	418	3,414	263	26	31	365	2,171	256	13	33	160	2	1	46
14	4. 2~ 4. 8	414	1,881	261	34	28	325	2,311	246	2	34	127	10	4	49
15	4. 9~ 4.15	416	1,585	262	47	34	457	3,003	206	14	31	177	6	4	48
16	4.16~ 4.22	417	1,284	262	43	55	585	3,487	212	11	24	158	4	5	42
17	4.23~ 4.29	406	809	259	35	78	613	3,279	235	22	27	169	5	4	50
18	4.30~ 5. 6	401	197	251	17	39	285	1,290	114	28	28	97	4	4	31
19	5. 7~ 5.13	418	147	263	18	123	641	2,135	358	31	41	207	8	10	82
20	5.14~ 5.20	416	91	261	26	93	848	2,281	209	29	47	200	5	16	75
21	5.21~ 5.27	414	57	261	30	125	982	2,438	298	62	37	217	4	26	44
22	5.28~ 6. 3	415	42	261	37	158	872	2,537	280	81	43	213	9	69	75
23	6. 4~ 6.10	418	38	263	22	157	803	2,323	353	90	40	224	4	100	71
24	6.11~ 6.17	418	10	263	13	191	894	2,284	231	145	46	204	3	208	54
25	6.18~ 6.24	416	5	261	17	166	743	2,102	337	249	53	206	6	379	80
26	6.25~ 7. 1	418	3	263	26	192	759	1,946	287	258	38	198	7	747	84
27	7. 2~ 7. 8	418	4	263	33	189	633	1,751	219	231	66	230	10	1,172	105
28	7. 9~ 7.15	412	21	260	28	172	572	1,434	257	358	60	204	8	2,090	79
29	7.16~ 7.22	416	9	262	49	160	369	1,031	147	347	36	192	6	2,175	82
30	7.23~ 7.29	416	6	263	61	167	388	1,052	175	333	33	205	6	2,010	77
31	7.30~ 8. 5	413	5	260	69	152	287	982	129	308	21	197	5	1,412	59
32	8. 6~ 8.12	375	5	247	117	112	203	836	114	246	13	168	3	831	63
33	8.13~ 8.19	362	4	219	106	80	140	523	63	121	10	91	3	278	39
34	8.20~ 8.26	401	11	251	146	114	185	764	112	161	19	167	2	363	56
35	8.27~ 9. 2	406	9	259	251	118	201	941	67	154	15	239	7	324	66
36	9. 3~ 9. 9	411	43	261	317	115	242	940	114	154	20	233	9	262	57
37	9.10~ 9.16	409	43	258	358	194	270	963	82	132	20	243	5	227	75
38	9.17~ 9.23	406	27	255	333	148	232	796	104	140	16	153	4	155	65
39	9.24~ 9.30	415	15	261	569	133	292	998	106	134	5	191	7	156	58
40	10. 1~10. 7	409	11	259	567	129	288	947	99	148	10	181	8	115	83
41	10. 8~10.14	409	17	260	359	72	300	770	128	128	9	172	4	79	76
42	10.15~10.21	414	19	259	297	84	339	1,073	103	103	13	172	3	46	51
43	10.22~10.28	415	16	261	254	82	342	1,244	180	103	12	164	9	58	59
44	10.29~11. 4	416	20	261	171	77	373	1,473	141	103	10	146	11	25	48
45	11. 5~11.11	414	39	259	173	115	544	2,463	242	125	19	193	10	26	70
46	11.12~11.18	413	72	261	135	106	579	3,508	239	118	9	155	10	17	67
47	11.19~11.25	417	100	263	150	99	521	4,178	336	124	6	152	2	21	56
48	11.26~12. 2	418	128	263	110	144	566	6,210	343	100	15	167	4	20	56
49	12. 3~12. 9	417	261	262	138	186	641	7,061	431	110	12	162	8	16	61
50	12.10~12.16	418	467	263	135	184	646	6,873	381	107	22	136	1	16	59
51	12.17~12.23	417	966	263	181	148	727	5,989	407	85	16	139		15	40
52	12.24~12.30	410	1,577	258	115	133	428	3,432	311	55	28	116	3	9	43
	合 計		135,064		6,349	5,510	25,224	118,967	12,995	5,411	1,626	8,547	286	13,548	3,089

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2012年第1週~2012年第52週

週	期間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院
2	1. 9~ 1.15	264	21	4	39		23	25		4	27		25	12
3	1.16~ 1.22	263	18	5	38		18	25	2	1	20		25	21
4	1.23~ 1.29	263	19	7	39		22	25	2	3	19		25	55
5	1.30~ 2. 5	264	15	4	38		20	25		3	19		25	90
6	2. 6~ 2.12	263	14	2	38		21	25	1	1	17		25	89
7	2.13~ 2.19	263	15	3	39		28	25			17	1	25	64
8	2.20~ 2.26	264	15	5	39		22	24	1	2	23		25	68
9	2.27~ 3. 4	263	16	2	38		20	25		3	20		25	54
10	3. 5~ 3.11	264	19	3	38		10	25	2	2	21		25	26
11	3.12~ 3.18	261	12	8	38		14	24	1		14		25	18
12	3.19~ 3.25	263	14	3	38		10	24		3	15		25	17
13	3.26~ 4. 1	263	19	1	38		16	25	1	2	14		25	19
14	4. 2~ 4. 8	261	18	1	38		9	25			10		25	8
15	4. 9~ 4.15	262	13	3	38	1	16	25		1	16		25	13
16	4.16~ 4.22	262	14	4	38		14	25			27		25	9
17	4.23~ 4.29	259	24	3	38	1	25	25	1	1	17	1	25	7
18	4.30~ 5. 6	251	7	1	37	1	37	25			17		25	1
19	5. 7~ 5.13	263	20	3	38		58	25		2	14		25	1
20	5.14~ 5.20	261	14	2	38		44	25		5	15		25	1
21	5.21~ 5.27	261	20	4	38		22	25		2	23		25	
22	5.28~ 6. 3	261	20	6	38		39	25	1	2	15	1	25	1
23	6. 4~ 6.10	263	21	2	39		30	25	1	1	9		25	2
24	6.11~ 6.17	263	36	5	39		34	25		2	19		25	
25	6.18~ 6.24	261	53	8	38		22	25			19		25	
26	6.25~ 7. 1	263	36	4	38	1	17	25		4	14		25	
27	7. 2~ 7. 8	263	37	6	39		30	25	1	1	18		25	
28	7. 9~ 7.15	260	49	3	37	1	14	23		2	14		25	1
29	7.16~ 7.22	262	30	2	39	1	27	25	2	4	16		25	
30	7.23~ 7.29	263	51	3	37		23	25	2	4	22		25	
31	7.30~ 8. 5	260	55		38	3	27	25	3	3	6		25	2
32	8. 6~ 8.12	247	40	5	33	1	22	25	3	4	17	1	25	
33	8.13~ 8.19	219	26	1	36	1	12	25		6	11	1	25	
34	8.20~ 8.26	251	32	8	38		19	25		1	13	1	25	
35	8.27~ 9. 2	259	59	3	39	1	31	24		3	13		24	
36	9. 3~ 9. 9	261	35	1	38	1	31	25	2	3	22		25	
37	9.10~ 9.16	258	61	2	37		24	25	1	3	27		25	
38	9.17~ 9.23	255	45	2	38	1	13	25		1	23		25	
39	9.24~ 9.30	261	61	3	38		17	25		3	29	2	25	1
40	10. 1~10. 7	259	33	3	38		16	25	1	6	31		25	3
41	10. 8~10.14	260	32	6	38		12	25	2	1	30		25	1
42	10.15~10.21	259	32		38		17	25		4	33	1	25	1
43	10.22~10.28	261	24	2	38	1	14	25	3	2	36	1	25	
44	10.29~11. 4	261	16	6	39	1	15	25		4	29	1	25	1
45	11. 5~11.11	259	24	3	39		16	25	3	2	43		25	
46	11.12~11.18	261	20	3	39	1	13	25		3	32	1	25	
47	11.19~11.25	263	28	6	39	2	14	25		3	18	1	25	
48	11.26~12. 2	263	20	3	39		23	25		2	19		25	
49	12. 3~12. 9	262	27	3	38		21	25	1		29		25	2
50	12.10~12.16	263	20	3	38		20	25		7	22	1	25	1
51	12.17~12.23	263	21	3	38		31	25	2	2	23		25	3
52	12.24~12.30	258	20	3	37		12	25	2	2	19		25	11
合計			1,400	177		19	1,140		42	121	1,067	14		610

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2012年第1週~2012年第52週

週	期間	報告定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	1. 2~ 1. 8	410	0.94	257	0.33	0.31	0.88	7.47	2.30	0.10	0.26	0.30	0.02	0.02	0.30
2	1. 9~ 1.15	418	3.22	264	0.28	0.23	1.56	11.47	2.16	0.13	0.26	0.52	0.01	0.03	0.26
3	1.16~ 1.22	418	14.70	263	0.28	0.20	2.10	12.65	1.46	0.08	0.27	0.52	0.01	0.02	0.16
4	1.23~ 1.29	418	32.23	263	0.33	0.21	2.33	9.67	1.43	0.05	0.19	0.48	0.03	0.02	0.19
5	1.30~ 2. 5	419	45.20	264	0.26	0.23	2.00	7.81	1.05	0.05	0.27	0.47	0.02	0.03	0.15
6	2. 6~ 2.12	418	43.60	263	0.24	0.13	1.64	6.38	1.17	0.05	0.17	0.38	0.02	0.02	0.15
7	2.13~ 2.19	418	41.15	263	0.24	0.19	1.98	7.94	1.14	0.03	0.19	0.51	0.01	0.00	0.25
8	2.20~ 2.26	419	33.32	264	0.19	0.20	1.89	7.83	1.23	0.02	0.17	0.53	0.02	0.02	0.16
9	2.27~ 3. 4	418	26.33	263	0.20	0.15	1.68	7.52	1.04	0.01	0.10	0.42	0.03	0.02	0.16
10	3. 5~ 3.11	419	22.26	264	0.17	0.14	2.31	8.66	1.15	0.01	0.12	0.41	0.02	0.01	0.22
11	3.12~ 3.18	415	16.00	261	0.17	0.19	2.01	8.23	1.08	0.01	0.14	0.46	0.02	0.01	0.15
12	3.19~ 3.25	417	11.88	263	0.12	0.22	1.47	7.68	1.33	0.03	0.11	0.40	0.02	0.01	0.17
13	3.26~ 4. 1	418	8.17	263	0.10	0.12	1.39	8.25	0.97	0.05	0.13	0.61	0.01	0.00	0.17
14	4. 2~ 4. 8	414	4.54	261	0.13	0.11	1.25	8.85	0.94	0.01	0.13	0.49	0.04	0.02	0.19
15	4. 9~ 4.15	416	3.81	262	0.18	0.13	1.74	11.46	0.79	0.05	0.12	0.68	0.02	0.02	0.18
16	4.16~ 4.22	417	3.08	262	0.16	0.21	2.23	13.31	0.81	0.04	0.09	0.60	0.02	0.02	0.16
17	4.23~ 4.29	406	1.99	259	0.14	0.30	2.37	12.66	0.91	0.08	0.10	0.65	0.02	0.02	0.19
18	4.30~ 5. 6	401	0.49	251	0.07	0.16	1.14	5.14	0.45	0.11	0.11	0.39	0.02	0.02	0.12
19	5. 7~ 5.13	418	0.35	263	0.07	0.47	2.44	8.12	1.36	0.12	0.16	0.79	0.03	0.04	0.31
20	5.14~ 5.20	416	0.22	261	0.10	0.36	3.25	8.74	0.80	0.11	0.18	0.77	0.02	0.06	0.29
21	5.21~ 5.27	414	0.14	261	0.11	0.48	3.76	9.34	1.14	0.24	0.14	0.83	0.02	0.10	0.17
22	5.28~ 6. 3	415	0.10	261	0.14	0.61	3.34	9.72	1.07	0.31	0.16	0.82	0.03	0.26	0.29
23	6. 4~ 6.10	418	0.09	263	0.08	0.60	3.05	8.83	1.34	0.34	0.15	0.85	0.02	0.38	0.27
24	6.11~ 6.17	418	0.02	263	0.05	0.73	3.40	8.68	0.88	0.55	0.17	0.78	0.01	0.79	0.21
25	6.18~ 6.24	416	0.01	261	0.07	0.64	2.85	8.05	1.29	0.95	0.20	0.79	0.02	1.45	0.31
26	6.25~ 7. 1	418	0.01	263	0.10	0.73	2.89	7.40	1.09	0.98	0.14	0.75	0.03	2.84	0.32
27	7. 2~ 7. 8	418	0.01	263	0.13	0.72	2.41	6.66	0.83	0.88	0.25	0.87	0.04	4.46	0.40
28	7. 9~ 7.15	412	0.05	260	0.11	0.66	2.20	5.52	0.99	1.38	0.23	0.78	0.03	8.04	0.30
29	7.16~ 7.22	416	0.02	262	0.19	0.61	1.41	3.94	0.56	1.32	0.14	0.73	0.02	8.30	0.31
30	7.23~ 7.29	416	0.01	263	0.23	0.63	1.48	4.00	0.67	1.27	0.13	0.78	0.02	7.64	0.29
31	7.30~ 8. 5	413	0.01	260	0.27	0.58	1.10	3.78	0.50	1.18	0.08	0.76	0.02	5.43	0.23
32	8. 6~ 8.12	375	0.01	247	0.47	0.45	0.82	3.38	0.46	1.00	0.05	0.68	0.01	3.36	0.26
33	8.13~ 8.19	362	0.01	219	0.48	0.37	0.64	2.39	0.29	0.55	0.05	0.42	0.01	1.27	0.18
34	8.20~ 8.26	401	0.03	251	0.58	0.45	0.74	3.04	0.45	0.64	0.08	0.67	0.01	1.45	0.22
35	8.27~ 9. 2	406	0.02	259	0.97	0.46	0.78	3.63	0.26	0.59	0.06	0.92	0.03	1.25	0.25
36	9. 3~ 9. 9	411	0.10	261	1.21	0.44	0.93	3.60	0.44	0.59	0.08	0.89	0.03	1.00	0.22
37	9.10~ 9.16	409	0.11	258	1.39	0.75	1.05	3.73	0.32	0.51	0.08	0.94	0.02	0.88	0.29
38	9.17~ 9.23	406	0.07	255	1.31	0.58	0.91	3.12	0.41	0.55	0.06	0.60	0.02	0.61	0.25
39	9.24~ 9.30	415	0.04	261	2.18	0.51	1.12	3.82	0.41	0.51	0.02	0.73	0.03	0.60	0.22
40	10. 1~10. 7	409	0.03	259	2.19	0.50	1.11	3.66	0.38	0.57	0.04	0.70	0.03	0.44	0.32
41	10. 8~10.14	409	0.04	260	1.38	0.28	1.15	2.96	0.49	0.49	0.03	0.66	0.02	0.30	0.29
42	10.15~10.21	414	0.05	259	1.15	0.32	1.31	4.14	0.40	0.40	0.05	0.66	0.01	0.18	0.20
43	10.22~10.28	415	0.04	261	0.97	0.31	1.31	4.77	0.69	0.39	0.05	0.63	0.03	0.22	0.23
44	10.29~11. 4	416	0.05	261	0.66	0.30	1.43	5.64	0.54	0.39	0.04	0.56	0.04	0.10	0.18
45	11. 5~11.11	414	0.09	259	0.67	0.44	2.10	9.51	0.93	0.48	0.07	0.75	0.04	0.10	0.27
46	11.12~11.18	413	0.17	261	0.52	0.41	2.22	13.44	0.92	0.45	0.03	0.59	0.04	0.07	0.26
47	11.19~11.25	417	0.24	263	0.57	0.38	1.98	15.89	1.28	0.47	0.02	0.58	0.01	0.08	0.21
48	11.26~12. 2	418	0.31	263	0.42	0.55	2.15	23.61	1.30	0.38	0.06	0.63	0.02	0.08	0.21
49	12. 3~12. 9	417	0.63	262	0.53	0.71	2.45	26.95	1.65	0.42	0.05	0.62	0.03	0.06	0.23
50	12.10~12.16	418	1.12	263	0.51	0.70	2.46	26.13	1.45	0.41	0.08	0.52	0.00	0.06	0.22
51	12.17~12.23	417	2.32	263	0.69	0.56	2.76	22.77	1.55	0.32	0.06	0.53		0.06	0.15
52	12.24~12.30	410	3.85	258	0.45	0.52	1.66	13.30	1.21	0.21	0.11	0.45	0.01	0.03	0.17
	平均		6.22		0.47	0.41	1.86	8.76	0.96	0.40	0.12	0.63	0.02	1.01	0.23

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2012年第1週~2012年第52週

週	期間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	眼科			基幹				インフルエンザ入院		
					報告定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	報告定点数	インフルエンザ入院
1	1. 2~ 1. 8	257	0.04	0.00	36		0.97	25	0.04	0.04	1.24		25	0.28
2	1. 9~ 1.15	264	0.08	0.02	39		0.59	25		0.16	1.08		25	0.48
3	1.16~ 1.22	263	0.07	0.02	38		0.47	25	0.08	0.04	0.80		25	0.84
4	1.23~ 1.29	263	0.07	0.03	39		0.56	25	0.08	0.12	0.76		25	2.20
5	1.30~ 2. 5	264	0.06	0.02	38		0.53	25		0.12	0.76		25	3.60
6	2. 6~ 2.12	263	0.05	0.01	38		0.55	25	0.04	0.04	0.68		25	3.56
7	2.13~ 2.19	263	0.06	0.01	39		0.72	25			0.68	0.04	25	2.56
8	2.20~ 2.26	264	0.06	0.02	39		0.56	24	0.04	0.08	0.96		25	2.72
9	2.27~ 3. 4	263	0.06	0.01	38		0.53	25		0.12	0.80		25	2.16
10	3. 5~ 3.11	264	0.07	0.01	38		0.26	25	0.08	0.08	0.84		25	1.04
11	3.12~ 3.18	261	0.05	0.03	38		0.37	24	0.04		0.58		25	0.72
12	3.19~ 3.25	263	0.05	0.01	38		0.26	24		0.13	0.63		25	0.68
13	3.26~ 4. 1	263	0.07	0.00	38		0.42	25	0.04	0.08	0.56		25	0.76
14	4. 2~ 4. 8	261	0.07	0.00	38		0.24	25			0.40		25	0.32
15	4. 9~ 4.15	262	0.05	0.01	38	0.03	0.42	25		0.04	0.64		25	0.52
16	4.16~ 4.22	262	0.05	0.02	38		0.37	25			1.08		25	0.36
17	4.23~ 4.29	259	0.09	0.01	38	0.03	0.66	25	0.04	0.04	0.68	0.04	25	0.28
18	4.30~ 5. 6	251	0.03	0.00	37	0.03	1.00	25			0.68		25	0.04
19	5. 7~ 5.13	263	0.08	0.01	38		1.53	25		0.08	0.56		25	0.04
20	5.14~ 5.20	261	0.05	0.01	38		1.16	25		0.20	0.60		25	0.04
21	5.21~ 5.27	261	0.08	0.02	38		0.58	25		0.08	0.92		25	
22	5.28~ 6. 3	261	0.08	0.02	38		1.03	25	0.04	0.08	0.60	0.04	25	0.04
23	6. 4~ 6.10	263	0.08	0.01	39		0.77	25	0.04	0.04	0.36		25	0.08
24	6.11~ 6.17	263	0.14	0.02	39		0.87	25		0.08	0.76		25	
25	6.18~ 6.24	261	0.20	0.03	38		0.58	25			0.76		25	
26	6.25~ 7. 1	263	0.14	0.02	38	0.03	0.45	25		0.16	0.56		25	
27	7. 2~ 7. 8	263	0.14	0.02	39		0.77	25	0.04	0.04	0.72		25	
28	7. 9~ 7.15	260	0.19	0.01	37	0.03	0.38	23		0.09	0.61		25	0.04
29	7.16~ 7.22	262	0.11	0.01	39	0.03	0.69	25	0.08	0.16	0.64		25	
30	7.23~ 7.29	263	0.19	0.01	37		0.62	25	0.08	0.16	0.88		25	
31	7.30~ 8. 5	260	0.21		38	0.08	0.71	25	0.12	0.12	0.24		25	0.08
32	8. 6~ 8.12	247	0.16	0.02	33	0.03	0.67	25	0.12	0.16	0.68	0.04	25	
33	8.13~ 8.19	219	0.12	0.00	36	0.03	0.33	25		0.24	0.44	0.04	25	
34	8.20~ 8.26	251	0.13	0.03	38		0.50	25		0.04	0.52	0.04	25	
35	8.27~ 9. 2	259	0.23	0.01	39	0.03	0.79	24		0.13	0.54		24	
36	9. 3~ 9. 9	261	0.13	0.00	38	0.03	0.82	25	0.08	0.12	0.88		25	
37	9.10~ 9.16	258	0.24	0.01	37		0.65	25	0.04	0.12	1.08		25	
38	9.17~ 9.23	255	0.18	0.01	38	0.03	0.34	25		0.04	0.92		25	
39	9.24~ 9.30	261	0.23	0.01	38		0.45	25		0.12	1.16	0.08	25	0.04
40	10. 1~10. 7	259	0.13	0.01	38		0.42	25	0.04	0.24	1.24		25	0.12
41	10. 8~10.14	260	0.12	0.02	38		0.32	25	0.08	0.04	1.20		25	0.04
42	10.15~10.21	259	0.12		38		0.45	25		0.16	1.32	0.04	25	0.04
43	10.22~10.28	261	0.09	0.01	38	0.03	0.37	25	0.12	0.08	1.44	0.04	25	
44	10.29~11. 4	261	0.06	0.02	39	0.03	0.38	25		0.16	1.16	0.04	25	0.04
45	11. 5~11.11	259	0.09	0.01	39		0.41	25	0.12	0.08	1.72		25	
46	11.12~11.18	261	0.08	0.01	39	0.03	0.33	25		0.12	1.28	0.04	25	
47	11.19~11.25	263	0.11	0.02	39	0.05	0.36	25		0.12	0.72	0.04	25	
48	11.26~12. 2	263	0.08	0.01	39		0.59	25		0.08	0.76		25	
49	12. 3~12. 9	262	0.10	0.01	38		0.55	25	0.04		1.16		25	0.08
50	12.10~12.16	263	0.08	0.01	38		0.53	25		0.28	0.88	0.04	25	0.04
51	12.17~12.23	263	0.08	0.01	38		0.82	25	0.08	0.08	0.92		25	0.12
52	12.24~12.30	258	0.08	0.01	37		0.32	25	0.08	0.08	0.76		25	0.44
	平均		0.10	0.01		0.01	0.58		0.03	0.09	0.82	0.01		0.47

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2012年第1週~2012年第52週

保健所	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	4	677	3	31	4	37	458	62	39	4	39		65	10
中央区	5	960	3	47	62	198	753	100	76	4	138		124	54
みなと	9	2,489	6	299	332	400	2,233	351	114	26	257	26	265	28
新宿区	12	2,497	8	411	81	832	2,095	147	104	16	156	4	228	58
文京	7	1,430	4	32	54	171	927	153	62	20	98	3	100	26
台東	7	1,579	4	91	39	296	2,347	128	251	49	144	1	125	44
墨田区	8	1,794	5	162	41	464	1,103	205	91	26	158		190	25
江東区	14	5,039	9	359	377	907	6,799	502	454	142	422	1	639	93
品川区	12	2,553	8	87	119	554	3,854	241	119	43	232	7	284	14
目黒区	8	853	5	24	20	92	1,235	73	33	29	79		58	27
大田区	21	6,789	13	613	944	1,647	8,276	657	217	57	483	56	758	337
世田谷	25	8,574	16	379	236	2,133	8,211	704	722	178	435	14	636	97
渋谷区	7	1,128	4	36	38	99	1,312	136	32	9	95	2	90	19
中野区	11	2,462	7	121	21	351	3,304	271	84	19	197		347	60
杉並	16	4,166	10	50	47	617	3,952	284	68	13	239	2	210	127
池袋	8	1,916	5	34	22	117	944	59	42	9	33	9	109	25
北区	11	2,798	7	44	64	252	2,417	355	166	17	258	1	339	138
荒川区	7	2,800	4	366	425	510	2,636	282	259	48	249	17	353	38
板橋区	16	2,743	10	24	55	189	2,466	346	87	41	273	7	177	85
練馬区	21	7,328	13	151	180	1,261	5,585	597	129	27	421	16	1,021	70
足立	20	6,203	13	241	216	1,064	6,705	572	233	85	415	7	742	229
葛飾区	13	5,199	8	62	69	611	4,307	427	180	43	270	2	472	74
江戸川	19	6,098	12	227	525	1,552	6,561	498	273	55	400	12	818	106
八王子市	18	8,654	11	405	365	2,053	7,753	1,021	235	86	406	7	779	456
町田市	13	5,390	8	94	129	1,801	5,827	713	359	90	330	2	797	125
西多摩	14	4,608	8	80	106	467	2,385	373	48	48	128	7	258	73
南多摩	14	5,999	9	344	125	788	4,217	755	203	74	316	5	809	152
多摩立川	21	7,695	14	449	111	1,496	5,034	655	170	43	386	7	518	195
多摩府中	33	12,341	21	307	214	2,021	8,357	1,106	300	224	757	45	945	190
多摩小平	23	11,599	15	766	480	2,174	6,818	1,157	225	50	717	26	1,270	111
島しょ	2	703	1	13	9	70	96	65	36	51	16		22	3
合計	419	135,064	264	6,349	5,510	25,224	118,967	12,995	5,411	1,626	8,547	286	13,548	3,089
定点当たり報告数		323.29		24.51	21.20	96.60	455.28	49.75	20.90	6.23	32.85	1.10	52.28	11.88
前年定点当たり報告数		240.03		13.94	18.95	97.66	367.56	60.11	95.84	24.23	32.44	1.73	55.78	17.23
当年/前年		1.35		1.76	1.12	0.99	1.24	0.83	0.22	0.26	1.01	0.64	0.94	0.69

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2012年第1週~2012年第52週

保健所	設置定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病
千代田	3	13	5
中央区	3	3	
みなと	6	3	6
新宿区	8	14	13
文京	4	6	
台東	4	3	1
墨田区	5	34	3
江東区	9	144	8
品川区	8	16	1
目黒区	5	8	2
大田区	13	140	14
世田谷	16	129	9
渋谷区	4	2	3
中野区	7	33	4
杉並	10	7	3
池袋	5	1	
北区	7	15	5
荒川区	4	60	10
板橋区	10	68	
練馬区	13	33	7
足立	13	24	1
葛飾区	8	32	5
江戸川	12	32	6
八王子市	11	115	8
町田市	8	148	3
西多摩	8	6	3
南多摩	9	15	6
多摩立川	14	56	8
多摩府中	21	157	22
多摩小平	15	83	20
島しょ	1		1
合計	264	1,400	177
定点当たり報告数		5.40	0.68
前年定点当たり報告数		5.78	0.83
当年/前年		0.93	0.82

設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1		75
2	2	31
1		56
1		12
1		50
1	2	20
1		58
2		42
2	5	26
1		97
1	2	14
1		26
1	1	27
1		19
1	1	41
2		18
2		30
2	3	87
1	2	30
2		39
2	1	43
1		
1		7
1		6
2		7
3		43
2		236
39	19	1,140
	0.50	30.01
	0.84	22.73
	0.60	1.32

設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	インフルエンザ入院
2			43		11
1	2	4	11	1	16
2	2	7	160	3	23
1	1	3	4		25
1	7	33	44	1	47
1		4	12		1
2	4	29	25		78
1		1	58	4	60
1					12
1	6				
1		9	11		40
1			34		17
1			349	5	58
1	1	1			23
1	1		2		6
1		2	9		23
3	16	23	189		127
2	2	5	114		43
1			2		
25	42	121	1,067	14	610
	1.68	4.86	42.84	0.56	24.40
	2.14	3.91	46.78	0.74	0.48
	0.79	1.24	0.92	0.75	50.83

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2012年第1週~2012年第52週

保健所	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	4	169.25	3	10.33	1.33	12.33	152.67	20.67	13.00	1.33	13.00		21.67	3.33
中央区	5	192.00	3	15.67	20.67	66.00	251.00	33.33	25.33	1.33	46.00		41.33	18.00
みなと	9	276.60	6	50.25	56.18	66.88	374.00	58.73	19.00	4.33	43.40	4.50	44.50	4.83
新宿区	12	208.12	8	52.54	10.16	104.81	262.99	18.49	13.11	2.00	19.73	0.54	28.81	7.29
文京	7	205.74	4	8.00	13.50	42.75	231.75	38.25	15.50	5.00	24.50	0.75	25.00	6.50
台東	7	225.57	4	22.75	9.75	74.00	586.75	32.00	62.75	12.25	36.00	0.25	31.25	11.00
墨田区	8	224.25	5	32.65	8.30	92.90	220.75	41.05	18.70	5.20	31.75		38.85	5.00
江東区	14	359.93	9	39.89	41.89	100.78	755.44	55.78	50.44	15.78	46.89	0.11	71.00	10.33
品川区	12	213.29	8	11.04	14.91	69.50	483.09	30.27	15.02	5.50	29.23	0.88	35.80	1.77
目黒区	8	108.61	5	4.80	4.00	18.55	248.95	14.60	6.60	5.90	15.85		11.60	5.60
大田区	21	323.40	13	48.83	73.87	128.29	642.55	50.96	17.13	4.44	37.79	4.39	58.99	26.32
世田谷	25	343.30	16	24.36	14.92	134.77	517.54	44.47	45.94	11.31	27.73	0.88	40.92	6.23
渋谷区	7	163.07	4	9.00	10.00	24.83	329.67	34.50	8.00	2.33	23.83	0.50	23.00	4.75
中野区	11	223.82	7	17.29	3.00	50.14	472.00	38.71	12.00	2.71	28.14		49.57	8.57
杉並	16	260.55	10	5.18	5.01	62.01	398.71	28.52	6.92	1.30	24.63	0.20	21.81	12.84
池袋	8	239.79	5	7.00	4.82	24.97	196.63	12.23	9.08	1.85	7.08	1.85	23.93	5.28
北区	11	257.78	7	6.29	9.26	36.60	350.74	51.36	24.23	2.45	37.27	0.14	49.21	20.18
荒川区	7	400.05	4	92.00	106.58	127.58	659.42	70.67	65.25	12.00	62.33	4.25	88.42	9.50
板橋区	16	172.06	10	2.68	5.83	20.36	262.33	36.49	9.33	4.26	28.81	0.72	18.12	9.00
練馬区	21	348.99	13	12.25	14.26	97.99	434.19	46.33	10.50	2.11	33.39	1.24	80.88	5.60
足立	20	310.37	13	18.61	16.71	82.59	518.93	44.40	18.82	6.56	32.57	0.54	57.95	17.78
葛飾区	13	400.33	8	7.75	8.67	76.71	540.17	53.67	22.63	5.46	33.79	0.25	59.00	9.25
江戸川	19	323.51	12	19.37	44.32	130.54	552.94	41.85	23.00	4.62	33.79	1.02	68.80	8.96
八王子市	18	480.78	11	36.98	33.48	187.10	706.66	93.16	21.42	7.90	37.09	0.64	71.65	41.70
町田市	13	414.62	8	11.75	16.41	225.52	729.66	89.30	45.18	11.25	41.50	0.25	100.57	15.73
西多摩	14	329.14	8	10.00	13.25	58.38	298.13	46.63	6.00	6.00	16.00	0.88	32.25	9.13
南多摩	14	428.60	9	38.93	14.03	87.85	469.72	84.24	22.85	8.22	35.42	0.56	91.58	16.99
多摩立川	21	366.70	14	32.07	7.93	106.86	359.57	46.79	12.14	3.07	27.57	0.50	37.00	13.93
多摩府中	33	378.36	21	15.44	10.62	99.69	410.53	54.47	15.07	11.10	37.60	2.28	47.88	9.45
多摩小平	23	504.83	15	51.27	32.36	146.90	461.64	77.95	15.05	3.38	48.50	1.74	84.77	7.46
島しょ	2	351.50	1	13.00	9.00	70.00	96.00	65.00	36.00	51.00	16.00		22.00	3.00
定点当たり報告数		323.29		24.51	21.20	96.60	455.28	49.75	20.90	6.23	32.85	1.10	52.28	11.88
前年定点当たり報告数		240.03		13.94	18.95	97.66	367.56	60.11	95.84	24.23	32.44	1.73	55.78	17.23
当年/前年		1.35		1.76	1.12	0.99	1.24	0.83	0.22	0.26	1.01	0.64	0.94	0.69

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2012年第1週～2012年第52週

保健所	設置定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	インフルエンザ入院
中央区	3	1.00		1		75.00						
みなと	6	0.50	1.00				1	2.00	4.00	11.00	1.00	16.00
新宿区	8	1.75	1.73	2	1.50	20.00	2	1.00	3.50	80.00	1.50	11.50
文京	4	1.50		1		56.00	1	1.00	3.00	4.00		25.00
台東	4	0.75	0.25									
墨田区	5	6.85	0.60	1		12.00	1	7.00	33.00	44.00	1.00	47.00
江東区	9	16.00	0.89	1		50.00						
品川区	8	2.02	0.13	1	2.00	20.00						
目黒区	5	1.60	0.40	1		58.00						
大田区	13	11.08	1.10	2		21.00	1		4.00	12.00		1.00
世田谷	16	8.23	0.57	2	3.00	13.50	2	2.00	14.50	12.50		39.00
渋谷区	4	0.50	0.75	1		97.00	1		1.00	58.00	4.00	60.00
中野区	7	4.71	0.57	1	2.00	14.00	1					12.00
杉並	10	0.70	0.30	1		26.00	1	6.00				
池袋	5	0.20		1	1.00	27.00	1		9.00	11.00		40.00
北区	7	2.14	0.71	1		19.00						
荒川区	4	15.00	2.50	1	1.00	41.00						
板橋区	10	7.33		2		9.00	1			34.00		17.00
練馬区	13	2.65	0.57	2		15.00						
足立	13	1.96	0.08	2	1.50	45.50						
葛飾区	8	4.00	0.63	1	2.00	30.00	1			349.00	5.00	58.00
江戸川	12	2.77	0.51	2		19.50						
八王子市	11	10.56	0.75	2	0.50	21.50	1	1.00	1.00			23.00
町田市	8	18.68	0.38	1								
西多摩	8	0.75	0.38	1		7.00	1	1.00		2.00		6.00
南多摩	9	1.78	0.67	1		6.00						
多摩立川	14	4.00	0.57	2		3.50	1		2.00	9.00		23.00
多摩府中	21	7.85	1.08	3		14.67	3	5.67	7.83	65.17		42.33
多摩小平	15	5.57	1.35	2		118.00	2	1.00	2.50	57.00		21.50
島しょ	1		1.00				1			2.00		
定点当たり報告数		5.40	0.68		0.50	30.01		1.68	4.86	42.84	0.56	24.40
前年定点当たり報告数		5.78	0.83		0.84	22.73		2.14	3.91	46.78	0.74	0.48
当年/前年		0.93	0.82		0.60	1.32		0.79	1.24	0.92	0.75	50.83

表6-1 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2012年第1週～2012年第52週

年齢階級	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6か月未満	239	898	26	18	1,101	165	26	2	169	22	104	
12か月未満	1,033	1,581	264	107	8,084	563	384	37	3,313	16	1,153	15
1歳	4,097	2,381	1,026	659	17,889	1,838	1,432	131	4,123	16	3,601	145
2歳	5,140	886	737	1,175	12,198	2,017	1,016	162	682	4	2,656	223
3歳	7,216	325	799	2,351	11,287	2,267	800	184	158	10	1,904	343
4歳	10,455	175	784	3,323	10,899	2,178	620	245	51	8	1,575	485
5歳	11,880	46	609	3,782	8,920	1,548	385	248	22	8	1,016	503
6歳	11,502	20	379	3,344	6,847	938	240	176	8	5	508	397
7歳	10,928	7	208	2,774	5,796	535	150	127	7	5	315	298
8歳	8,884	8	159	2,076	4,990	314	113	101	7	2	206	215
9歳	7,607	1	99	1,392	3,994	192	76	79	1	7	156	149
10～14歳	23,072	11	191	2,712	10,604	322	80	108	4	15	180	219
15～19歳	5,167	3	23	194	2,545	24	4	3		10	26	20
20～29歳	5,530	7	206	1,317	13,813	94	85	23	2	158	148	77
30～39歳	9,121											
40～49歳	7,406											
50～59歳	2,640											
60～69歳	1,776											
70～79歳	961											
80歳以上	410											
合計	135,064	6,349	5,510	25,224	118,967	12,995	5,411	1,626	8,547	286	13,548	3,089

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6-2 年齢階級別患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2012年第1週～2012年第52週

年齢階級	不明発しん症	川崎病			細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	インフルエンザ入院
			急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎					
6か月未満	50	8		7	8	20			24
12か月未満	206	35		16	3	2	2		21
1歳	425	59	3	38	1	8	86	1	49
2歳	220	24		28		1	79		31
3歳	123	19		37		1	118		34
4歳	106	19	1	32	1	2	91	1	30
5歳	89	6		30		7	69	2	32
6歳	52	2		23		5	62		38
7歳	33	3		14	1	7	64		16
8歳	16			11	1	1	60		18
9歳	12	1		8		1	47		16
10～14歳	27	1	1	32		10	146		40
15～19歳	6			13	2	3	44		16
20～29歳	35		2	130	3	19	56		13
30～39歳			3	302	3	16	52	1	12
40～49歳			2	185	5	11	34		8
50～59歳			3	84		1	12		16
60～69歳			4	91	7	1	20	3	44
70～79歳				59	6	3	15	3	60
80歳以上					1	2	10	3	92
合計	1,400	177	19	1,140	42	121	1,067	14	610

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1(1) 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2012年第1週～2012年第52週

二次医療圏	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	32	7,135	20	500	491	1,102	6,718	794	542	103	676	30	679	162
2 区南部圏	33	9,342	21	700	1,063	2,201	12,130	898	336	100	715	63	1,042	351
3 区西南部圏	40	10,555	25	439	294	2,324	10,758	913	787	216	609	16	784	143
4 区西部圏	39	9,125	25	582	149	1,800	9,351	702	256	48	592	6	785	245
5 区西北部圏	56	14,785	35	253	321	1,819	11,412	1,357	424	94	985	33	1,646	318
6 区東北部圏	40	14,202	25	669	710	2,185	13,648	1,281	672	176	934	26	1,567	341
7 区東部圏	41	12,931	26	748	943	2,923	14,463	1,205	818	223	980	13	1,647	224
8 西多摩圏	14	4,608	8	80	106	467	2,385	373	48	48	128	7	258	73
9 南多摩圏	45	20,043	28	843	619	4,642	17,797	2,489	797	250	1,052	14	2,385	733
10 北多摩西部圏	21	7,695	14	449	111	1,496	5,034	655	170	43	386	7	518	195
11 北多摩南部圏	33	12,341	21	307	214	2,021	8,357	1,106	300	224	757	45	945	190
12 北多摩北部圏	23	11,599	15	766	480	2,174	6,818	1,157	225	50	717	26	1,270	111
13 島しょ圏	2	703	1	13	9	70	96	65	36	51	16	0	22	3
合計	419	135,064	264	6,349	5,510	25,224	118,967	12,995	5,411	1,626	8,547	286	13,548	3,089

表7-1(2) 二次医療圏別患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2012年第1週～2012年第52週

二次医療圏	設置定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	設置定点数(眼科)			設置定点数(基幹)				
				急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	インフルエンザ入院	
1 区中央部圏	20	28	12	2	131	4	3	7	58	1	52
2 区南部圏	21	156	15	3	62	1		4	12		1
3 区西南部圏	25	139	14	4	181	3	4	30	83	4	138
4 区西部圏	25	54	20	4	71	4	8	7	160	3	35
5 区西北部圏	35	117	12	6	94	2		9	45		57
6 区東北部圏	25	116	16	4	158	1			349	5	58
7 区東部圏	26	210	17	4	101	1	7	33	44	1	47
8 西多摩圏	8	6	3	1	7	1	1		2		6
9 南多摩圏	28	278	17	4	49	1	1	1			23
10 北多摩西部圏	14	56	8	2	7	1		2	9		23
11 北多摩南部圏	21	157	22	3	43	3	16	23	189		127
12 北多摩北部圏	15	83	20	2	236	2	2	5	114		43
13 島しょ圏	1		1			1			2		
合計	264	1,400	177	39	1,140	25	42	121	1,067	14	610

表7-2(1) 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2012年第1週~2012年第52週

二次医療圏	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	32	223.32	20	25.04	24.62	55.17	336.16	39.75	27.13	5.17	33.87	1.51	33.99	8.11
2 区南部圏	33	283.38	21	34.31	51.28	105.75	581.55	43.04	16.29	4.84	34.48	3.04	50.10	16.91
3 区西南部圏	40	265.56	25	17.87	11.90	93.98	433.69	36.88	32.06	8.77	24.71	0.64	32.17	5.84
4 区西部圏	39	234.08	25	23.83	6.04	72.54	376.14	28.26	10.41	1.93	23.96	0.25	32.05	9.85
5 区西北部圏	56	265.11	35	7.60	9.63	53.36	336.14	39.97	12.85	2.75	29.20	0.97	49.32	9.44
6 区東北部圏	40	355.24	25	26.90	28.51	87.71	548.01	51.61	27.37	7.06	37.61	1.04	63.15	13.71
7 区東部圏	41	316.62	26	29.10	36.62	112.91	559.40	46.52	31.81	8.61	37.99	0.50	63.77	8.68
8 西多摩圏	14	329.14	8	10.00	13.25	58.38	298.13	46.63	6.00	6.00	16.00	0.88	32.25	9.13
9 南多摩圏	45	445.46	28	30.37	22.38	166.28	637.38	89.20	28.75	8.97	37.85	0.50	86.28	26.40
10 北多摩西部圏	21	366.70	14	32.07	7.93	106.86	359.57	46.79	12.14	3.07	27.57	0.50	37.00	13.93
11 北多摩南部圏	33	378.36	21	15.44	10.62	99.69	410.53	54.47	15.07	11.10	37.60	2.28	47.88	9.45
12 北多摩北部圏	23	504.83	15	51.27	32.36	146.90	461.64	77.95	15.05	3.38	48.50	1.74	84.77	7.46
13 島しょ圏	2	351.50	1	13.00	9.00	70.00	96.00	65.00	36.00	51.00	16.00		22.00	3.00

表7-2(2) 二次医療圏別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2012年第1週~2012年第52週

二次医療圏	設置定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	眼科		基幹						
				設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	インフルエンザ入院
1 区中央部圏	20	1.41	0.60	2		65.50	4	0.75	1.75	14.50	0.25	13.00
2 区南部圏	21	7.60	0.72	3	0.67	20.67	1		4.00	12.00		1.00
3 区西南部圏	25	5.68	0.57	4	1.33	46.00	3	1.33	10.00	27.67	1.33	46.00
4 区西部圏	25	2.18	0.83	4	1.25	21.00	4	2.00	1.75	40.00	0.75	8.75
5 区西北部圏	35	3.49	0.36	6	0.17	15.82	2		4.50	22.50		28.50
6 区東北部圏	25	4.70	0.64	4	1.58	40.83	1			349.00	5.00	58.00
7 区東部圏	26	8.16	0.66	4		25.58	1	7.00	33.00	44.00	1.00	47.00
8 西多摩圏	8	0.75	0.38	1		7.00	1	1.00		2.00		6.00
9 南多摩圏	28	10.07	0.61	4	0.25	12.25	1	1.00	1.00			23.00
10 北多摩西部圏	14	4.00	0.57	2		3.50	1		2.00	9.00		23.00
11 北多摩南部圏	21	7.85	1.08	3		14.67	3	5.67	7.83	65.17		42.33
12 北多摩北部圏	15	5.57	1.35	2		118.00	2	1.00	2.50	57.00		21.50
13 島しょ圏	1		1.00				1			2.00		

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2012年1月～2012年12月

	報告定点数	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症	アシネトバクター感染症
1月	25	106	48	2	
2月	24	65	32	1	
3月	25	102	38	4	
4月	25	75	29	3	
5月	25	98	47		
6月	25	85	42		
7月	24	109	40	4	
8月	25	87	34	1	
9月	25	85	33	1	
10月	25	93	34	3	
11月	25	98	28	3	
12月	25	71	35	2	
合計		1,074	440	24	0

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2012年1月～2012年12月

	報告定点数	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症	アシネトバクター感染症
1月	25	4.24	1.92	0.08	
2月	24	2.71	1.33	0.04	
3月	25	4.08	1.52	0.16	
4月	25	3.00	1.16	0.12	
5月	25	3.92	1.88		
6月	25	3.40	1.68		
7月	24	4.54	1.67	0.17	
8月	25	3.48	1.36	0.04	
9月	25	3.40	1.32	0.04	
10月	25	3.72	1.36	0.12	
11月	25	3.92	1.12	0.12	
12月	25	2.84	1.40	0.08	
平均		3.60	1.48	0.08	0.00

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2012年1月～2012年12月

	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	64	42	29	19	1	1		
2月	45	20	20	12	1			
3月	60	42	22	16	2	2		
4月	49	26	18	11	2	1		
5月	60	38	21	26				
6月	57	28	29	13				
7月	56	53	16	24	4			
8月	56	31	22	12	1			
9月	51	34	20	13	1			
10月	62	31	19	15	2	1		
11月	55	43	18	10	2	1		
12月	45	26	20	15	2			
合計	660	414	254	186	18	6	0	0

表8-4 年齢階級別患者報告数(基幹) 2012年1月~2012年12月

年齢階級	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		薬剤耐性 アシネトバクター感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	72	63	20	14	1	0		
1~4歳	52	47	70	65	0	2		
5~9歳	26	20	10	9	0	1		
10~14歳	25	6	4	2	0	0		
15~19歳	9	16	3	2	0	0		
20~24歳	1	4	1	2	2	0		
25~29歳	6	8	2	2	0	0		
30~34歳	3	7	4	3	0	0		
35~39歳	9	11	4	5	0	0		
40~44歳	14	4	5	2	1	0		
45~49歳	12	6	1	1	0	0		
50~54歳	13	10	3	1	3	1		
55~59歳	22	11	4	3	0	1		
60~64歳	40	14	17	9	0	0		
65~69歳	48	25	16	11	1	0		
70歳以上	308	162	90	55	10	1		
合計	660	414	254	186	18	6	0	0
定点当たり報告数	26.57	16.68	10.22	7.50	0.73	0.24	0.00	0.00
前年定点当たり報告数	30.76	15.91	14.78	9.76	0.99	0.53	-	-
当年/前年	0.86	1.05	0.69	0.77	0.74	0.45	-	-

表9-1 月別患者報告数(STI)

2012年1月~2012年12月

報告定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臙トリコモナス症	梅毒様疾患	
1月	55	196	102	60	98	6	7
2月	53	169	100	69	87	8	14
3月	55	183	114	70	87	12	10
4月	54	166	94	73	88	11	12
5月	54	187	114	78	68	12	9
6月	54	195	110	80	92	7	5
7月	54	222	110	50	90	11	8
8月	55	212	111	69	76	15	10
9月	55	205	98	68	78	12	11
10月	55	244	135	95	91	15	17
11月	53	168	122	86	96	12	3
12月	54	168	101	79	84	8	14
合計	2,315	1,311	877	1,035	129	120	

表9-2 月別定点あたり患者報告数(STI)

2012年1月~2012年12月

報告定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臙トリコモナス症	梅毒様疾患	
1月	55	3.56	1.85	1.09	1.78	0.11	0.13
2月	53	3.19	1.89	1.30	1.64	0.15	0.26
3月	55	3.33	2.07	1.27	1.58	0.22	0.18
4月	54	3.07	1.74	1.35	1.63	0.20	0.22
5月	54	3.46	2.11	1.44	1.26	0.22	0.17
6月	54	3.61	2.04	1.48	1.70	0.13	0.09
7月	54	4.11	2.04	0.93	1.67	0.20	0.15
8月	55	3.85	2.02	1.25	1.38	0.27	0.18
9月	55	3.73	1.78	1.24	1.42	0.22	0.20
10月	55	4.44	2.45	1.73	1.65	0.27	0.31
11月	53	3.17	2.30	1.62	1.81	0.23	0.06
12月	54	3.11	1.87	1.46	1.56	0.15	0.26
平均		3.55	2.01	1.35	1.59	0.20	0.18

表9-3 月別・性別患者報告数(STI) 2012年1月~2012年12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	114	82	73	29	34	26	82	16	1	5	6	1
2月	53	95	74	66	34	42	27	74	13		8	11	3
3月	55	97	86	71	43	49	21	76	11		12	8	2
4月	54	99	67	65	29	50	23	79	9		11	11	1
5月	54	119	68	69	45	49	29	61	7	1	11	8	1
6月	54	108	87	65	45	53	27	79	13	2	5	4	1
7月	54	134	88	63	47	35	15	77	13		11	7	1
8月	55	124	88	63	48	44	25	68	8		15	10	
9月	55	120	85	63	35	44	24	65	13	4	8	11	
10月	55	152	92	86	49	63	32	73	18	3	12	15	2
11月	53	103	65	74	48	56	30	79	17	2	10		3
12月	54	105	63	55	46	55	24	74	10		8	12	2
合計		1,370	945	813	498	574	303	887	148	13	116	103	17

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(STI) 2012年1月~2012年12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	2.07	1.49	1.33	0.53	0.62	0.47	1.49	0.29	0.02	0.09	0.11	0.02
2月	53	1.79	1.40	1.25	0.64	0.79	0.51	1.40	0.25		0.15	0.21	0.06
3月	55	1.76	1.56	1.29	0.78	0.89	0.38	1.38	0.20		0.22	0.15	0.04
4月	54	1.83	1.24	1.20	0.54	0.93	0.43	1.46	0.17		0.20	0.20	0.02
5月	54	2.20	1.26	1.28	0.83	0.91	0.54	1.13	0.13	0.02	0.20	0.15	0.02
6月	54	2.00	1.61	1.20	0.83	0.98	0.50	1.46	0.24	0.04	0.09	0.07	0.02
7月	54	2.48	1.63	1.17	0.87	0.65	0.28	1.43	0.24		0.20	0.13	0.02
8月	55	2.25	1.60	1.15	0.87	0.80	0.45	1.24	0.15		0.27	0.18	
9月	55	2.18	1.55	1.15	0.64	0.80	0.44	1.18	0.24	0.07	0.15	0.20	
10月	55	2.76	1.67	1.56	0.89	1.15	0.58	1.33	0.33	0.05	0.22	0.27	0.04
11月	53	1.94	1.23	1.40	0.91	1.06	0.57	1.49	0.32	0.04	0.19		0.06
12月	54	1.94	1.17	1.02	0.85	1.02	0.44	1.37	0.19		0.15	0.22	0.04

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(STI)

2012年1月～2012年12月

保健所	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		臍トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	168	6	27	1	64		145				9		413	7
中央区	3	118	19	56	5	16	1	41	1		3			231	29
みなと	2	87	68	324	81	97	70	45	7		7	5	2	558	235
新宿区	7	299	94	142	97	205	97	298	45	1	11	57	6	1,002	350
文京	1	57	1	17	5	24		29				3		130	6
台東	2		22		14				2	1	12			1	50
墨田区	2	20	15	11	7	4	5	4	3		5		2	39	37
江東区	2	114	10	69	10	32	1	80	3		3	5		300	27
品川区	1	80	6	48	5	23		32	2		1	1		184	14
大田区	2	30	87				4	20			1		1	50	93
渋谷区	5	106	64	30	86	14	35	30	2	4	4	6		190	191
中野区	2	32	9	9	1	2	11	32	4	1	16	6	1	82	42
杉並	2	38	10	2	2	4	3	15	1			1		60	16
池袋	3	124	95	52	62	57	29	57	28	3	9	8	1	301	224
北区	1	10				19	2	1						30	2
荒川区	1		23		11		1		1		1				37
板橋区	2	20	56	8	27	4	9	25	7		4			57	103
足立	2	22	32	10	5	5	4	15	5	2	4	1	2	55	52
江戸川	2	28	67	8	19	2	10	6	7		17	1	2	45	122
八王子市	4	1	73		12		6		5		6			1	102
町田市	1		32		21		2				1				56
多摩立川	2	7	153		25		7	4	24		8			11	217
多摩府中	3	9	1		2	2	6	8		1	2			20	11
多摩小平	1		2						1		1				4
合 計	55	1,370	945	813	498	574	303	887	148	13	116	103	17	3,760	2,027
定点当たり報告数		25.24	17.40	14.98	9.18	10.59	5.59	16.36	2.73	0.24	2.14	1.89	0.32	69.29	37.35
前年定点当たり報告数		25.43	18.95	14.77	7.83	10.46	4.85	18.81	3.35	0.35	2.14	1.94	0.20	71.76	37.31
当年/前年		0.99	0.92	1.01	1.17	1.01	1.15	0.87	0.82	0.69	1.00	0.98	1.57	0.97	1.00

区中央部圏	10	430	116	424	106	201	71	260	10	1	22	17	2	1,333	327
区南部圏	3	110	93	48	5	23	4	52	2		2	1	1	234	107
区西南部圏	5	106	64	30	86	14	35	30	2	4	4	6		190	191
区西部圏	11	369	113	153	100	211	111	345	50	2	27	64	7	1,144	408
区西北部圏	6	154	151	60	89	80	40	83	35	3	13	8	1	388	329
区東北部圏	3	22	55	10	16	5	5	15	6	2	5	1	2	55	89
区東部圏	6	162	92	88	36	38	16	90	13		25	6	4	384	186
南多摩圏	5	1	105		33		8		5		7			1	158
北多摩西部圏	2	7	153		25		7	4	24		8			11	217
北多摩南部圏	3	9	1		2	2	6	8		1	2			20	11
北多摩北部圏	1		2						1		1				4

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(STI)

2012年1月～2012年12月

保健所	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	84.00	3.00	13.50	0.50	32.00		72.50				4.50		206.50	3.50
中央区	3	39.33	6.33	18.67	1.67	5.33	0.33	13.67	0.33		1.00			77.00	9.67
みなと	2	43.50	34.00	162.00	40.50	48.50	35.00	22.50	3.50		3.50	2.50	1.00	279.00	117.50
新宿区	7	43.29	13.60	20.60	14.21	29.81	14.17	43.19	6.62	0.14	1.60	8.14	0.90	145.17	51.10
文京	1	57.00	1.00	17.00	5.00	24.00		29.00				3.00		130.00	6.00
台東	2		11.00		7.00				1.00	0.50	6.00			0.50	25.00
墨田区	2	10.00	7.50	5.50	3.50	2.00	2.50	2.00	1.50		2.50		1.00	19.50	18.50
江東区	2	57.00	5.00	34.50	5.00	16.00	0.50	40.00	1.50		1.50	2.50		150.00	13.50
品川区	1	80.00	6.00	48.00	5.00	23.00		32.00	2.00		1.00	1.00		184.00	14.00
大田区	2	15.00	43.50				2.00	10.00			0.50		0.50	25.00	46.50
渋谷区	5	21.65	13.45	6.25	17.95	2.95	7.30	6.05	0.40	0.90	0.80	1.30		39.10	39.90
中野区	2	16.00	4.50	4.50	0.50	1.00	5.50	16.00	2.00	0.50	8.00	3.00	0.50	41.00	21.00
杉並	2	19.00	5.00	1.00	1.00	2.00	1.50	7.50	0.50			0.50		30.00	8.00
池袋	3	41.33	31.67	17.33	20.67	19.00	9.67	19.00	9.33	1.00	3.00	2.67	0.33	100.33	74.67
北区	1	10.00				19.00	2.00	1.00						30.00	2.00
荒川区	1		23.00		11.00		1.00		1.00		1.00				37.00
板橋区	2	10.00	28.00	4.00	13.50	2.00	4.50	12.50	3.50		2.00			28.50	51.50
足立	2	11.50	16.00	5.00	2.50	3.00	2.00	7.50	2.50	1.00	2.00	0.50	1.00	28.50	26.00
江戸川	2	14.00	34.50	4.00	10.00	1.00	5.00	3.00	3.50		9.00	0.50	1.00	22.50	63.00
八王子市	4	0.25	18.25		3.00		1.50		1.25		1.50			0.25	25.50
町田市	1		32.00		21.00		2.00				1.00				56.00
多摩立川	2	3.50	76.50		12.50		3.50	2.00	12.00		4.00			5.50	108.50
多摩府中	3	3.50			0.83	0.67	1.33	3.00		0.33	0.67			7.50	2.83
多摩小平	1		2.00						1.00		1.00				4.00
合計	55	1,370	945	813	498	574	303	887	148	13	116	103	17	3,760	2,027
定点当たり報告数		25.24	17.40	14.98	9.18	10.59	5.59	16.36	2.73	0.24	2.14	1.89	0.32	69.29	37.35

区中央部圏	10	43.00	11.60	42.40	10.60	20.10	7.10	26.00	1.00	0.10	2.20	1.70	0.20	133.30	32.70
区南部圏	3	36.67	31.00	16.00	1.67	7.67	1.33	17.33	0.67		0.67	0.33	0.33	78.00	35.67
区西南部圏	5	21.65	13.45	6.25	17.95	2.95	7.30	6.05	0.40	0.90	0.80	1.30		38.00	38.20
区西部圏	11	33.82	10.34	14.03	9.23	19.40	10.22	31.62	4.62	0.18	2.47	5.82	0.65	104.00	37.09
区西北部圏	6	25.67	25.17	10.00	14.83	13.33	6.67	13.83	5.83	0.50	2.17	1.33	0.17	64.67	54.83
区東北部圏	3	7.50	18.33	3.33	5.33	1.83	1.67	5.00	2.00	0.67	1.67	0.33	0.67	18.33	29.67
区東部圏	6	27.40	15.47	14.80	6.10	6.53	2.70	15.37	2.17		4.20	1.00	0.67	64.00	31.00
南多摩圏	5	0.20	21.00		6.60		1.60		1.00		1.40			0.20	31.60
北多摩西部圏	2	3.50	76.50		12.50		3.50	2.00	12.00		4.00			5.50	108.50
北多摩南部圏	3	3.50	0.33		0.83	0.67	2.00	3.00		0.33	0.67			6.67	3.67
北多摩北部	1		2.00						1.00		1.00				4.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(STI) 2012年1月~2012年12月

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		臍トリコモナス症		梅毒様疾患		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1~4歳														
5~9歳														
10~14歳		4												4
15~19歳	16	100	3	26	6	23	17	17		6		1	42	173
20~24歳	173	301	48	82	40	98	139	52	2	19	13	5	415	557
25~29歳	281	229	80	105	85	76	180	45	1	26	16	2	643	483
30~34歳	295	158	138	90	96	49	178	16	3	8	17	3	727	324
35~39歳	218	96	131	55	101	29	153	14	1	12	13	2	617	208
40~44歳	139	34	121	44	92	15	93	1		12	12		457	106
45~49歳	112	16	105	26	66	4	76	2	4	9	15	1	378	58
50~54歳	69	3	63	16	30	4	31	1	1	8	5		199	32
55~59歳	33	3	43	19	19	2	9			3	7		111	27
60~64歳	27	1	33	10	18	1	6		1	8	5		90	20
65~69歳	6		21	5	12		2					2	41	7
70歳以上	1		27	20	9	2	3			5		1	40	28
合計	1,370	945	813	498	574	303	887	148	13	116	103	17	3,760	2,027

表10 検査結果別報告数(基幹) 2012年1月~2012年12月

病原体	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	合計
B群レンサ球菌	4				4
インフルエンザ菌	3				3
肺炎球菌	3				3
エンテロкокカス フェカリス	2				2
エンテロкокカス フェシウム	1				1
クエブシエラ ニュモニエ	1				1
リステリア モノサイトゲネス	1				1
その他の細菌	1				1
下痢原性大腸菌*	1				1
レンサ球菌(群不明)	1				1
エンテロウイルス(型不明)			10		10
ムンプスウイルス			4		4
肺炎マイコプラズマ			2	1,065	1,067
ヒトヘルペスウイルス 6型			2		2
クリプトкокカス ネオフォルマンズ			1		1
エンテロウイルス 71型			1		1
単純ヘルペスウイルス(型不明)			1		1
梅毒トレポネーマ			1		1
肺炎クラミジア				14	14
陰性			4		4
記載なし		24	95	2	121
合計		42	121	1,067	1,244

*EHEC、ETEC、EIEC、EPEC、EAggECに該当しないが胃腸炎の原因菌と考えられるもの

表11 疑似症サーベイランス報告数 2012年第1週～2012年第52週

週	期間	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
1	1. 2～ 1. 8	443		
2	1. 9～ 1.15	443		1
3	1.16～ 1.22	443	1	
4	1.23～ 1.29	443		
5	1.30～ 2. 5	443	1	
6	2. 6～ 2.12	443		
7	2.13～ 2.19	443		
8	2.20～ 2.26	443		
9	2.27～ 3. 4	443		
10	3. 5～ 3.11	443	2	
11	3.12～ 3.18	443	1	
12	3.19～ 3.25	443		
13	3.26～ 4. 1	443		
14	4. 2～ 4. 8	443		
15	4. 9～ 4.15	443		
16	4.16～ 4.22	443	2	
17	4.23～ 4.29	443		
18	4.30～ 5. 6	443	2	
19	5. 7～ 5.13	443		
20	5.14～ 5.20	443		
21	5.21～ 5.27	443		
22	5.28～ 6. 3	443		
23	6. 4～ 6.10	443		
24	6.11～ 6.17	443		
25	6.18～ 6.24	443		
26	6.25～ 7. 1	443		1
27	7. 2～ 7. 8	443		1
28	7. 9～ 7.15	443		
29	7.16～ 7.22	443		
30	7.23～ 7.29	443		
31	7.30～ 8. 5	443		
32	8. 6～ 8.12	443		1
33	8.13～ 8.19	443		2
34	8.20～ 8.26	443		
35	8.27～ 9. 2	443		
36	9. 3～ 9. 9	443		
37	9.10～ 9.16	443		2
38	9.17～ 9.23	443		1
39	9.24～ 9.30	443		
40	10. 1～10. 7	443		
41	10. 8～10.14	443		
42	10.15～10.21	443		2
43	10.22～10.28	443		1
44	10.29～11. 4	443		
45	11. 5～11.11	443		
46	11.12～11.18	443		
47	11.19～11.25	443		
48	11.26～12. 2	443		1
49	12. 3～12. 9	443		1
50	12.10～12.16	443		1
51	12.17～12.23	443		
52	12.24～12.30	443	1	
合計			10	15

保健所	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
千代田	4		
中央区	5		
みなと	9		
新宿区	13		
文京	8		
台東	7		
墨田区	9		
江東区	14		
品川区	13		
目黒区	8		
大田区	22		
世田谷	28		1
渋谷区	9		
中野区	11		
杉並	16		
池袋	9		
北区	11		
荒川区	7		
板橋区	18	10	5
練馬区	21		
足立	21		
葛飾区	13		1
江戸川	19		
八王子市	19		
町田市	13		
西多摩	15		
南多摩	15		1
多摩立川	23		
多摩府中	36		
多摩小平	24		7
島しょ	3		
合計	443	10	15

年齢階級	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
0歳	1	1
1歳	2	5
2歳	2	1
3歳		1
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		2
20～29歳	1	1
30～39歳	1	
40～49歳	1	1
50～59歳		2
60～69歳		1
70～79歳	2	
80歳以上		
合計	10	15

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2012年1月から12月までの間に、小児科及び基幹病原体定点より1,795件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液1,025件、鼻汁192件、髄液269件、糞便242件、血液13件、尿12件、結膜拭い液36件及びその他（水疱内容物、皮膚病巣等）6件であった（表1）。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診断名	検体種								
	総計	咽頭拭い液	鼻汁	髄液	糞便	血液	尿	結膜拭い液	その他
呼吸器系疾患	上気道炎	169	159	5	5				
	下気道炎	173	129	42	1	1			
	インフルエンザ	202	96	104	2				
	RSウイルス感染症	24	8	16					
	咽頭結膜熱	73	66	1			1	5	
	不明熱	89	58	6	19	2	2	1	1
感染性胃腸炎	203	9		2	190				2
神経系疾患	無菌性髄膜炎	161	20	1	126	13		1	
	脳炎・脳症	73	16	3	40	14			
	けいれん	75	12	3	51	9			
発しん性疾患	突発性発しん	65	62	1	2				
	ヘルパンギーナ	38	38						
	手足口病	30	27	1	1	1			
	川崎病	18	16			2			
	口内炎	11	11						
	麻しん	12	9	1				2	
	風しん	6	6						
	水痘	5	5						
	伝染性紅斑	5	5						
	不明発しん症	182	171	6		1	2		2
	流行性耳下腺炎	45	44	1					
流行性角結膜炎	31	1					30		
リンパ節腫脹	11	10			1				
肝機能障害	7	5					2		
デング熱	5					5			
伝染性単核球症	5	5							
その他	77	37	1	20	8	3	6	1	1
総計	1,795	1,025	192	269	242	13	12	36	6

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患730件（上気道炎169件、下気道炎173件、インフルエンザ202件、RSウイルス感染症24件、咽頭結膜熱73件、不明熱89件）、感染性胃腸炎203件、神経系疾患309件（無菌性髄膜炎161件、脳炎・脳症73件、けいれん75件）、発しん性疾患372件（突発性発しん65件、ヘルパンギーナ38件、手足口病30件、川崎病18件、口内炎11件、麻しん

12 件、風しん 6 件、水痘 5 件、伝染性紅斑 5 件、不明発しん症 182 件)、流行性耳下腺炎 45 件、流行性角結膜炎 31 件、リンパ節腫脹 11 件、肝機能障害 7 件、デング熱 5 件、伝染性単核球症 5 件、その他(尿路感染症、ウイルス性感染症、心筋炎、敗血症等) 77 件であった。また、診断名の記載のないものが 15 件あった。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 1,795 件のうち、主に血液を除く 1,782 件を対象に、培養細胞(HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK、Vero、A549、B95a、C6/36 細胞等)によるウイルス分離試験と酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った。その結果、243 株のウイルスが分離され、A 群ロタウイルス抗原が 17 件(6.5%)検出された(表 2)。分離されたウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス 60 株(23.1%)、アデノウイルス 105 株(40.4%)、ポリオウイルス 5 株(1.9%)、コクサッキーウイルス 25 株(9.6%)、エコーウイルス 22 株(8.5%)、エンテロウイルス 71 型 1 株(0.4%)単純ヘルペスウイルス 9 株(3.5%)、ムンプスウイルス 9 株(3.5%)、ヒトパレコウイルス 7 株(2.7%)であった。2012 年は、マウスを使用するコクサッキー A 群ウイルスの分離試験は実施できなかった。

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

検査検体数	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	突発性発しん	ヘルパンギーナ	手足口病	口内炎	麻しん	不明発しん症	ムンプス	流行性角結膜炎	リンパ節腫脹	
		169	173	202	24	71	87	203	161	73	75	65	38	30	11	12	182	45	31	11	
分離ウイルス	1782																				
インフルエンザ	AH3亜型	2	1	1																	
	B型	58	3	2	49		2			1							1				
	1型	18	2	2	3	1	3	2	2				1		1		1				
	2型	39	5	1	2	1	12	2	3		1	2		3			7				
	3型	12	3				2	2	1		1	1					1			1	
	4型	15	1		1		6						2				1			4	
	5型	14	6	1				1		2		1					2				
	6型	1															1				
	37型	2																		2	
	41型	2						2													
	53型	2																		2	
ポリオ	1型	3	1									1					1				
	2型	1															1				
	3型	1						1													
コクサッキー	A群2型	1											1								
	A群9型	15	2			1			2			1				1	8				
	B群2型	1	1																		
	B群3型	3	2		1																
	B群5型	5	2									1				1	1				
	6型	8				1	2	1	3	1											
エコー	7型	11	3	2			1		1			1					1	1			
	9型	1					1														
	14型	1															1				
	21型	1																			
エンテロ	71型	1												1							
単純ヘルペス	1型	9	1		1		1	1					1		2		1			1	
ムンプス		9							2									7			
ヒトパレコ		7		1		1	2		2								1				
A群ロタ		17						17													
総計		260	33	9	58	3	27	13	31	8	5	2	7	5	4	3	2	29	8	9	1

2012 年に最も多く分離されたウイルスはインフルエンザウイルス B 型(58 株)であり、そのうち 49 株はインフルエンザ患者の検体から分離されたが、上気道炎(3 株)、下気道炎(2 株)、不明熱(2 株)、脳炎・脳症(1 株)不明発しん症(1 株)の患者検体からも分離された。次に多く分離されたのはアデノウイルス 2 型で、主に咽頭結膜熱患者検体から分離された(12 株)が、不明発しん症(7 株)、

上気道炎（5 株）等の患者検体からも検出された。

アデノウイルス 37 型、41 型、53 型については、血清型別が困難なため、分離したアデノウイルス遺伝子のヘキソン領域の遺伝子を解析して型別を決定した。また、分離されたポリオウイルス株はすべて VP1 領域の遺伝子を解析し、ワクチン株遺伝子と 99%以上の相同性があることを確認している。

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を図 1 及び表 3 に示した。搬入された 1,795 検体中、1,786 検体を対象に延べ 6,270 件の遺伝子検索を実施し、987 検体（54.0%）から 1,194 件のウイルス遺伝子を検出した（複数種のウイルス遺伝子の同時検出例を含む）。

検出例の内訳をみると、エンテロウイルスが 256 件（21.4%）と最も多く、以下インフルエンザウイルス 185 件（15.5%）、ヒトヘルペスウイルス 182 件（15.2%）、アデノウイルス 122 件（10.2%）、ライノウイルス 108 件（9.0%）、ノロウイルス 74 件（6.2%）、EB ウイルス 64 件（5.4%）、RS ウイルス 58 件（4.9%）、パラインフルエンザウイルス 37 件（3.1%）ヒトメタニューモウイルス 24 件（2.0%）、ムンプスウイルス 20 件（1.7%）、単純ヘルペスウイルス 17 件（1.4%）、サイトメガロウイルス 13 件（1.1%）、サポウイルス 10 件（0.8%）、風しんウイルス 9 件（0.8%）、麻しんウイルス 7 件（0.6%）、パルボウイルス B19 5 件（0.4%）、水痘帯状疱疹ウイルス 3 件（0.3%）であった。

エンテロウイルス遺伝子検査が陽性となった検体については、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の塩基配列を決定し、遺伝子データベースを利用した遺伝子解析を試みた。その結果 256 件のエンテロウイルスは、ポリオウイルス 12 件、コクサッキーウイルス A 群 183 件、コクサッキーウイルス B 群 14 件、エコーウイルス 21 件、エンテロウイルス 71 型 10 件、型別不明 16 件に分類された。コクサッキーウイルス A 群の検出数は例年並みであったが、コクサッキーウイルス B 群の検出数は 14 件（2011 年 70 件）、エコーウイルスは 21 件（2011 年 59 件）と少ないのが特徴的であった。

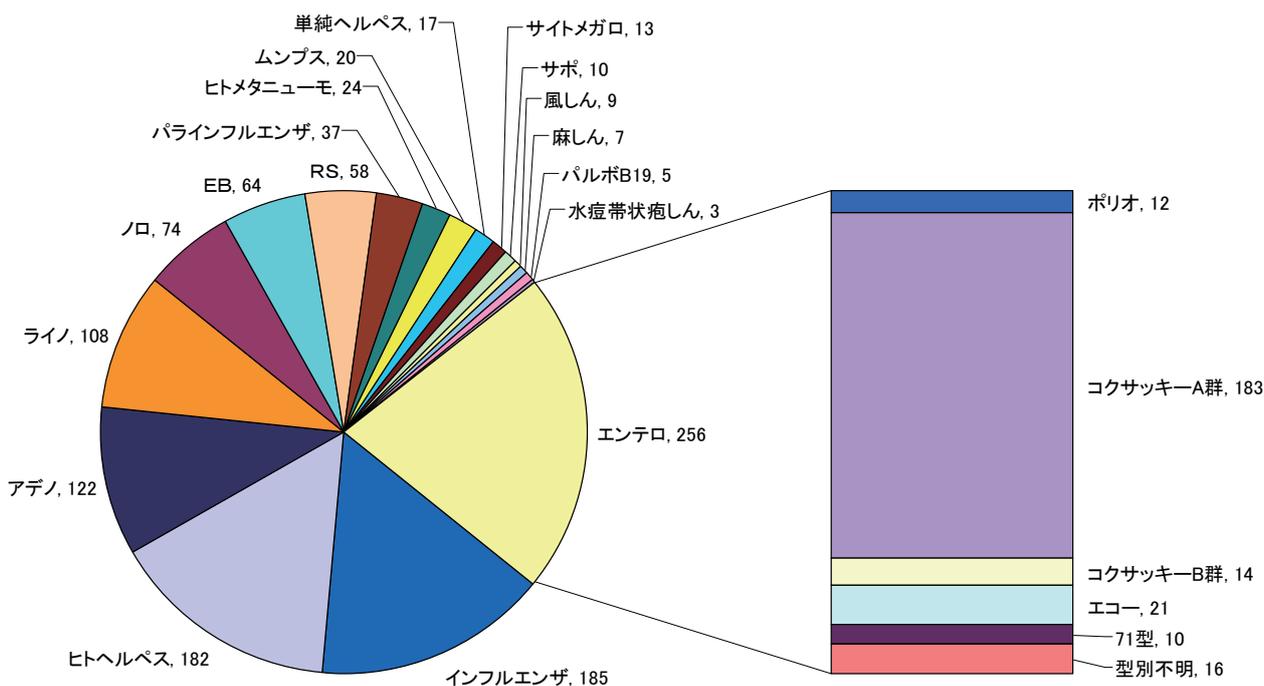


図 1. ウイルス遺伝子検出数(陽性例:1,194 件)

表 3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

	検査検体数	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	けいれん	突発性発しん	ヘルパンギーナ	手足口病	川崎病	口内炎	麻疹	風しん	水痘	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	リンパ節腫脹	肝機能障害	伝染性単核球症	その他
検出遺伝子	1786	169	173	202	24	73	89	203	161	73	75	65	38	30	18	11	12	6	5	5	182	45	31	11	7	5	77
インフルエンザ																											
H1pdm09亜型	1			1																							
AH3亜型	105	1		100		2	1														1						
B型	79	5	6	62			2		2											1	1						
アデノ	122	22	5	12		24	7	13	1	1	4	2	3	5		1					14		6				2
ポリオ																											
1型	10	1	1			2	2					1									3						
2型	1	1																									
3型	1										1																
コクサッキー																											
A群2型	11	2				1		2				1	4								1						
A群4型	36	6	2		4	1		2	1			13			2						3				1	1	
A群5型	29	4	4	1	2	3			1	1			9		1							1		1			1
A群6型	8	1							1				6														
A群8型	22	8	1									1	3		1						3	2	2				1
A群9型	49	10	2		1	4	3	1	5			2								1	18						2
A群14型	3										2											1					
A群16型	25	2	5		1			1					10		1						5						
B群1型	1								1																		
B群2型	2	2																									
B群3型	5	3		1	1																						
B群5型	6	2										1	1								1						
3型	1	1																									
エコー																											
6型	7				1	2		2	2																		
7型	10	2	2			1						2									1	1					1
9型	1									1																	
19型	2						1				1																
エンテロ																											
71型	10	1								1		1	7														
型別不明	16	3	3					3	1			1									3		1				1
ライノ	108	12	39	2		11	3	1			1	4	2						1		23	6		1	1		1
単純ヘルペス										2						6					2						
1型	15	1	1	1									1														
2型	2								2																		
サイトメガロ	13	2	1				1						1						1		2	2					1
EB	64	10	1				1						4		1	2					9	20	1	3	2	3	6
水痘帯状疱疹	3																			1	1						1
ヒトヘルペス																											
6型	146	10	3	2	1	2	2		1	10	9	38	1	4			1	1			59						2
7型	36	1					3			4	3	11		1			1				12						
9型	9	4	2			1	2																				
パラインフルエンザ																											
1型	5	1	3			1																					
2型	5	1	3			1																					
3型	23	8	9		1	3			1													1					
麻疹																											
A型	3																				3						
D4型	1																										
型別不明	3																					1					
風しん	9					1																					
RS	58	5	32		17	1	2						1														
ヒトメタニューモ	24	3	17			1	2																				1
ムンプス	20								7																		
パルボB19	5																				1	4					
ノロ																											
GI群	2							2																			
GII群	72							70		1	1																
サボ	10							10																			
総計	1194	134	138	182	22	64	37	97	30	26	22	64	43	35	4	12	6	6	3	3	174	47	10	6	5	5	19

この解析により、2012年に流行した手足口病の原因ウイルスは2011年に流行したコクサッキーウイルスA群6型ではなく、従来型の原因ウイルスであるコクサッキーウイルスA群16型ならびにエンテロウイルス71型であることが分かった。また、例年では無菌性髄膜炎の原因ウイルスとしてエコーウイルスが検出される事が多いが、2012年最も多く検出されたのはコクサッキーA群ウイルス13件で、次に多かったのはムンプスウイルスの7件であった。ヘルパンギーナの原因ウイルスとしては、コクサッキーウイルスA群4型が最も多く検出された。

インフルエンザウイルスについては、2011年に23件検出されたAH1pdm09亜型の検出が1件のみと減少し、AH3亜型とB型を主とするものであった。

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱患者の咽頭拭い液（鼻汁、結膜拭い液を含む）から多く検出された上位7種のウイルスのうち、インフルエンザウイルスの月別検出状況を図2に、その他のエンテロウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルス、ライノウイルス、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルスの月別の検出状況を図3に示した。

2011年から続くインフルエンザウイルスA/H3 亜型（香港型）の検出数は、1月から次第に減少し4月まで続いた。B型は3月を検出のピークとし、主に1月から4月まで検出された。季節性のA/H1（ソ連型）の検出はなく、AH1pdm09 亜型は、1月に1件検出されたのみであった。12月には、再びAH3 亜型検出数の増加が見られた。

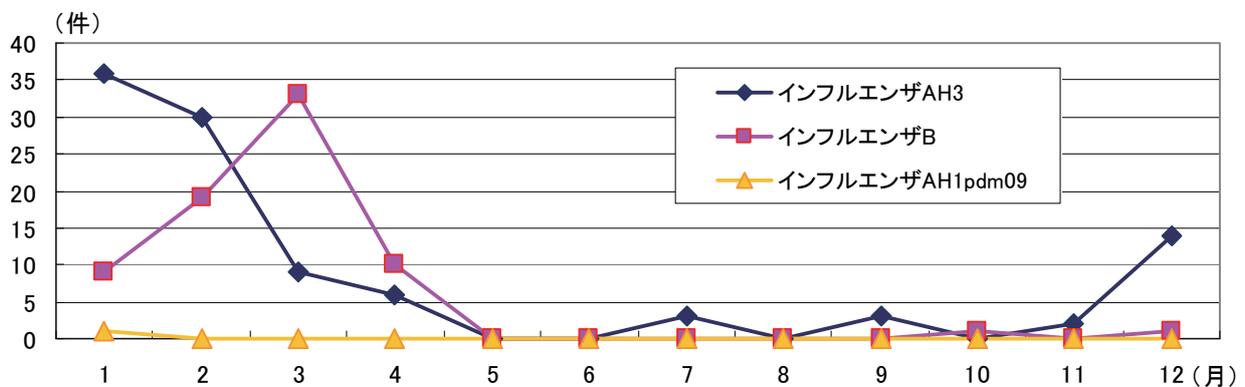


図2. 呼吸器感染症患者検体からのインフルエンザウイルスの月別検出状況

その他の呼吸器系ウイルスの検出状況では、春から初夏に検出されることの多いヒトメタニューモウイルスは5月をピークとして3月から6月まで検出された。初夏に流行することが多いパラインフルエンザウイルスは、7月をピークとし6月から10月まで検出が続いた。また、春と秋に流行することの多いライノウイルスは、特に10月を中心として秋季に流行のピークを形成し、夏かぜの原因とされるエンテロウイルスは、7月と9月をピークとする夏季を中心とした流行が見られた。

一方、咽頭結膜熱の原因ウイルスとして毎年夏に多く検出されるアデノウイルスは、特に大きな流行のピークは見られなかった。例年は、秋から冬にかけて流行が多いRSウイルスは、ほぼ1年を通して検出され、2012年は夏季が流行のピークであった。

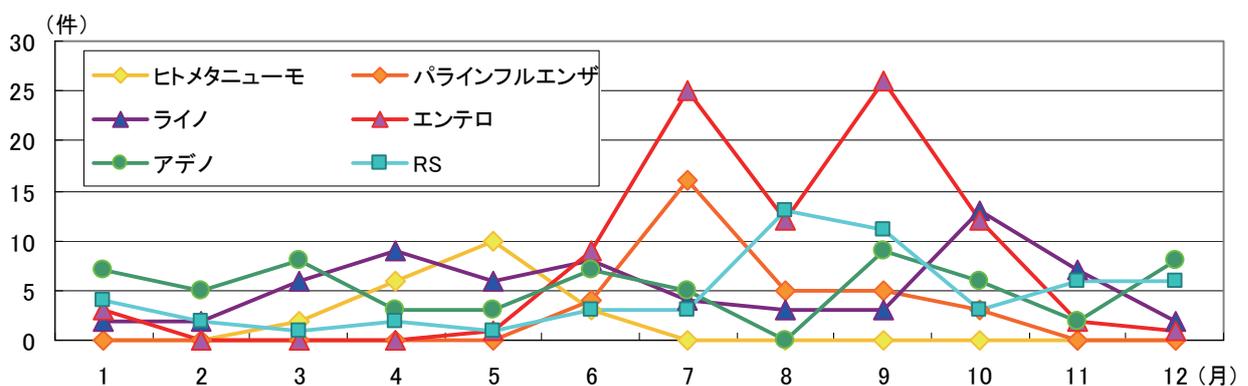


図3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス、ムンプスウイルス及びヘルペスウイルスについて月別の検出状況を図4に示した。なお、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス、EBウイルス等のヘルペスウイルス科に属するウイルスをまとめて「ヘルペス」として計上している。

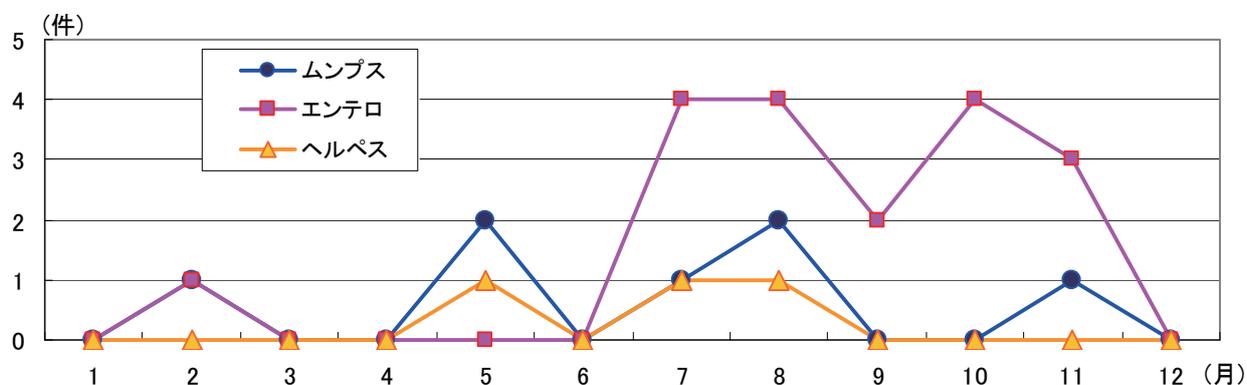


図4. 無菌性髄膜炎患者からの月別ウイルス検出状況

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患であるが、原因ウイルスは毎年異なっている。本疾患は主にエンテロウイルスによって起こることが多いが、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスによっても起こることが知られている。2012年は無菌性髄膜炎患者検体から18件のエンテロウイルスが検出された。エンテロウイルス以外にはムンプスウイルスが7件、ヘルペスウイルスが3件検出されており、流行としては小規模なものであった。

2012年の無菌性髄膜炎の原因となった主なウイルスはエンテロウイルスであり、中でもコクサッキーA群ウイルスによるものが多く見られた。(図5)

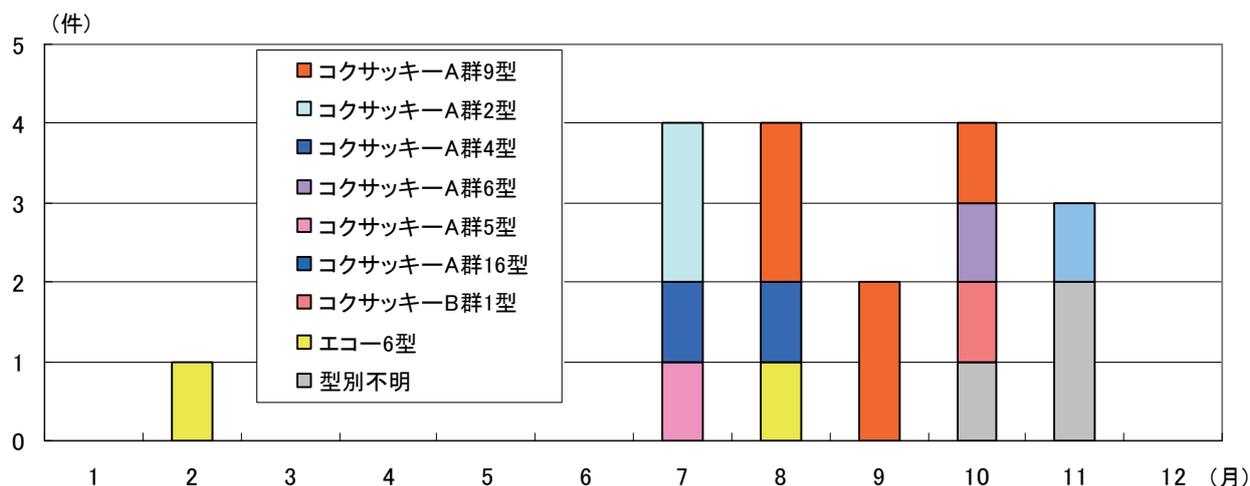


図5. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別エンテロウイルス検出状況

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体203検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検査(酵素抗体法)によって検出されたウイルスの月別検出数を図6に示した。ノロウイルスは前年から続く流行が増減を繰り返しながら5月まで続き、10月から12月にかけて再び検出数の急激な増加が見られた。ノロウイルスが検出されなかったのは6月と9月のみであった。毎年、春先に流行の見られることが多いロタウ

ウイルスは、2月から5月にかけて検出され4月に流行のピークを形成していた。アデノウイルスの検出は、3月から6月に多く、サポウイルスの検出は4月、5月と11月に見られた。

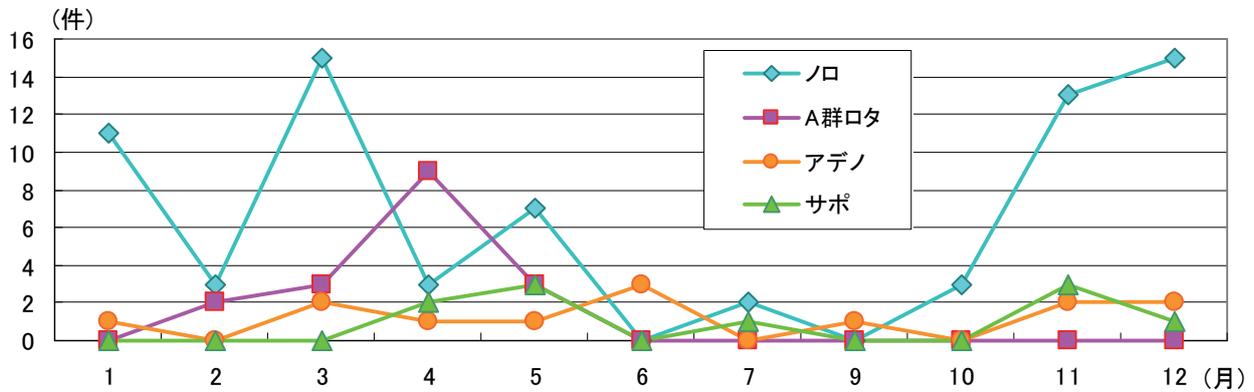


図 6. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、川崎病、水痘、口内炎、麻しん、風しん）の患者検体 190 件から得られた月別の遺伝子検出状況を図 7 に示す。エンテロウイルス属 71 件（遺伝子解析結果；ポリオウイルス 1 件、コクサッキーウイルス A 群 55 件、同 B 群 3 件、エコーウイルス 3 件、エンテロウイルス 71 型 8 件、型別不明 1 件）、ヘルペスウイルス属 77 件（ヒトヘルペスウイルス 6 型 45 件、同 7 型 13 件、EB ウイルス 8 件、単純ヘルペスウイルス 1 型 7 件、サイトメガロウイルス 3 件、水痘帯状疱疹しんウイルス 1 件）、アデノウイルス 11 件、ライノウイルス 7 件、風しんウイルス 4 件、麻しんウイルス 3 件（D4 型 1 件、型別不明 2 件）、RS ウイルス、パルボ B19 ウイルス、インフルエンザウイルス B 型各 1 件の計 176 件が検出された。

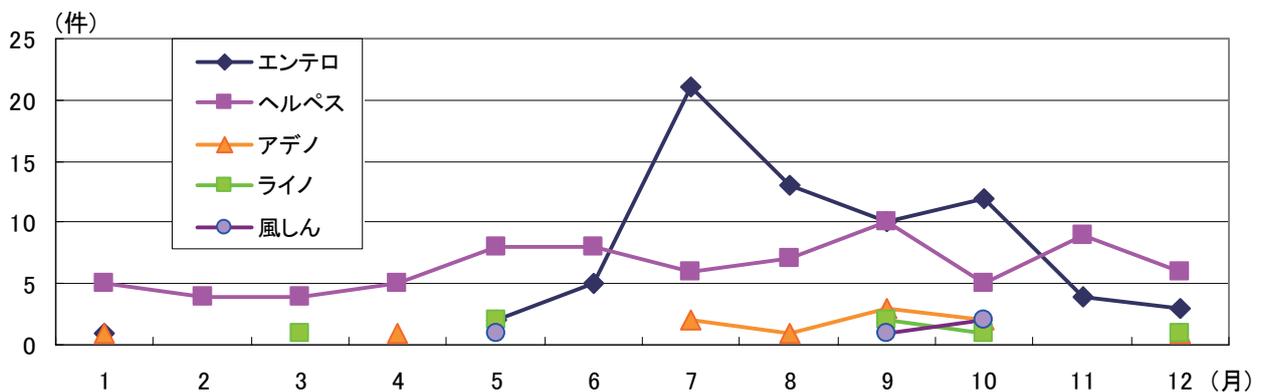


図 7. 発しん性疾患患者検体からの主な月別ウイルス遺伝子検出状況

コクサッキーウイルス A 群は、夏季に多く流行する手足口病やヘルパンギーナの原因ウイルスとされている。2012 年は、手足口病や、ヘルパンギーナの大きな流行は見られなかったが、発しん性疾患患者検体から同ウイルスは、55 件（2 型 5 件、4 型 15 件、5 型 10 件、6 型 6 件、8 型 5 件、9 型 3 件、16 型 11 件）と多くの型が検出された。

エンテロウイルスは、他にエンテロウイルス 71 型 8 件、コクサッキー B 群 5 型 3 件、ポリオ 1 型 1 件、エコーウイルス 7 型 2 件、同 19 型 1 件、型別不明 1 件が検出された。月別の主なエンテロウイルス検出状況を図 8 に示す。

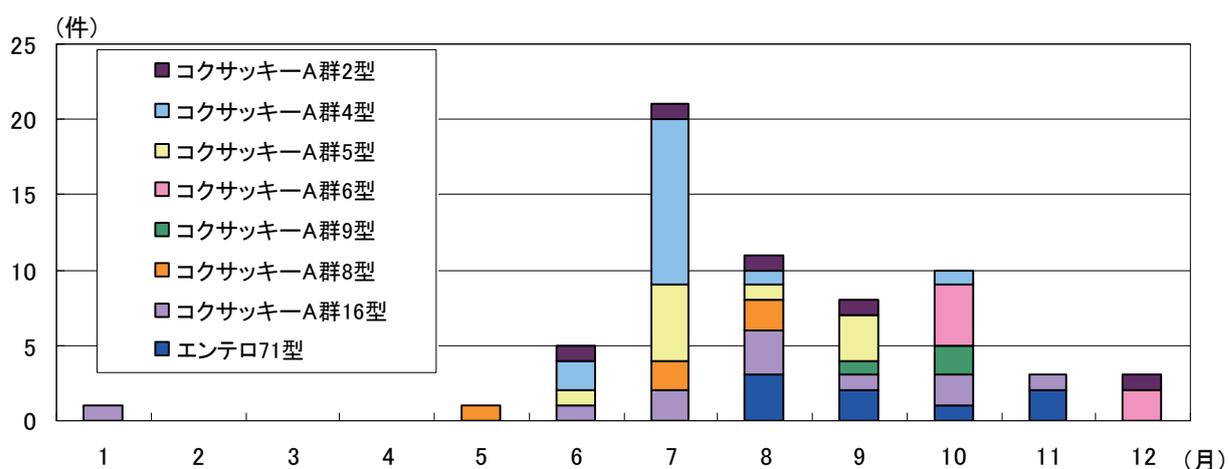


図 8. 発しん性疾患患者からの主な月別エンテロウイルス遺伝子検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

不明発しん症患者検体 182 件から、アデノウイルス 13 株（1 型 1 株、2 型 7 株、3 型 1 株、4 型 1 株、5 型 2 株、6 型 1 株）、ポリオウイルス 2 株（1 型 1 株、2 型 1 株）、コクサッキーウイルス A 群 9 型 8 株及び B 群 5 型 1 株、エコーウイルス 2 株（7 型 1 株、14 型 1 株）、単純ヘルペスウイルス 1 株、ヒトパレコウイルス 1 株が分離された。

遺伝子検出状況を図 9 に示した。陽性例 174 件の内、ヒトヘルペス 6 型は 59 件（33.9%）と最も多く検出された。さらにコクサッキー A 群 30 件（17.2%）、ライノ 23 件（13.2%）、アデノ 14 件（8.0%）、ヒトヘルペス 7 型 12 件（6.9%）、EB ウイルス 9 件（5.2%）、風しん 4 件（2.3%）、パルボ B19 4 件（2.3%）、麻しん 4 件（2.3%）、エンテロ型別不明 3 件（1.7%）、ポリオ 3 件（1.7%）サイトメガロ 2 件（1.1%）、単純ヘルペス 2 件（1.1%）、その他エコー、水痘帯状疱疹しん、インフルエンザ AH3 亜型、インフルエンザ B 型、コクサッキー B 群ウイルスの遺伝子がそれぞれ 1 件（0.6%）検出された。

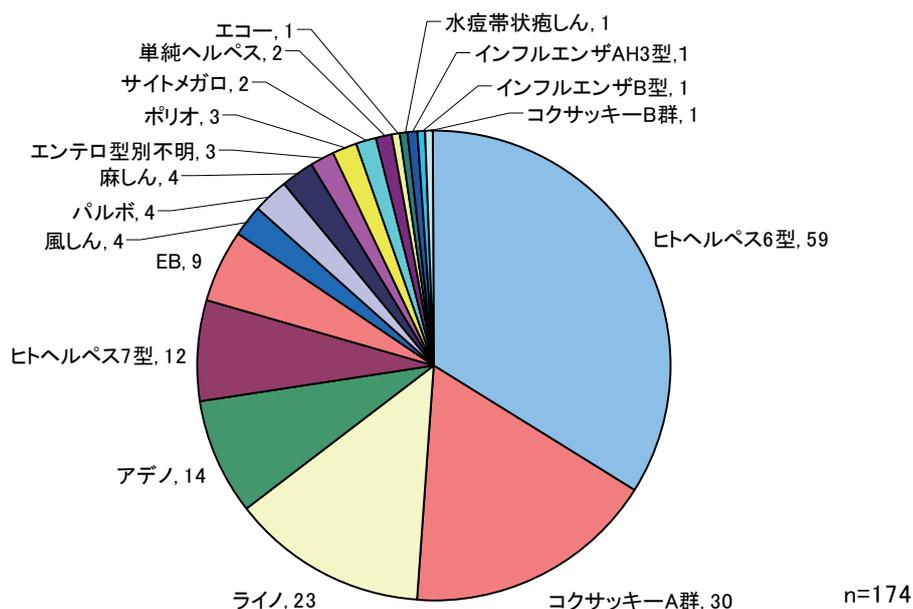


図 9. 不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑥ 川崎病患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）再掲

川崎病患者検体 18 検体からの遺伝子検出状況を図 10 に示した。4 件からウイルス遺伝子が検出され、コクサッキーA 群が 2 件（5 型 1 件、8 型 1 件）、EB とサイトメガロが 1 件ずつ検出された。

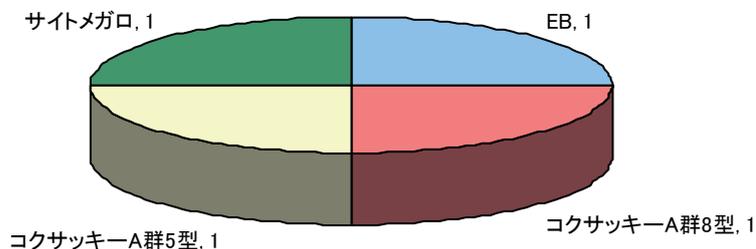


図 10. 川崎病患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

2012 年は、都内 1 定点医療機関から Dengue 熱疑い患者の検体が 5 件搬入された。それらの検体について Dengue ウイルスの抗体検査を行った結果、抗 Dengue ウイルス IgM が 2 検体から検出された。不明発しん症の検体からは EB ウイルス抗体が 1 件検出された。

カ 臨床診断名別にみたリケッチア及び関連感染症の検査状況

臨床診断でリケッチア及び関連感染症として搬入された 19 例の検体について、紅斑熱群リケッチア（Spotted fever : *Rickettsia Japonica*, *R. rickettii* 等）、発しん熱群リケッチア（*R. Typhi*, *R. prowazekii* 等）、ツツガムシ病リケッチア（Karp, Gilliam, Kato : 標準 3 株）、Q 熱（コクシエラ・バーネッティ : I 相菌、II 相菌）、ライム病の検査を行った。臨床診断名別には、リケッチア症として搬入された検体は 7 例、ライム病疑いが 5 例、紅斑熱疑いが 2 例、他に発しん熱疑い、ダニ咬傷、Q 熱疑い、不明熱（一部複数診断名）であった。10 例に渡航歴があることから、海外での感染が疑われる例が約半数を占めていることが判った。リケッチア症疑い検体の内、抗体検査または遺伝子検査で陽性となった検体は 2 例であり、他 5 例はすべて陰性であった。1 例は、回復期の抗体価が急性期に比べ 4 倍以上上昇していたことから新規感染が強く疑われた。他の 1 例は、IgM 抗体の確認、PCR による *Orientia tsutsugamushi* の遺伝子の検出から新規感染が確定した。ライム病疑い例は、搬入された 5 例ともすべて陰性であった。紅斑熱疑い例は、2 例とも紅斑熱群及び発しん熱群リケッチアについては陰性であったが、内 1 例はツツガムシ病抗体陽性であったことからツツガムシ病の新規感染例として報告した。発しん熱疑いとして搬入された例では、発しん熱群 IgG 抗体のみ陽性であったが、*R. Typhi* の遺伝子が検出されたことから発しん熱の新規感染が確定した。その他の診断名で搬入された検体の検査結果はすべて陰性であった。

（2）内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 2011/2012年シーズンのウイルス検出状況（追加分）

インフルエンザウイルスの流行シーズンは毎年9月を境にシーズン分けをしており、2012年14～35週に搬入された74検体の結果が未掲載であるため2011/2012年シーズン分として再掲する。再掲分のインフルエンザウイルスは、AH3亜型が11件、Victoria系B型が11件、Yamagata系B型が9件の計31件で、AH3亜型は4月を中心に、2系統のB型ウイルスは6月まで検出が見られ、その後終息した。

8月にAH3亜型の散発発生が見られ、2012/2013年シーズンの流行亜型の先駆け発生として捉えることが出来た。また、その他のウイルスとしてライノウイルス、アデノウイルス1型、2型、コクサッキーウイルスA群4型、5型等が検出された。

イ 2012/2013年シーズンのウイルス検出状況

2012/2013年シーズンのインフルエンザウイルスは、シーズン開始早々の36週（9月4日に採取）に発生したAH3亜型の検出をシーズン初発例として、2013年3月末までに220件の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が搬入された。遺伝子検査の結果、AH1pdm09亜型が2件、AH3亜型が161件、Victoria系B型が4件、Yamagata系B型が9件の計176件（80.0%）が検出された。また、ウイルス分離試験ではAH1pdm09亜型2株、AH3亜型111株、Victoria系B型3株、Yamagata系B型7株の計123株（55.9%）が分離された。シーズン初となったAH3亜型は9月に特別区東部で小流行として見られ、本格的な流行は43週（10月中旬から下旬）以降に発生した。また、B型は2013年3週のYamagata系統株、5週にVictoria系統株が検出され両系統株の散発発生が見られていたが、8週（2013年2月中旬）以降は、2種類のB型の発生が共に増加してきた（図11）。

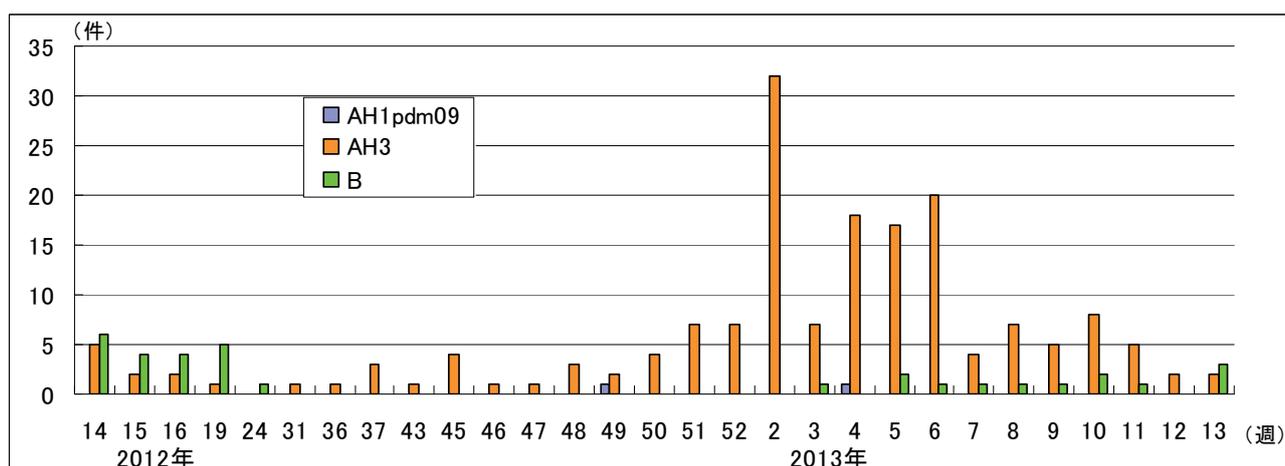


図11. インフルエンザ病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス陽性件数

シーズンを通してAH3亜型が主な流行株であったが、2013年2月中旬以降B型の発生が増加し混合流行となった。しかし、インフルエンザの流行自体が縮小傾向にあり、大きな流行とはならないまま2013年13週（3月）以降も流行が継続している。また、その他のウイルスとして2012年36週（9月初旬）にはエコーウイルス7型が、37週から46週（11月中旬）までにはライノウイルスが、41週にはコクサッキーウイルスA群9型が検出された。さらに、2012年49、50週にはアデノウイルス4型、3型が、51週にはコクサッキーウイルスA群6型が検出され、インフルエンザウイルスの流行開始後も夏や秋に発生が多く見られる他の呼吸器系疾患の原因ウイルスが流行していた。

2013年3月末時点では、AH3亜型とB型が入り混じった流行が少ないながら継続しており、近年、顕著となっているインフルエンザ流行時期の延長が見られている。

ウ インフルエンザウイルスの抗原解析

分離したインフルエンザウイルスの抗原性状を特定するため、遺伝子配列の比較ならびにワクチン株抗血清を用いたHI試験による検討を行った。

① 遺伝子検査による抗原性状の比較

RT-nested PCR 検査によって得られたインフルエンザ HA（ヘマグルチニン）遺伝子の一部断片を用い、ダイレクトシーケンス法による塩基配列の決定を行った。アミノ酸配列に置換した後、ワクチン株ならびに過去に流行したウイルス株と遺伝子系統樹上で比較し解析を行った。

AH1pdm09 亜型の流行株はワクチン株（A/California/7/2009）から伸びた枝に含まれており、ワクチン株との解析領域でのアミノ酸の変異は3～5個、相同性は97.2～98.3%であった（図12）。2009年にパンデミックウイルスとなった本亜型は、2011年までに系統樹上の微小な変異による広がりを見せていたが、2012/2013年シーズン流行株は2011年流行株の枝から離れず、変異の幅も他の亜型ウイルスに比べて小さいものであることから抗原性の変異も少ないと考えられた。WHOによる2013/2014年シーズンのワクチン推奨株にもA/California/7/2009類似株が選定されている。

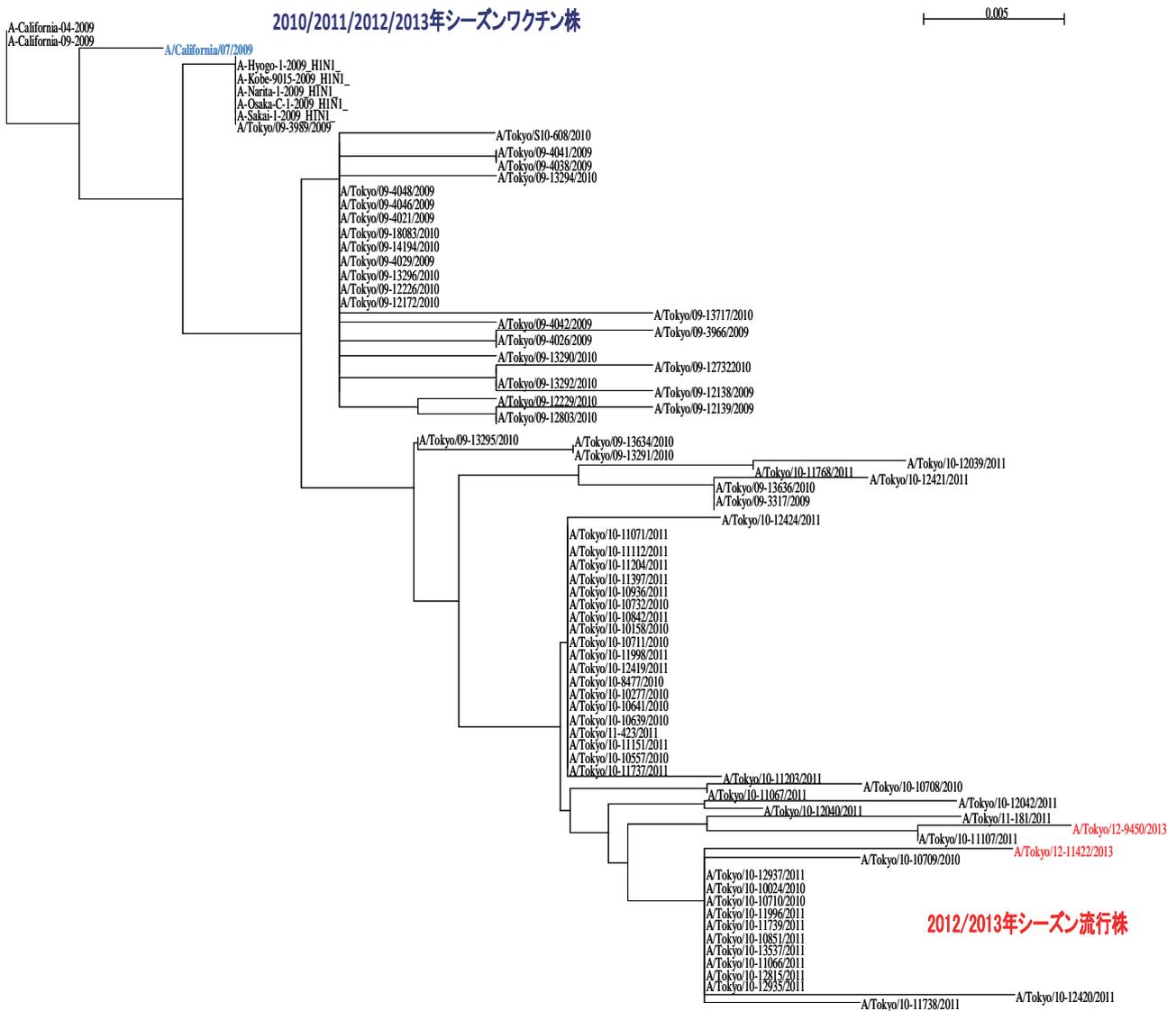


図12. 東京都におけるAH1pdm09 亜型インフルエンザウイルスのHA 遺伝子系統樹

AH3 亜型の流行株は、昨シーズンのワクチン株（A/Victoria/210/2009）から離れたA/Victoria/208/2009株を代表とするグループに属していた。また、検出されたすべての流行株は今季ワクチン株

(A/Victoria/361/2011) が含まれる枝に属しており、ワクチン近縁株となっていた (図 13)。ワクチン株との解析領域でのアミノ酸変異は最大 1 個であり、アミノ酸相同性が 99.0~100%であったことから、流行株はすべてワクチン株とほぼ合致していることが判明した。AH3 亜型の流行株については、世界の流行株でも同様な傾向が見られたことから、2013/2014 年シーズンのワクチン推奨株は引き続き A/Victoria/361/2011 類似株 (A/Texas/50/2012) が選定されている。

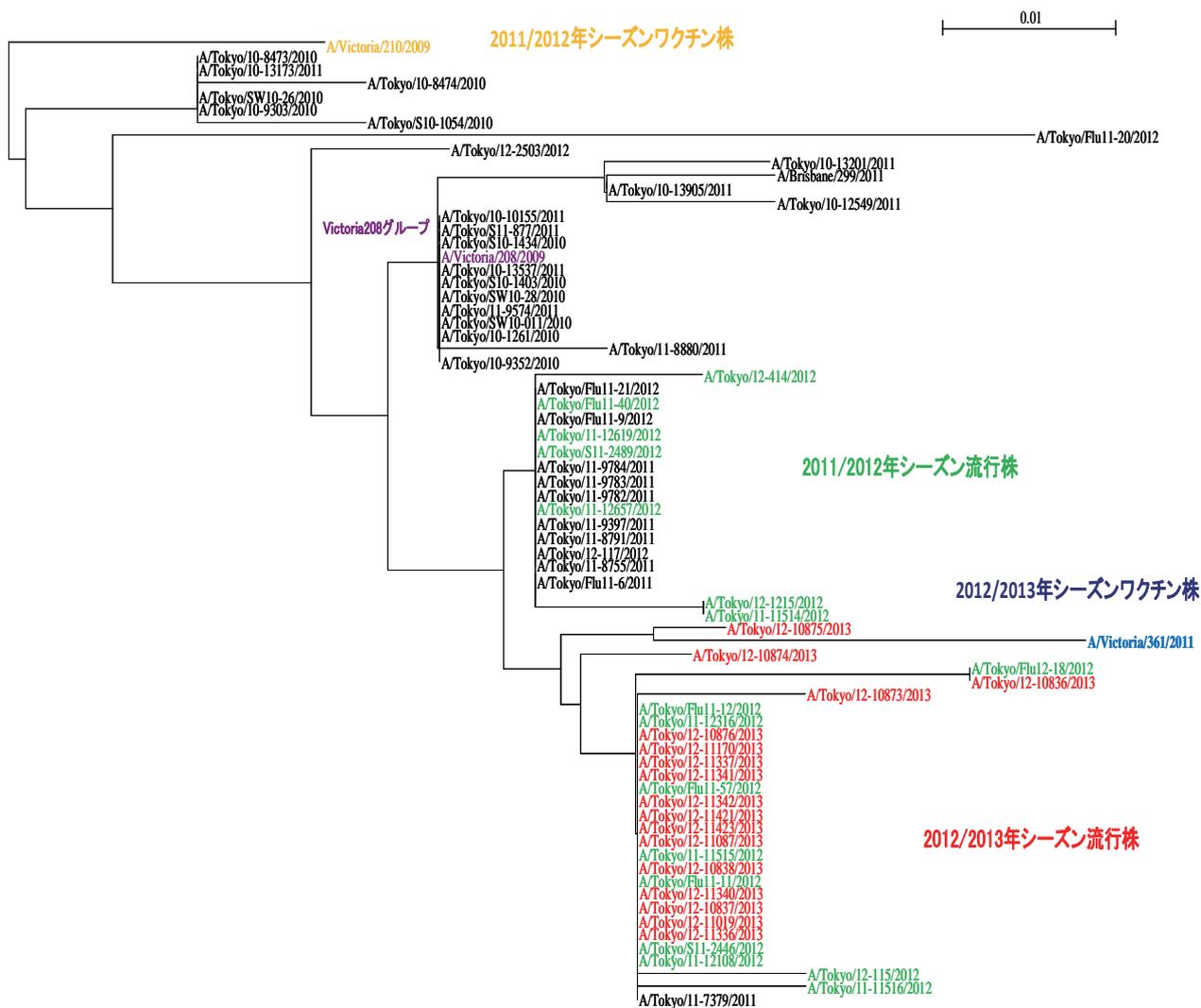


図13. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

2012/2013年シーズンのB型流行株は、昨シーズン同様にVictoria系統株とYamagata系統株が混在して流行する形態となった。しかし、患者数、感染者数が増加することはなく、散発発生が続く極めて小さな流行が確認されたのみであった。今シーズンのB型2系統の流行株のうち、Victoria系統の流行株は2010~2012年シーズンのワクチン株であったB/Brisbane/60/2008株と同様な枝に含まれていたことが判明している。また、Yamagata系統の流行株は、ワクチン株であるB/Wisconsin/01/2010株が含まれる枝に属する株であり、どちらの系統株も旧ワクチン株及びワクチン株に近縁な株であった (図14)。Victoria系統の流行株におけるアミノ酸相同性に関しては、多くの株が昨シーズンのワクチン株と100%合致しているが、1個のアミノ酸変異が見られる株 (ワクチン株との相同性: 98.5%) が確認された。

一方、Yamagata 系統の流行株は、系統樹上で2つのグループに分かれていることが判明した。ワクチン株とのアミノ酸相同性について比較すると、ワクチン株と少し離れた株は4個のアミノ酸変異（B/Wisconsin/01/2010株との相同性：94.0%）、ワクチン株に近い株は1個のアミノ酸変異（B/Wisconsin/01/2010株との相同性：98.5%）が認められた。WHOの2013/2014年シーズンのワクチン推奨株は、Yamagata 系統株のB/Wisconsin/01/2010類似株（B/Massachusetts/2/2012）が推奨されている。

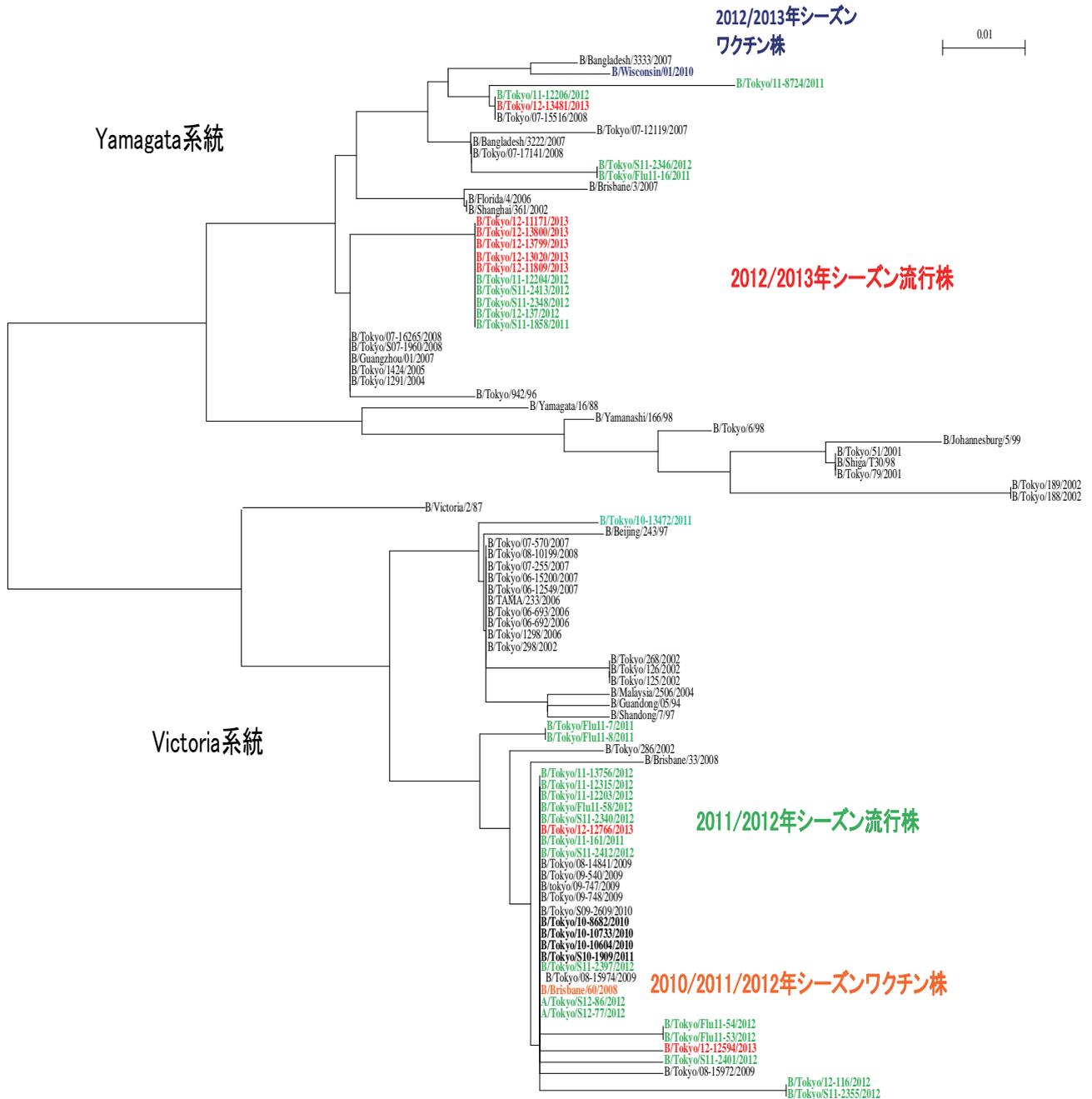


図 14. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

② ワクチン株抗血清を用いたHI試験による抗原性状の比較

国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキットならびにデンカ生研製のワクチン株抗血清を用い、ウイルス分離株をHI試験（0.7%のモルモット赤血球液を使用）に供した。その結果AH1pdm09亜型分離株は、A/California/7/2009株抗血清（ホモHI価1280倍）に対して160倍及び640倍のHI価を示し、十分な交差反応性を示した。また、高い反応性を示したことでワクチン株の抗原性からの変異も殆んどないことが考えられ、分離株とワクチン株との抗原類似性は高いと判断された。AH3亜型分離株は、A/Victoria/361/2011株抗血清（ホモHI価320倍）に対して20～320倍と様々であったが、概ね高い反応性を示しHI試験による判定が過不足なく行えた。Victoria系統のB型分離株は、昨シーズンのワクチン株であるB/Brisbane/60/2008株抗血清（ホモHI価160倍）に対して20～80倍のHI価を示した。Victoria系分離株では、すべての株が旧ワクチン株との交差反応性により型別可能であった。また、Yamagata系統のB型分離株は、ワクチン株であるB/Wisconsin/01/2010株抗血清（ホモHI価160倍）に対して20～160倍のHI価を示し、ほとんどの株がワクチン株との交差反応性により型別可能な株であった。

③ 2012/2013年シーズンに流行したインフルエンザウイルスの抗原解析結果

遺伝子配列及びHI試験の結果から2012/2013年シーズンのAH1pdm09亜型流行株はワクチン株との類似性が高い株であったと推察され、さらに、この亜型の抗原変異は現在、停滞していることが明らかとなった。AH3亜型流行株は、今シーズンのワクチン株と系統樹上での位置関係も近く、抗原類似性が高いことが推察された。B型流行株は、Victoria系統株では昨シーズンのワクチン株との類似性が高い株がほとんどであり、Yamagata系統株ではワクチン株であるB/Wisconsin/01/2010株に類似性が高い株が多かった。しかし、一部に類似性が若干低下した株もあり、流行の主流となる株について今後、注意する必要がある。

今シーズンの流行を踏まえて、選定されたWHOの次期ワクチン推奨株は、A型2種類とB型1種類すべての株で2012/2013年シーズンに選定された株が再び選定される結果となった。しかし、A/H3N2亜型のA/Victoria/361/2011株は、発育鶏卵によるワクチン製造過程で抗原変異を起こすことが確認されたことから、ワクチン製造株には抗原類似株であり、発育鶏卵での抗原変異を起こさないことが確認されているA/Texas/50/2012株の使用が推奨された。また、WHOはA型2種類とB型1種類の3種混合ワクチン（3価ワクチン）に異系統のB型を更に追加した4種混合ワクチン（4価ワクチン）の使用のために、これまで参照株としていた異系統のB型株をワクチン追加株として選定している。日本におけるワクチン製造は、現在3価ワクチンが採用されており、4価ワクチン化の実現に向けては法制上の改訂や臨床試験等の諸問題の解決が必要とされている。しかし、既に関係各機関では議論が成されており、諸外国と同様な4価ワクチンは、近い将来に実現する見通しが高い。

2 細菌検査結果

(1) 二類感染症の病原体検索

ア ジフテリア

ジフテリア疑いの患者から分離された二つの菌株について、ジフテリア毒素遺伝子の検査を実施した。その結果、いずれの株からもジフテリア毒素遺伝子は検出されなかった。

(2) 三類感染症の病原体検索

赤痢菌など三類感染症に分類される細菌は検出されなかった。

(3) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

当センターに搬入されたレジオネラ症患者の喀痰等 12 件 (13 検体)、患者由来株 10 株の合計 22 件 (23 検体) について、病原体検索または同定検査を実施した。喀痰等から菌の検出を実施した結果、10 件 (11 検体) から *Legionella pneumophila* の遺伝子が検出され、2 件 (3 検体) から *L. pneumophila* が分離された。患者由来株 12 株 (喀痰由来株を含む) について血清型別試験を実施した結果、11 株が 1 群であり、1 株が 2 群であった。また、患者由来株 1 件 (1 群) については、患者に関連する環境水由来株が搬入されたため、患者株との相同性を見るためにパルスフィールドゲル電気泳動法により遺伝子解析を行った。その結果、患者株と環境水由来株とは遺伝子型が一致しなかった。

(4) 五類感染症 (全数把握対象) の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

搬入された患者由来株は 13 株で、A 群レンサ球菌が 9 株、B 群レンサ球菌が 1 株、G 群レンサ球菌が 3 株であった。A 群レンサ球菌 9 株の T 血清型は、1 型が 2 株、11 型・12 型・13 型・28 型及び B3264 型が各 1 株ずつであり、型別不能が 2 株であった。また、B 群レンサ球菌の血清型は Ia 型であり、G 群レンサ球菌 3 株のうち 2 株は遺伝子型である emm 型別の結果、stG6792 と決定された。

イ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症

搬入された菌株は患者由来株 3 株であり、その内 *Enterococcus gallinarum* 及び *E. casseliflavus* が各 1 株であった。いずれも *vanC* 遺伝子を保有し、*vanA* 及び *vanB* 遺伝子は保有していなかった。他 1 株は *E. raffinosus* と同定され、*vanA* 遺伝子を保有しており、バンコマイシン及びテイコプラニンに対して耐性であった。

(5) 五類感染症 (定点把握対象) の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の小児科定点及び基幹定点から、2012 年に送付された試料を対象に、A 群溶血性レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*) の検出及び型別試験を実施した。患者由来 38 株及び患者咽頭拭い液から分離した 35 株の合計 73 株について、月別の検出状況を調査するとともに、T 血清型別を実施した。

A 群溶血性レンサ球菌の月別検出状況は 1 月～3 月：16 株、4 月～6 月：29 株、7 月～9 月：21 株、10 月～12 月：7 株であった (表 4)。

T血清型別の結果、12型が23株と最も多く、次いで28型が13株、1型が8株、B3264型が7株であった。2011年に約33%を占めた1型は11%に減少し、12%であった12型が、31%と増加していることが判明した。

表4. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S.pyogenes* のT血清型及び月別検出状況

T型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	(%)
1	1	1				1	3	1	1				8	(11.0)
4	1				1				1		3		6	(8.2)
6				2	1	1	1						5	(6.8)
12		2	1		4	5	7	1	1		1	1	23	(31.5)
25			1	2	1							1	5	(6.8)
28	2	2	3	1	1	1	1		2				13	(17.8)
B3264	1				2	2	1	1					7	(9.6)
UT*	1				1	3					1		6	(8.2)
計	6	5	5	5	11	13	13	3	5	0	5	2	73	(100)

*UT：型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便60件について細菌検査を実施した。その結果、7件(11.7%)から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、カンピロバクター3件(*Campylobacter. jejuni* 2件、*C. coli* 1件)、サルモネラ1件(O4群 *Salmonella* Schleissheim 及びO7群 *S. Thompson* を同時検出)、エルシニア・エンテロコリチカ2件(共にO8群)、及び毒素原性大腸菌O167:H41(ST産生)1件であった。エルシニア・エンテロコリチカの2件は、2歳女児及び1歳男児の姉弟から検出された。患者年齢階級別病原体の検出状況を表5に示した。

表5. 感染性胃腸炎患者からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検出病原菌			
		カンピロバクター	サルモネラ	エルシニア・エンテロコリチカ	毒素原性大腸菌
1歳未満	15				
1～4歳	16			2	
5～9歳	6		2		
10～14歳	7	3			
15～19歳	1				
20歳以上	12				
不明	3				1
計	60	3	2	2	1
(%)		(5.0)	(3.3)	(3.3)	(1.7)

*1件から複数菌種が検出されることがあるので、陽性検体数と検出病原菌数は必ずしも一致しない。

ウ 百日咳

小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁及び鼻腔拭い液が 49 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、12 検体から百日咳菌遺伝子が検出され、百日咳菌が 1 株分離された。百日咳菌以外には肺炎球菌 2 株、黄色ブドウ球菌 6 株が分離された。

エ マイコプラズマ肺炎

小児科定点及び基幹定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 61 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、17 検体から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、10 株の肺炎マイコプラズマが分離された。また、マイコプラズマ以外に肺炎球菌が 3 株分離された。

オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

小児科定点及び基幹定点からの搬入検体を対象に、MRSA 等の検索を実施した。分離された黄色ブドウ球菌について、薬剤感受性、コアグラーゼ型別（コ型と略す）、エンテロトキシン（SE と略す）産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1（TSST-1 と略す）産生性の試験を実施した。

その結果、MRSA は 9 株分離され、コ型は I が 3 株、II が 1 株、III が 1 株、V が 4 株であった。毒素産生性については、コ型 II 及び III がいずれも SEC+TSST-1 産生性であった。

3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果

2012年1月から12月に、4ヶ所の性感染症（STI）病原体定点より搬入された検体について、クラミジア、淋菌、トリコモナス、パピローマウイルス及びヘルペスウイルス等の病原体検出・型別を行うとともに、男女、年齢別及び臨床診断別等の検出状況を調査した。

（1）クラミジア、淋菌遺伝子検査及び細菌分離・同定

STI 病原体定点医療機関より搬入された 366 検体について検査を実施した。搬入検体の内訳は、女性では子宮頸管擦過物 14 検体、男性では陰部尿路擦過物 57 検体及び尿 291 検体、性別不明の尿 4 検体（計 366 検体）である。

遺伝子検査については各検体から核酸抽出後、クラミジア・トラコマチス及び淋菌遺伝子の検索を PCR 法で行った。また、クラミジア・トラコマチス遺伝子検査で陽性となった検体を対象とし、新たにゲノム DNA を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子（*omp1*）の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI（米国生物学情報センター）の核酸データベースにおける BLAST 検索、ならびに系統樹解析により血清型を判定した。

淋菌及びその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地及びサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

搬入された検体の年齢構成及び検査成績を表 6 に示した。クラミジア・トラコマチス遺伝子は女性 5 検体（35.7%）、男性 79 検体（22.7%）から、淋菌遺伝子は女性では 2 検体（14.3%）、男性 73 検体（21.0%）から検出され、両遺伝子が共に検出された検体は男性で 9 検体（女性 0 検体）あった。

淋菌遺伝子が検出された 75 検体のうち、男性 11 検体（女性 0 検体）から淋菌が分離された。遺伝子が検出された 75 検体における淋菌分離率は 14.7%、全検体における分離率は 3.0%であった。そのほかに分離された主な菌は、男性ではパラインフルエンザ菌 3 検体（0.9%）、髄膜炎菌 2 検体（0.6%）、インフルエンザ菌 2 検体（0.6%）、女性ではカンジダ・アルビカンスが 2 検体（14.3%）から分離された。

表 6. 性感染症病原体定点検体の年齢階級別内訳と検査成績

年齢群	検査数	遺伝子検査		細菌分離				
		クラミジア トラコマチス	淋菌	淋菌	髄膜炎菌	インフル エンザ菌	パラインフル エンザ菌	カンジダ アルビカンス
10歳代	1							
20歳代	89	31	21	2	2			
30歳代	110	20	25	4		1	2	
40歳代	81	17	20	4				
男性	50歳代	43	7	6	1		1	
	60歳代	13	3					
	70歳代	4						
	不明	7	1	1				
	計	348	79	73	11	2	2	3
女性	10歳代	2	2					1
	20歳代	8	3	2				1
	30歳代	1						
	40歳代	2						
	不明	1						
	計	14	5	2				2
不明	4	1						
合計	366	85	75	11	2	2	3	2

臨床診断別の病原体検査成績を表7に示した。男性では、臨床診断が尿道炎の321検体中77検体（24.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、50検体（15.6%）から淋菌遺伝子が検出された。うち5検体（1.6%）から淋菌が分離された。この他1検体（0.3%）から髄膜炎菌が分離され、2検体（0.6%）からインフルエンザ菌、3検体（0.9%）からパラインフルエンザ菌が分離された。淋菌性尿道炎では、27検体中2検体（7.4%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、23検体（85.2%）から淋菌遺伝子が検出された。うち6検体（22.2%）から淋菌が分離された。この他1検体（3.7%）から髄膜炎菌が分離された。

女性では、クラミジア膣炎またはクラミジア子宮頸管炎と診断された6検体中4検体（66.7%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。子宮頸管炎と診断された4検体中2検体（50.0%）から淋菌遺伝子が検出された。またカンジダ膣炎と診断された3検体中2検体（66.7%）からカンジダ・アルビカンズが分離同定され、1検体（33.3%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

表7. 臨床診断別の病原体検査成績

臨床診断 (疑い例含む)	検査数	遺伝子検査		細菌分離				
		クラミジア トラコマチス	淋菌	淋菌	髄膜炎菌	インフル エンザ菌	パラインフル エンザ菌	カンジダ アルビカンズ
尿道炎	321	77	50	5	1	2	3	
男性 淋菌性尿道炎	27	2	23	6	1			
計	348	79	73	11	2	2	3	
クラミジア膣炎/頸管炎	6	4						
子宮頸管炎	4		2					
女性 カンジダ膣炎	3	1						2
トリコモナス膣炎	1							
計	14	5	2					2
不明 尿道炎	4	1						
合計	366	85	75	11	2	2	3	2

クラミジア・トラコマチス遺伝子陽性（コバス法）の85検体のうち、遺伝子検査により血清型が同定出来たのは80検体あり、その結果を表8に示した。クラミジア・トラコマチスの血清型は、B群（B、Ba、D、Da、E、L1、L2）、C群（A、C、H、I、Ia、J、Ja、K、L3）及びその中間群（F、G）に分けられ、一部血清型にはその亜型（混合型）も存在している。

2012年、D、E、Fが全体の60%を占める主要な血清型であることは、2009～2011年と同様であった。その他の血清型ではG型がやや増加し、2011年の段階で増加傾向にあると見られたI、J型は2010年度のレベルに減少していた。I型として検出されたものはすべてI/Ia混合型であった。2009年以降2012年までは、分布の傾向に大きな一定の年次変化は認められない。また、2012年度初めてトラコーマ原因菌であるBa型が検出された。

表8. クラミジア・トラコマチスの血清型別成績

検体数	血清型								
	Ba	D	E	F	G	H	I/Ia	J及びJa	K
80	3	18	18	12	9	6	6	4	4
100%	3.8%	22.5%	22.5%	15.0%	11.3%	7.5%	7.5%	5.0%	5.0%

次に分離された淋菌 11 株の薬剤耐性試験の結果を表 9 に示す。ペニシリンでは最小発育阻止濃度が中等度 (0.12 μ g/ml) 以上の耐性株は 10 株 (90.9%) あった。テトラサイクリンでは中等度 (0.5 μ g/ml) 以上の耐性株は 7 株 (63.6%)、シプロフロキサシンでは中等度 (0.12 μ g/ml) 以上の耐性株は 5 株 (45.5%)、セフロキシムでは中等度 (2 μ g/ml) 以上の耐性株は 3 株 (27.3%) あった。一方、セフトアキシム、セフトリアキソン及びスペクチノマイシンはすべての株が感受性を示した。

表 9. 淋菌分離株 (11 株) の薬剤感受性

薬剤感受性	ペニシリン	テトラサイクリン	シプロフロキサシン	セフロキシム	セフトアキシム	セフトリアキソン	スペクチノマイシン
	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性	1	0	5	2	0	0	0
中等度耐性	9	7	0	1	0	0	0
感受性	1	4	6	8	11	11	11

(2) ヒトパピローマウイルス (HPV) の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 69 検体 (陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、または尖圭コンジローマ患部生検材料) が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法による HPV 遺伝子の検出を行った。また、標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価 (High 及び Low リスク) に基づいて分類した。

その結果、69 検体中 50 検体 (72.5%) から HPV 遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、52、58 型などの High リスク群に分類されたものは 5 検体 (7.2%)、6、11 型などの Low リスク群に分類されたものは 36 検体 (52.2%) であった。また、8 検体 (11.6%) から同時に二つの HPV 遺伝子型を検出し、1 検体 (1.5%) から同時に三つの HPV 遺伝子型を検出した (HPV6 型、HPV58 型及び HPV82 型)。

(3) 単純ヘルペスウイルス (HSV : HSV-1 型及び HSV-2 型) の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 149 検体 (主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、または水泡内容物) が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、149 検体中 29 検体 (19.5%) から HSV-1 型、37 検体 (24.8%) から HSV-2 型の遺伝子を検出した。

(4) 膣トリコモナス検査

子宮頸管擦過 (分泌) 物 (スワブ) 1 検体について、膣トリコモナスの ITS1, 5.8S rRNA, ITS2 領域及び beta-tubulin 遺伝子を標的とした遺伝子検査を行った結果、いずれも陽性であった。

第 3 章

資 料

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

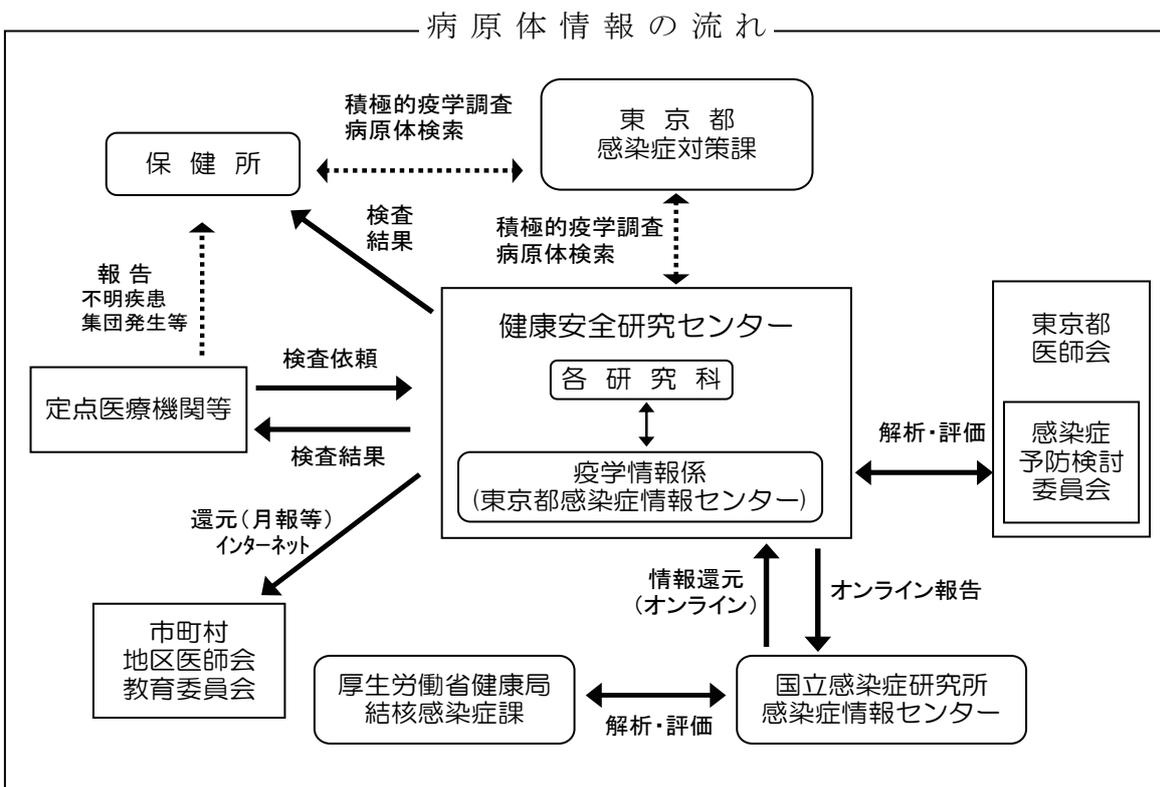
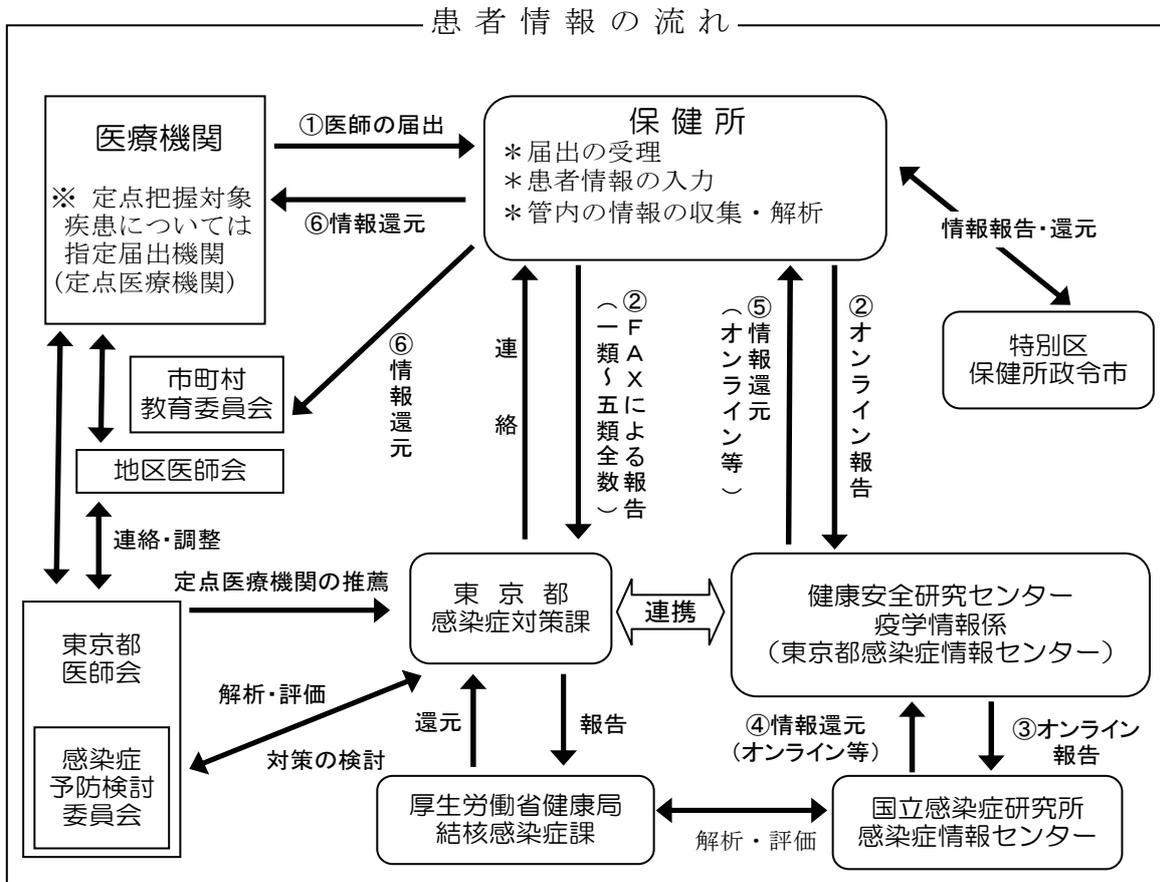
2012年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家理事長、元東京都健康局技監
○ 岡 部 信 彦	川崎市衛生研究所長
○ 沼 口 俊 介	練馬区医師会（東京小児科医会）
長 山 直 弘	独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器内科医長
尾 形 英 雄	（財）結核予防会複十字病院副院長
佐 藤 恭 信	江戸川保健所長
早 川 和 男	東京都多摩小平保健所長
味 澤 篤	東京都立駒込病院感染症科部長
中 村 重 信	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
杉 下 由 行	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
吉 田 道 彦	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長 谷 川 潤	荒川区医師会
北 村 邦 夫	一般社団法人 日本家族計画協会 専務理事 家族計画研究センター所長（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	北多摩医師会（東京小児科医会）
井 上 賢 治	神田医師会（東京都眼科医会）
遠 藤 弘 良	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
平 山 宗 宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	NPO法人 日本パスツール協会副会長
角 田 徹	東京都医師会理事（疾病担当）

◎委員長

○副委員長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号
平成12年3月30日
最終改正 25 福保健感第204号
平成25年5月22日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成25年4月26日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から4-4 3及び6-1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5

ー 1 から 5-14-2、及び本要綱の別記様式 9 を用いて、7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表 1 の 79 から 91 までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力

するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の92に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の93及び94に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の95から100までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の92に掲げるインフルエンザ（届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される）、別表1の101から108までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式1（インフルエンザ定点については別記様式8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式 10 に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式 2 又は別記様式 3 による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で K-net への入力による報告を行う。

イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-net へ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

- 附 則
この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成23年2月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成23年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成23年9月5日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成25年5月22日から施行し、同年5月6日から適用する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
一類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痘そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三類	13 コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	14 細菌性赤痢	○	—	○		
	15 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	16 腸チフス	○	—	○		
	17 パラチフス	○	—	○		
四類	18 E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	19 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	20 A型肝炎	○	—	○		
	21 エキノコックス症	○	—	○		
	22 黄熱	○	—	○		
	23 オウム病	○	—	○		
	24 オムスク出血熱	○	—	○		
	25 回帰熱	○	—	○		
	26 キャサヌル森林病	○	—	○		
	27 Q熱	○	—	○		
	28 狂犬病	○	—	○		
	29 コクシジオイデス症	○	—	○		
	30 サル痘	○	—	○		
	31 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
	32 腎症候性出血熱	○	—	○		
	33 西部ウマ脳炎	○	—	○		
	34 ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	35 炭疽	○	—	○		
	36 チクングニア熱	○	—	○		
	37 つつが虫病	○	—	○		
38 デング熱	○	—	○			
39 東部ウマ脳炎	○	—	○			
40 鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○			
41 ニパウイルス感染症	○	—	○			
42 日本紅斑熱	○	—	○			

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法		
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期	
四 類	43	日本脳炎	○	—	○	全数	直ちに
	44	ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	45	Bウイルス病	○	—	○		
	46	鼻疽	○	—	○		
	47	ブルセラ症	○	—	○		
	48	ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	49	ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	50	発しんチフス	○	—	○		
	51	ボツリヌス症	○	—	○		
	52	マラリア	○	—	○		
	53	野兔病	○	—	○		
	54	ライム病	○	—	○		
	55	リッサウイルス感染症	○	—	○		
	56	リフトバレー熱	○	—	○		
	57	類鼻疽	○	—	○		
	58	レジオネラ症	○	—	○		
59	レプトスピラ症	○	—	○			
60	ロッキー山紅斑熱	○	—	○			

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
指定感染症	鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○	全数	直ちに

2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
61	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
62	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
63	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
64	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
65	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
66	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
67	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
68	ジアルジア症	○	—	—		
69	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—		
70	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—		
71	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—		
72	先天性風しん症候群	○	—	—		
73	梅毒	○	—	○		
74	破傷風	○	—	—		
75	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌 感染症	○	—	—		
76	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
77	風しん	○	—	—		
78	麻しん	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
109	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
110	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別 (定点)	時期
79	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
80	咽頭結膜熱	○	—	—		
81	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
82	感染性胃腸炎	○	—	—		
83	水痘	○	—	—		
84	手足口病	○	—	—		
85	伝染性紅斑	○	—	—		
86	突発性発しん	○	—	—		
87	百日咳	○	—	—		
88	ヘルパンギーナ	○	—	—		
89	流行性耳下腺炎	○	—	—		
90	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
91	川崎病 (都単独)	○	—	—		
92	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等 感染症を除く。)	○	—	—		
93	急性出血性結膜炎	○	—	—		
94	流行性角結膜炎	○	—	—		
95	性器クラミジア感染症	○	—	—		
96	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
97	尖圭コンジローマ	○	—	—		
98	淋菌感染症	○	—	—		
99	膺トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
100	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
101	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
102	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原 因として同定された場合を除く)	○	—	—		
103	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
104	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
105	無菌性髄膜炎	○	—	—		
106	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
107	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—		
108	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届出対象	届出対象者			調査 単 位 (期間)	時期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
111	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するもの を除く。)	—	○	—	別表3参照	
112	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

別表 2

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾患名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。 以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膻トリコモナス症 (都単独)		
梅毒様疾患 (都単独)			
基幹 定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

別表 3

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届出対象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水痘		

- (注) 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

別記様式一覧表

番 号	件 名 等
別記様式 1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式 2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 3	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 6 - 1、6 - 2	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分）
別記様式 8	インフルエンザ検査票（内科病原体定点用）
別記様式 9	麻しん発生届
別記様式 1 0	疑似症定点報告票

別記様式 1

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】		センター検体受付日	センター取受番号	検体番号
医療機関名				
医師名				
診断名				
ID (イニシャル)			居住地	区市町村
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日	性別 男・女 年齢 歳 ヵ月
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・結膜ぬぐい液 (結膜擦過物、眼脂) ・その他 []			
	・髄液 ・皮膚病巣 (水疱内容、痂皮、創傷) ・陰部尿道頸管擦過物/分泌物 ・血液 (全血、血清、血漿)			
臨床症状・兆候等	・発熱 (最高 ℃) ・頭痛 ・筋肉痛、関節痛 (関節炎) ・上気道炎 (咽頭炎/痛、扁桃炎) ・下気道炎 (肺炎、気管支炎) ・口内・咽頭所見 () ・発疹 (丘疹、紅斑、バラ疹、水疱) ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹 (部位) (上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。)			
	・胃腸炎 (下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・髄膜炎、意識障害 ・中枢神経系症状 (脳炎、脳症、髄膜炎) ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・腎機能障害 ・尿路生殖器症状 (排尿時痛、かゆみ、膿) ・コンジローマ ・下腹部痛			
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡 (原因)			
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生 (保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 [])			
最近の海外渡航歴	国名	期間	年 月 日 ~	年 月 日
ワクチン接種歴 (当該疾患に係るもの)	(無、有、不明)	最近の接種年月日	年 月 日	
備考欄	(主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など)			
【健康安全研究センター記入欄】		報告年月日	年 月 日	
結果				
センター記入欄につき ここには記入しないで下さい。				
検出方法	・抗体検出 (蛍光、EIA、イムノプロット、その他 [])) ・分離培養 (培養細胞:細胞名 [], 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 [])) ・抗原検出等 (蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応 (RPHA、LA、PA、その他)、その他 [])) ・遺伝子検出 増幅 (PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他 [])) ・鏡検			

(1) 複写 1組6枚 (病原体定点控)

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ~ 月 日(日)

医療機関名：

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
R S ウイルス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A 群 溶 血 性 レンサ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流 行 性 耳 下 腺 炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
川 崎 病	男															
	女															

注) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症 をのぞく)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合 計
※			

※注

- 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等 感染症をのぞく)	0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~ 14	15~ 19	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	70~ 79	80歳 以上	合計		
	男																						
女																							

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
	※		

※注

- 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名: _____

	0~5 カ月	6~11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳 以上	合計		
	急性出血性 結膜炎	男																				
	女																					
流行性角結膜炎	男																					
	女																					

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査 (S T I 定点)

月報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

	0歳		1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計
	男	女																
性器クラミジア 感染症																		
性器ヘルペス ウイルス感染症																		
尖圭コンジローマ																		
淋菌感染症																		
腫トリコモナス症																		
梅毒様疾患																		

定点医療機関からのコメント

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

ID 番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名*	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法**	検体名
1			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

- 1: 細菌性髄膜炎
 2: 無菌性髄膜炎 (真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)
 3: マイコプラズマ肺炎
 4: クラミジア肺炎 (全数届出疾患のオウム病を除く)

** 病原体検査方法

- 1: 分離・同定 2: 抗原検出 3: 核酸検出 (PCR・LAMP等)
 4: 塗抹検鏡 5: 電顕 6: 抗体検出
 7: その他

<記載上の注意>

- ・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は、その病原体名 (複数検出された場合は、主要なもの一種のみ記載)、その結果を得た病原体検査方法 (複数の場合は、最も根拠となった方法一つを選択) 及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください (病原体検査欄の記載は不要)。
- ・マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法 (1, 6, 7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。
- ・クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法 (1, 2, 3, 6, 7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。

感染症発生動向調査（基幹定点）
（インフルエンザによる入院患者の報告）

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であってください。

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名

ID番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応					備考
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)	脳波検査 (予定含む)	
1	男・女							
2	男・女							
3	男・女							
4	男・女							
5	男・女							
6	男・女							
7	男・女							
8	男・女							
9	男・女							
10	男・女							
11	男・女							
12	男・女							
13	男・女							
14	男・女							
15	男・女							

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者（院内感染を含む）を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	検体採取部位 **
1			1 2 3 4	
2			1 2 3 4	
3			1 2 3 4	
4			1 2 3 4	
5			1 2 3 4	
6			1 2 3 4	
7			1 2 3 4	
8			1 2 3 4	
9			1 2 3 4	
10			1 2 3 4	

- * 疾病名（番号を○で囲む）
- 1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
 - 2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
 - 3：薬剤耐性緑膿菌感染症
 - 4：薬剤耐性アシネトバクター感染症
- ** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

インフルエンザ検査票
(内科病原体定点用)

医療機関名 (または定点コード) 医 師 名			
患 者 情 報	I D		年 齢 歳 か月
	性 別	男 ・ 女	居住地 区市町村
	発 病 日	年 月 日	検体採取日 年 月 日
	臨床症状・徴候等	該当するものすべてを○で囲んでください。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 発熱 (最高 _____ °C) ・ 関節痛、筋肉痛 ・ 口内炎、上気道炎、下気道炎 (肺炎、気管支炎) ・ 胃腸炎 (下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・ 中枢神経系症状 (脳炎、脳症、脊髄炎、その他 _____) ・ その他の症状 	
		迅速診断キットによる診断 無 ・ 有 (A型: _____ B型: _____)	
		最近のインフルエンザワクチン接種歴 無 ・ 有 (_____ 年 月 日)	
		最近の海外渡航歴	国 名 _____
発生状況	集団発生 (学校等)、家族内発生等、わかる範囲で記入してください。		

健康 安全 研究 セン ター 記 入 欄	検体受付日		収受番号		検体番号		
	報告日	年 月 日	病原体検出方法	遺伝子増幅 (PCR)			
	結 果	インフルエンザ ウイルス	AH1 型				
			AH3 型				
			B 型				
			型				
	型						
※ ウイルス分離結果については、後日報告します。							

1. 麻しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をしていただくこととなっておりますが、麻しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いいたします。
 2. 臨床診断例については、届出後であっても可能な限り検査診断を実施し、その結果について最寄りの保健所に報告していただくようお願いいたします。

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所設置市・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 _____ 印 _____（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称 _____

上記病院・診療所の所在地(※) _____

電話番号(※) _____ (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の類型
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体

2 性別	3 診断時の年齢（0歳は月齢）
男 ・ 女	歳（ 月 ）

病 型	1 1 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例） 3) 修飾麻しん（検査診断例）	①感染原因・感染経路（ 確定・推定 ） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況： （ ）） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況： （ ）） 3 その他（ （ ） ）
4 症状 ・発熱（ 月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹（ 月 日出現） ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クループ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ）	②感染地域（ 確定 ・ 推定 ） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国 詳細地域 渡航期間 ）
5 診断方法 陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ 陽性・陰性 ） 遺伝子型：（ ） (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ 陽性・陰性 ） 遺伝子型：（ ） (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ 陽性・陰性・判定保留 ） 抗体価：（ ） (エ) ベア血清での抗体の検出 検体採取日（1回目 月 日 2回目 月 日） 抗体価（1回目 2回目） 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ） (オ) その他の検査方法（ ） 検体（ ） 検体採取日（ 月 日 ） 結果（ ） (カ) 臨床決定（ ）	③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明） 2回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
	6 初診年月日 平成 年 月 日 7 診断（検案(※)）年月日 平成 年 月 日 8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 9 発病年月日（*） 平成 年 月 日 10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日
	（1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6 から 10 欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。）

診断した医師の方へのお願い

1. 集団感染のおそれがある場合には、感染拡大防止指導を実施いたします。このため、以下の情報提供をお願い致します。

(1) 集団感染を起こしやすい要因
ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））
(2) 患者の住所：（ ）区・市・町・村

2. 集団感染のおそれがある場合には、感染症法第15条により、積極的疫学調査（患者個人情報を含む）を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な集団感染防止対策のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、裏面調査票により情報提供をお願い致します。

保健所への個人情報等の提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生动向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日 医療機関名: _____

No.	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 . 2	歳	男・女	
2	1 . 2	歳	男・女	
3	1 . 2	歳	男・女	
4	1 . 2	歳	男・女	
5	1 . 2	歳	男・女	
6	1 . 2	歳	男・女	
7	1 . 2	歳	男・女	
8	1 . 2	歳	男・女	
9	1 . 2	歳	男・女	
10	1 . 2	歳	男・女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

感染症発生動向調査事業報告書
平成 24 年（2012 年）

平成 25 年 7 月

登録番号 (25) 8

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-24-1
電 話 (03) 3363-3231

印 刷 所 有限会社 太平印刷
〒171-0051 東京都豊島区长崎 6-22-10
電 話 (03) 3957-3911